V GUNDAM

Vol.2

ターンエー ガンダム

NEWTYPE 100 COLLECTION

Vガンダム

NEWTYPE 100 COLLECTION

Vol.2

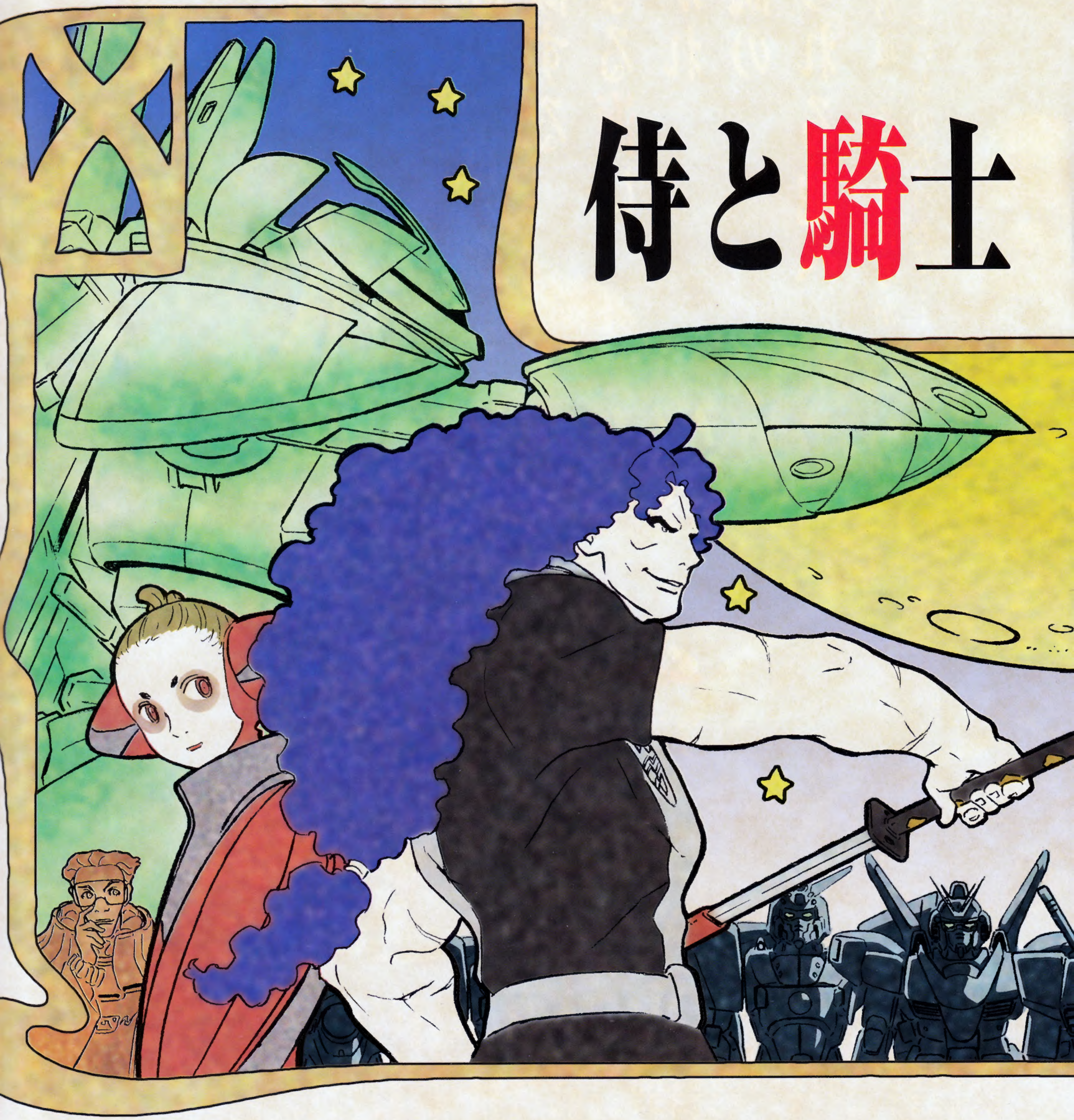
ターンエー ガンダム

∀GUNDAM

互いに譲れないものを抱え

対立する２人……

侍と騎士



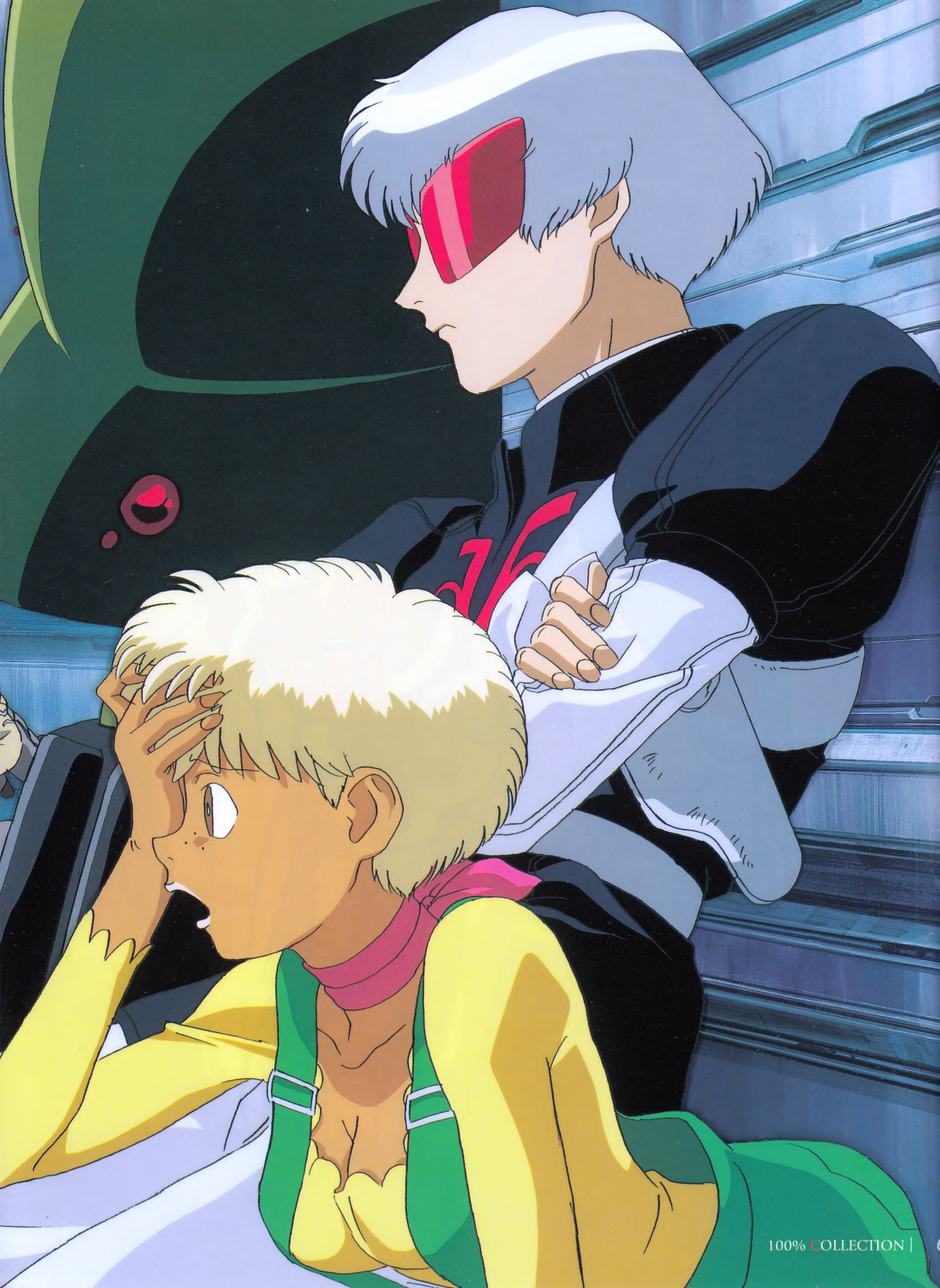
月と地球の不幸な出会い。それから起きた戦乱は広がりを見せ、両者の傷は大きくなっていく。地球の代表、グエンが治めるイングレッサ領は、ディアナ・カウンターの攻撃によって放棄を余儀なくされ、物語の舞台はルジャーナ領へ。そんな中、ディアナとキエルは、ほんのいたずら心から入れ替わっていた。そしてそのことに気づいていたものは誰一人いなかったのだ……。ディアナは地球の娘、キエルとして初恋の相手にそっくりの人と出会う。しかしそれもまた不幸な出会いであった。

完全に『戦争』となってしまった月と地球の両者。ディアナ・カウンターはサンベルト地帯を自分たちのものとするため、建国宣言を行なおうとする。しかしその建国宣言は、ディアナとなったキエルによって覆された。軍の思惑とは別の方向へ動き出す事態。しかしキエルは毅然としたままディアナを演じて見せるのだった。

ミリシャは戦力を増強し、宇宙船ウィルゲムを発掘する。それはまた戦争の激化を示している出来事でもあった。ディアナ・カウンターでは宇宙からの食料の補給が順調に行われず、ディアナ暗殺が謀られるなど、内部の混乱と不協和音が響き出す。ディアナはもう一度キエルと会い、本来の自分に戻るべきだと自覚する。そして戦いの中、打ち捨てられた山、ロスト・マウンテンで発見された核弾頭は更なる悲劇を生む。爆弾をめぐる攻防の中、ついにその一発が爆発してしまったのだ……夜中の夜明けである。

そんな中、ディアナ・カウンターでクーデターが勃発した。ディアナを廃そうとするフィル、ミランたちが動き始めたのだ。キエルはディアナとして脱出し、両者は身の安全を得る。

そしてミリシャは月への道をめざす。月と直接交渉するためだ。黒歴史の伝説、アデスの枝が回るという南へ、ウィルゲムは下っていく。そしてディアナも、ミランの手によって密かに月へ送られようとしていた。



ミリシャ宇宙の旅へ……

地球人にとっての初めての宇宙。それは、未知の領域。
そこで見せる姿は真剣でもあり、また滑稽でもある。

ウィルゲムはディアナ・カウンターの抵抗を廃し、宇宙へ向かって旅立った。伝説の語られる地、アデスカに隠されていたフィドライバーを使い、重力の鎖を引きちぎって……。

そして向かったのはザックトレーガー。ドイツ語でミノムシを意味するこの巨大構造物は、宇宙往還システムと呼ばれるものの一つ。何もかもが初めての経験となる地球人たちは、船に同乗しているムーンレイスたちの協力を素直に求め、新しい環境に慣れようと努力する。ザックトレーガーに進駐する部隊の妨害もあったが、『キエルとディアナ』ふたりの協力により、その危機は回避される。

しかし、ウィルゲム内部では大騒動が巻き起こっていた。重力がないために上も下もわからない状態の中、宇宙酔いで大騒ぎ。そして宇宙のことを何も知らない地球人たちは、川下りと同じ要領で、地球に帰ることができると思いこんでいたのだ。樽に乗り込んで地球へ向かおうとするヤーニ少尉は凍傷を負うという騒ぎを起こしてしまう。月生まれのロランやハリーたちから見たら信じられない光景だ。しかも、ミハエルを始めとするミリシャの面々は、地球へ帰りたいとの思いから、ウィルゲムのブリッジを乗っ取ってしまう。しかも人質にキエルも取られている。ブリッジの空気抜きで対抗されたミハエルたちは、今度はウィルゲムに搭載していたMSを乗っ取ってしまった。それ程までに地球への思いが強かったのだろう。

元々、ミリシャはグエンがムーンレイスとの交渉の道具として作った軍隊であり、実際の軍事的な側面は少ない。戦力もディアナ・カウンターに大きく劣っている。しかし彼らにその自覚はない。自分たちでディアナ・カウンターと渡り合えると本気で思っていたのだ。しかし、彼らの軍備は通用せず、その自信は崩れた。そして結局はムーンレイスである ロランたちに頼らなければならない。その事実が彼らにとって受け入れがたい現実だろうが。

混迷する地球と月

対立する図式。それは決して望まれたものではなかったはずだった……。

好戦的な月人たち

本当の戦争を知らぬ人々。それが武器を取り、争い合う。それは悲劇だ。

止められぬ争い

発動する月光蝶
―兄弟であるVとX―

隠された力。地を滅ぼす力。ふたつの機体に込められたそれは未知のパワーだ。

NAKATANI

輝きつづけるそれぞれの心

お互いの道を歩き始めて見えてくるもの。
彼らは未来に道を託す。

Turn A

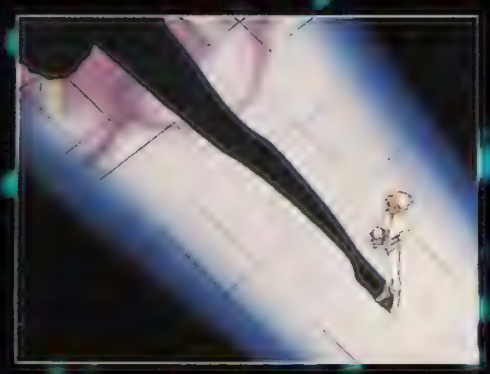
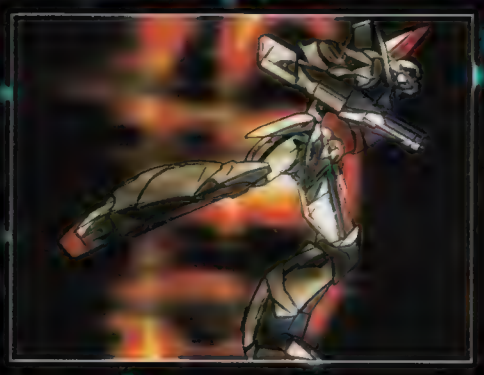
Opening film Part. I

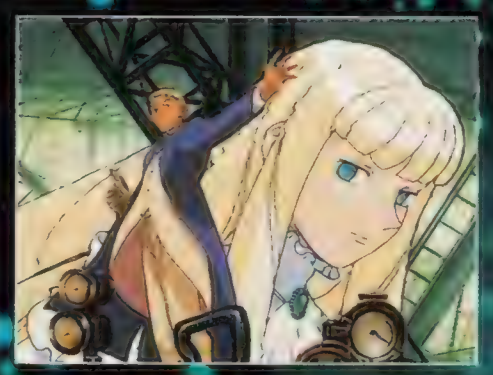
ターンAターン

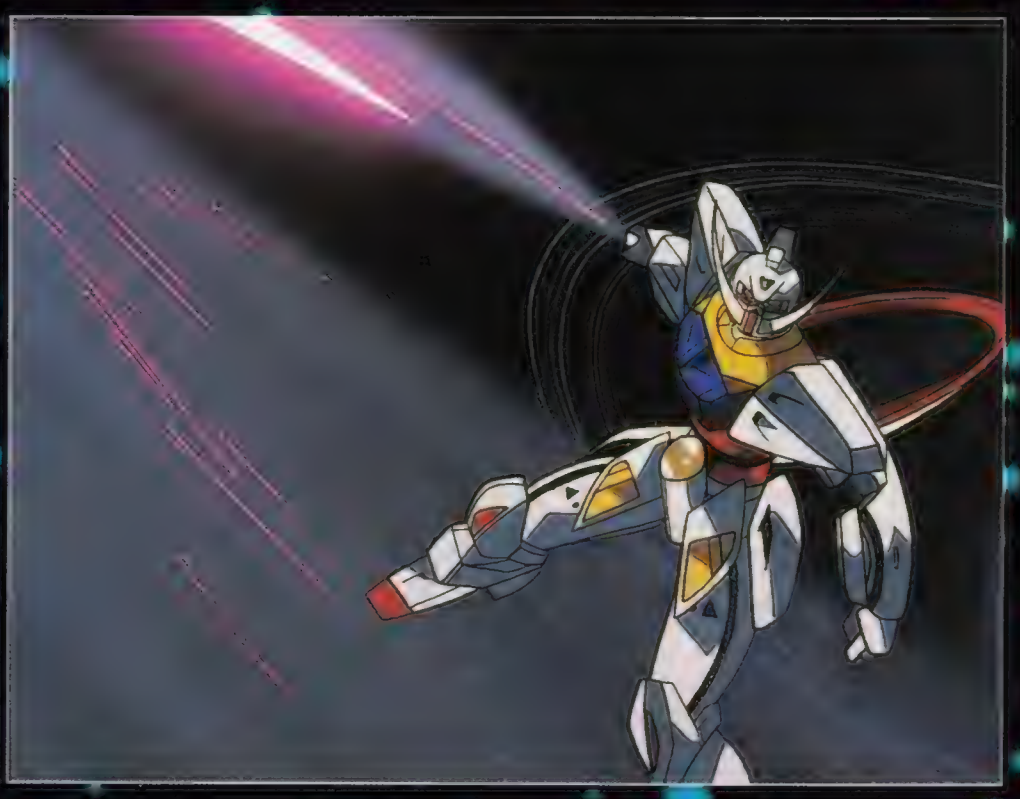
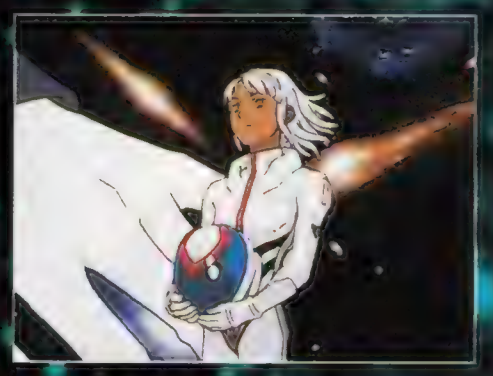
作詞:井荻麟／作曲:小林亜星
編曲:矢田部正／歌:西城秀樹

登場人物たちの位置づけが
それぞれに象徴されるようなオープニング

∀の名前が連呼されるという、非常にオーソドックスなオープニングテーマ曲に乗り、過去のガンダムたちが破片となって散っていく。そして各登場人物がそれぞれのイメージを表わすかのような背景を背負って登場。ディアナは∀と重なるようにしてイメージされる。そして物語のキーポイントとなるディアナとキエルの登場とともに、∀ガンダムの姿てフィルムは幕を閉じる。



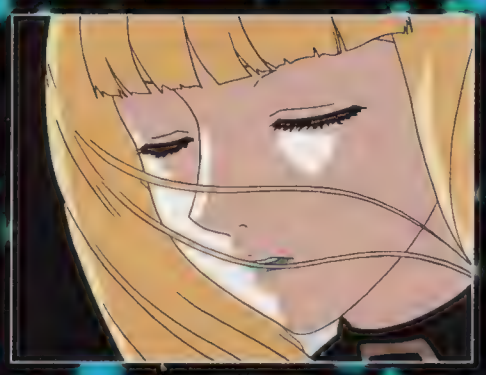
ターンAターン
ターンAターン
ターンA

刻が未来にすすむと
誰がきめたんだ
烙印をけす命が
歴史をかきなおす

美しい剣は
人と人つなげて
巡りくる切なさ
悲しみを払って
あなたとの間に
命ある形を
この星に捧げる
愛というしるしで

ターンAターン
ターンAターン
ターンA
ターンAターン
ターンAターン
ターンA

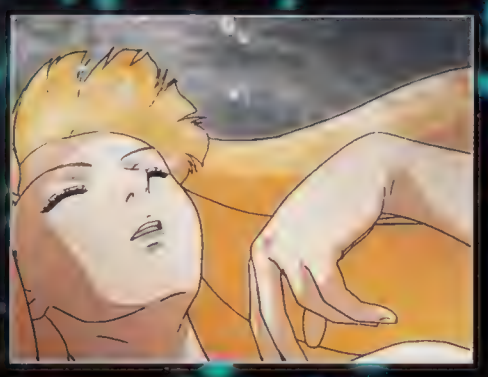
Turn A
Opening film Part.II



CENTURY COLOR

作詞:井荻麟・浜口祐夢／作曲:浜口祐夢
編曲:RAY-GUNS／歌:RAY-GUNS

秋をイメージさせる色から始まる新オープニング。曲はこのためにわざわざイメージされて作られたという。物語を牽引していく役となったディアナ、キエルをメインに据え、それをロランが補佐していくというイメージである。また、月光蝶のイメージもここで初登場。地球人とムーンレィスの融和を表すかのような互いの手をとる姿の後に、ターンX、バンデットも登場している。



赤い　赤い　花びらよ
【Uh..Century Color】
青い　青い　羽根になれ
【Uh..Million Color】

繰り返す季節達が
心と身体を洗ってくれる
あなたの中にある
傷口をいたわり
深く癒し合いながら

ほんのちいさなツボミ
ふたりで育てる
藍だけでいい　永遠と…

そして　赤い
赤い　花びらが
【Uh..Century Color】

ディアナとキエルに焦点がおかれ、
物語の方向性が見えてくる新オープニング

Ending film Part.Ⅰ

AURA

作詞・作曲:谷村新司／編曲:菅野よう子
歌:谷村新司

微熱がさめないまま
うつむく少年の瞳は
心の海みつめて
静かにほほえんでる

生まれくるもの　消えてゆくもの
すべては宿命の振り子の幅
挫折の闇を突き抜けみえてくる
それが光の真実

AURA　夜明けとともに
この髪をゆらすものは何
AURA　地上の風は
神がもたらした溜息か

空を舞うディアナが蝶のように変化し、
地球と月を優しく包み込むエンディング

Ending film Part.Ⅱ

月の繭

作詞:井荻麟／作詞・編曲:菅野よう子
歌:奥井亜紀

山の端　月は満ち
息づくあなたの森
夏草浴びて眠る
愛おしい　横顔
おぼろな　銀の涙
繭たる蛹たちは
七たび身をかえる
青にLaLaLu　LaLaLu染まる
恋し繭玉
揚羽の蝶になる
やがて宇宙をつつむ
無限の翅模様
いのち輝かせよ

青い　青い　羽根になる
〔Uh.Million Color〕
あなたの手の
ぬくもり信じて
泣いて　泣いて
夢紡いでいた
生れ変わるまで…

CHARACTERS & MOBIL SUIT

…地球人　…ムーンレィス

■STORY#28-50

#28	ロスト・マウンテンから出土した核弾頭をゼノアから託される。
#29	核の捨て場所に戸惑いつつ、攻撃されたウィルゲムを救う。
#30	ソシエの様子が普段と違うことに気づき、慌てて追いかける。
#31	ソシエとともに海上を南へ、ウィルゲムを追撃するボゥと戦う
#32	アデスカへ向かい、クワウトル王とともにアデスカ内部へ向かう。
#33	首をはねられそうになるが助けられ、王の交代劇を目撃する
#34	タルカ王と会談。襲撃してきたボゥたちと交戦する。
#35	ウィルゲムを支えたままザックトレーガー内部へ向かう。
#36	酒樽で飛び出したヤーニを助け、ミハエルたちを諫める。
#37	ディアナからの通信を受けてディアナ救出へ向かう。
#38	ミスルトゥ内部へ入り、ディアナたちと無事に合流する。
#39	月の都市を救うため、ミスルトゥへ核弾頭を使用する。
#40	ディアナたちとともに、ゲンガナムへ向かおうとする。
#41	ゲンガナムへ入り、入港していたウィルゲムと合流する。
#42	アグリッパにターンXと戦うよう言われ、戦いを決意する。
#43	ターンXと戦いながら、開かれた黒歴史の真実を知る。
#44	ターンX、バンデットと戦い続ける。冬の宮殿に駆けつける。
#45	グエンに一人だけ呼び戻される。ターンXと戦う羽目になる。
#46	ディアナたちに事の次第を報告する。ズサン部隊と戦う。
#47	グエンと交渉するが聞き入れられず、やむなく出撃する。
#48	ジョゼフとともにヤを取り戻すためウィルゲムへ向かう。
#49	フランの撮影につきあう。最後にヤを受け取り、出撃する。
#50	ギンガナムのターンXと対決する。生身での戦いで生き延びる

地球と月の間で揺れる

Rolan Cehack

ロラン・セアック

■CV／朴璐美

本編主人公。ムーンレィスであるが、地球人たちとの和平を何よりも強く考えている少年である。黒歴史の遺物である核弾頭を預かることとなり、その力で滅びに直面した月の都市を救った。故郷、月への旅を経て、より逞しく成長した。月では兄弟機であるターンXと戦うこととなり、ヤガンダムに秘められた真なる力を思い知る。最後にはギンガナムと決戦を演じ、相打ちに持ち込んだ。その後は引棲したディアナとともに暮らすこととなる。

ヤに標準装備されていたパイロットスーツ姿。地球人からはあまり格好良くないと思われていたらしい。体にぴったりとした、白と濃紺のデザインである。

「ディアナ様のキエルお嬢様」

29話。ディアナとして戻ってきたキエルに対して言う台詞。キエルの決意、ディアナの真意を見抜いていたからこその言葉であろう。キエルのそばにいられることが嬉しそうだ。

「兄弟……!?」

39話より。ターンXトップのギンガナムから、ヤを兄弟と呼びかけられて驚くシーン。今までずっと使ってきたヤのことを改めて黒歴史の遺物だと思い知らされたシーンでもあろう。

「ディアナ様ともう一度手を組んで頂けませんか？」

48話。ギンガナムと手を組んだグエンの真意を計るため、ウィルゲムに向かったロランの叫び。しかしグエンはただ自分の意志を貫くだけで、ロランたちに協力をすることはなかった。

「イヤァァアア」

50話より。相打ちとなったヤとターンXから降りたロランとギンガナムは、生身での対決を行なう。ロランは与えられた刀を構え、ギンガナムに向かって必死で切り込んでいく。

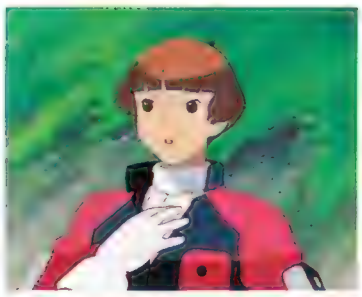
婚約者を失い戦いの意味を考える

Sochie Heim

ソシエ・ハイム

■CV／村田秋乃

かたくなに父の仇を討つことしか考えていなかったが、黒歴史の遺物である核爆発で、婚約者であるギャバンを失ってしまうことになる。それからは、自分なりに戦いの意味、意義を考えるようになり、ムーンレィスへの偏見を持たなくなっていく。MSカプルのパイロットとして月への旅にも同行。ミリシャの一員として立派に役目を果たす。ロランに対して、自分でも自覚していない恋心を抱いていたようだったが……。

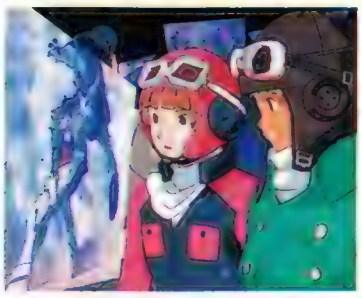


「あの人一人じゃ心配でしょ」

28話。核弾頭をロランに預けたゼノアは、ディアナ・カウンターへ停戦の交渉に向かうという。ソシエはそのゼノアに同行を申し出る。一人だけで行かせるのは心配だからと……。

「何よ、うるさい！」

30話より。ギャバンを失ったソシエは、たった一人、彼の贈ってくれたウェディングドレスを纏い、彼女なりのけじめをつけようとする。ロランは余計な心配をするのだが……。



「ちょっと違うんじゃない？」

43話。ディアナが開いた黒歴史のデータを見て、ロランのΨにそっくりなMSを見つけてメシェーと話す。確かに似ているが、これはΨとは違うMS、ガンダムなのだ。

「ふえるんでしょ」

45話より。月の少女たちに話しかけられ、地球では体重が6倍に増えるのかとの問いに答える。ロランとの一緒の買い物の時間。それは心休まる一時でもあっただろう。

■STORY#28-50

#28	ゼノアとともに、ディアナに戦争を辞めるよう直訴しに行く。
#29	姉・キエルとロランの預かった核のことを心配している。
#30	ウェディングドレスを着て、ギャバンに別れを告げる。
#31	ロランとともに海上を南へ。ウィルゲムを追撃するボッと戦う。
#32	マヤリトの姿を認め、アデスカの民と接触しようとする
#33	Ψを見張っていたが、夜明け前にマニュービチ攻略に参加する。
#34	一晩中走り回っていたと不機嫌になり、疲れて仮眠を取る
#35	ザックトレーガーのコントロールルームを牽制するよう命令される
#36	無重力に慣れず、シャワーを浴びて溺れかけてしまう
#37	ロランとともにディアナ救出へ向かう。マヒロー隊に襲われる。
#38	ロランとともにミスルトゥへ入り、ディアナたちと合流する。
#39	ウィルゲムと合流できぬままマヒロー隊との戦闘に参加する
#40	ロランと行動をともにし、ゲンガナムへ向かう。
#41	ゲンガナムへ入り、入港していたウィルゲムと無事に合流する。
#42	ロランに対し、本気でΨを渡すなら自分が乗ると主張する。
#43	キエルとディアナの入れ替わり、黒歴史の真実を知る。
#44	カプルでキエル、ディアナの護衛につく。
#45	ロランと月のお土産を買う
#46	グエンの裏切り行為をなじる。ムーンレィスの協力を得て地球へ。
#47	ビシニティ近くへ帰れると知って喜ぶ。カプルで出撃する。
#48	ジョゼフとともに、ウィルゲムに行くロランに同行する
#49	コレンのカプルとともに出撃。その戦いぶりを目撃する
#50	再び出撃するコレンの手伝いをさせられる。

ハリーへの想いを胸に抱き

Kihel Heim

キエル・ハイム

■CV／高橋理恵子

ディアナと入れ替わったまま、ディアナ・カウンターをまとめ続けていたキエル。そして元の立場に戻ってからもずっとディアナとして振る舞い、二人で一つの心を共有してきた。そんな中、自分を守り続けてくれたハリーに対して愛情を抱くようになっていく。すべての戦いの後、キエルはディアナとして月へ向かい、ディアナの後を引き継ぐこととなる。その傍らには、常に愛するハリーの姿があるのだった……。

「あの船にはグエン・ラインフォードという野心家も乗っているようです」

29話。ディアナとしてソレイユを脱出したキエルは、その立場のままグエンの待ち受けるウィルゲムに向かう。それは彼らの野心の高さを確かめようとしてのことだった。

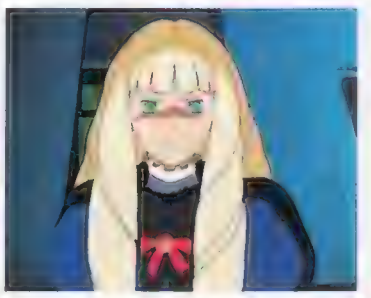
「アグリッパたちと刺し違えばよろしいのでしょう」

38話より。ディアナの身代わりとして利用されることも辞さず、キエルは気丈にハリーに語ってみせる。そして、秘めていたハリーへの想いを告白するのだったが……。

「それが嬉しい？殿方は」

44話。アグリッパを廃し、すべてはディアナの手に戻った。それを満足気に見つめるハリーに、キエルはからかうように問いかける。守るべき女性を二人も持ったことを。

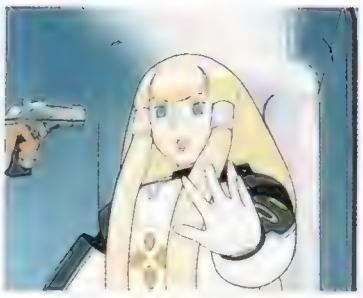
「ディアナ特攻を止めることは誰にもできません」



50話。最後に、ディアナは月光蝶を止めるために出撃する。キエルにはそれを見送ることしかできない。自分には決してできないことをディアナが行なうと理解しているのだ。

■STORY#28-50

#28	ディアナとして、ハリーとともにソレイユを脱出する。
#29	ディアナとして、グエンに宇宙へ行くのを辞めるよう説得する。
#30	ウィルゲムに捕らわれの身となる。レット隊にディアナとして接する。
#31	ディアナとして振る舞い続けるが……。
#32	捕らわれの身のまま。グエンに会おうとするが断られる。
#33	マニュービチへの攻撃を辞めさせようとし、部屋を脱出する。
#34	攻撃してくるボゥたちへ、ディアナとして警告する。
#35	ディアナとして、ザックトレーガー進駐部隊へ向けて演説する。
#36	地球へ戻ろうとするミハエルに人質にされてしまう。
#37	ディアナの身代わりとして、ハリーに拉致されてしまう。
#38	ディアナとして行動することを決意。ギンガナムに会う。
#39	ディアナとして振る舞い、ギンガナムと堂々と渡り合う
#40	ハリーからアグリッパの動きを知らされる。
#41	ハリーに連れられて脱出。途中、発掘中のMSを見て驚く。
#42	ハリーとともに白の宮殿へ。ディアナと再会する。
#43	冬の宮殿へ向かい、黒歴史が開かれるのを目撃する。
#44	アグリッパに対し、彼を亡きものにしようとする。
#45	ディアナのふりをしてハリーを見舞い、リリと会談する。
#46	グエンの裏切りを知る。ムーンレィスの協力を得て地球へ向かう。
#47	リリに月から戻ってくる方法を説明する。グエンと交渉する。
#48	コレンを見て、これが冬眠と覚醒を繰り返してきた人間かと思う。
#49	ホエールズのブリッジへ上がる。ハリーの出撃を見送る
#50	ディアナ最後の突撃を見送り、戦いの結末を見届ける。



「ディアナ様
逃げて！」

28話より。フィルたちに政権を掌握されそうになったディアナは、とっさにキエルを逃がすことで『ディアナ』の身を安全なものとした。これはその叫びである。

「キエル・ハイムから
キエル・ハイムへ」

35話。ザックトレーガーの進駐部隊へ演説をした際、リレーされた演説の最後に「ディアナ・ソレルからディアナ・ソレルへ」という言葉に対し、返した言葉である。

「ターンコードで
データを呼び出したことが
ありませんでした」

43話。冬の宮殿に秘められていた、黒歴史の謎を解こうとするディアナ。ターンコードに隠されていたのは、地球の文明を滅ぼしていくヤガンダムの姿だった……。

「これもまた私が
犯した罪であります」

48話より。ディアナ・カウンターの総帥として、ギンガナムの蛮行を止められなかった自分を責める言葉。ディアナはこの後、自分を裏切ったミランたちを許すのだった。

■STORY#28-50

- #28 フィルと渡り合い、政権は譲れないと激しく拒絶する。
- #29 ミランの手引きによってソレイユを密かに脱出する。
- #30 ミランに連れ出され、ミドガルドに身柄を引き渡される。
- #31 船でマニュービチへ。その後、ジャンダルムに乗り換える
- #32 登場せず。
- #33 登場せず
- #34 宇宙船ジャンダルムで宇宙へ向かって行く。
- #35 ディアナとしてザックトレーガー進駐部隊へ演説する。
- #36 登場せず
- #37 キャンサー、ムロンに手引きされ、ジャンダルムを脱出する。
- #38 ミスルトゥのコントロールを甦らせるか、敵に潜入され脱出する。
- #39 ミスルトゥ脱出後、シャトルで月方面へ向かう。
- #40 ロランたちとともに、運河を使ってゲンカナムへ向かう
- #41 ゲンガナムへ入り、ウィルゲムと合流。キエルとして白の宮殿へ
- #42 アグリッパにディアナ暗殺をたくらんだのはなぜかと尋ねる。
- #43 冬の宮殿で閉じられていた黒歴史をすべての民に開く
- #44 アグリッパに対し、彼を亡きものにしようとする。
- #45 ギンガナムを参上させ、ターンXを引き渡すよう要求する
- #46 グエンの裏切りを知る。ムーンレィスの協力を得て地球に向かう。
- #47 グエンと交渉するが、うまく行かず交渉は決裂する。
- #48 コレンとともにソレイユへ戻り、ミランたちに協力を要請する
- #49 ミラン、フィルとともにソレイユで戦いの指揮を取る
- #50 ソレイユをロスト・マウンテンへ向かわせ、月光蝶の楯となる

Dianna Soriel

ディアナ・ソレル

■CV／高橋理恵子

キエル・ハイムと入れ替わり、地球の少女を演じていた月の女王。入れ替わった後もキエルとして振る舞い、身の安全を得ていた。月への旅、そしてアグリッパ一味との対決など、さまざまな試練を経て、月に隠されていた黒歴史の謎をすべての民に開く。それは悲しいまでの戦争の歴史であった。再び地球へ戻ったディアナは、すべての戦いの後、引棲し、全責任を自分のものとして、ロランとともに、静かに暮らし始める……。

全ての罪をその身で受け止め

Harry Ord

ハリー・オード

■CV／稲田　徹

◎49話。ギンガナムのターンXにスモー部隊で戦いを挑むハリー。しかし、その攻撃は一歩及ばず、ハリーは撃墜されてしまう。

◎35話。ミリシャにとっては敵であるはずが、あっという間に自分のペースでウィルゲムにとけ込んでしまったハリーであった。

「ユニバース」

ディアナ・カウンターのクーデター発生により、キエルとともに出奔することとなった親衛隊隊長。ディアナを追い、ウィルゲムとともに宇宙へ上がる。その際、キエルを利用してまでディアナを守ろうとするのだった。

Guin Sard Rhineford

グエン・サード・ラインフォード

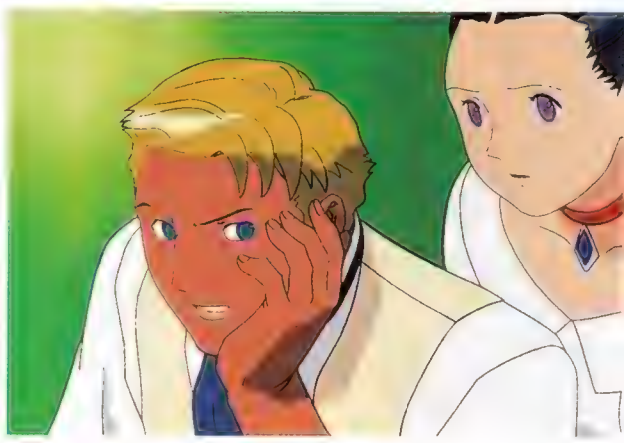
■CV／青羽　剛

◎48話。グエンはギンガナムを利用しているのだと言い、ロランやジョゼフを抱き込もうとする。しかしその目論見は失敗してしまう。

◎37話。最初から信用していなかったハリーを見張っていたが、逆に暴力をふるわれてしまう。彼の実力ではハリーを抑えきれない。

「君のような青年が指揮をすればそうなるだろう」

元イングレッサの領主である野心家の青年。月への旅で黒歴史の真実を知り、その知識を地球の文明へ取り入れようと考える。ギンガナムと手を組み、ディアナたちを裏切るのだが、その結果は失敗に終わってしまう。



Muron Muron

ムロン・ムロン

■CV／立木文彦

「姐さんと二人！いいじゃないすか」

キャンサーの部下で、副官的存在の青年。ちょっとお調子者の節があるが、キャンサーと同じく、ディアナに対する忠誠心は本物である。

Cancer Kafka

キャンサー・カフカ

■CV／高乃　麗

「もっとこの機体に慣れる時間が欲しかった！」

100年以上前から地球に住み続けていたムーンレィスの子孫。女王に対して非常に強い忠誠心を抱き、ディアナのために戦う。

Joseph Yaht

ジョゼフ・ヨット

■CV／佐藤せつじ

「お話し合いが信用できるのか!?」

ムーンレィスへの差別意識が強い地球人の青年。ミリシャ・ジャラピィ部隊を率いてムーンレィスと戦い続けているのだが……。

Fran Doll

フラン・ドール

■CV／渡辺久美子

「キスぐらいしてくれたっていいじゃない」

戦争のおかげで新聞記者となった少女。ムーンレィスで、ミリシャの月への旅にも同行した。恋人、ジョゼフの子供を妊娠している。

Keith Laijie

キース・レジェ

■CV／福山　潤

「何言ってるんだよ」

ルジャーナ近くにパン工場を作り、戦いのない中立地帯を作ろうとしていたムーンレィスの少年。パン屋の娘、ベルレーヌを愛している。

タルカ

■CV／東地宏樹

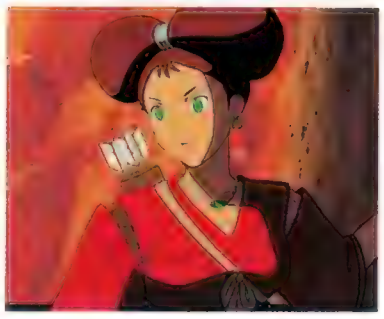
「小さい機械人形には石弓でも倒せるぞ！」

アデスカの民により、次の王に選ばれていた青年。しかし彼にはまだ王となる覚悟がなく、クワウトルはそのためにその場を去ったのだった。

マヤリト

■CV／浅川美也

「そうだろうが……」

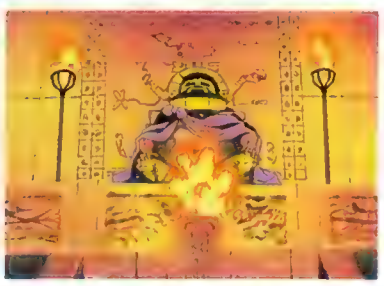


クワウトル王に付き従う弓使いの少女。アデスカ近辺の出身で、ジョゼフと同郷らしいが、詳しいことは不明。クワウトル王と運命をともにする。

クワウトル王

■CV／廣田行生

「私はアデスカの王クワウトル」



神話の国、アデスカを治める王。次の王に殺されることで、その責務を譲るというしきたりを破って逃げたとされていた。しかしそれは誤解だった。

Corin Nander

コレン・ナンダー

■CV／川津泰彦

「戦士たる者の生き様を後世に伝えぃ！　女たち」

僧侶となって各地を放浪していたが、∀の月光蝶の光で記憶を取り戻し、ディアナ・カウンターに復帰した戦士。最後の最後まで戦い抜いた。

Liry Borjarno

リリ・ボルジャーノ

■CV／小林　愛

「抵抗する勢力をつくる必要がありますでしょ？」

ルジャーナ領主、ボルジャーノ公の娘。政治的視野に優れており、グエン不在となったミリシャをまとめる立場となる。黒髪が似合う美少女。

Meam Midgard

ミーム・ミドガルド

■CV／水野龍司

「名門には逆らえんか」

アグリッパの手の者で、暗殺などの汚れ役を行なう仕官。ギンガナムともつながりがあり、ディアナ本人を拉致して宇宙へ連れ去るが、その途中で逃げ出されてしまう。

Miran Rex

ミラン・レックス

■CV／曽我部和恭

「月ではアグリッパ・メンテナーもソレル家の力を排除できなかった」

アグリッパの手の者として、ディアナの失脚を狙っていた、ディアナ・カウンター執政官。フィルと組んでディアナを放逐するが、その目論見は失敗してしまうのだった。

Phil Ackman

フィル・アッカマン

■CV／小山剛志

「ムーンレィスのための国家をこの地球上に華開かせるのだ！」

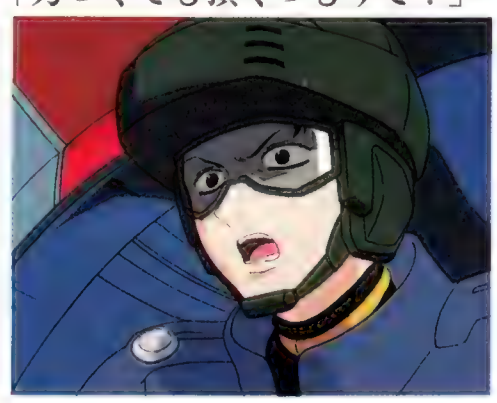
ディアナから政権を取り上げ、自分のものとし、ムーンレィスの国を作ろうとした男。それは失敗したが、ディアナ帰還の際にはクーデターの罪を許されることとなる。

Poe Aijee

ポゥ・エイジ

■CV／中西裕美子

「力づくでも頂くつもりで！」



∀を取り逃がす失態を繰り返し、フィルに見放されそうになって焦るディアナ・カウンター女性パイロット。フィル政権で必死に役目を果たそうとするのだが……。

Merrybell Gadget

メリーベル・ガジット

■CV／夏樹リオ

「ギム・ギンガナム！
ターンXが動いたよ！」

ギンガナムの操り人形と呼ばれる不思議な魅力を持つ少女。ギンガナムの危険な思想を実現する手駒の一人である。MSバンデットを操る。彼女のMSが現れる時には、どこからともなく鈴の音が響く。

Sweatson Stero

スエッソン・ステロ

■CV／ウガンダ・トラ

「出力は遠慮している。
出てきたら100%くれてやる！」

ギンガナム軍、マヒロー部隊を率いる将校。非常に太っており、いつもなにかを食べている。自分の体重が感じられる重力を嫌っている。好戦的な大男。

Gym Ghingnham

ギム・ギンガナム

■CV／子安武人

「さすが∀のお兄さん！」

ムーンレィスの武門を司るギンガナム家の総領。地球と平和的に手を結ぼうとはまったく考えず、戦いで地球を支配しようと企む。戦いこそが自分の存在意義だと言う危険な男。MSターンXを操って戦う。

Agrippa Maintainer

アグリッパ・メンテナー

■CV／石丸博也

「それが闘争本能の
言わせることなのだ」

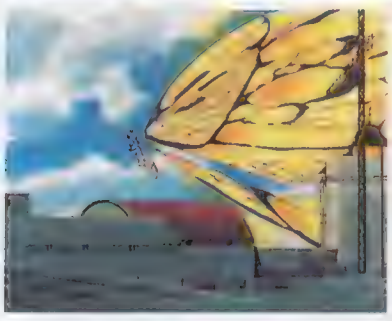
ディアナ不在の間に月の政務を司る家柄の出身。月の平穏を願う人物だが、その一方で月人に闘争本能が目覚めるのを恐れ、ディアナ暗殺を企てる。しかしディアナ本人の帰還でその計画は潰えることとなる。

最終システム“月光蝶”を秘めて

∀ガンダム WD-M01＜SYSTEM-∀99＞

■全高：20.00m
■重量：28.6t
■稼働重量：17.5t
■ジェネレータータイプ：DHGCP
■ジェネレーター出力推定（W換算）：27,000kw（±5,000）
■装甲材質：FE型
■武装：胸部マルチパーパスサイロ（ミサイル,ビームドライブユニット他装備可能）、ビームライフル、ビームサーベル、シールド他

ロランがおもなパイロットを務める、未知の可能性を秘めた機体。ターンXをもとに開発された機体だとも、ターンXの兄ともいわれるが、その詳細は不明。ガンダムという名称も、黒歴史に語られるガンダムと似たイメージを持つことからつけられている節が大きい。また、ビームライフルこそ∀の本来の装備だか、実体楯や旧来のビームサーベルなどは∀にも使える汎用装備であり、本来の装備とは異なるとも言われる。

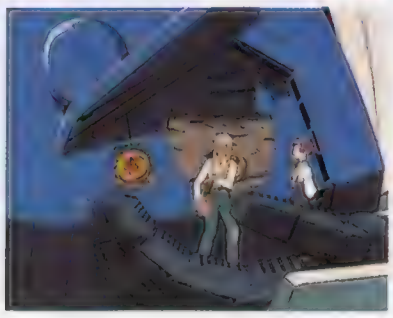


月光蝶

ナノマシンの散布により、文明の産物を一切、消滅させる究極のシステム。∀は、かつてこのシステムで地上の文明を消し去ったとも言われる。

マルチパーパスサイロ

胸部はほとんど空洞で、本来は一種のペイロードだったと考えられる。おそらくは、様々な専用装備が用意されていたのだろう。49話の戦いでは、ジョゼフ操る∀が、ターンXに対して拡散ビームらしきものを胸から発射している。これは、ギンガナム軍の整備により、∀の機能の一部が回復したものなのかもしれない。

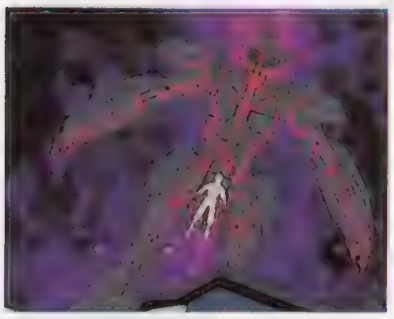


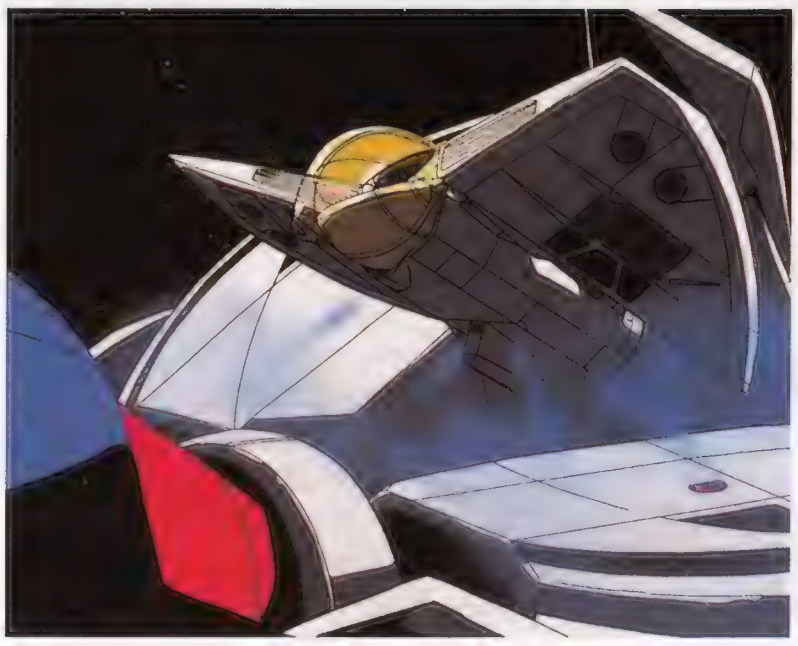
システム∀

∀ガンダムは、このシステム∀の実証機であったらしい。これは、マルチパーパスサイロと、その支援システムを中核とする運用システムとも言われるが詳細は不明。Iフィールド・ビーム駆動や、月光蝶などの各種システムがどこまでシステム∀に含まれるのかも、ついに語られることはなかった。

改造∀（メリーベル仕様）

ギンガナムが、月面での戦いで鹵獲した∀本体にスモーのコクピットを装備させたもの。効率は落ちるが、基本的な操作は可能らしい。ギンガナムはこの機体をメリーベルにあたえ、月光蝶システムで地上を攻撃させた。また、グエンのもとから∀を奪回したジョゼフもこのままの∀を使用していた。





コア・ファイター

∀の腰のコクピットが、脱出用の小型艇となった姿。大気圏内では翼のエッジと裏面にある無数のマイクロノズルからの高圧ジェット噴射で飛行。また、真空中ではIフィールドと地表との間に生ずる擬似的な地面効果で浮揚し、推進を噴射して飛行する。その名前とはうらはらにパイロットを脱出させるための緊急装置にすぎず、もともとは戦闘能力が与えられていなかったらしい。

因縁浅からぬ∀の強敵

TURN X GUNDAM

ターンX Concept・X 6・1・2 (Project-6 division-1 Block-2)

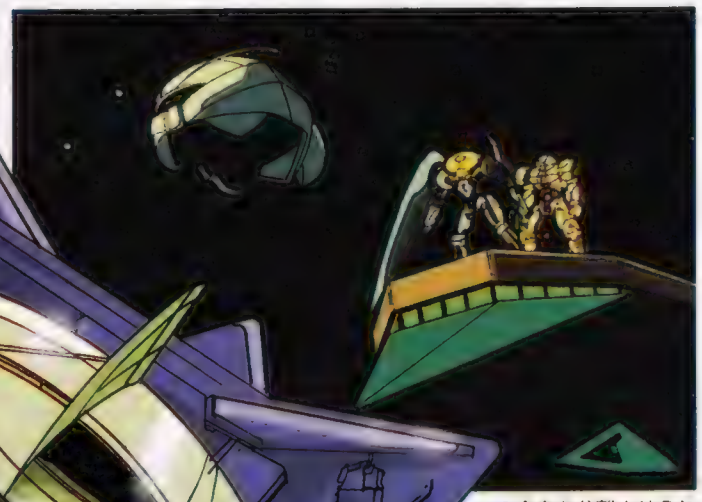
■全高：20.5m
■重量：50.6 t
■稼働重量：30.2 t
■ジェネレータータイプ：unknown
■ジェネレーター出力推定（w換算）：68,000kw（±5,000〜500,000+）
■装甲材質：unidentified
■武装：背部ウェポンプラットフォーム（ビームライフル、バズーカ他）、
溶断破壊マニピュレーター、三連装ビーム投射システム、脚部メガ粒子砲（推定）他

ギンガナムが打倒∀のために、月のマウンテン・サイクルから発掘したモビルスーツ。形式番号からもわかるように、度重なる改装を受けているらしい。また、その際、本来の純正パーツや補修部品を得られなかったため、原形をとどめない左右非対称な形となったとも言われる。ただ、一部形状や機能から、∀と関わりのある機体であることは間違いない。なお、なぜターンXと言うのかには色々な説があるが「X（ギリシア数字の10）番目の星に道を曲げ（ターン）られたもの」との説もある。

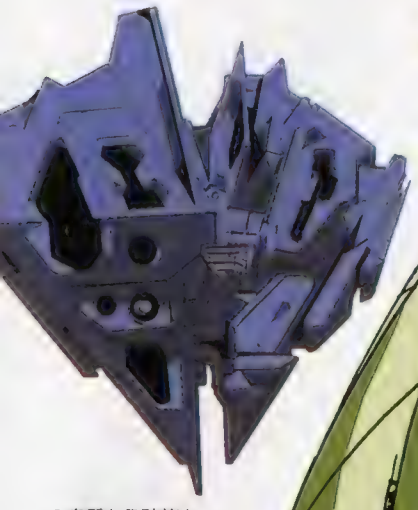
オールレンジ攻撃

ターンXの両手、両足、胴体、頭部が各々分離、敵をあらゆる方角から攻撃することができる。黒歴史では、この攻撃をできるのはニュータイプと呼ばれるものだけだとされていたが……。

ターンXトップ



全身を分離させられるターンXのコクピットは頭部にあり、そこだけをターンXトップともいう。単独でも月面のカイラスギリーを操作できるほどの処理能力を持つなど、その能力は非常に高い。

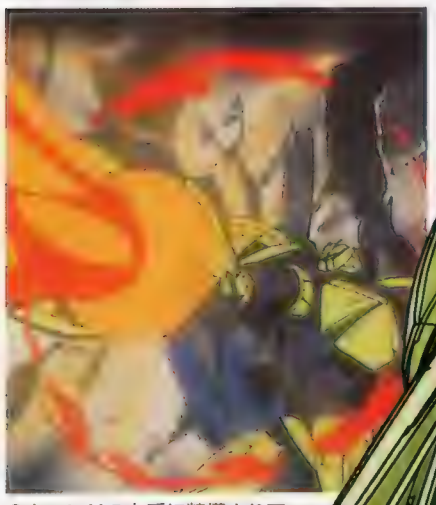


度重なる改修と、本来の武器ではない装備の繰り返しで原形を留めていないらしい。最終決戦前、分離再合体の過程で姿を消し、以後はこれなしで戦った。なお、正式な名称はキャラバスという。

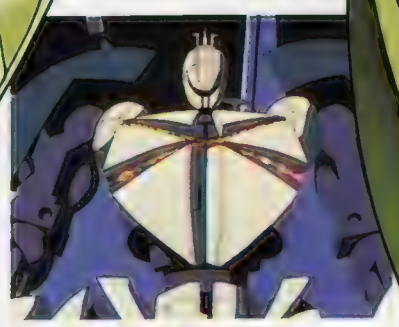
月光蝶

ターンXも∀と同じく、月光蝶システムを使うことができる。ただし、これは∀のシステムを読み取ったことで起動したものなので、ターンX本来の能力が覚醒したのかは不明

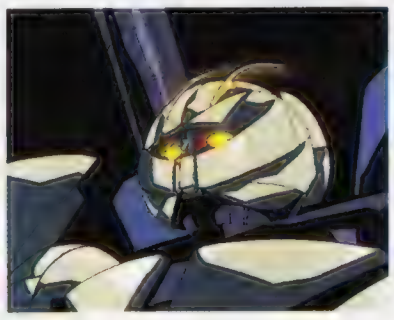
シャイニングフィンガー



ターンXの右手に装備されているシステム。相手をつかみ、破壊する。当初は使い方がわからなかったのか、ギンガナムは流体金属を発射していたが、それでも大きな破壊力を示す。

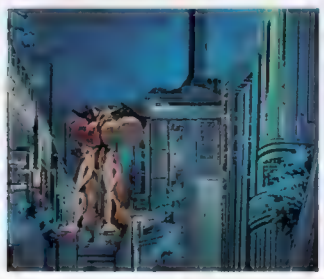


ターンXの胸部のX字型スリットは、かつて∀との戦いでつけられた傷だとも言う。なぜかギンガナムの、あるいはターンXの昂ぶりに呼応して輝く。

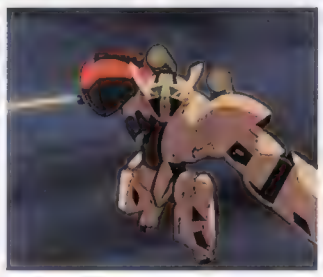


バンデット G-MIF／XM-0754

ターンX同様、月のマウンテン・サイクルから掘り出されたモビルスーツ。独特の、立ったまま操縦する方式のコクピットを持ち、メリーベルが使用した。本来は対モビルスーツ犯罪用公安機として開発されたもの。だが、機体のフレームから染み出させたナノマシンを硬化させて対弾性を得るウージィー・アーマー（分泌装甲）と呼ばれる装備を持っていたため、旧時代でナノマシンが禁止されたときに封印された。数機が発掘されたが、メリーベル機以外は連動して動く無人機。

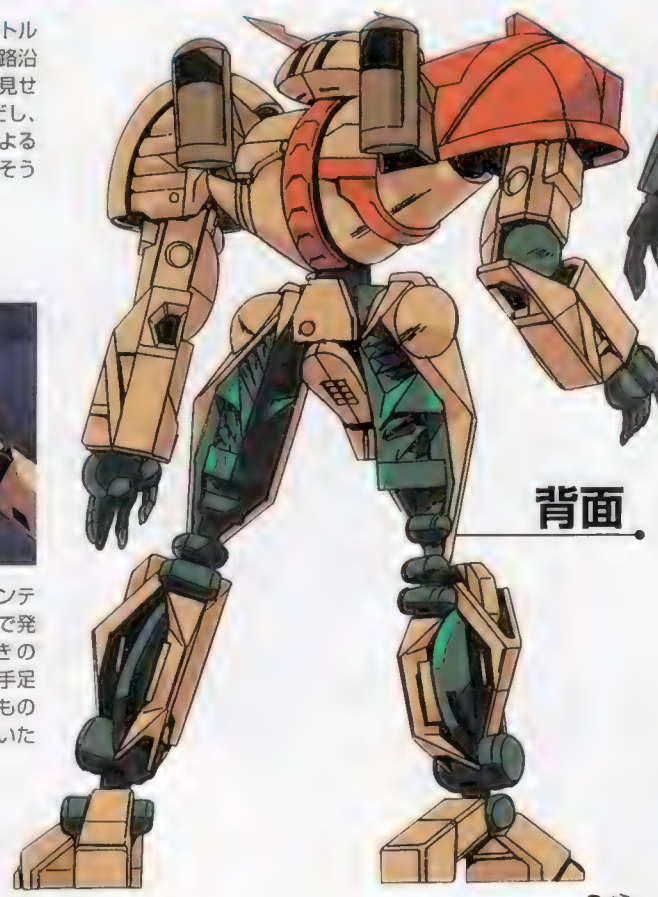


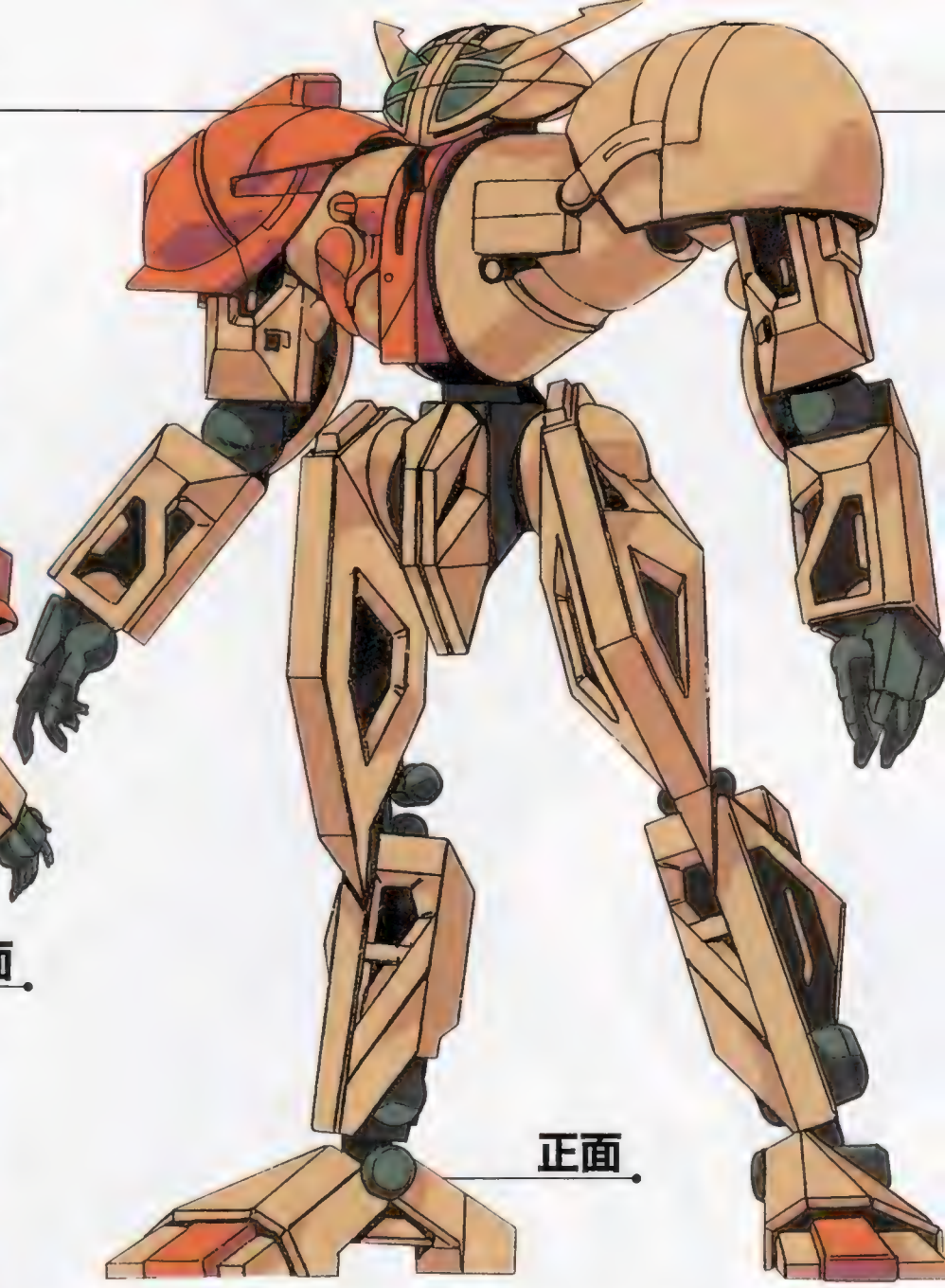
◎地上数メートルに浮遊し、道路沿いに進む姿も見せてくれた。ただし、これは噴射によるものではなさそうだ。



◎ビームサーベルの装備も可能。ほかに、機体のみ破壊し、パイロットを傷つけないスクィーズ兵器を持つ。

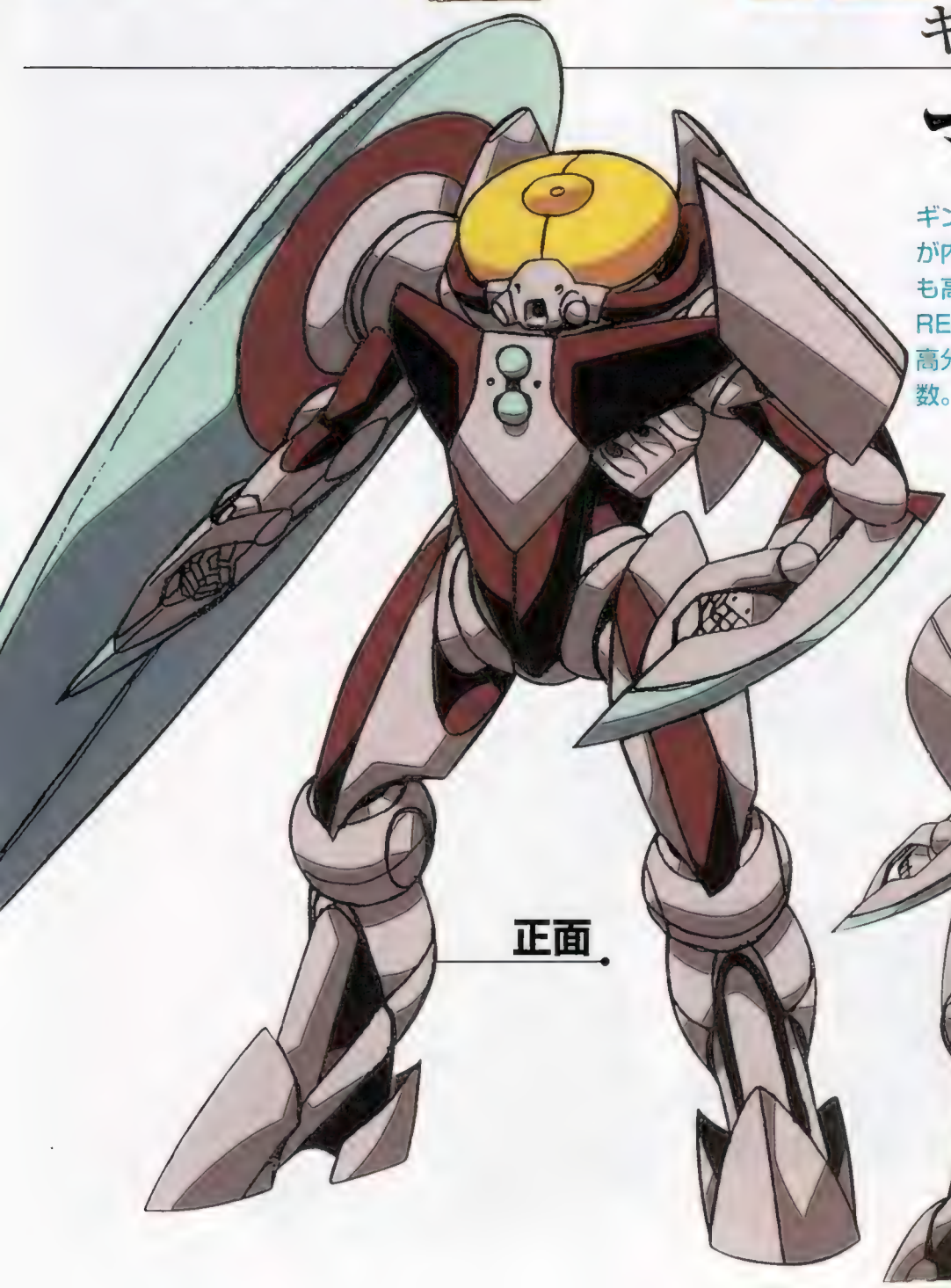
◎月面のマウンテン・サイクルで発掘されたときの姿。なぜか、手足がバラバラのものも発掘されていたようだ。





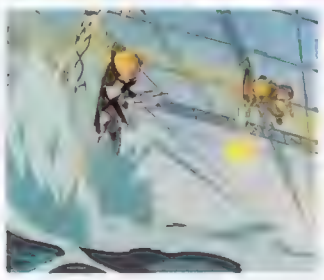
マヒロー G838

ギンガナム軍が主力として採用しているモビルスーツ。左手の楯に円環状の加速器が内蔵されており、それにより大きさのわりに火力が高い。また、センサーの能力も高く、本来は宇宙空間での遠距離戦闘向けの機体。他に、小型のハンドガン、REN-DOを装備している。形式番号Gはギンガナムを意味し、最初の8は筋繊維高分子モーターを駆動する構成分子の数。3は駆動システム制御系のデータバスの数。最後の8は筋繊維高分子モーターの駆動軸の自由度を表している。



◎左腕には半固定式のカッターが装備されており、高速鉄鋼弾を発射する小形火器が内蔵されている。

◎空気抵抗により、多少不安定となるが、大気圏内を飛行できるだけの高い推力を持っている。

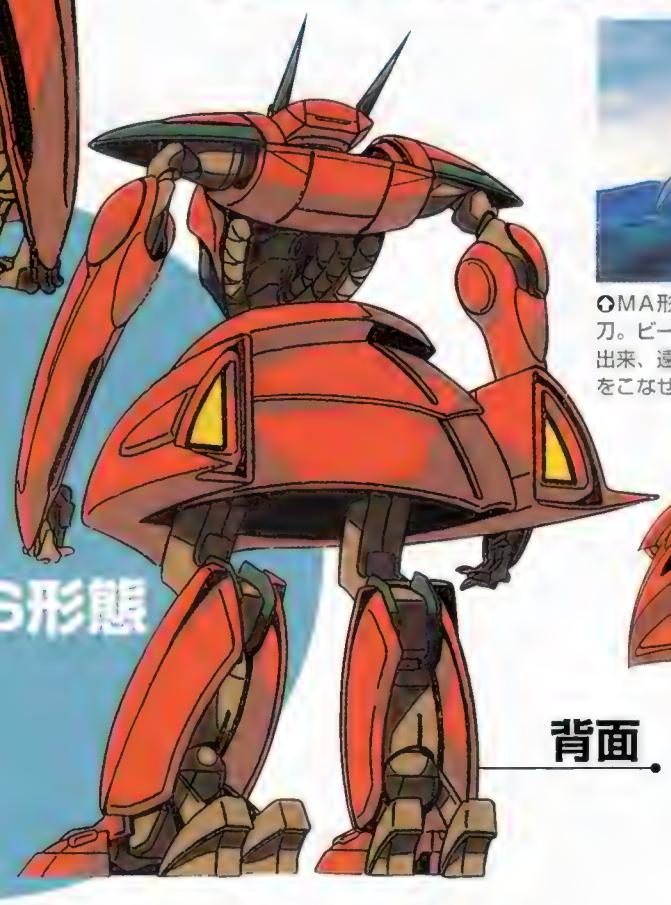


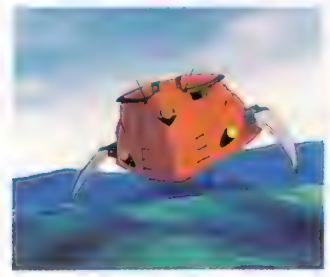
◎サブフレームがやられると、その部分を切り放して離脱したり、パーツを交換して戦線復帰を果たすことができる

ディアナ・カウンターが地球で掘り出した MUTTOWOOO

ムットゥー MRC-F31／J-2126

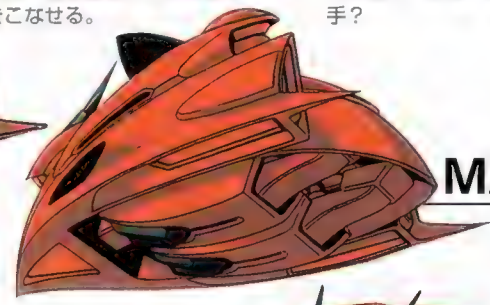
ゼノア大尉が地球のマウンテン・サイクルで掘り出し、おもにポゥの部隊が使用した可変モビルスーツ。ディアナ・カウンターによる形式番号、MRCはムーンレィス・コメモレイションの略であり、F31は31番目のファイター、すなわち主力戦闘モビルスーツの意味。J-2126が本来の形式番号であり、それからわかるように本来の活躍の場は木星だった。そこではMA形態時、機体外部にIフィールドによる開放型ラムジェットを形成、木星大気を燃料に一撃離脱戦法を取る可変戦闘機だった。





MA形態でも使える二刀流の刀。ビームライフルとしても使用出来、遠距離戦から近距離戦までをこなせる。

モビルスーツ形態を取っても、ある程度の飛行ができるほど、推力は高い。反面、軽快な動きは苦手？

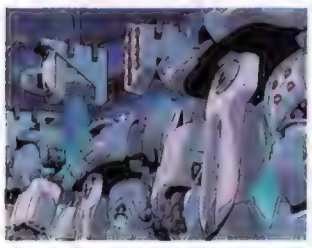


BELLONA

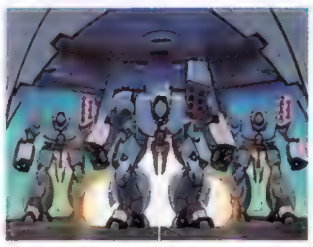
残留軍も使用した ZSSAN

ズサン G-M2F／AMX-1002

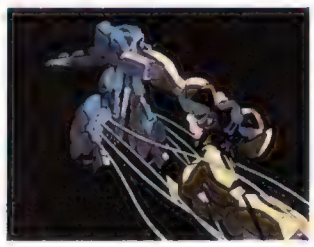
ギンガナム隊が月のマウンテン・サイクルから掘り出したモビルスーツ。旧世紀にズサと呼ばれたモビルスーツをダウンサイジングしたもの。一種の万能機だが性能は低めで、数をそろえるための汎用機といったところ。



遠距離ではボッドのミサイル、近距離では脚部のワイヤー状の打突兵器で攻撃する。



3機中1機のみ有人機で、残り2機は有人機に追従して動く無人機だった。



ギンガナム軍の残存部隊がディアナたちの追撃を阻止するための攻撃に使用した。

これぞ男の機体? CORIN'S CAPOOL

コレンカプル

ウォドムのものに交換されている右手がよく分かる。これをロケットパンチとして発射もする。

コレンお得意のミンチドリルをもって戦いに挑む。これで活躍するのはさすが歴戦の戦士？

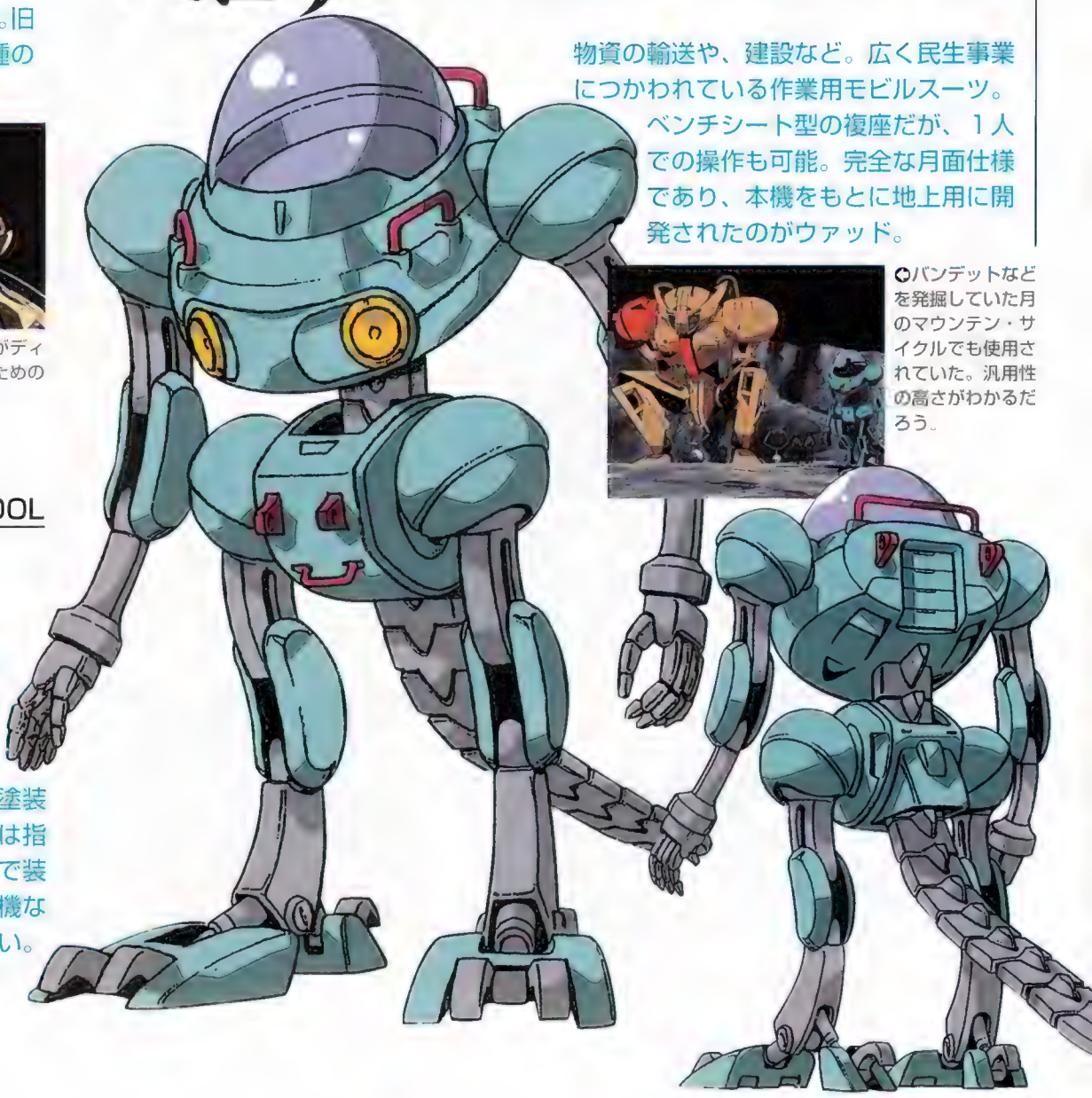
月光蝶の発動を見て、ディアナのもとに馳せ参じたコレンがパーツを寄せ集めて作らせた専用機。塗装は赤のうえ、頭部には指揮官機をしめす角まで装備されている。急造機なので、機体番号はない。

月面作業用

ベロナ MRC-C03 “マイティーフェロー”

物資の輸送や、建設など。広く民生事業につかわれている作業用モビルスーツ。ベンチシート型の複座だが、1人での操作も可能。完全な月面仕様であり、本機をもとに地上用に開発されたのがウァッド。

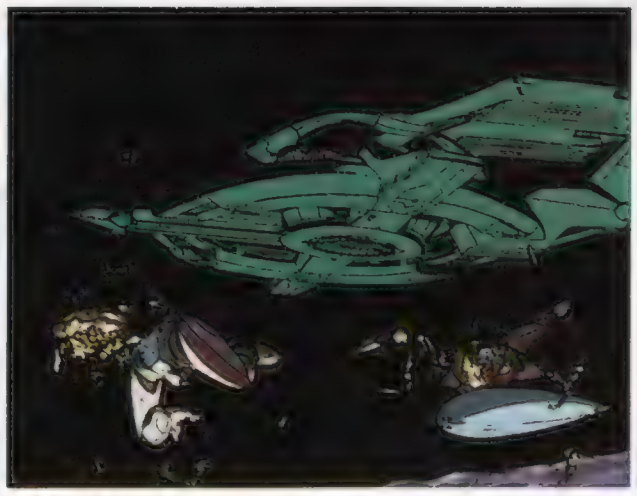
バンデットなどを発掘していた月のマウンテン・サイクルでも使用されていた。汎用性の高さがわかるだろう。



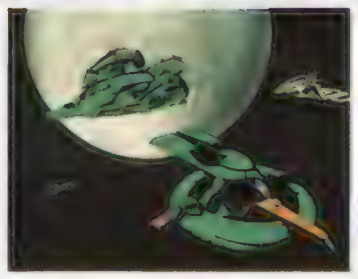
ギンガナム軍主力艦アスピーテ

ギンガナム軍の主力戦艦として多数配備されている艦。その名前はギリシア語で楯を伏せたような扁平な形の火山aspiteに由来する。ただし、それが本来の名前なのか、後世の人がつけたあだ名なのかは不明。

○艦首方向に伸びるカタパルトのほか、左右のハッチらかもモビルスーツを発進させることができる。また、ブリッジとメインエンジンは直結している

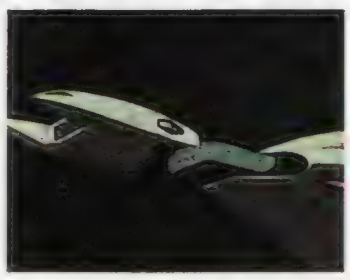


○艦底には降下用のハッチが用意されており、MSの発進のほか物資の搬入も可。

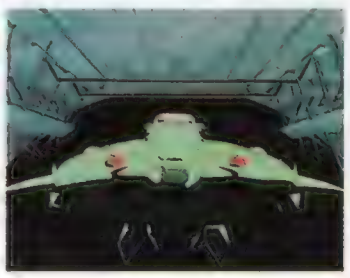


○主砲は、無砲身型の連装砲塔で、ブリッジの左右の下に装備されているのがわかる。

羽衣の船 ジャンダルム



○羽衣を身にまとった姿と異なり、正面からみた姿はかなり無骨に見える。ザックトレーガー内での姿。



○ブリッジは艦首部分にあるが、その周辺部が脱出用シャトルとなっている。その分離された瞬間の姿。

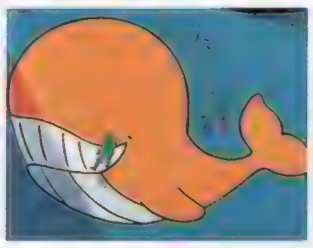
ギンガナム軍配下の船だが、とりたてて武装のないV.I.P.用の船？　かつて、地球に降りたディアナを迎えに来たこともあり、そのときの目撃者などから羽衣の船と呼ばれ、伝説となっていた。

○船体後尾に伸びる鳥の尾羽のような装備は非常時や大気圏脱出用のブースター。

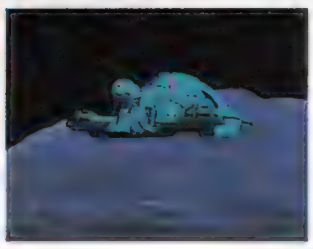
○大気圏内では「尾羽」はIフィールドを援用して、船体の空力制御をおこなう機能も持っている。

希望の船 ホエールズ

使用不可能と思われていた親衛隊のアルマイヤー級戦艦を整備し、復活させたもの。グエンと手を結んだギンガナムを追撃するため、ディアナと彼女を助ける者たちが使用した。



○ロランの仲間の運河人、ハメットが船体に描きこんだこのクジラのマークが名前の由来。

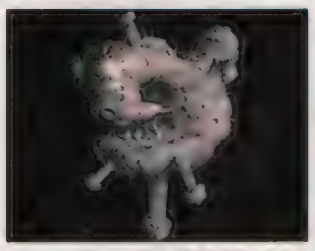


○整備をし、塗装を施しただけなので基本的にはアルマイヤー級とかわるところはない。

○ディアナが地球でソレイユに戻った後もキエルは残り、ブリッジで指示を出していた。そして、誰もそれを変だとは思わなかった。

小惑星ミスルトゥ

ディアナの祖先が地球外での植物育成の研究をおこなっていた場所。ギンガナム軍との戦闘で破壊され、既知の成果以外の研究は謎のまま消滅。



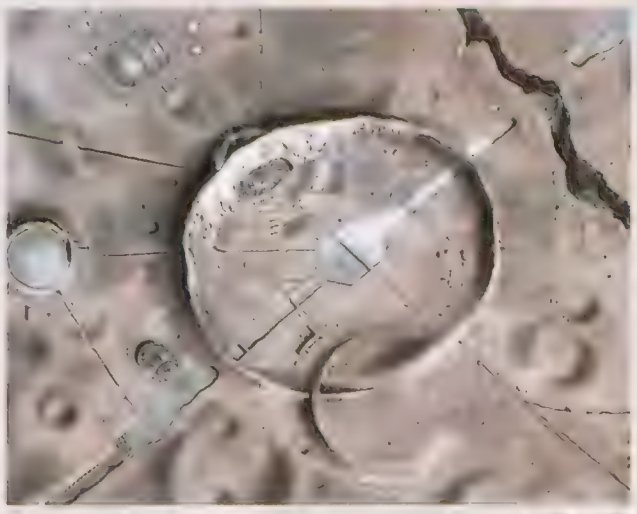
○ギンガナムの手を逃れたディアナが逃げ込んだ。だが、そのためミスルトゥは戦場となる

○ミスルトゥ内部の植物園。中心の巨木を取り囲むように情報端末がならんでいる意味は？

月世界

不毛の世界でありながら、いやそれだからこそ、自然を大切にしようとする月面都市。クジラすら住む運河が流れ、町には屋台が立ち並ぶ姿は斬新だった。その姿まで借り物といえるのだろうか？

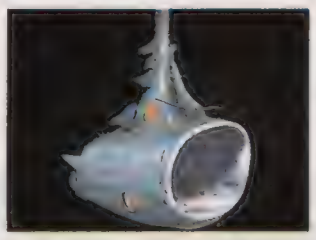
○自然あふれる、フォン・シティの様子。だが天井の運河と、それを支える柱はここが人工の世界だと示している



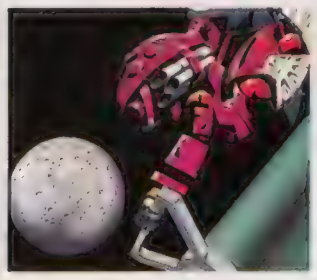
○上空から見たゲンガナムの姿。モノトーンの月面に、人の営みが微かながらとはいえ、色彩をあたえている

ザックトレーガー

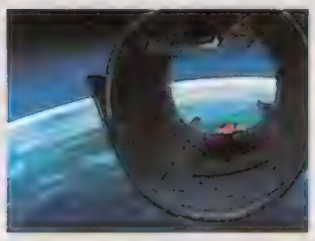
天の階段、天のミノムシ、アデスの枝などと呼ばれていた巨大な宇宙往還システム。その姿は、微かな光の筋として地上から見ることもできる。1話しか登場しなかったのが惜しまれる。



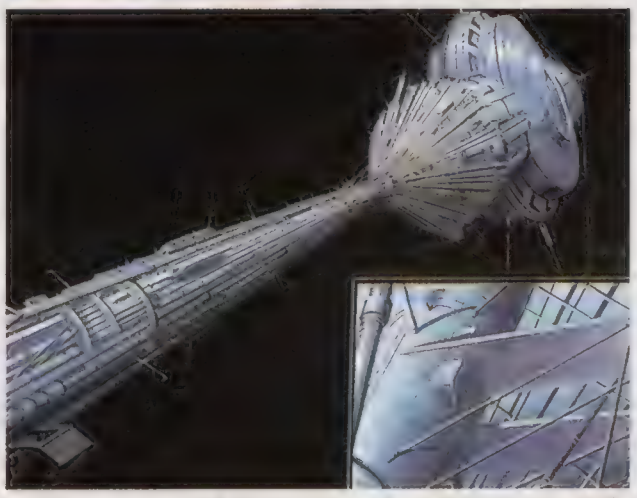
○ザックトレーガーの先端部のスクープバレル。文字通り、低軌道の宇宙船をすくい上げる



○宇宙空間にあるため、地上用と色が違って見えるウォドム。実際の色は地上用と同じものだ



○「回転式軌道エレベーター」または「宇宙パチンコ」などとも呼ばれる低コスト質量揚出システム

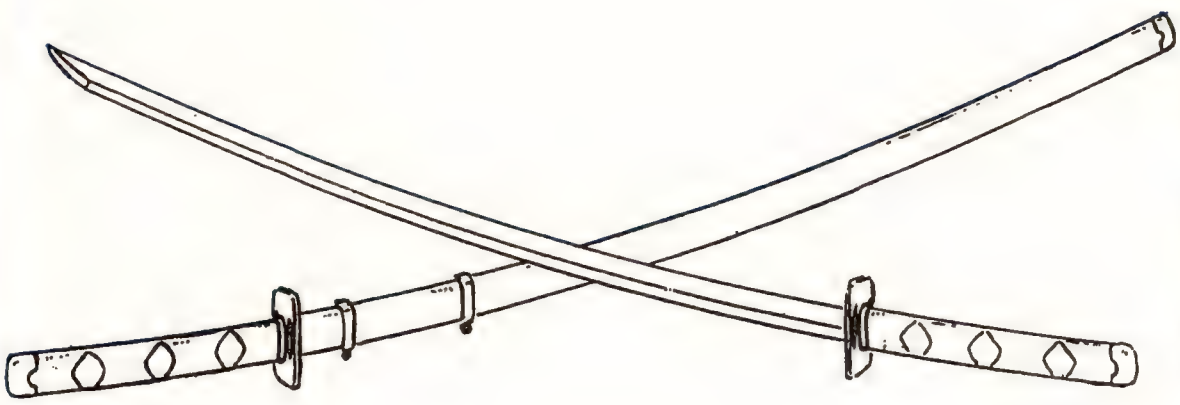


○8000キロメートルもあるザックトレーガーの中心、センターハブ。スクープバレルと結ぶ棒状の部分は剛体ではなく特殊なケーブル

∀GUNDAM EPISODE GUIDE

∀ガンダム エピソードガイド

28話から最終話まで、『∀ガンダム』後半のストーリーと各回に登場した主な登場人物や小道具を紹介。スタッフとキャストからのコメントも並記した。また、別コーナーで背景世界にも詳しい解説を試みた。
なお、話数はTV放映時のものに準拠しています。



話数	タイトル	ポイント	掲載ページ
#28	託されたもの	ゼノアの死、フィルとミランの反逆、ディアナとして逃亡するキエル　また、核を胸にしまう∀の動作も可愛い？	P34
#29	ソレイユのふたり	核を宇宙へ捨てる決意をするロラン。グエンのもとにディアナとして身を寄せるキエル。ムットゥー初の出撃	P35
#30	胸に抱えて	今回はヒューズの港がおもな舞台。ディアナ、ソレイユからミドガルドに預けられるソシエ、花嫁衣装を見せる	P36
#31	追撃! 泣き虫ポゥ	フィル、サンベルト共和国の樹立・建国を宣言。キャンサーとムロン、ミドガルドのもとでディアナ護衛につく	P37
#32	神話の王	世界樹、アデスの枝の神話が語られる。瞳で会話（?）をするロランとクワウトル王　ジョゼフの出自も明らかに	P38
#33	マニューピチ攻略	ウィルゲムのメガ粒子砲発射を阻止しようと、消火器で部屋の脱出をはかるキエル。王の死と、その跡継ぎの誕生	P39
#34	飛べ! 成層圏	ホレス、ザックトレーカーを解説。∀、ムットゥーとの戦いでハンマーを再び使用。フラン、ふっくらとしてきた?	P40
#35	ザックトレーガー	フラン、宇宙での振る舞いからキエルがディアナでないかと気付く。ハリー、宇宙服の着つけでミリシャに溶け込む	P41
#36	ミリシャ宇宙決戦	ハリーの怪しい宇宙酔い止めの民間療法が爆笑物。また、ハイム姉妹が興じる狼と羊や、シャワーなども見どころ	P44
#37	月世界の門	ミドガルドとの通信でギンガナム初登場。ディアナ、レット隊の手引きで脱出　ハリー、キエルをさらっていく	P45
#38	戦闘神ギンガナム	ロラン・レット隊でキンガナム隊と戦う　シッキネン、ミリシャの捕虜に　キエル、ハリーとのキスも	P46
#39	小惑星爆烈	ターンXトップ登場　カイラスキリーや、フォン・シティといった名前が物議を呼ぶ　キャンサーとムロン落命?	P47
#40	月面の海戦	ロランの運河人としての面が描かれる　戦闘中、マヒローのモニターに∀のエネルギーの流れが映る	P50
#41	戦いの決断	アグリッパ、ついに登場。月面のマウンテン・サイクルで掘り出されているバンデット-リリ様、ココア好きを表明	P51
#42	ターンX起動	アグリッパ、白の宮殿を脱出。また、ロランに月面でターンXを倒すことを提案。メリーベルも初登場	P52
#43	衝撃の黒歴史	ディアナとキエルかいつ入れ替わっていたのかが皆に語られる　ハリー、マヒロー相手に大立ち回りを見せる	P53
#44	敵、新たなり	アグリッパの最後。月光蝶システム一部作動?　カプル、ハンマーを使う。ミドガルド、ハリーに処刑される	P56
#45	裏切りのグエン	入院中のハリーは紫の寝間着姿だった。ターンX、オールレンジ攻撃を披露　ロラン、コア・ファイターで脱出	P57
#46	再び、地球へ	スザン初登場　ギンガナム、∀にスモーのコクピット装着　メシェー、恋人となる美少年と出会う	P58
#47	ギンガナム襲来	ルジャーナ領のボルジャーノ公などがそれとわかる形で登場　ハリーとリリ、ロランにクエンをたらし込むよう提案	P63
#48	ディアナ帰還	コレン、三度復活。ジョゼフ、グエンのもとから∀ガンダムを奪回。そのどさくさに、ブルーノとヤコップも脱出	P64
#49	月光蝶	コレン専用カプル、ゲスロック、迷彩模様のギャロップ登場。フランの妊娠ばれる。ロラン、∀に復帰する	P65
#50	黄金の秋	最終決戦。メインキャラの中ではコレンだけが戦死?　そして、平和になったかのように見える世界が訪れた	P66

第28話 託されたもの

ストーリー解説

マウンテン・サイクルから掘り出された核の爆発に、目撃者たちは呆然とする。その禁断の兵器を持ち出してしまったゼノアは、なんとかそれを誰の手にも届かないところに運ぼうとするが、手柄をあせるポゥがシルバースモーでその引き渡しを迫る。そこを逃れたゼノアは、爆発の目撃者であるロランたちに爆弾を託すと、戦いを止めるようソレイユのディアナに直訴しようとする。そして、ソシエとメシェーもその後を追う。

その頃、ソレイユではフィルとミランがディアナに政権の譲渡を迫る。だが、ちょうど直訴に来ていたゼノアが混乱を起こし、その隙にハリーとディアナを演じるキエルはその場を脱出。だが、ゼノアは戦死。ソシエも、危ないところを偵察中のジョゼフのフラットに救われる。だが、ディアナがソレイユで捕らわれているらしい。それを知らされたソシエは、脱出の際に聞いた声が姉のものだったのではないかと思い至る。一方、ロランは核の存在を誰にも知らせないと決意していた。

室園丈裕（ゼノア役）

ゼノアという役、僕は好きです。死に方も含めて。

登場して何話かは2言、3言でしたから、いつの間にか居なくなっちゃうかと思っていたんですけど、段々セリフは増えるは、キーとなる核弾頭には絡んでくるわ、結構大変な役でしたね。

最初演じるに当たって「ゼノアって人は、とにかく普通のオジサンだから」と言われたんですが、たぶん家族があって、子供も居て。どうしても「自分が人の命を奪う」ことができない、軍人でいる前に〝普通の人〟だったんでしょうね。

僕らの世代って戦争の経験もないですし、したいとも思いませんが、ゼノアが何を感じていたかというのがカギでした。もし自分がこの状況に巻き込まれていたらと考えるしかありませんでしたし、色々と考えさせられましたね。

別の話ですが、後にムロンゾーノという役を振られてディアナさんに呼びかけられるシーンがあって。僕がムロゾノだから作品の中で自分の名前を呼ばれているみたいで変な感じでした。

スタッフの視点から

まず細かい話からいくと、レアさん。ゼノアさんのウァッドの後席に乗っていたのにいつのまにか居なくなっちゃった人なんですけど、希に生き残った人、というので脚本の星山博之さんの命名です。それがなければ、兵士Aだったかもしれない。

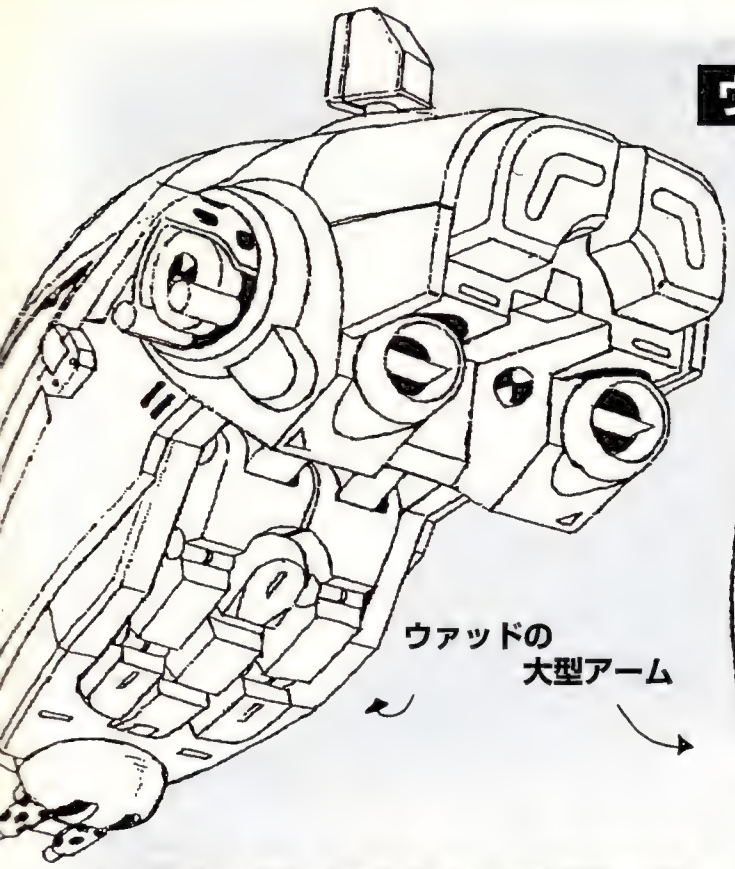
あと、胸に核弾頭を入れた後、片足で体を揺するVの演技は、富野監督がずっとプールでトレーニングしているところからの発想だそうです。

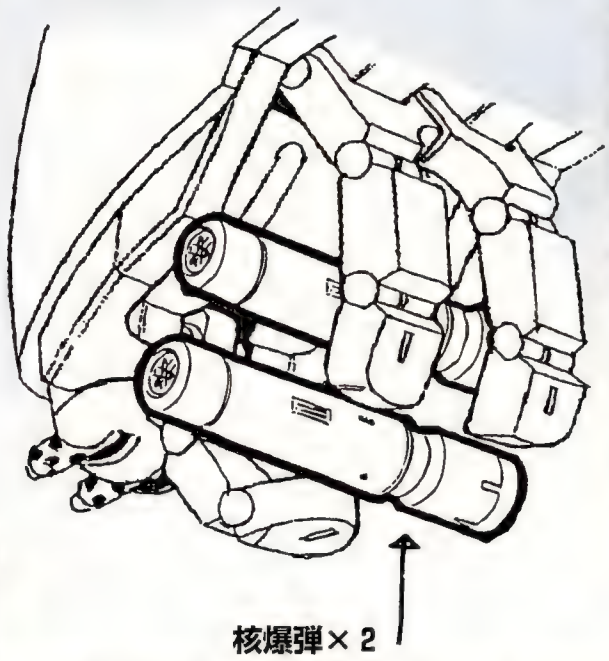
肝心の核弾頭ですけど、前回お話ししたように、富野監督としてどうしても核は入れたかったらしいんですよ。ただ、スタッフとしては最初、ものすごくアレルギーを持っていたんです。核という言葉自体も夕方のテレビ番組で出していいものかどうか心配もありましたし。ただ、局側のプロデューサーも一般常識の範囲で作ってくれればいいといってもらえましたし、何より富野監督が断固として核とか放射能、という単語は盛り込みたかった。核をアレルギーとして禁忌するということ自体に危機感を持っていたんですね。

承前編〈1〉

ウァッドに収納された核爆弾

ウァッド本体の下に装備されている固定用の大型アーム。ここに物を固定するのが、本来の使い方。ゼノア大尉はここに、核弾頭を持ったまま爆発から逃れてしまった。彼は自分の不幸を呪ったことだろう。





Vガンダム　胸部ハッチ爆弾収納法

本来の装備ではない拾いものがきれいに収まるわけがない、との考えからVの胸部ハッチに対してぶかぶかに設定された核弾頭。劇中では、何度も土や藁を詰めて弾頭の固定を図っていた。

ウァッドと核爆弾との対比

20世紀の核砲弾並の大きさの弾頭だが、その破壊力は遥かに高い。劇中では核と呼ばれているが、実際はそれ以上の威力を秘めた「何か」であるらしい。

ノートブックタイプのパソコン（D.Cの小型端末）

絵コンテに「ノートパソコン」が登場することを見越し、事前に設定されていたもの。ディアナとしてソレイユを逃れるキエルが、ハリーとの会話、そしてソシエの警告を通信するのに使用した。

第29話 ソレイユのふたり

承前編〈2〉

◆ストーリー解説

捕らえられたディアナは、自分をキエルだと主張。フィルの追求をはぐらかす。業を煮やしたフィルは、ポゥにハリーと逃げた「女」を連れ戻すよう命じた。

一方、核弾頭を託されたロランたちは憂鬱だった。その様子に気づいたフランはロランから核弾頭のことを聞き出す。その会話の中で、ロランは核弾頭を宇宙へ捨てることを思いつく。マニュピチから宇宙へ飛び立とうとしているウィルゲムに乗せてもらえばいいのだ、と。

そのウィルゲムがヒューズの港に着いた頃、ハリーとソレイユを脱出したキエルはディアナとしてグエンと会談。だが、そこをポゥのシルバースモーと配下のムットゥーが急襲。ハリーはミリシャにキエルを預けると、ポゥたちと戦闘をはじめた。やがて、フラットのジョゼフ、カプルのソシエらも駆けつける。だが、一瞬の隙を突いたポゥがキエルに迫ったとき、ミリシャに人質にされ、銃を突きつけられても動じないキエルの姿にポゥは動揺する。かつて、純粋にディアナへの忠誠を誓っていた自分の姿を思い出して。

そこに∀が救援に駆けつけた。さらにムーンレィスの技術者たちがウィルゲムのメガ粒子砲でムットゥーを撃破したことで戦況は逆転。ポゥは退却を余儀なくされ、キエルはディアナとしてウィルゲムに留まることとなった。

そのころ、ソレイユではキエルとして幽閉されていたディアナのもとに、ディアナの信奉者が訪れる。ディアナはその手引きでソレイユ脱出。キエル・ハイムではなくディアナ・ソレルとして帰還することを誓う。

◆スタッフの視点から

この頃からがスモー売り上げ強化月間ですね（笑）。

ハリーを乗せているとスモーが戦わないので、まずポゥをシルバースモーに乗せたんですね。親衛隊員も追い出せたからと。

この話数で初めて登場したCGで表面の輝きを再現したゴールドスモーというのもそれで、メッキ仕上げで出ているゴールドスモーの雰囲気を出そうとしたんです。じつは、最初は設定考証の森田さんが色々設定してくれて。ナノスキン装甲が1回だけだけど金ピカになって防御力が強くなるとか、半減期が来ると弱くなるとか。そういうのもあったんですけど、画面では描かれませんでしたね。

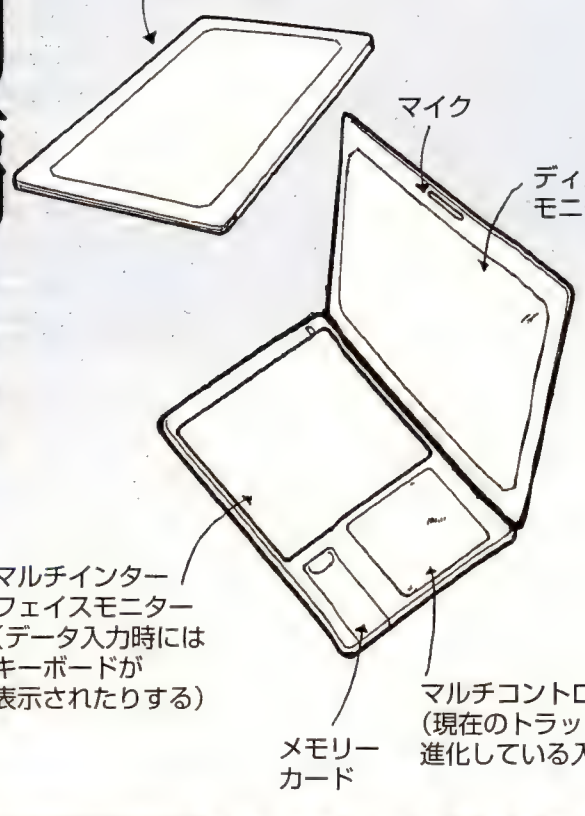
最初の設定というと、このころには戦火がもっと広がっているはずだったんですよね。だんだんエスカレートして最後は第二次世界大戦規模ぐらいまでいく。ミリシャもだんだん戦闘集団になっていって、軍服も赤はまずいだろうと、カーキ色や迷彩模様になっていくみたいな。でも、お互いにいい人の戦いになっちゃって。結局みんな戦争に慣れてない、で通しちゃいましたね。

ただ、画面に出てないだけで本当はもっと戦火は広がっていたのかもしれない。だから、これから外伝とか描くならこの辺りが狙い目かもしれないですね。

あと、余談になりますけどフランとロランが会う森の描写なんかは彼らがそうとう南の方まで移動してきているんだということを表すためで森だけどジャングルなんだよと端的に描いたわけです。序々に南に舞台が移動してるように見えるようにと。

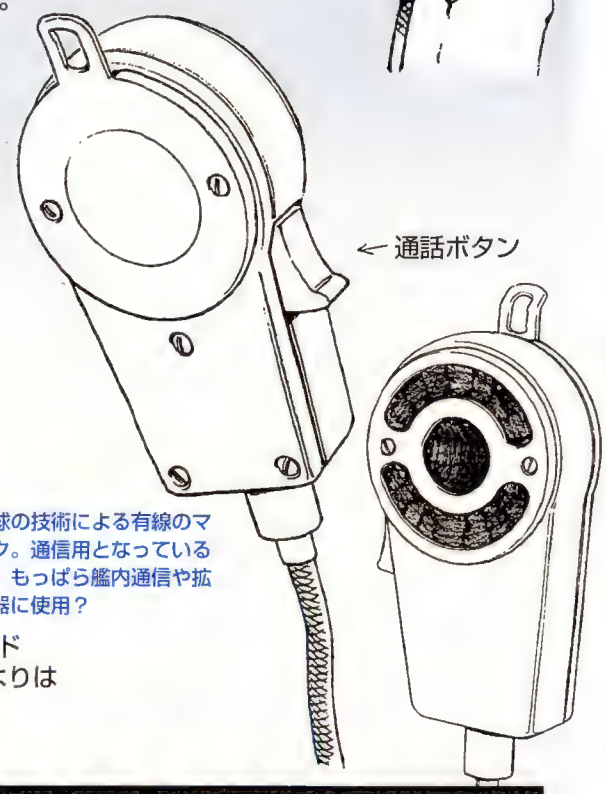
ノートブックタイプのパソコン（ミリシャ、D.C共通）

グエンがウィルゲム艦内の乗組員への演説のため、ムーンレィスの技術者から借りて使っていたことから、操作は簡単なのだろう。そのほか、亡命してきたムーンレィスの技術者の多くが使用。



ミリシャの通信用マイク

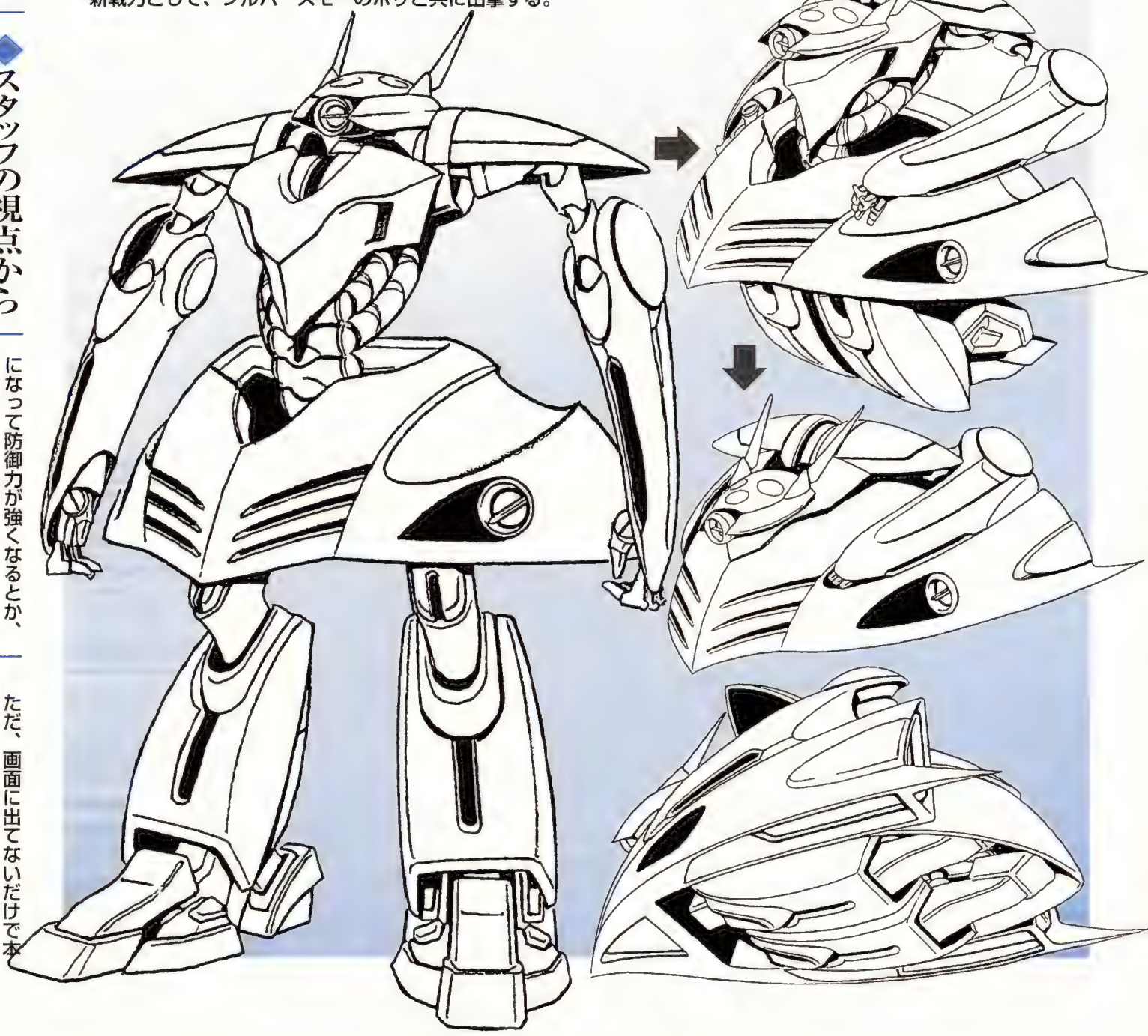
ハリー来訪時、アルマジロ装備のものをグエンが使用。47話のマイク合戦でも双方が使用。マイクの裏面。通話ボタンを押している間だけ、回線がつながる仕組み。上の図のように右手に持つのが基本となっている。ケーブルの外装は布製にも見える。



地球の技術による有線のマイク。通信用となっているが、もっぱら艦内通信や拡声器に使用？

MRC-F31／J-2126　ムットゥー

ゼノア大尉が27話でマウンテン・サイクルで掘り出し、28話でフィル大尉によって整備された、可変モビルスーツ。ディアナ・カウンターの新戦力として、シルバースモーのポゥと共に出撃する。



第30話 胸に抱えて

ストーリー解説

ソレイユに軟禁されていたキエルを名乗るディアナは、ミランたちの手引きでミドガルドに引き渡された。

一方、ロランたちミリシャはマニューピチに向かうため、海を渡り始める。準備に追われるロランたちに、キエルをディアナと判断したレット隊が奪還のために襲撃をかけてくる。

ここで押さえておきたいのは核爆発による精神的な傷痕だ。忙しさなどによって忘れていた傷が、ここで顕在化し始めていることだ。

レット隊のキャンサーは核の悪夢にうなされ、ソシエはギャバンに贈られたドレスを着、死地に向かって叫ぶ。

だが、それに押しつぶされないのが彼女たちの強さだ。自分を次の行動に向かわせる力を各々持っているということだろうか。レット隊によるウィルゲム襲撃はまさにそれである。そこでは、彼らなりの忠誠によるディアナ奪還はもちろんだが、核を拿捕して処分する事を目的にもしている。

手段はともかくとして、核についての結論はロランたちとも一致しているようだ。

小山剛志（フィル役）

最初の頃に監督から指示を受けたことなんですけど、「フィルは多分ベッドの上でポゥに作戦を語っているんだろうなぁ」という事を言われまして、感心した事を覚えています。

キャラ作りの上でやりがいがあったのは、いかにも軍人肌な所でした。無茶な部分も多々あるんですが、芯がしっかりしているので本当にやりがいがありましたね。強硬派というのも良かった。

難しかったのは、喜怒哀楽の幅が非常に少ない所です。

フィルという男は、基本的に「怒」の状態のままな人間で、他の感情の時も少し引っ張られるような感じもしてますから。他の感情を表面に出す事自体、そんなに数があったわけではありませんし。

ただ、何話でしたか、雪の中でポゥの肩を抱き「ロマンチックだな」と似合わないセリフを吐いたシーンが印象に残っていまして、演じていてもポゥへの態度が本心からかわからない時期もあったんですが、ある程度までは本心だろうとこのシーンで確信できましたね。

スタッフの視点から

この辺からお話決まんないし場所もポンポン変わるしで、物理的にしんどかった頃です。海は出てくる、アデスカは出てくる、宇宙に行くから宇宙の準備も始めなきゃいけない。新設定、新設定の連続で一番濃密な時期でした。

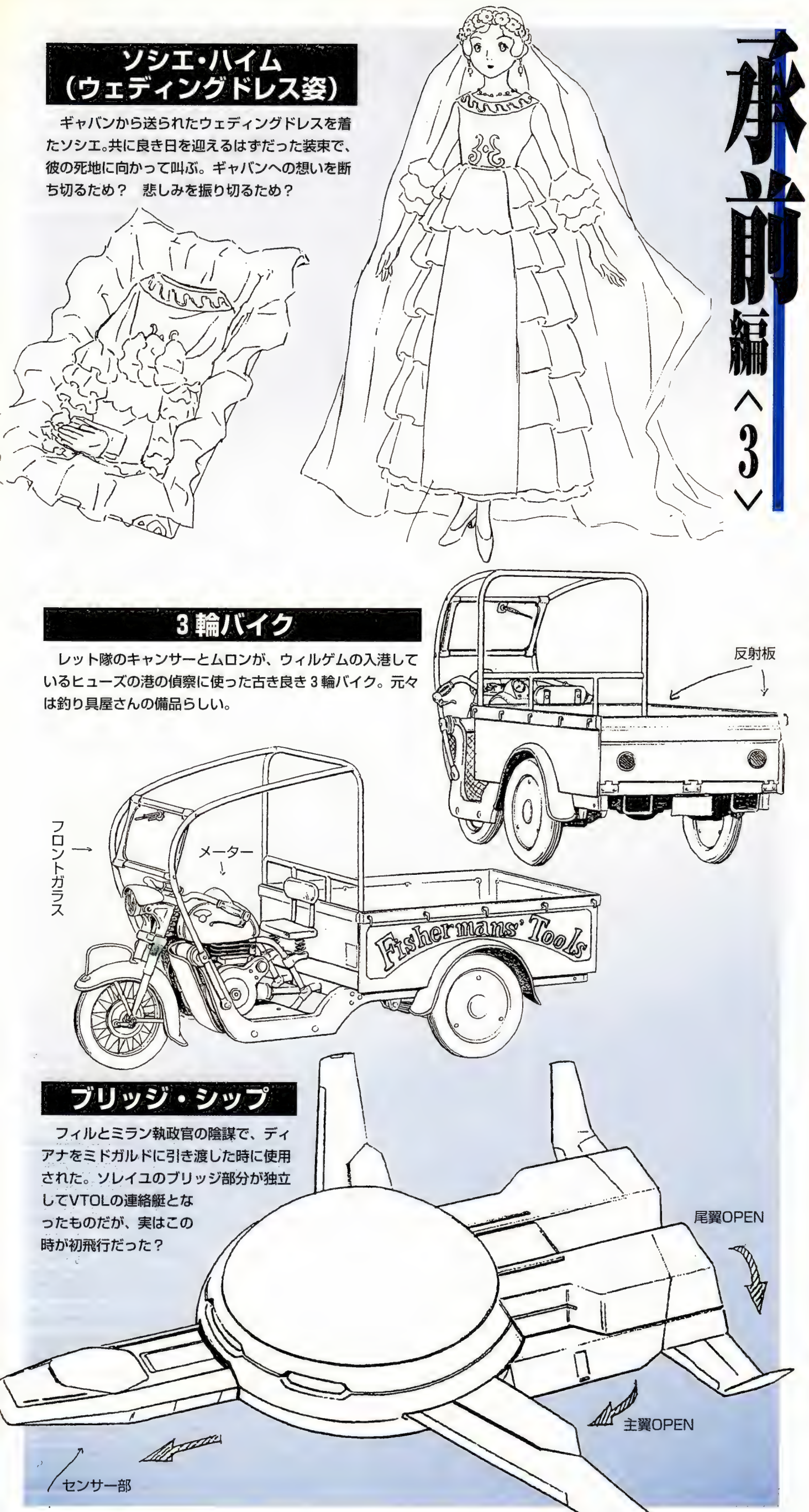
だから宇宙に行くまでに、ネタ的にはテレビシリーズ4本分位の分量があります（笑）。

けど期間が短いから、全部をフィルムに反映させられないというのが痛かったですね。

物語的には、とにかく次につなげなければならない。で、次のその先はマニューピチを経て宇宙に行くっていう大まかな展開しか決まってなかった。

主役級はともかく、ミランやフィルといった脇役は悪役にするか善玉にするかは全然決まってなくて、曖昧に匂わせるようにするしかなくて……。

あと、この話は設定話も少し入ってます。フロジストーンをセリフで説明してるのはここだけですね。1話からずっと必要だと言い続けて、やっと入ったんですよ。フィルムを見た限りでは潮干狩りにしか見えませんけど。



ソシエ・ハイム（ウェディングドレス姿）

ギャバンから送られたウェディングドレスを着たソシエ。共に良き日を迎えるはずだった装束で、彼の死地に向かって叫ぶ。ギャバンへの想いを断ち切るため？　悲しみを振り切るため？

3輪バイク

レット隊のキャンサーとムロンが、ウィルゲムの入港しているヒューズの港の偵察に使った古き良き3輪バイク。元々は釣り具屋さんの備品らしい。

ブリッジ・シップ

フィルとミラン執政官の陰謀で、ディアナをミドガルドに引き渡した時に使用された。ソレイユのブリッジ部分が独立してVTOLの連絡艇となったものだが、実はこの時が初飛行だった？

第31話 追撃! 泣き虫ポウ

◆ストーリー解説

冒頭のフィル少佐の演説。これはハリーを悪役にした上で、いまだディアナを信奉する兵を味方につけるための物だ。

このため、ハリーは逆賊として追われる立場になり、フィルたち強硬派は自らの足場を固める事が出来たかに見えた。とはいえ、フィルの体制は万全にはほど遠い。

演説はプロパガンダの基本だが、基本であるという事は効果があってもそれだけでは駄目だという事でもある。

事実、ハリーが情報を求めて接触したアルマイヤーでの出来事は、必ずしも末端にまでプロパガンダが浸透していない事を示している。

後半、商船に乗っていたディアナを発見したレット隊が商船と接触。キエルを誤認していた前回と異なり、今回はミドガルドと共にディアナと同行する事になる。これはミドガルドが合流を急ぐ戦艦ジャンダルムとの接触を早める結果となった。

またディアナは接触したレット隊の2人に対し、数代前の先祖を知っているような労いの言葉をかけている。

◆小山剛志(フィル役)

前回の裏切りや今回の演説などは、強硬派としての立場を貫く事でしか自分の存在意義を見出せなかった不器用な男の、引くに引けなかった末の行動だったのではないかと思います。

実際、ディアナの政策というのは、軍人としての最良の選択とはあまりにもかけ離れたものであるわけですし。

本人に野心があったのも確かでしょうけど、これはどちらかというと後からついてきたような感じがします。最終回前あたりでディアナがソレイユに戻ってきた時に、あっさりディアナの元に降(くだ)ったりしてますから。

第一、それまで地上で大した事やってなかったようですし。ミランも一緒にいたのに。

∀ガンダムは、僕にとっては初めてのアニメの現場でもあるし、共演者の皆さんとはいまだに付き合いがあるほど仲良くさせていただいています。

もう一生忘れる事のできない、とても思い出深い作品になりました。

監督、皆さん、どうもありがとうございました。

◆スタッフの視点から

来ました、バレーボールの回(笑)。バボちゃんバボちゃんって言われてたから、これはやらないと嘘ですよね(笑)。

本当は海戦を期待していて、ミリシャ海軍の設定はかなり力を入れて作ってたんです。戦艦とか海軍の服とか、船長から水兵から…すっごく苦労しました。

でも、そのミリシャ海軍が何の役にも立ってない(笑)。モビルスーツを運んだだけで終りです。

そのかわり、今回はロボットアニメしてますね。本当は毎回この位やらないといけないんですけども……。

あの∀のジャンプはコンテマンが回してくれたんですよ。小原正和くんだったかなあ。

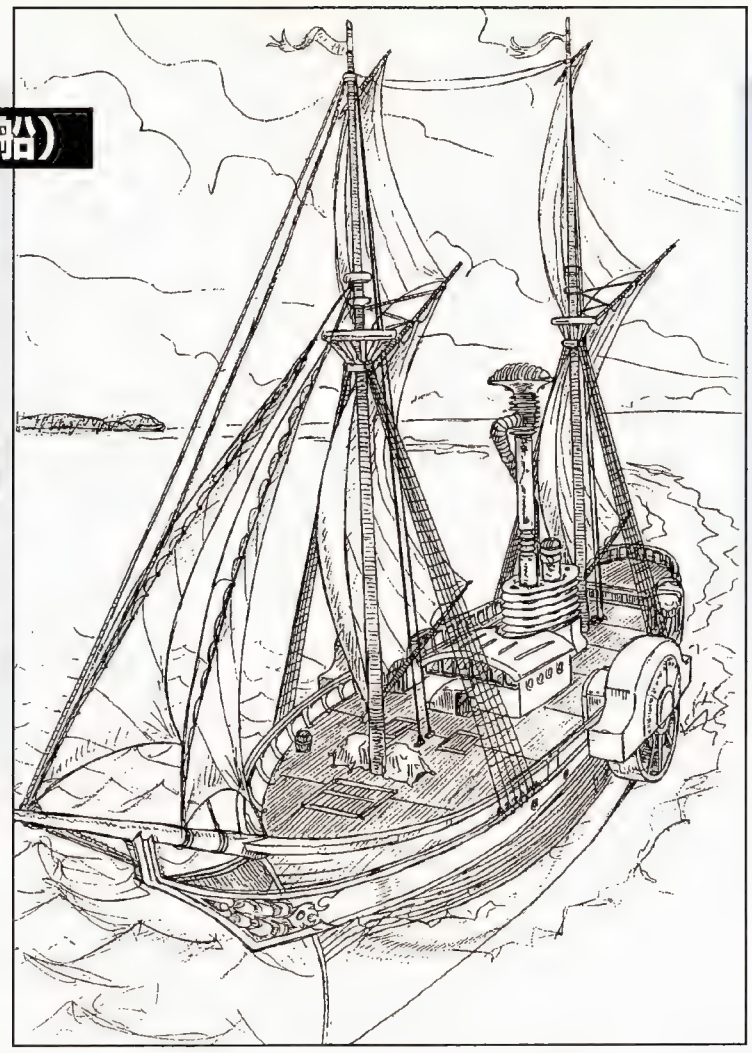
富野さんがコンテを直してるから、富野さんのアイデアかと思われがちなんですが、監督は通しただけです。このアクションは使えるからそのまま、と。絵コンテのタッチが違うから、どの部分が誰の仕事かは、わかるんですよ。

あとはハリーとポウのからみですかね。ハリーは強いくせに戦わないんで、女たらし方面でないと活躍できないんです。

本前編 <4>

ミリシャの帆船(商船)

ジャンダルムとの合流を目指すミドガルドが、ディアナと共に利用した商船。2本マストの他に外輪を動力として持っており、作中では外輪を使用して航行していた。

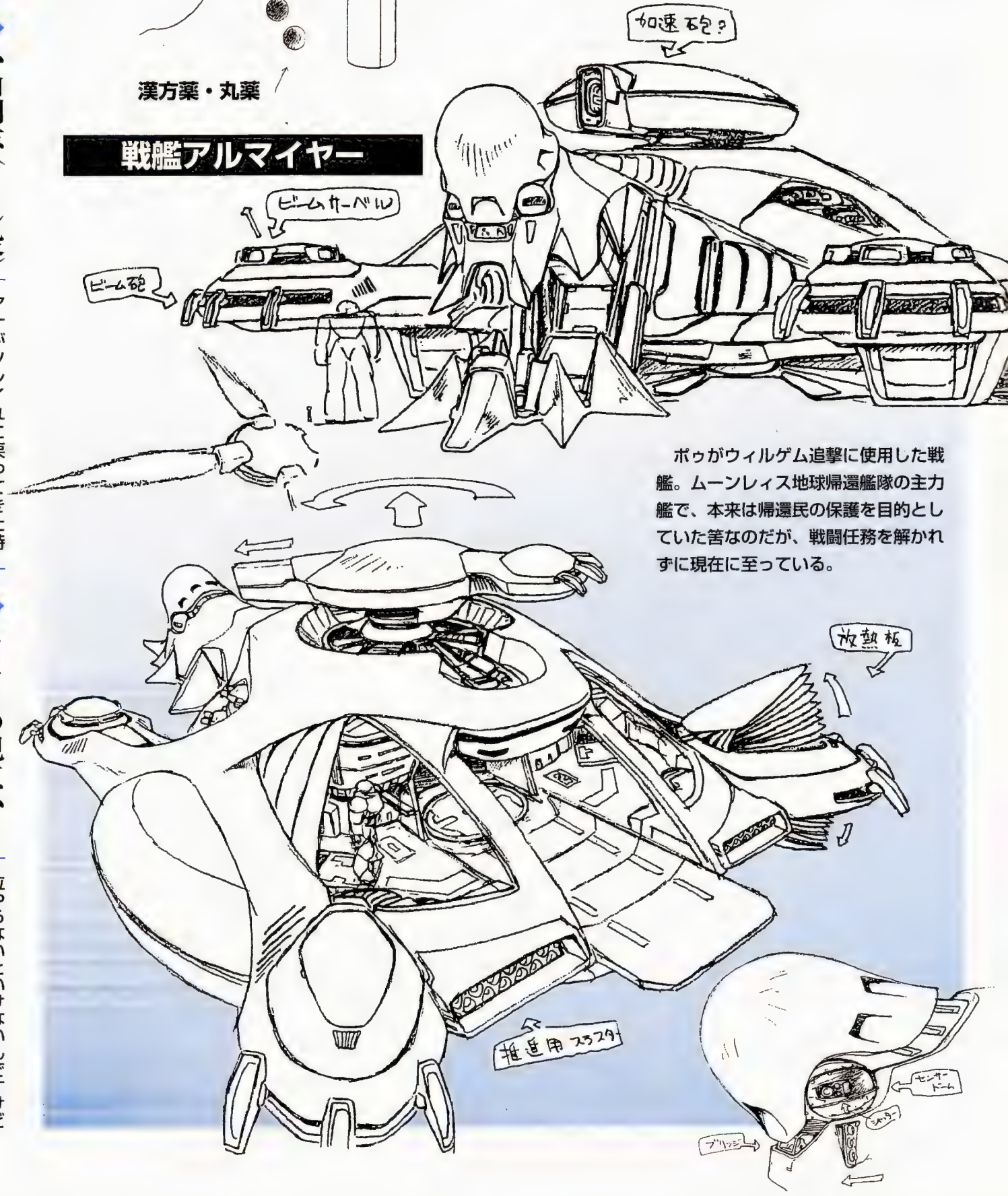


丸薬入りカプセル

体の不調を押してアルマイヤーを指揮していたポウを見かね、ハリーは口移しで薬を飲ませる。これはその薬を入れていたケース。中身は漢方系の解熱剤で、良く効くが非常に苦い。

漢方薬・丸薬

戦艦アルマイヤー



ポウがウィルゲム追撃に使用した戦艦。ムーンレィス地球帰還艦隊の主力艦で、本来は帰還民の保護を目的としていた筈なのだが、戦闘任務を解かれずに現在に至っている。

第32話 神話の王

ストーリー解説

単体での大気圏離脱能力を持たないウィルゲムが宇宙に上がるには、マニューピチにあるマスドライバーを使わなければならない。

しかしマニューピチはディアナ・カウンターに占領されており、要塞化も始められていた。

グエンは、6基ある砲台を侵入工作により破壊しマニューピチを開放してマスドライバーを使用するという時間最優先の強硬策に出る。翌朝までに破壊できない場合には、砲台を町ごとメガ粒子砲で破壊するというオプションもつけて……。

そこに原住民であるアデスカの民も絡んでくる。まるで一昔前の戦争映画のようなシチュエイションだ。

気になるところは、舞台となるアデスカの民が、全員が核爆発と時を同じくして「空が赤く染まる夢」を見ていることだ。それはかつて宇宙に移民していった人たちが持っていた能力のなごりであったのかもしれない。

だが今は、その夢を災いの前兆であるとする民と、新しき王となるべき者の心の迷いによって、アデスカは混乱するのだった。

浅川美也(マヤリト役)

シナリオ打ち合わせの時、富野さんが「マヤリトは浅川だ」とおっしゃられまして……。

それが、キャスティングが決まった理由です。

好きなタイプのキャラだったので嬉しかった反面、「できるのか?」と不安になりました。

アフレコ現場で富野さんは、久しぶりのアフレコに緊張して声が出ない私の肩をゆさゆさ揺さぶり「リラックス、リラックス」と言っていただきました。

キャラづくりにあたっては、とにかく技術がある人間ではありませんので、体当たりで挑むしか無いと思いました。

他の出演者の方には色々とご迷惑をかけたと思います。すいませんでした。そして、ありがとうございました。

∀の現場には、やわらかな活気というのか、シナリオの打ち合わせでも、アフレコ現場でも、ギスギスした感じではない緊張感と活気があったと思います。それが非常にいい刺激にもなりました。

本当に色々な経験をさせていただき、感謝しても感謝しきれない作品です。

スタッフの視点から

アデスカ編の2話がここまでネイティブな感じになった理由ですが、これはほとんど脚本の太田さんの仕業です。

とりあえず場所が南米マニューピチという事は決まってたんですが、太田さんに振ったところで彼女が色々とアイデアを出してきてくれたんですよ。資料も調べてくるし、アデスカやクワウトルなどの名前は全部彼女が出してきたものです。

最初の監督のオーダーでも世界樹と金枝篇でやろうという話ではあったんですが、ここまでの物ではなかったんです。古い王を倒した者が新しい王となるというエピソードを入れようというだけでした。

あと、この2話は遺跡だとか水路とか大変でした。準備こそ多少前からしてましたけど、設定作業は実質1、2週間で終わらせましたから。

富野さんの場合、コンテで脚本にないオーダーが山のように出るので、コンテが出ないと何も始められないっていう所があるんですよ。で、コンテが出てから大騒ぎになる。

アデスカ編〈1〉

アデスカ王　クワウトル

神話に従い、次期王に王権を譲る債務を持ちながら、儀式の場から逃げたと思われている王。王は前王を殺して王権の象徴である仮面を継承するが、クワウトルは次期王たるタルカの心に迷いを感じ取っていた。

マヤリト

クワウトルに最後まで仕えた気丈な少女。砲台を無力化するため、そしてアデスカの民のためにクワウトルと共に壮絶な爆死を遂げる。実はジョゼフと同じく、アデスカと反目するマバ族の出身らしい。

第33話 マニューピチ攻略

◆ストーリー解説

前回、ロランの命懸けの説得に応じ、ミリシャに協力するアデスカの王クワウトル。

だが彼は次期王となるタルカの心に迷いを感じ、逃亡している身だった。

王を追っていたタルカはロランたちを捕らえるが、クワウトルの真意を知ってロランたちに協力。ディアナ・カウンターに対し立ち上がる。ミリシャもタイムリミット前に攻撃を始め、砲台を爆破する事に成功する。

だが、そのためにクワウトルはマヤリトと共に死亡。アデスカには新王タルカが誕生した。

このアデスカ編では、アデスカの民の使う前近代的兵器、ミリシャの兵器、ディアナ・カウンターの兵器やモビルスーツなど3系統の背景の異なる兵器が、同じ戦場で戦っている。

投槍器で破壊されるウァッドに、地の利を生かして剣や弓で銃を圧倒するアデスカ兵など、戦闘のバリエーションは他に類を見ないほど幅広い。精緻に作り込まれたアデスカという世界観とあいまって、∀で最も特異な話となっている。

◆廣田行生(クワウトル役)

小生が演じたアデスカの王クワウトル。

決断力に富み、聡明で真実を見抜く能力を持ち、民にとって何が最良の選択かを考えられる人物です。

アデスカの民のためには、自らの名誉ですら犠牲にする事をいとわない。治めるべき民に誤解される事も問題にしない。

彼は我々とは異なる文化の住民ではありますが、しかし共通する事も少なくなく、学ぶ事の多かった体験でした。

演じるにあたっては、静かで力強さを表現する事に重点を置きました。

静かな低い声で、力強い男が演じられればと努力したのですが……。

台本の台詞を家で勉強するのと、映像を見て実際スタジオの空気の中で演じるのは違うものです。

演じた結果の評価、作品の評価は視聴者の皆さんに委ねるべき事柄でしょう。

ただ小生は、クワウトルを演じていて、非常に気持ち良かった事を覚えています。

◆スタッフの視点から

クワウトルとマヤリトの死についてですけど、これは内部でも色々意見がありました。

話の構造上、王様が死ぬのはしょうがないとしても、マヤリトは死ぬ事はなかったってみんなで言ってたりしましたし。

実は、シナリオの1稿ではマヤリトは死んでないんですよ。2稿に進んだ段階でジョゼフとからめる話になり、その流れで死ぬことになっちゃった。

その他にも、アデスカの民というのは全然違う文化の人たちなんですよ。死生観が我々とは全然違っていて、その辺を出したいというのもあった。

ただ個人的には、70年代のアニメみたいで非常に好きな話です。昔のアニメって解決できない事を投げかけて終わるじゃないですか。〝子供にこんな物見せてどう考えろというんだ〟というような。今だと今風の答えを出して、丸く収めちゃうと思うんです。

ところがこれは全然そうじゃなく、投げ出して終わってる。それが久しぶりに見れたんで、好きなんですね。

アデスカ編〈2〉

タルカ

クワウトルを倒して次期王となるべく、アデスカの民から選ばれた青年。だが、その心には災いを打ち払えないのではないかという迷いを抱えていた。王の真意を知った後は己の未熟を恥じ、王とロランに協力する。

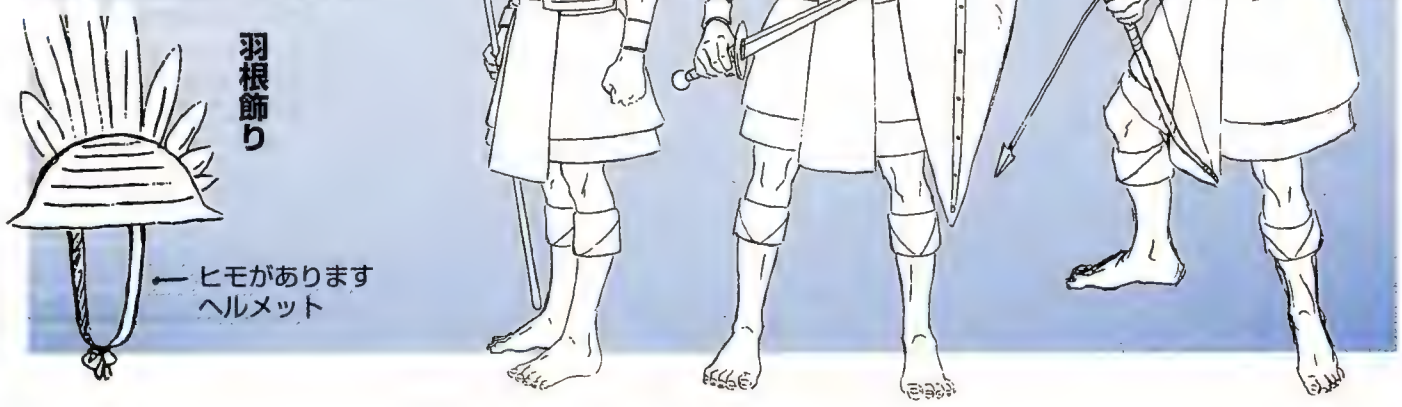
テペトル

ヨロル

アデスカの住人。テペトルはタルカの後見役で、アデスカの民の為タルカにクワウトルを殺すように促す。ヨロルはマヤリトと共にクワウトルに仕えていたが、白い悪魔を目撃、ロランを悪魔の使いと信じてタルカに密告する。

アデスカ兵

アデスカの兵隊。使用する武器こそ旧式だが、兵員の質は非常に高く、地の利を生かした戦法や白兵戦などで活躍する。



第34話 飛べ！成層圏

◆ストーリー解説

ジャンダルムと合流したミドガルドは、ハリーの追撃を振り切ってディアナと共に一足先に宇宙へと向かう。

一方マニュービチを開放したロランたちは、敵襲の可能性が高い状況下でマスドライバーを整備、地上から宇宙へと向かおうとしていた。

ウィルゲムの打ち上げタイミングに合わせ、急襲するポウの部隊。戦闘の中で発進するウィルゲムだったが、ハリーの支援で打ち上げに成功する。

今回は非常にスタンダードというか、他のガンダム的な組み立ての話である。目的があり、守るべきものがあり、確執のある敵との戦闘がある。さらに目的が打ち上げという、タイムアタックであるために、緊張感の演出に一役買っている。

また、打ち上げの後半でΔとスモーによって推力を足しているが、これは発進時の戦闘の成り行きでハリーなどが乗り込み、重量オーバーになったため。

次の話では恩に着せているが、実はハリーにとっては自業自得といえる。

◆稲田徹（ハリー役）

一年間を通して、これだけ深く関わる事が出来た作品は初めてで、番組が終わってホッとする気持ちも少々有りますが、今はただただ寂しいばかりです。

Δの現場を思い返しますと、楽しくて活気があって、そして演技に全力投球できる現場でした。

たとえば、「飛べ！成層圏」での宇宙に飛び立つジャンダルムに向かって絶叫するシーンや、「戦闘神ギンガナム」でのキエルとのシーンなど、後で絵を合わせるからと気持ちとテンション優先で芝居させていただけたので、全力でぶつかっていく事が出来ました。

また楽しい方ですと、アグリッパとマリガン役の石丸さん、レット隊の人たちのシーンでは後ろで笑いをこらえるのが大変でした。

一度、本番中なのに、アグリッパのセリフで思わず吹き出してしまった事もあります。

沢山の素晴らしい人たちに巡り合えて、新しい自分の可能性も引き出してくれたΔガンダムという作品を、僕は一生忘れられないでしょう。

富野監督、僕もハリーが大好きです。

◆スタッフの視点から

やっと打ち上げですけど、ハリーに場をさらわれて終わりという強引な話です（笑）。稲田さんも楽しそうでした。

あとこの回、内部的には大番狂わせがあったんですよ。ルジャーナ・ミリシャのスエサイド部隊の人たち、エイムズとかジョンですけど、彼らは地球に居残りのはずだったんですよ。

基本的にイングレッサ・ミリシャが宇宙に出て、戦争を続けるみたいな扱いだったんで。

ボルジャーノンだけは借りていくような事になっていましたけど。作中でも言ってましたが、頭数とハッタリの問題があるんで。

それが戦闘の流れで、いつのまにか乗っちゃった（笑）。彼らは乗らない予定でシナリオも進んでるし、コンテも発注してるのに。大慌てで修正しましたけどね。

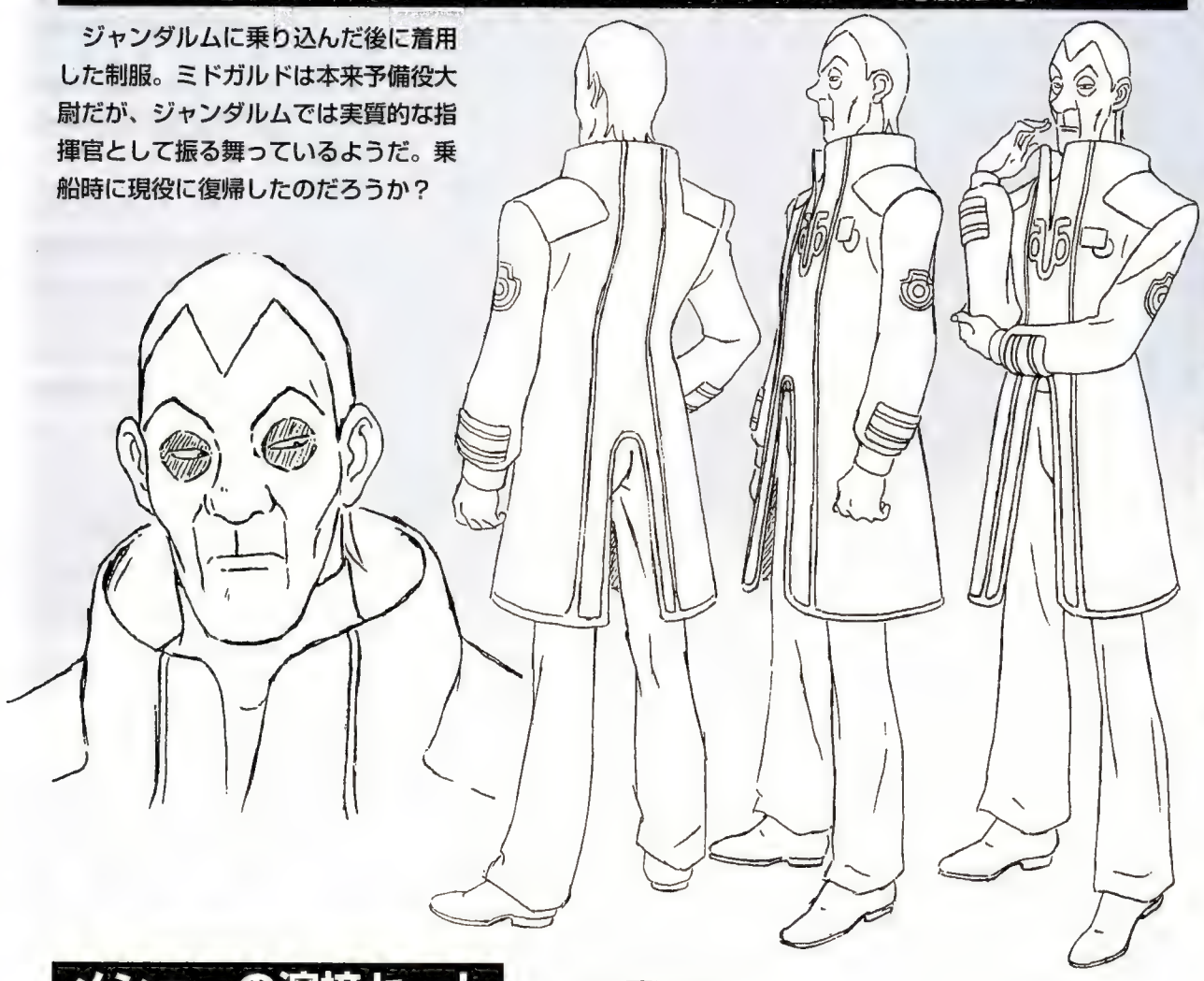
そのお陰で36話で楽しいお話ができたり、最後の方でユニゾンで月の報告をやったりと、味のある使い方ができたんですけど。

あと、フランの妊娠がささやかれたのもこの話ですね。太ってるとか、一応予告編が（笑）。

宇宙編〈1〉

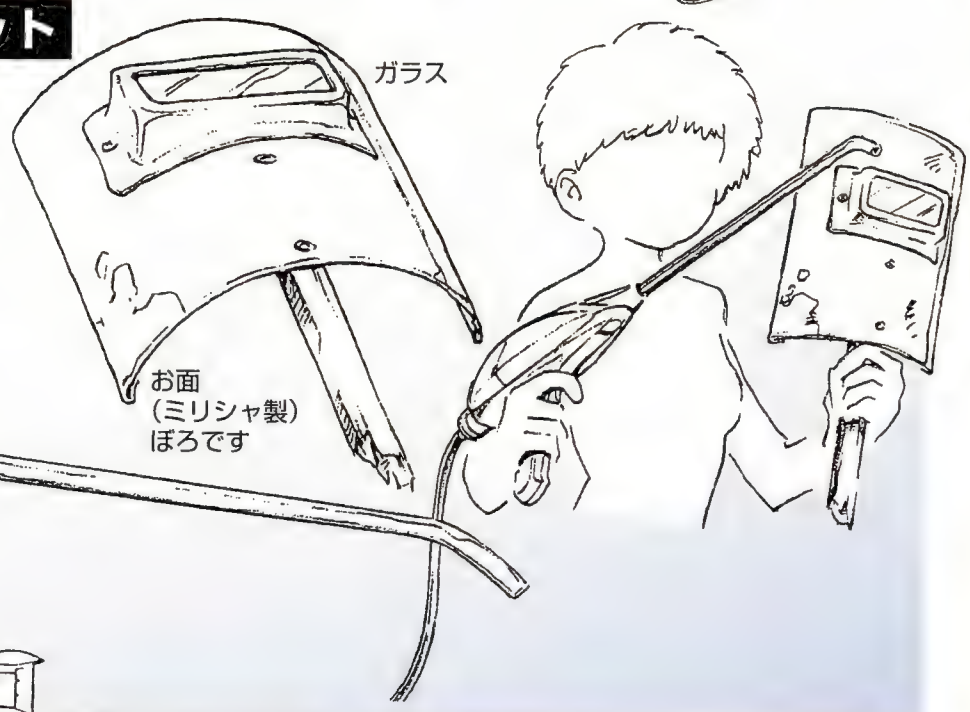
ミドガルド（ディアナ・カウンター制服姿）

ジャンダルムに乗り込んだ後に着用した制服。ミドガルドは本来予備役大尉だが、ジャンダルムでは実質的な指揮官として振る舞っているようだ。乗船時に現役に復帰したのだろうか？



メシェーの溶接セット

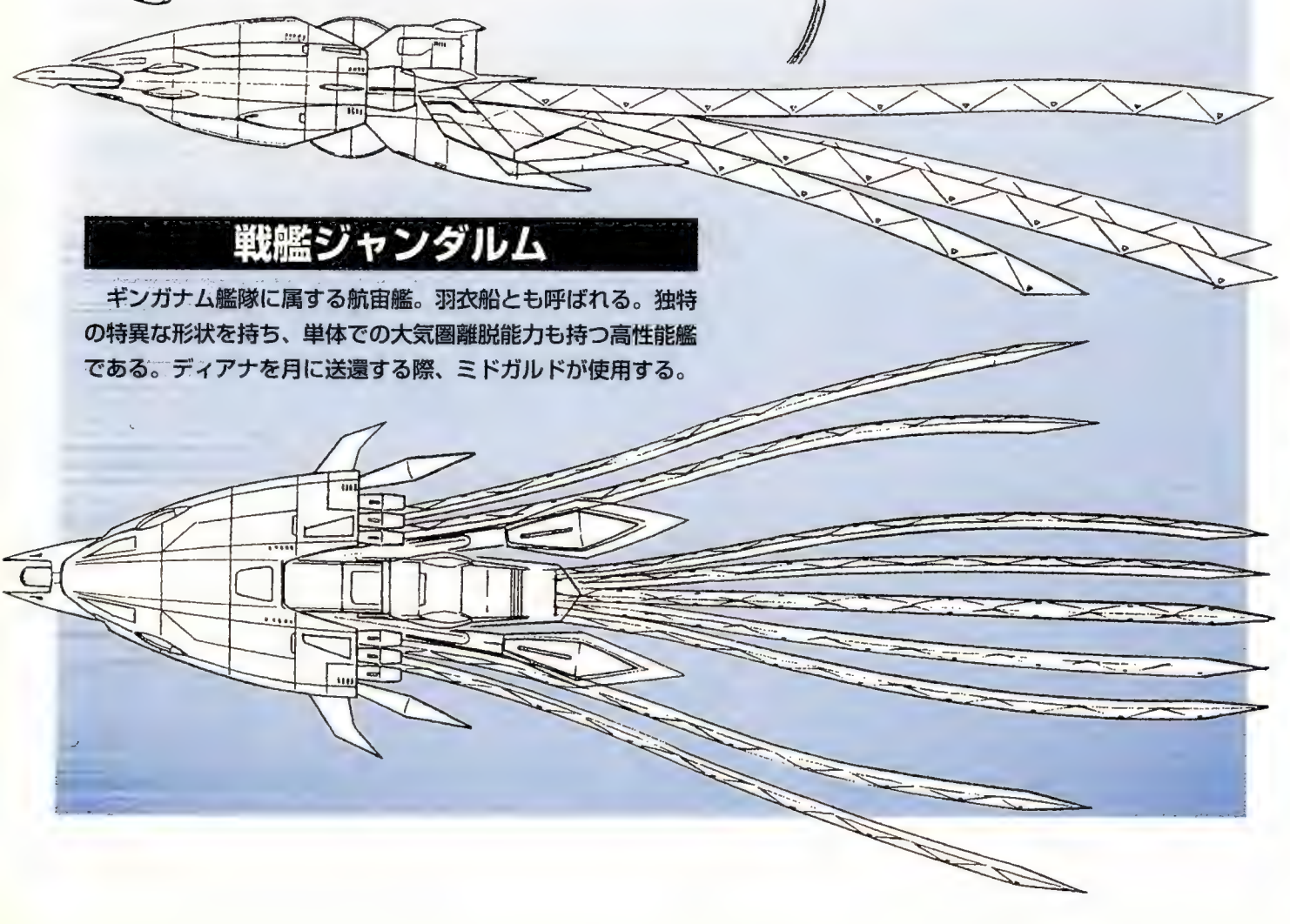
カプルやボルジャーノンの空気漏れしそうな部分をふさぐ作業に使っていたもの。トーチはディアナ・カウンター製、防護用のお面はミリシャ製の中古品。



溶接トーチ（D.C製）

戦艦ジャンダルム

ギンガナム艦隊に属する航宙艦。羽衣船とも呼ばれる。独特の特異な形状を持ち、単体での大気圏離脱能力も持つ高性能艦である。ディアナを月に送還する際、ミドガルドが使用する。



第35話 ザックトレーガー

宇宙編〈2〉

ストーリー解説

アデスの枝とも呼ばれる月への中継点、ザックトレーガー。保存された全体の運動量を軌道速度に変え、宇宙船を加速するシステムである。

その枝の一端にある巨大な桶の中で、ウィルゲムはジャンダルムと鉢合わせしてしまう。

さらにザックトレーガー自体にもディアナ・カウンターの駐留部隊がおり、まさに一触即発の状況に。

その事態を収拾したのは、キエルとディアナの2人だった。通信回線による連携プレーで、双方の戦艦と駐留部隊をまるめこんでしまったのだ。

舌先三寸といえば聞こえは悪いが、戦闘は絶対にベストの選択ではない。と言うより、戦闘とは力による交渉行為なのだから、言葉で何とかなるのならばその方がよりよい選択だ。

また、次回からフランが使う新しいカメラは、ここの部隊から貰ったものだ。ジャンダルムの発艦から次の定刻までの時間にカメラを調達する事ができたのは、曲がりなりにも友好的に事を収めたおかげだろう。

桐本琢也（ヤーニ役）

ヤーニのキャラクターを初めて見た印象は、「ヤッターアンコウに似てるなぁ」でした。キャラの中身についての監督の指示も「ヤーニという男はストレートに生きているだけですから、キャラ作りにおいて頭のよさは必要ありません」というものでしたし。

ただ、僕にとってはあまりやらないタイプのキャラなので、すべてが難しかった。

軍人、というか下士官としての部分もそうですし、個人としての部分もそうです。ヤーニの場合は表裏一体ではあるんですけども、難しいことには変わりがない。

でも、勢いのある生き方だけは表現したかったですね。

「俺は俺流で生きる！　それが何処であろうとも！」

これがヤーニの人生哲学なんでしょう。

行動の端々に、この考えが透けて見えるんです。そして、その裏付けもないわけじゃない。

宇宙でも最初はパニックに陥ったりしましたけど、自分のペースを取り戻してからは、地球と変わらずに兵隊に檄（げき）を飛ばしたりしてますから。

スタッフの視点から

ザックトレーガーですけど、これはロータベーターという物なんですが、初期の初期からスタジオぬえの森田さんが「これはいい！」と言っていたネタなんです。

軌道エレベーターは作るの大変だから、ロータベーターやスカイフックの方がコスト的にも安く作れるだろうというのもあったんですけど、それは後づけの理由で。見た目に違うものというのが最優先でしたね。

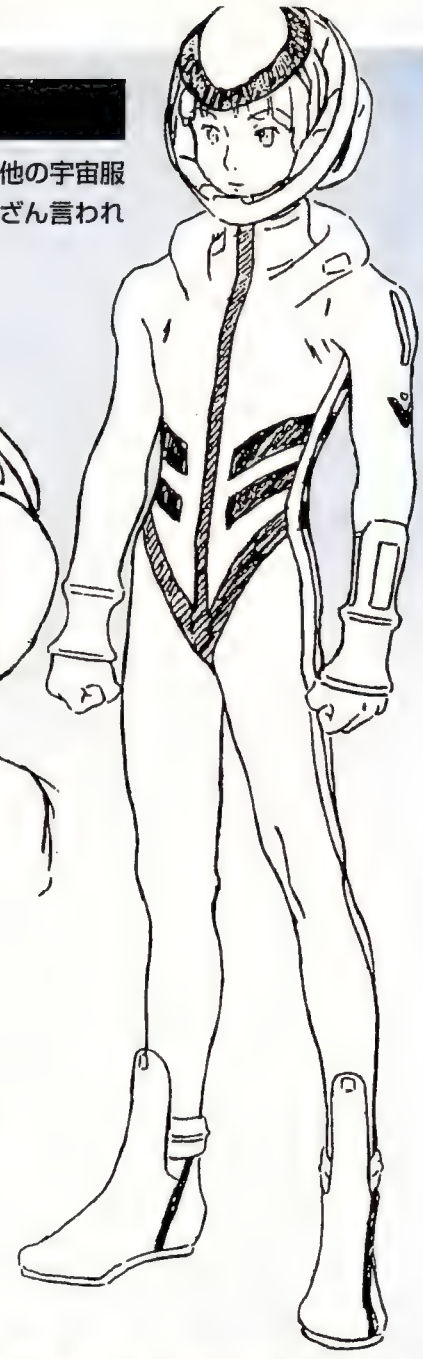
あと、駐留部隊が赤いウォドムに乗っていたのは、別に駐留部隊用とか、宇宙用のウォドムの別カラーリングという訳ではなくて、単に宇宙にウォドムが上がっただけなんです。

実は宇宙に上がるに際して、つぶれてしまいそうなカラーリングのMSは色の明度を上げています。ウォドムではそれが赤っぽい色になってしまって別物に見えちゃった。

この他にもボルジャーノンとウアッド、それとフラットもみんないじってあります。フラットなんか一種の迷彩で、ブラウン管で見ると本当に真っ黒になってしまうので。

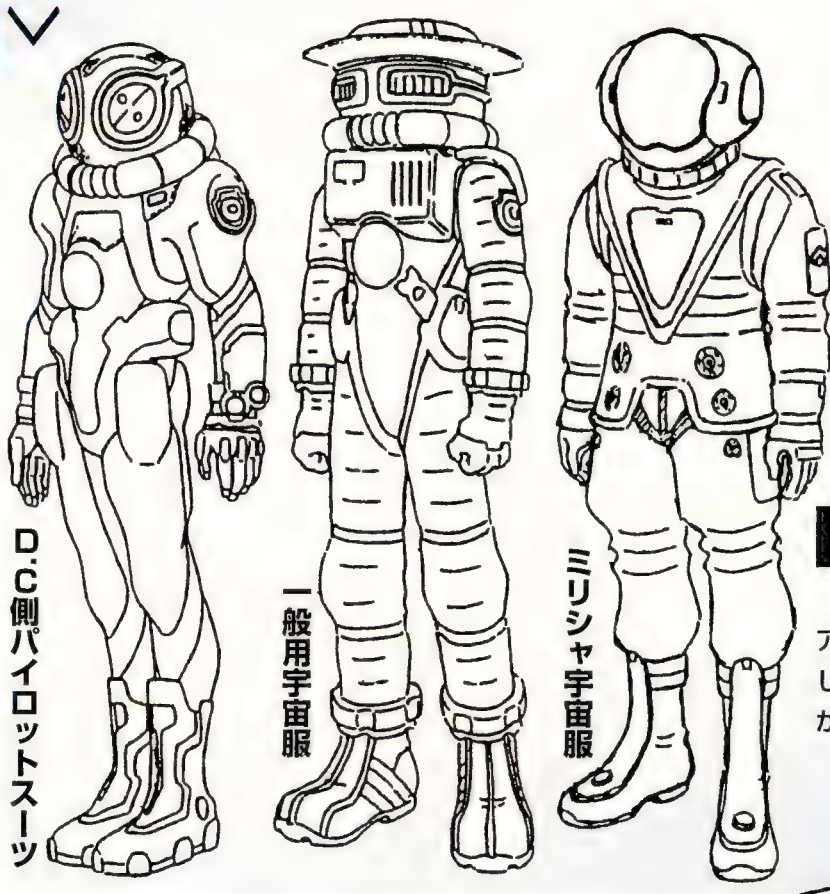
∀用パイロットスーツ

他の宇宙服と異なり、これは∀内部で見つかったもの。高品質故に他の宇宙服よりもシンプルで薄いらしいが、ミリシャからはカッコ悪いとかさんざん言われている。



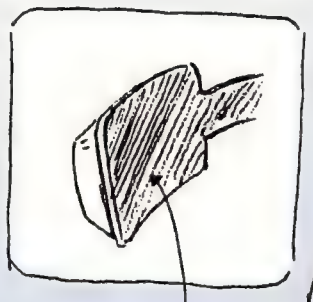
宇宙服各種

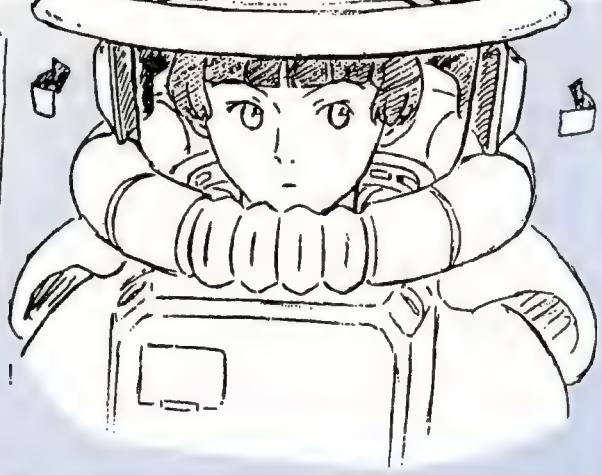
ウィルゲムでは艦内にあった物と、ディアナ・カウンターの一般兵用宇宙服を使用している。パイロット用宇宙服は高価で数が揃わず、一般用を持ち込んだようだ。

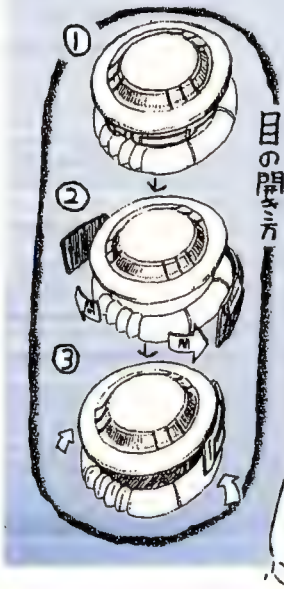


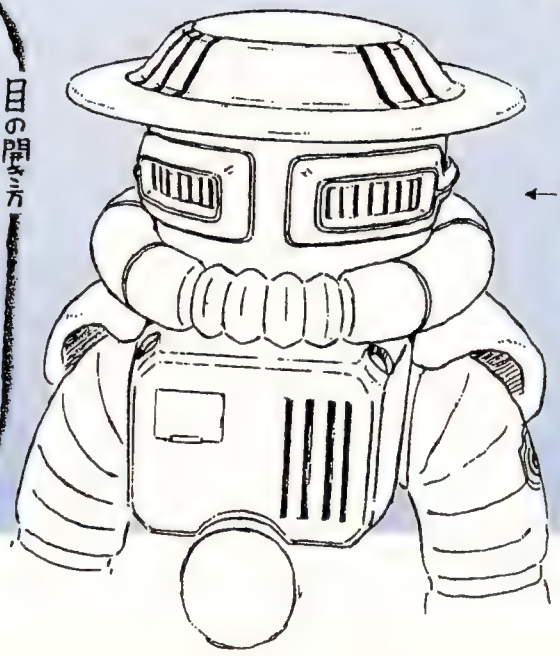
一般用宇宙服 頭部ディティール

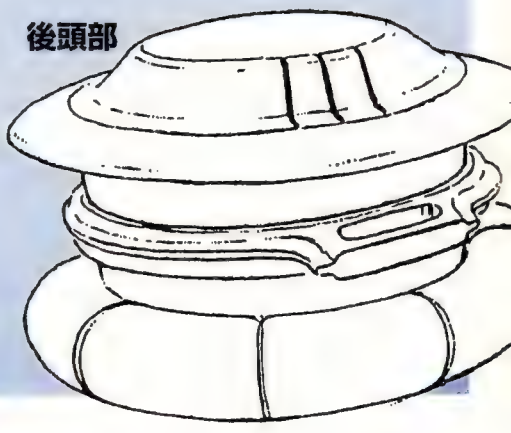
ソシエやリリなど、主に女性陣が使用している宇宙服の頭部には、モニター機能を持ったフェイスガードが付属している。生存性を高めるための工夫だろうか？











turn A world for Episode #28-33

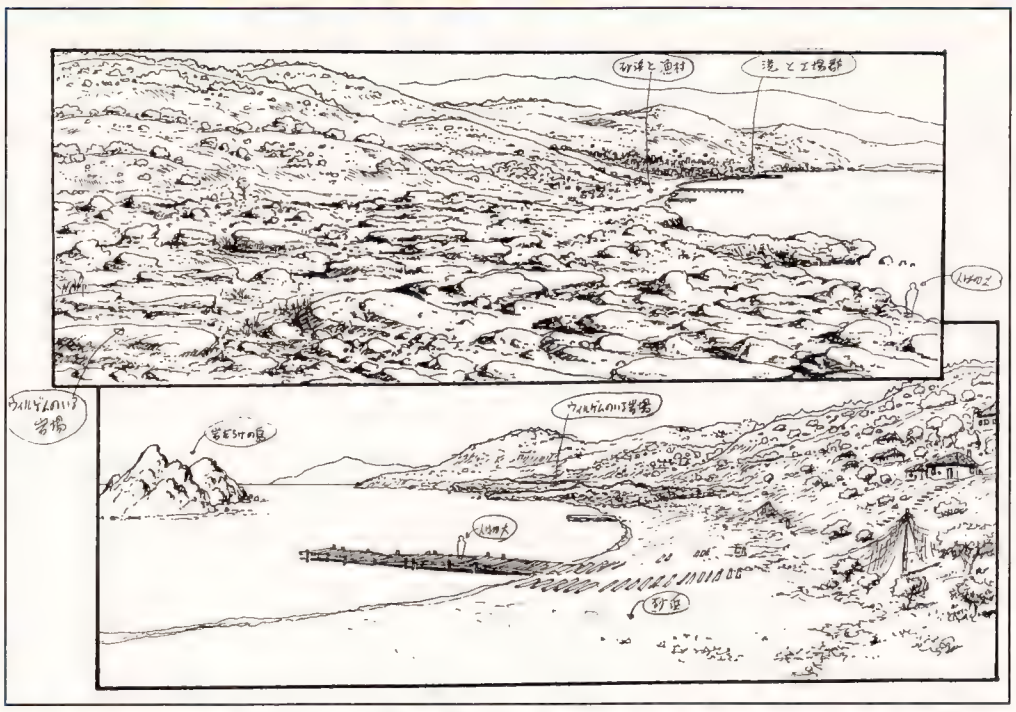
∀の世界

マニューピチに訪れるまでに立ち寄ったヒューズの港、そして南米にあるマニューピチ。その2ヶ所を中心に、∀ガンダムが宇宙へおもむく前、最後に立ち寄った場所を紹介していく。とくにマニューピチの作品世界は圧巻だ。

ヒューズの港

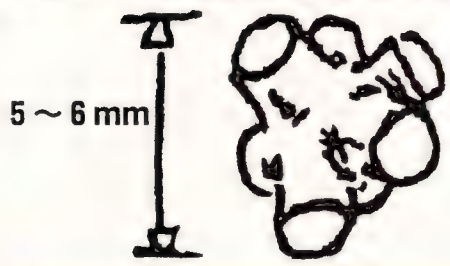
ルジャーナ領主、ボルジャーノ公が将来のことを見越して購入していたというルジャーナの飛び地。ルジャーナのミリシャ海軍の母港でもある。なお、登場した軍艦は月が地球に降下してくる前に作られていた物らしく、砲撃が主体のもの。じつは煙突は飾りで、動力は水素エンジンらしい。そのため、霧笛は電気的に再生したものをスピーカーで流している。

浜辺ではフロジストーン取りが盛んらしい。



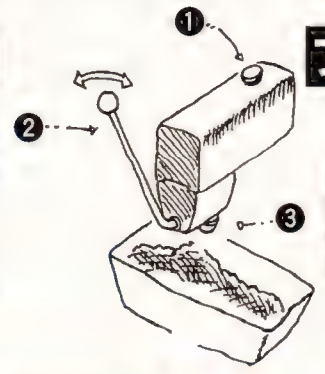
桟橋の見える砂浜の近くには漁村がある。隣り合って工場群と港があるのは、この世界の工業、というより動力が環境汚染とは無関係なものだからこそであろう

フロジストーン



水素を吸蔵したナノマシンの集合体。いびつで複雑な消波ブロック状。水素を含んでいるときは白っぽいが、水素が抜けると黒くなる

フロジストーンタンク



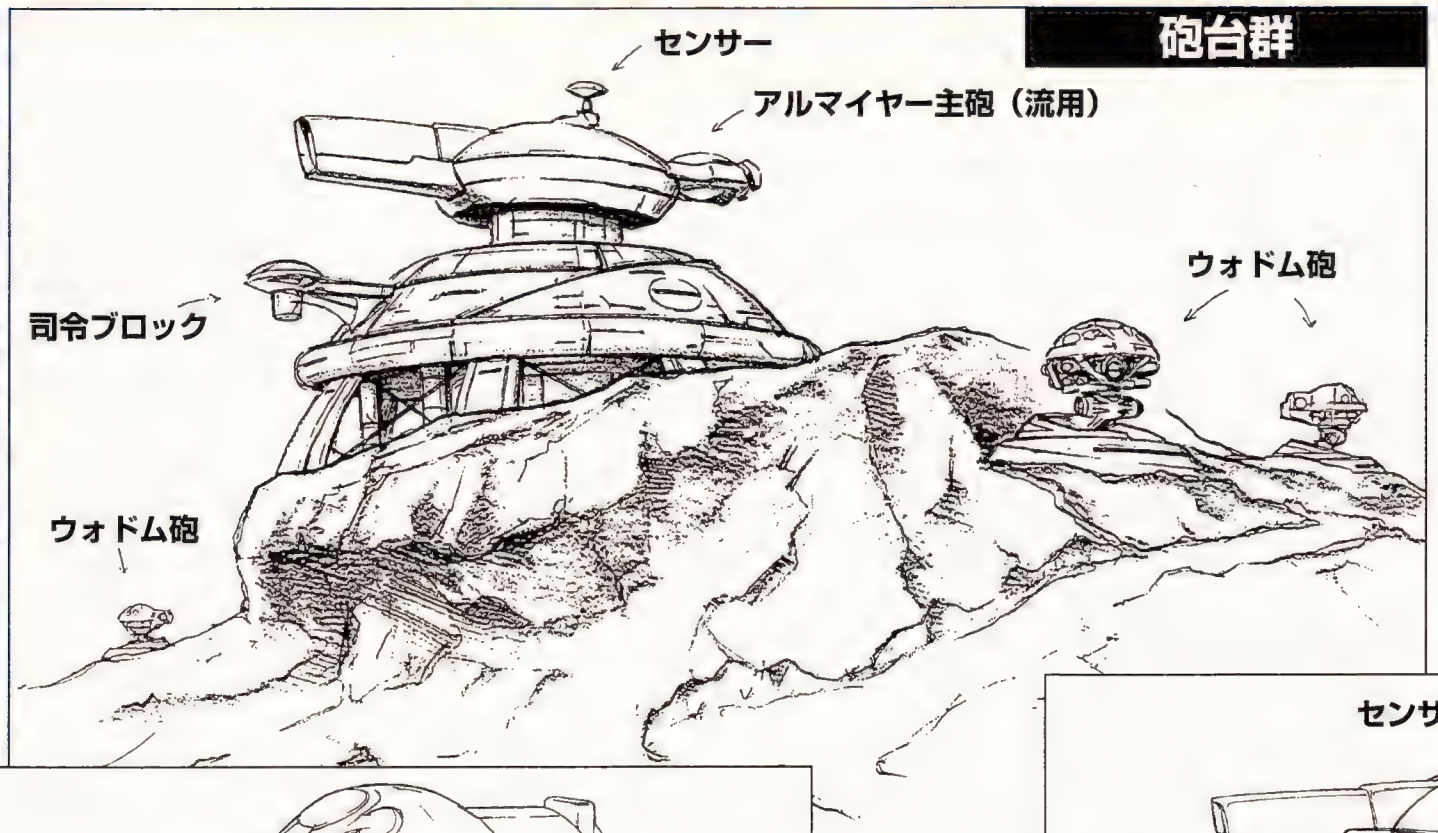
この世界の自動車などに見られるフロジストーンのタンク。1から新しいフロジストーンを補給するが、その前に②のレバーを数度、前後に動かし古いフロジストーンを下に落とす。3から落ちて溜まった古いフロジストーンはスタンドで抜いてもらい、業者が海へ撒く。こうして再生されたフロジストーンは海底に沈殿する。その採掘・販売を生業とする人も居る

マニューピチのディアナカウンター砲台

マニューピチに宇宙への打ち上げ設備、マスドライバーがあることを知っているディアナ・カウンターが据えつけた防衛用の砲台。アルマイヤーの主砲や、ウォドムの頭部をそのまま流用したもの。だが古来より、要塞の多くは機動兵力によって打ち破られている。それを考えると、手持ちの兵力をわざわざ弱く配備しているにすぎないともいえる。

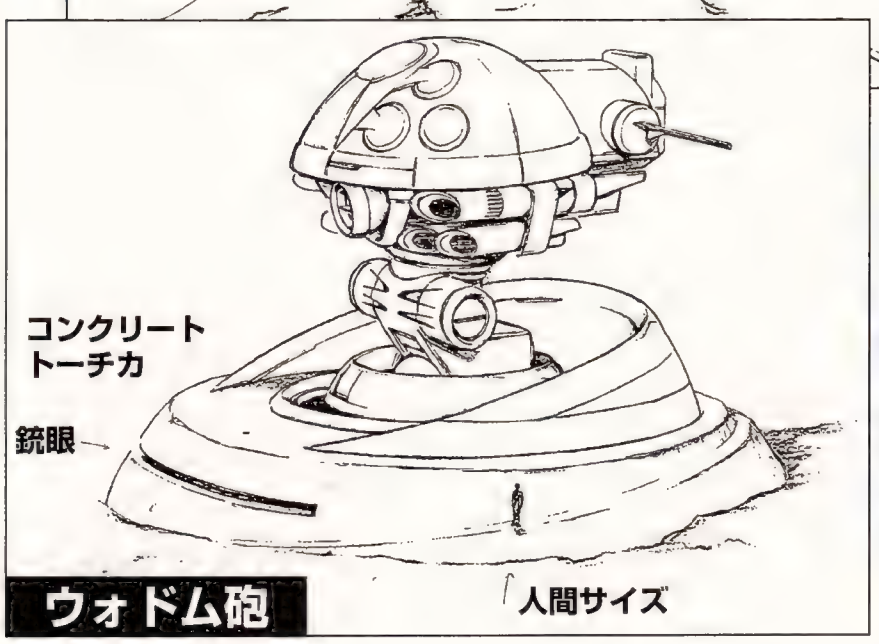
事実、火力では圧倒的に劣るミリシャとアデスカの攻撃の前にあっさり陥落した。

砲台群



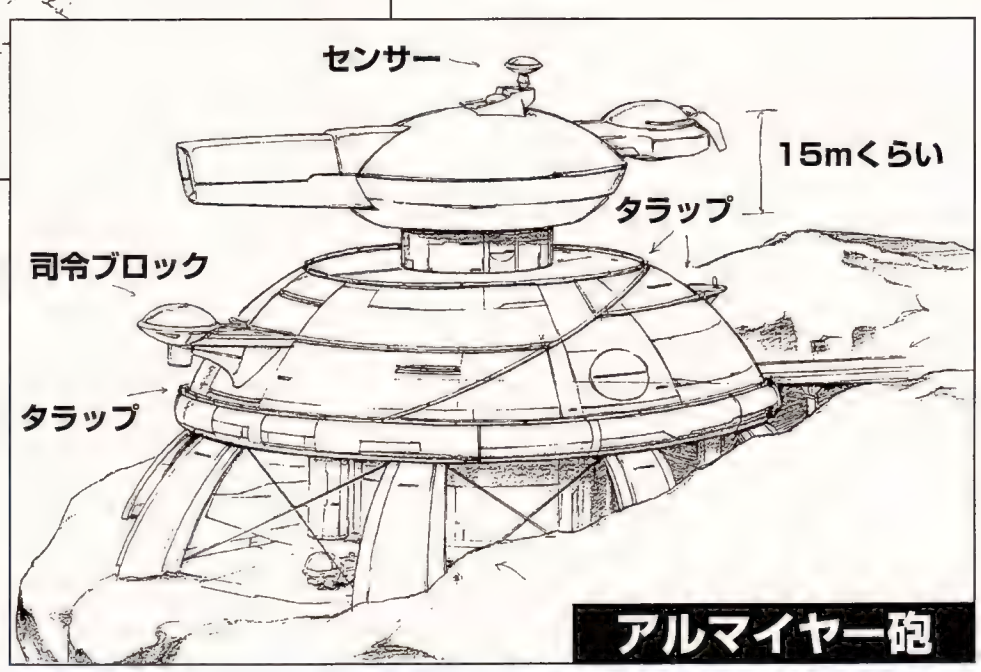
砲台群の全景。手前、麓の方から頂上の砲台に向けて整地された斜路が伸びている。これにはブルドーザーやモビルリブが使われたらしい

ウォドム砲



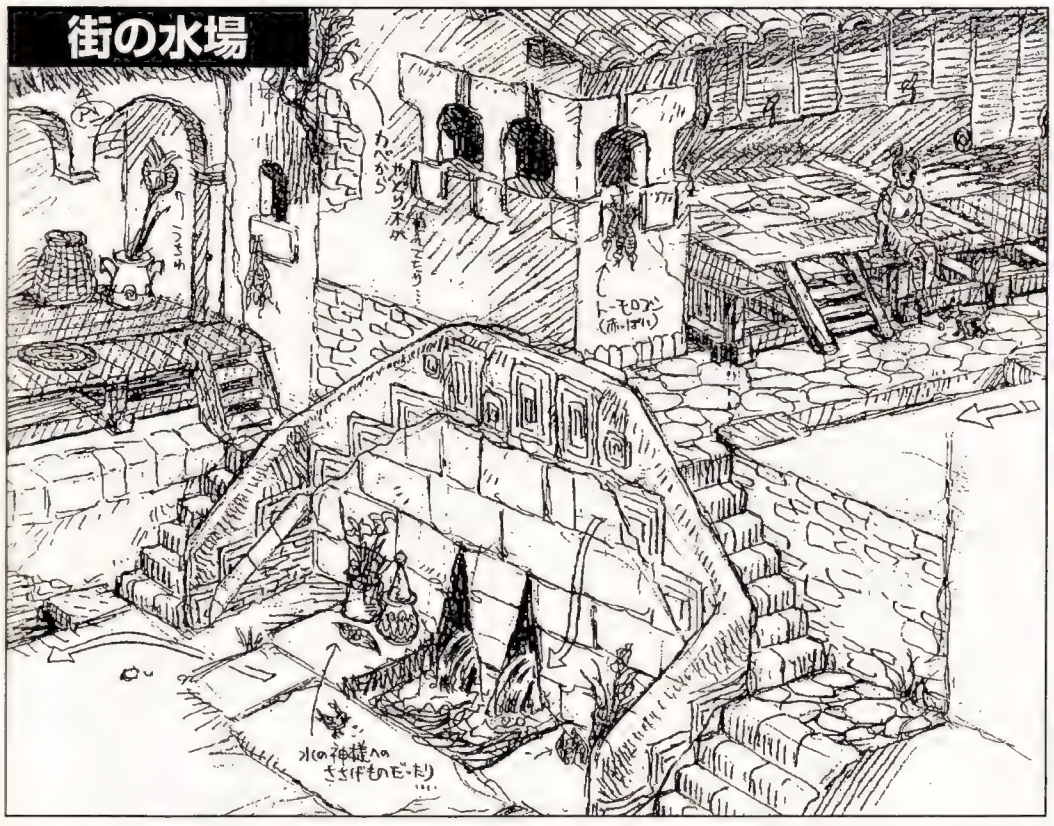
ウォドムの頭部を流用した砲台。銃眼は、外を観察したり、接近してくる歩兵に、隠れて攻撃を仕掛けたりするもの。だが、兵の気の緩みから役に立たなかった

アルマイヤー砲



砲台群の中核ともいえるアルマイヤー砲流用の砲台。その脚もとの部分は整地された上、鉄板が引かれて駐車場の替わりとなっている

街の水場



マニューピチの街並みのイメージとして描かれた設定。画の中の矢印は水の流れを示し、橋（？）には水の神様への捧げ物が描かれている

中心街

実際に使われた設定。奥の神殿へと石畳が伸びているがその周りの路は踏み固められた土。また、奥の弧状のハゲ山はマスドライバー

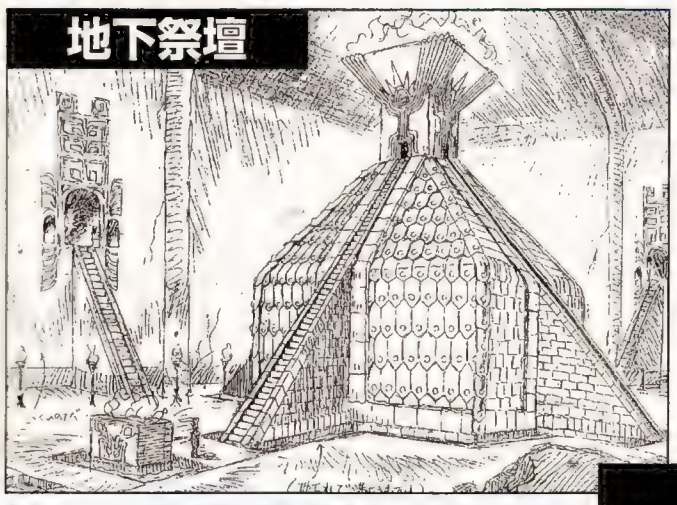
マニューピチの街並みは、かつて南米に栄えたアステカやマヤなどの文化を彷彿させる。だが、その衣装と髪型はどちらかといえば古代日本を思わせる。また、彼らの生活にはいたるところに水が関わっているようにも見受けられる。なお、「大地と宗教によって外界から守られているのでとっても不用心で平和だが、村意識がかなりきつい」という設定も考えられていたようだ。

マニューピチの街並み

マニューピチの神殿

神殿の後ろの空では、海から吹き上げられた空気が雲となっている。すぐ後ろにはマスドライバーであったハゲ山があり、神殿に制御装置が隠されていた

地下祭壇



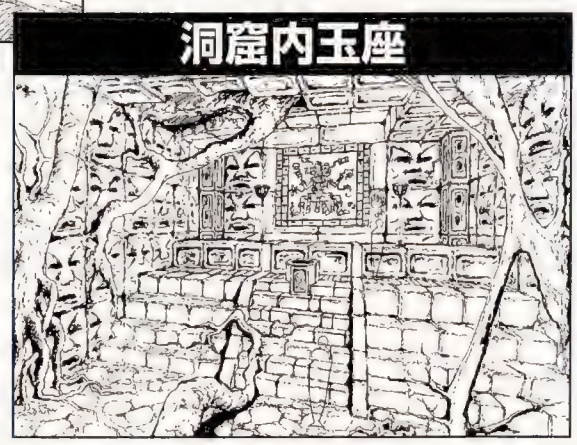
多分にイメージ的な設定。塔などのまわりに地下水が引き込んであることから、彼らの水への想いが読み取れる

マニューピチ地下

マニューピチの街の地下に広がっていた空間。地下都市とでもいうべき機能を持ち、ディアナ・カウンターによる占領以降、アデスカの民が隠れ住んでいたようだ。もともとは、移動のための水路と上下水道をかねた存在なのかもしれない。

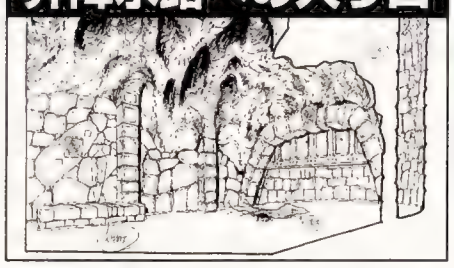
アデスカの民が原始的な生活を営みながらも、その文化が決して低くないこと。そして、彼らにとって宗教が重要なことの証だろう。

洞窟内玉座



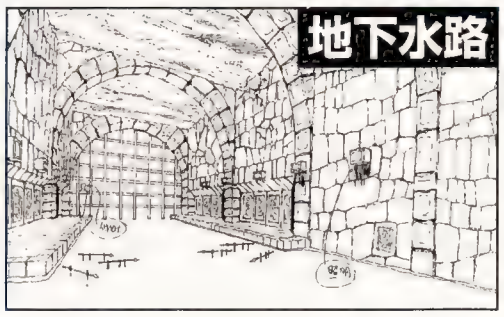
クワウトルが隠れていた洞窟内の玉座。他の民が知らないらしいことから、死を覚悟した王が隠れるための設備なのかもしれない

昇降水路への入り口



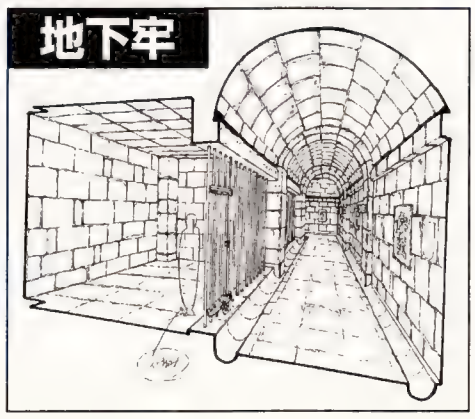
奥のハッチを抜けると昇降水路があり、その中の水量を調整することで移動できる。意外と大掛かりな設備と思われる

地下水路



天井に自然の岩盤をそのまま流用している地下水路。壁にずらりと並んでいる照明は、電気なのかもしれない

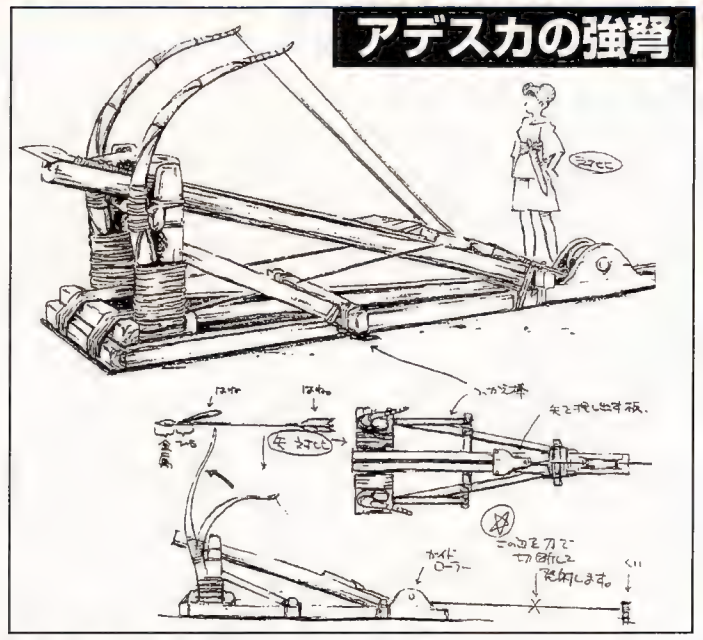
地下牢



ロランたちがクワウトル共々捕らえられたアデスカの牢屋。鉄格子の前の溝は、下水道代わりなのだろうか？

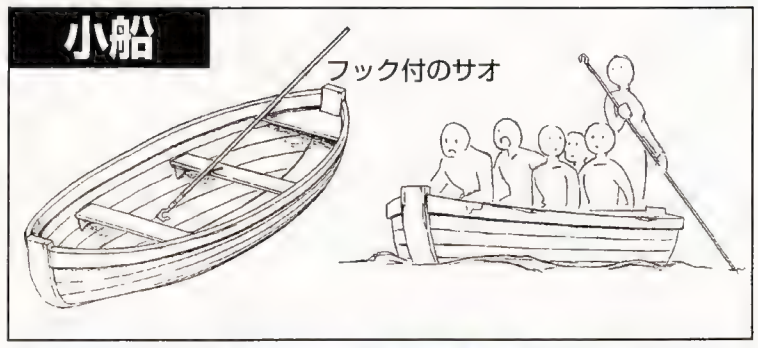
アデスカの民の道具

アデスカの強弩



ディアナ・カウンターとの戦いに使われた弩（いしゆみ）。至近距離で直撃すれば、ウァッドを破壊することもできる

小船



ロランたちがマヤリトに乗せられ、地下水脈の移動に使った小舟。そのデザインを見た限りでは、とりたててアデスカ特有のものというわけではないらしい

第36話 ミリシャ宇宙決戦

ストーリー解説

宇宙では、地球の常識は通用しない。いや、地球の「常識」は、宇宙では「非常識」に化けると言い換えた方が適切なのだろうか。

月への軌道に乗った現在、月の方が地球よりも近いという事が彼らには理解できない。

兵隊たちが酒盛りしていて樽で地球への帰還を思い付き、ためらわずに実行してしまう。

叛乱を起こしてモビルスーツで帰還しようとしてしまう。

どちらも彼らの常識では健全な（？）行為なのだが、宇宙では当然、自殺行為だ。

身をもって学んでしまえば、彼らも宇宙での常識を身につけるし、以降では程度の差こそあれ適応している。宇宙生活の過渡期に起きた小さな出来事なのだ。

なお、ヤーニが引力下りに使用した樽はウィスキーのもの。この酒樽は中身が入った状態で持ち込まれたのだが、酒盛りの時点では既に飲み尽くされてしまっている。

酒の量を計算するのは野暮の骨頂だが、短期間で樽を空にするミリシャ兵の酒豪ぶりにはまさに脱帽である。

桐本琢也（ヤーニ役）

この「ミリシャ宇宙決戦」ではヤーニが宇宙へ出て、宇宙という異質な環境に適応出来ずにパニックを起こしますよね？

地球の常識が通用しないから大佐や兵隊と一緒に無茶をやって、非常識をやって、叛乱まがいの事までやって、月の人間に散々迷惑をかけている。

でも、あんまり反省してないんですね（笑）。あきらめたのかもしれませんけど。良くも悪くもストレートなんです。

まあ、視聴者の視点でこの話を見ていても、ホームシックにかかって何としても地球に帰ろうとする。あのアナログ人間たちは面白かったですけど。

あと、最後に一言。

私も「ガンダム」という作品には特別な思いがありますから今回、その作品作りに参加できた事は感動的でした。

「∀」は、私の中にあるガンダムのイメージを、良い意味で裏切ってくれた作品です。

富野さんの思い描く世界はとても刺激的で、我々はただ感心させられました。

「ガンダムは永遠に不滅です」

スタッフの視点から

殆ど「宇宙初体験の人が宇宙に出るとどうなるか？」で行こうという話ですね。こんな話でもう何本か引っ張っていければ楽だったんですが、ネタがなくて一本だけになりました。

酒を飲んで樽で出てという話は、ほとんどバカ話が元ネタですね。ただ、打ち合わせの時に「ミリシャだったら絶対こうする」という話があって。例えばミリシャの人は絶対に艦内移動用のハンドルにつかまれないとかですけど、そういう流れで話を作っていきました。

あ、そうそうシャワーの話は富野さんじゃありません（笑）。人工重力が無いという話でしたから、それならまずシャワーで溺れるな、と。

あと、カプルが水中よりもここで大活躍しますが、宇宙飛行士も水中で訓練するし、気密も宇宙用よりいい筈だから大丈夫だろうとか、そんな乗り切り方でした（笑）。本当はノズルや制御なんかの問題もあるし、構造も違うんでしょうけど。

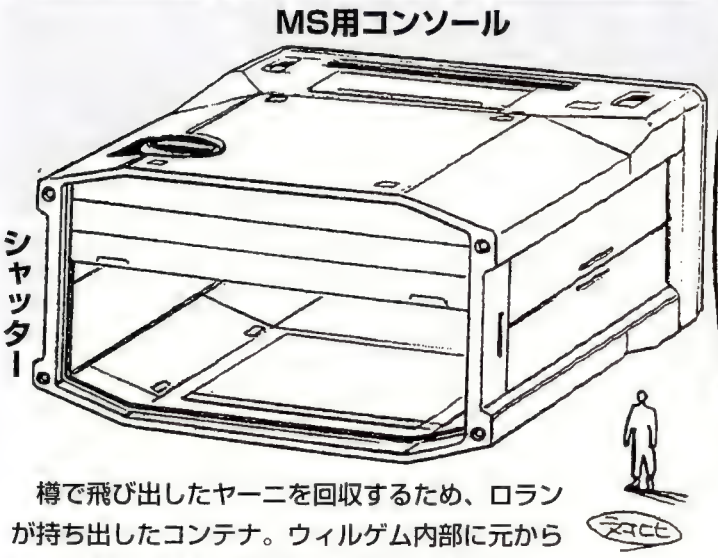
この話、監督にプロット提出したら「やるのか？　お前ら、本気なの？」とか言われましたよ。

宇宙編〈3〉

大気圏突入用酒樽

宇宙に嫌気がさしたヤーニが、酔った勢いで河くだりの要領で地球に帰ろうとした時に使用。百年物のウィスキー樽を転用し、大気圏突入時にバラバラに分解。外に出られるという逸品らしい。

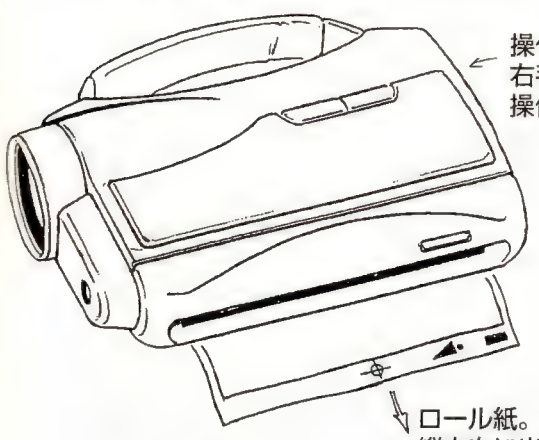
宇宙用コンテナ

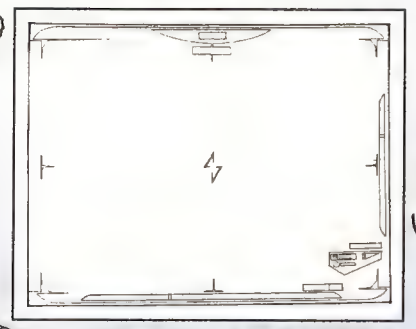


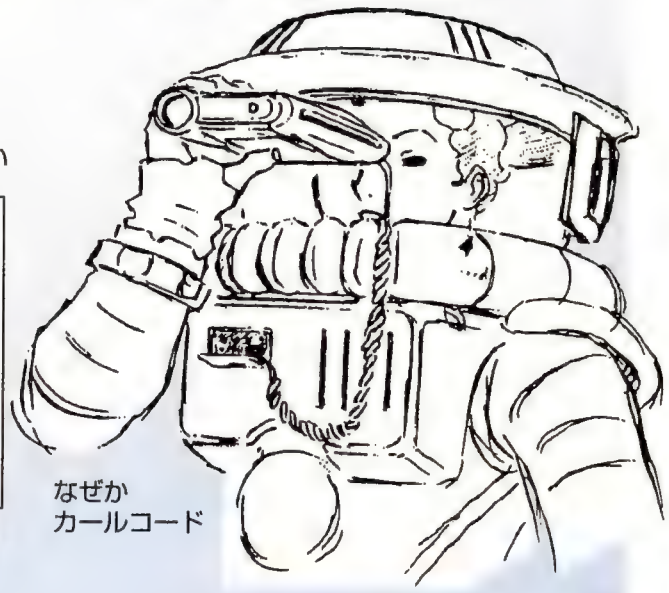
樽で飛び出したヤーニを回収するため、ロランが持ち出したコンテナ。ウィルゲム内部に元からあった物で、使用したときには空のままだった。

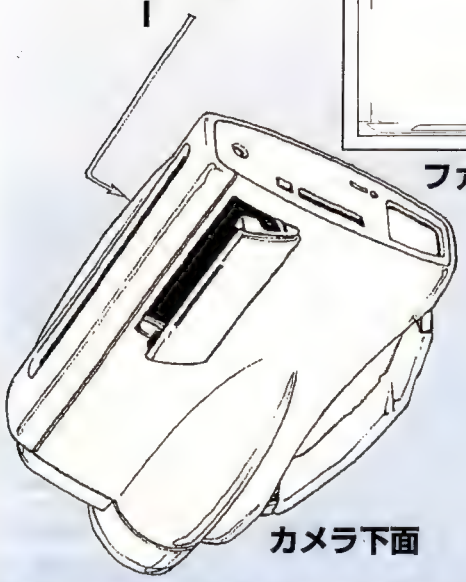
フランのカメラVer.2

ザックトレーガー駐留部隊の人から貰ったカメラ。フランはこのカメラと地球製のカメラを用途で使い分けている。今回は航行中のウィルゲムを撮影していたが、これは月の報道機関に持ち込むつもりらしい。









ミハエルの奥さんと子供の写真

奥さんのニーナは29歳。名家のお嬢さんで、美人で可愛くおくゆかしい、うらやましい奥さんと評判。一人っ子のマシューはまだ9歳。ミハエル大佐はこんな家族を地球に残し、宇宙に出てきたのだ。

第37話 月世界の門

ストーリー解説

「忠実な犬ほど、主人以外には手ひどく噛み付く」

グエンがハリーを評したセリフだが、これはレット隊にも当てはまる。ディアナはグエンの言う「忠実な犬」に恵まれている人物といえるだろう。

レット隊の手引きによるディアナのジャンダルム脱出劇は、宇宙に嫌気が差した地球人の錯乱に見せかけた、見事な脱出劇だ。実際、大半が地球人のミリシャ側でも似たような事態が起こっている訳で、非常に説得力がある。

もう一方の忠実な犬であるハリーがキエルを連れてウィルゲムから脱出するのも、ディアナのため、アグリッパの目をそらすためだ。キエルの想いを知ってなお、彼はディアナのために……。

今回は忠実な犬たちに、敵味方双方が振り回された話といえるだろう。

あと、余談を一つ。ディアナが逃げ込んだミスルトゥだが、ここがディアナゆかりの農業実験コロニーであるというのも金枝篇による。同書ではディアナというのは森の女神の名前で、そこから作られたネタであるそうだ。

田中一成（ブルーノ役）

最初に富野さんの方から「ブルーノはやる気はあるけど、頭の悪い奴にしてくれ」という指示だけいただきまして、それ意外はおおむね野放しでやらせていただきました。

キャラ作りの方で難しかったのは、戦闘シーンでもセリフに緊張感を出さないようにするのがけっこう難しかった。やりがいもありましたけどね。

印象に残っているエピソードとしては、20話でしたか。アニスおばあさんの畑で働いている（働かされている？）シーンが印象的でした。ロバに見張られてこき使われたり、噛まれたりとかですね。

∀全体の印象としては、複雑なストーリーと人間関係の中に牧歌的なエッセンスが詰まっていて、何か新しいものにチャレンジしている気分でした。

難しかったけれど、面白かった仕事ですね。演じていて本当に楽しかった。

個人的には、アブラギッシュなヤーニを気に入ってます。現場では何故かヤーニは人気がありまして、ものまねをする人までいたんですよ。

スタッフの視点から

ディアナの先祖が植物を云々したために王になっているという設定は、この段階で文芸の高橋さんが勝手に入れたんです。元は金枝篇の話を読んでて、そのままではもったいないんでネタを足してあなったと。

あと、ディアナさまがなんであんなに敬われているのかという意味付けも必要でしたので。

それとこの回で忘れてはならないのは、レット隊のムロンとキャンサーの、怪しすぎる異様な回り方（笑）。

これはレット隊の人は月から来た事を忘れないでいて、地球人に負けないように訓練してきたという事です。いつの日にかは月へ戻るぞという事で、意味付けは判らないけれどもこういう風な訓練はしておかなければいけないというマニュアルはあったんだと思いますね。三半規管を鍛えなければとか、地獄車とか（笑）。水車にはりつけになってぐるぐる回ってたとか（笑）。

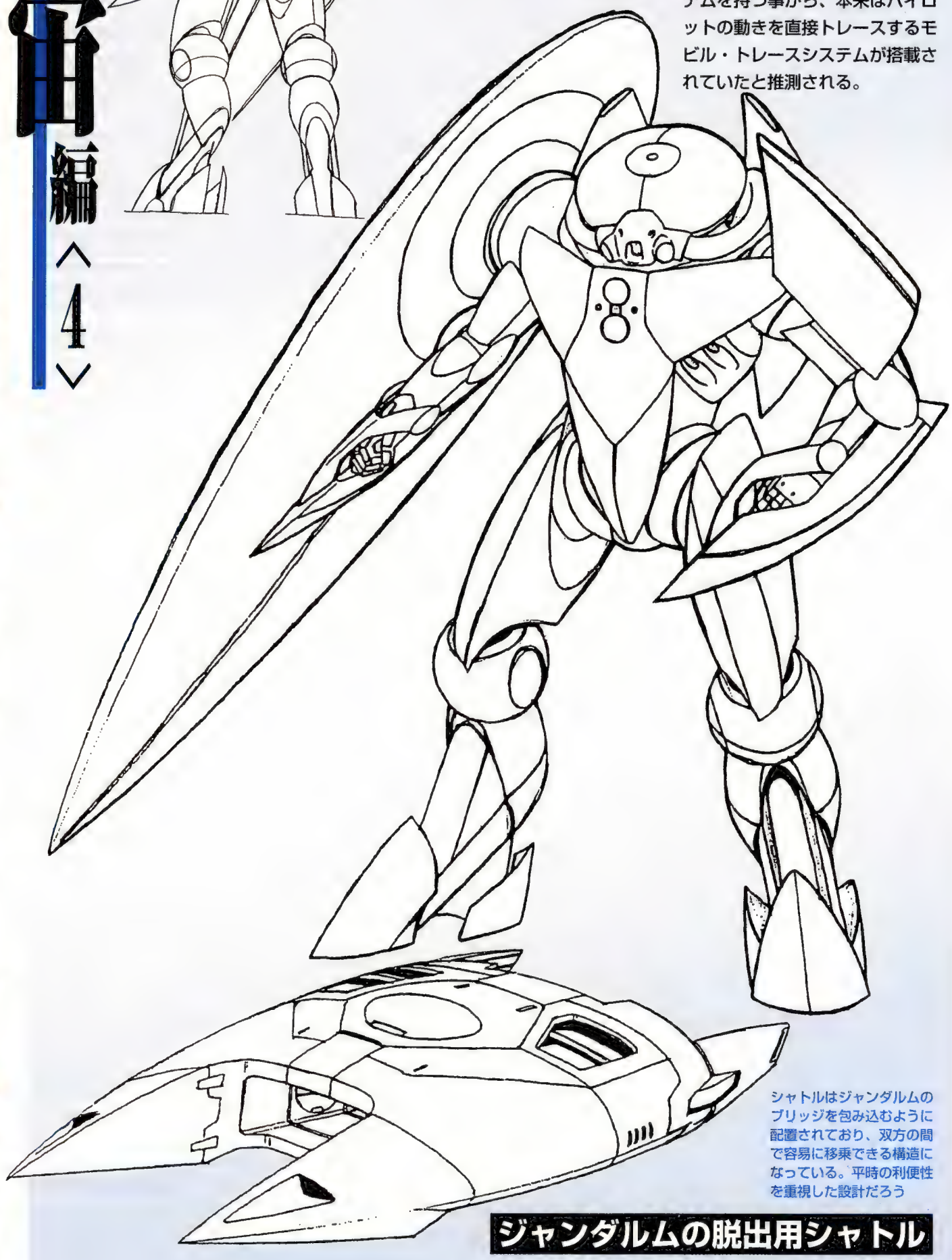
だから、ミリシャの人よりは宇宙に順応が早かったと。知識だけでも持っていれば、かなり違いますからね。

宇宙編〈4〉

G-838 マヒロー

メカデザイン／前田真宏

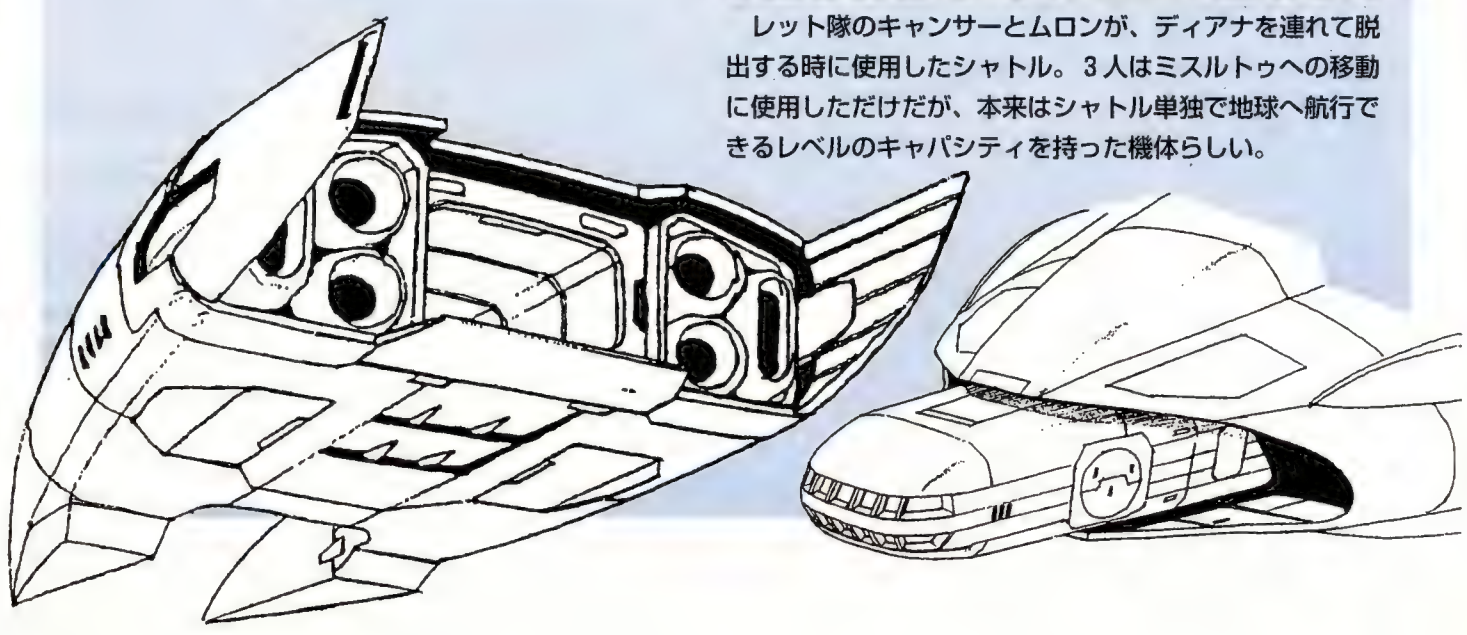
ギム・ギンガナム艦隊麾下のモビルスーツ部隊正式主力機。宇宙空間での対敵長距離戦闘を重視して開発された機体で、他のモビルスーツ群とは異なり、唯一人工筋繊維による駆動システムを持つ事から、本来はパイロットの動きを直接トレースするモビル・トレースシステムが搭載されていたと推測される。



シャトルはジャンダルムのブリッジを包み込むように配置されており、双方の間で容易に移乗できる構造になっている。平時の利便性を重視した設計だろう

ジャンダルムの脱出用シャトル

レット隊のキャンサーとムロンが、ディアナを連れて脱出する時に使用したシャトル。3人はミスルトゥへの移動に使用しただけだが、本来はシャトル単独で地球へ航行できるレベルのキャパシティを持った機体らしい。



第38話 戦闘神ギンガナム

ストーリー解説

ディアナが逃げ込んだミスルトゥ。ディアナを迎えに行ったロランとソシエは、ディアナと合流できたものの、ディアナ・カウンターではない敵、ギンガナム隊に遭遇する。

一方、ウィルゲムを脱出したハリーたちは、キエルをディアナとして、ギンガナムとの接触に成功するが、ギンガナムはここにいるのがディアナなら偽者は抹殺すべしと言い放つ。マヒロー隊の攻撃で崩壊し始めるミスルトゥ。

前半でディアナがミスルトゥの施設を蘇らせたのは、単なるセンチメンタリズム以上の意味はない。昔、心血を注いだ施設が荒れているのを見ていられなかっただけの話である。

また、ハリーと接触したギンガナムは、キエルがディアナでない事は見抜いている。その上でその存在を利用している策士である。

対するハリーは本物のディアナを案じている分、そしてキエルを道具と思い切れない分、策士になりきれていない。ミスルトゥ攻撃時には中にいるディアナを思うがため失言もあり、思惑どおりには行ってないようだ。

子安武人(ギンガナム役)

ギム・ギンガナムは、登場から最後まで、すべてのシーン、すべてカットが印象的な人物でした。まさに、存在自体が漢(おとこ)です。

こういうキャラを演じる機会は、そう簡単には出てこないと思います。

そういう意味では、僕は幸運でした。

キャラクターづくりもすべてやりがいがありました。セリフの一つ一つが面白く、熱中できましたしね。

本当に希有な体験でした。

監督からの指示は特になかったと思います。しいていえば思い切りかと。

一部のスタッフの方は、ギンガナムはバサラだ、傾奇者(かぶきもの)だと言っておられました。

それはそうなんですけど、ギンガナムはなによりも漢です。それにつきますね。

他のキャラクターでは、個人的にはロランの不器用な所が気に入っていました。彼も面白いキャラでしたね。

これで終わりじゃないですよね。僕はずっと次を待ってます、監督!!

スタッフの視点から

ギンガナムですが、彼は最初武家じゃなくて公家だったんです。でもそれじゃアグリッパと被るし、ディアナも公家ですから、だったらギンガナムは武家だろうという事で。

デザインの方、最初はもっと短髪のワイルドなキャラだったんですよ。でもやっぱり違うだろう、って安田さんが自分で直して来たんです。今の髪型に。

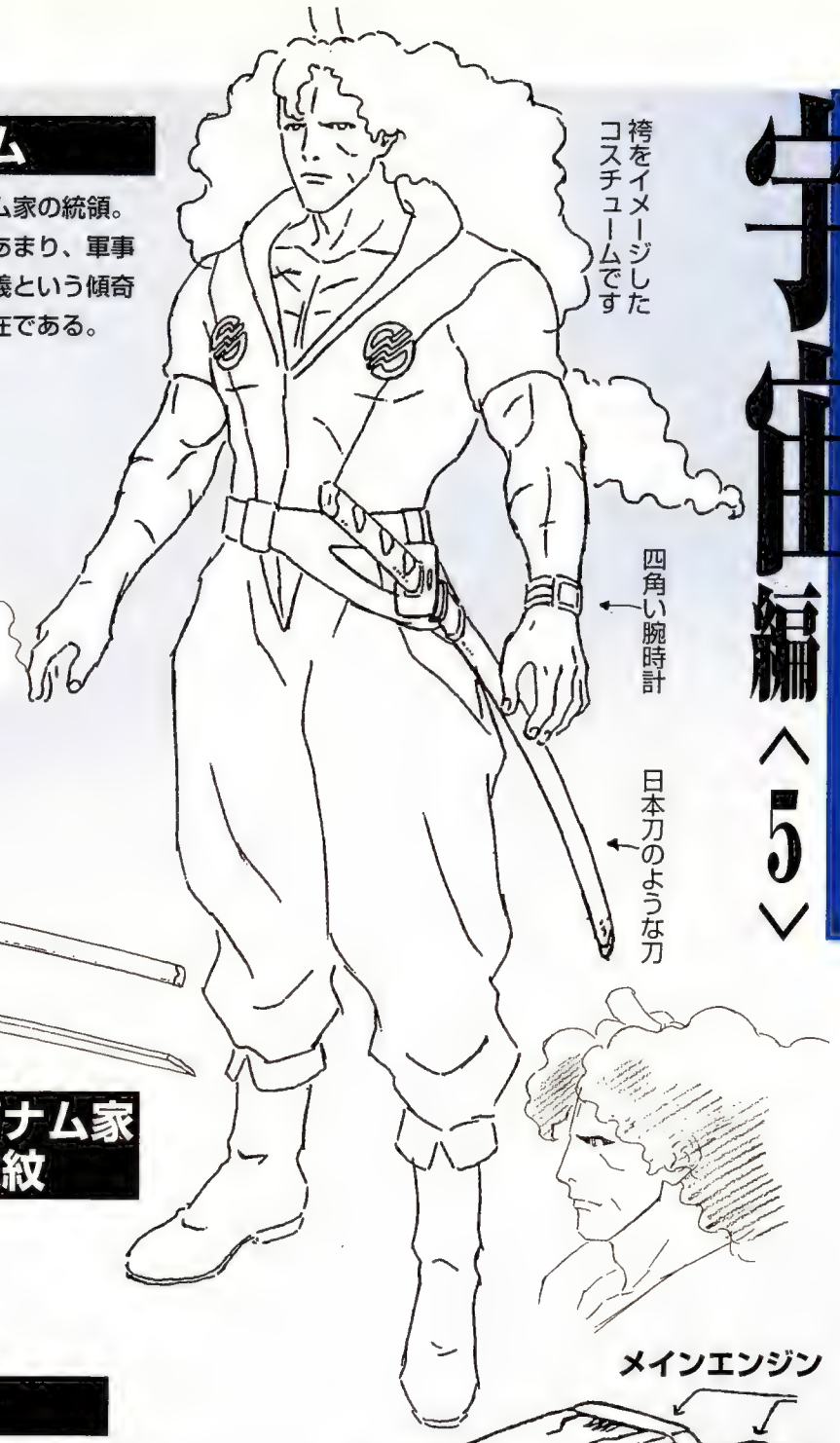
それでちょっとカブキっぽい印象がついちゃった。

だから、サムライとか日本的なラインを入れたんだとは思いますね。マークもギンガナムだけは家紋になってますし。

このへん、安田さんとかなり悪ノリをした記憶はあります。サムライだ、勘違いした軍隊だという(笑)。2000年演習してるとか。演習「だけ」してるとか。一度も戦った事が無いとか。スタッフ内部からもそれは強いのかという疑問が出ましたね。

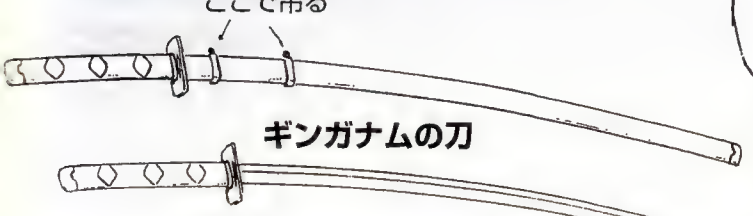
シリーズも佳境にきてこの頃には我々はかなりハイになっていたという事ですね。

宇宙編〈5〉



ギム・ギンガナム

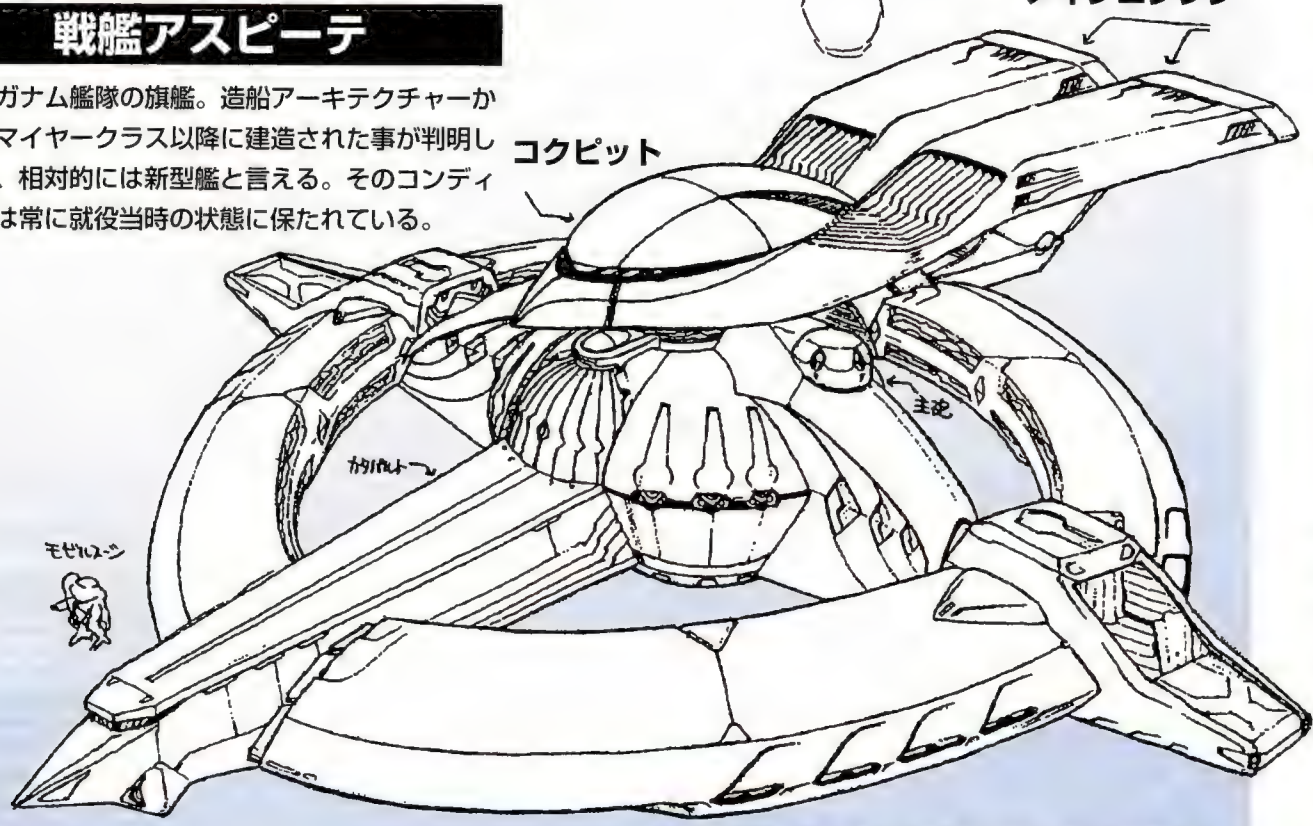
ムーンレィスの武門の家柄、ギンガナム家の統領。月の軌道上に私設艦隊を有し、2500年間あまり、軍事演習を継承してきた。戦いこそが存在意義という傾奇者的な側面を持ち、武力を弄ぶ危険な存在である。



ギンガナム家家紋

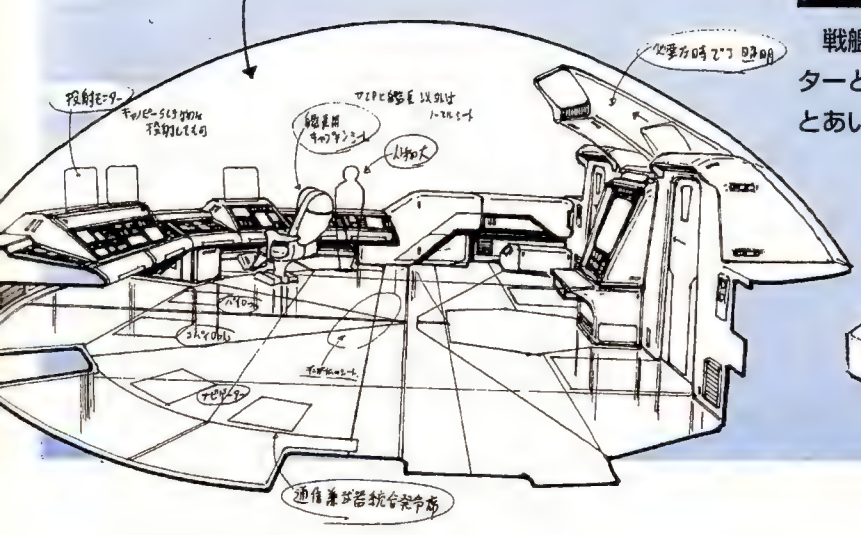
戦艦アスピーテ

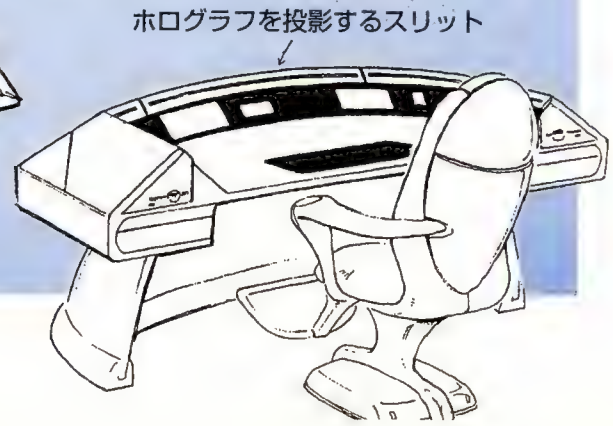
ギンガナム艦隊の旗艦。造船アーキテクチャーからアルマイヤークラス以降に建造された事が判明しており、相対的には新型艦と言える。そのコンディションは常に就役当時の状態に保たれている。



ブリッジ内部

戦艦アスピーテのブリッジ内部。周囲は全天モニターとなっており、ホログラフを投射するモニターとあいまって、非常に高い機能性を有している。





第39話 小惑星爆烈

宇宙編〈6〉

◆ストーリー解説

マヒロー部隊のミスルトゥ爆撃。ロランたちを燻り出すためのこの行為は、紛れもない暴挙である。

その暴挙にさらに悲劇を加えたのは、ミスルトゥの破片の一部がフォン・シティに落下するというデータだ。ロランはフォン・シティの住民を守るため、胸の核爆弾を使用する。

まずミスルトゥ近辺でのロランたちとマヒロー部隊との戦闘だが、マヒロー部隊は統制が取れている割に脆く、ロラン達に惨敗している。

平時の軍隊は、錬度は向上しやすいが思考が硬直する傾向があり、臨機応変な対応が難しくなる。マヒロー部隊はまさにこの典型で、定型化されたフォーメーションを使うばかりの戦闘法だった。

逆にロランたちやレット隊、それにグエンの行動は実に適切だ。グエンが交渉でロランたちの自由を確保し、ミスルトゥを破壊する。

核の存在を知らないグエンにそこまでの思惑があったとは考えにくいが、現状を最大限に信頼するこの判断、結果としては正解だったと言える。

◆立木文彦(ムロン役)

ムロンという男は、外見と中身(人間性や言葉のくせ)が違うキャラクターなんですが、そのテンションの維持が難しかったですね。アフレコの時はもう、本当に精一杯の演技をやってました。

キャラクターを初めて見た時に自分なりに自然と想像していたムロンのイメージと、監督から受けた指示のギャップがありすぎて、逆にとても新鮮な気持ちになりました。その後は「オネエ言葉」を貫き通しました。

39話で死んだ事になっていますが、私の中ではムロンが死んだという印象はないんです。むしろ、ハイテンションでいってしまった!? と解釈しています(どこへ!?)。

それと、キャラクターを取り巻く雰囲気がとても味わい深くて気に入りました。もう、ムロン・ムロンが出演したすべての話が印象に残っています。

∀ガンダムのセリフというのは、とてもスピード感があり、収録スタジオには溢れるパワーがみなぎっていて、忘れかけそうな鮮度を貰った気がします。

もう一度、ムロン・ムロンに会いたい。

◆スタッフの視点から

Xトップという形でターンXが初登場した話ですが、首だけ出したのは全体見せると作画が大変だとか、そういう圧力のせいです(笑)。

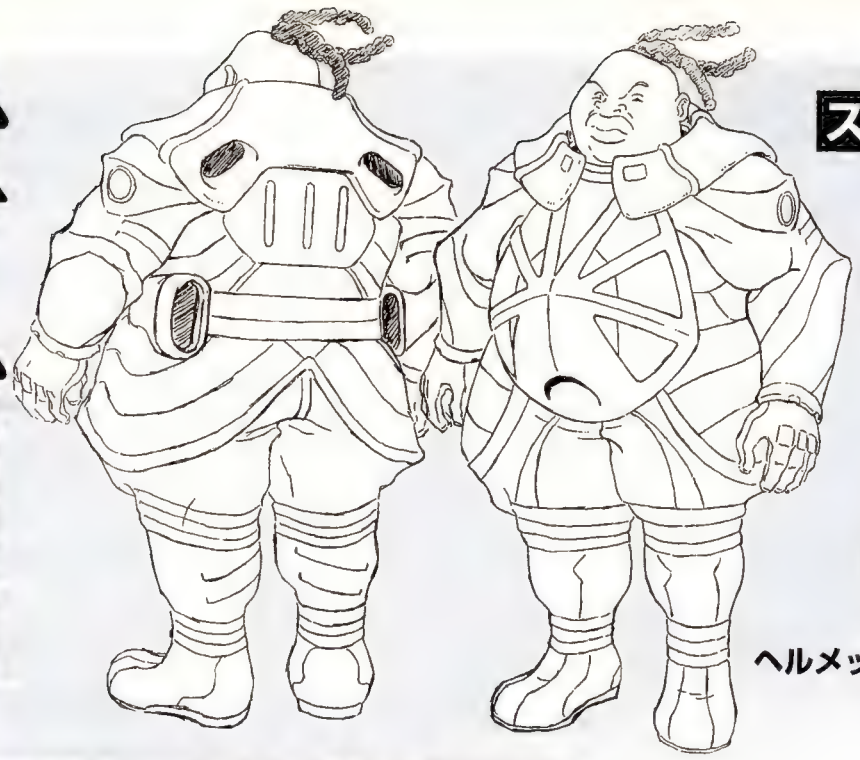
ターンXを使うのは最後の2本だけにしようとか、最終回までミイラ男みたいにナノスキンだらけにしておくとかという話までありましたから。あの左右非対象のデザインは、本当に作画が大変なんですよ。

まあ、ストーリーの中では本体をまだ掘り出していないという事になっていますけど、真の理由はそういう事です。

あと、この頃から超兵器がたくさん出てますね。Xトップのバリヤーとか、名前だけのカイラスギリーとか。

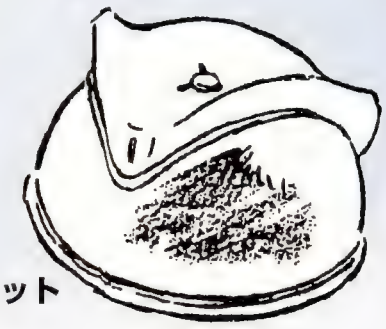
これは最後のネタフリでもあり、逆に、こういう展開も出来るんだと判ってきたからでもあります。小説とかとのからみで、要素を入れておく必要があったものも混じってますけど。

それに保険としての要素。最後が大決戦になるかもしれないから、材料だけは整えておこうという事ですね。



スエッソン・ステロ

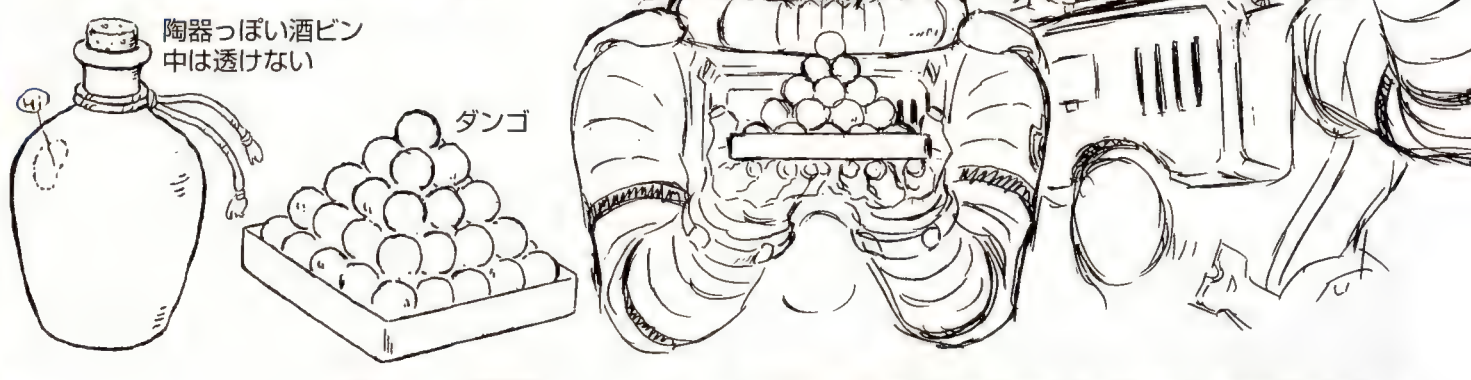
モビルスーツ・マヒロー隊の重力嫌いの指揮官、大尉。巨漢でいつも何か食べており、部下に厳しく品性下劣。常に下克上を狙っている。



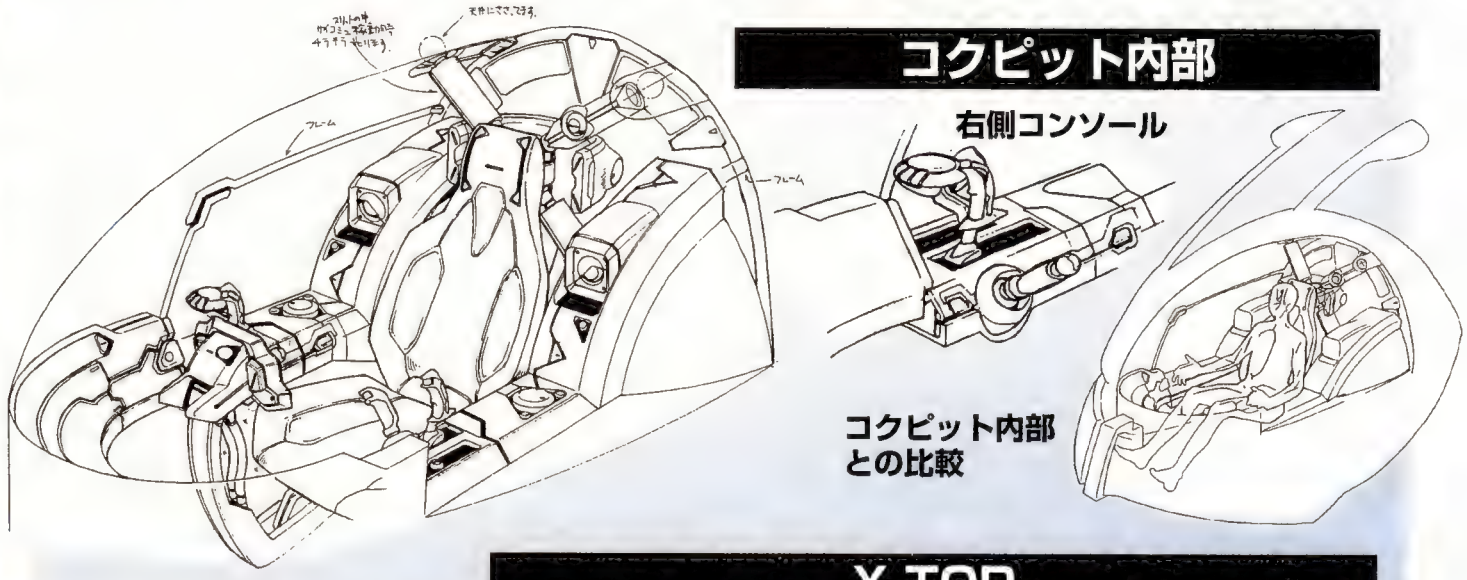
ヘルメット

ダンゴと酒

ディアナの月への帰還を祝うためムロンが用意していたもの。地球へ流される機体の中で、死を覚悟した彼らなりの陽気な末期の酒か？

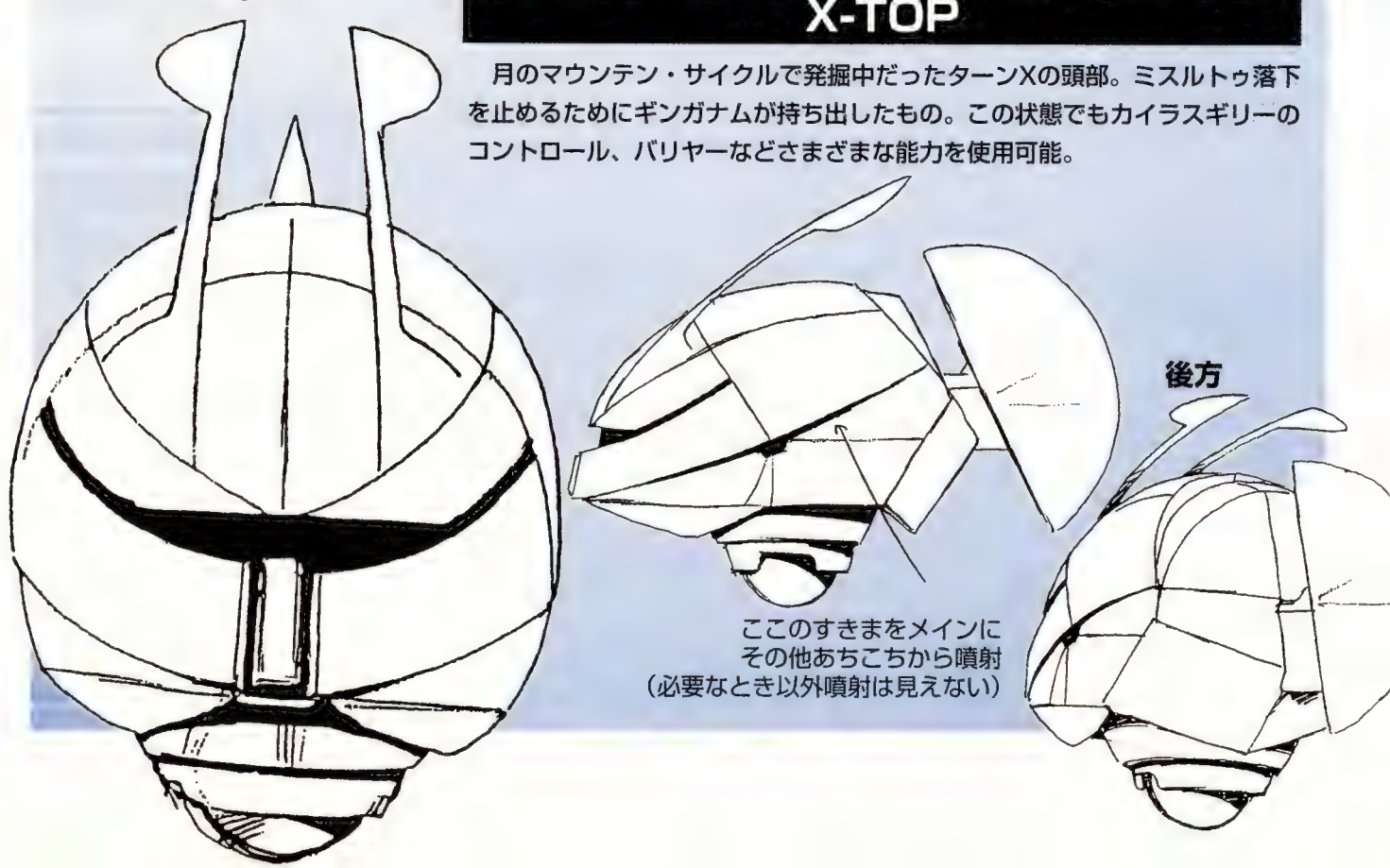


コクピット内部



X-TOP

月のマウンテン・サイクルで発掘中だったターンXの頭部。ミスルトゥ落下を止めるためにギンガナムが持ち出したもの。この状態でもカイラスギリーのコントロール、バリヤーなどさまざまな能力を使用可能。



turn A world for Episode #34-39

∀の世界

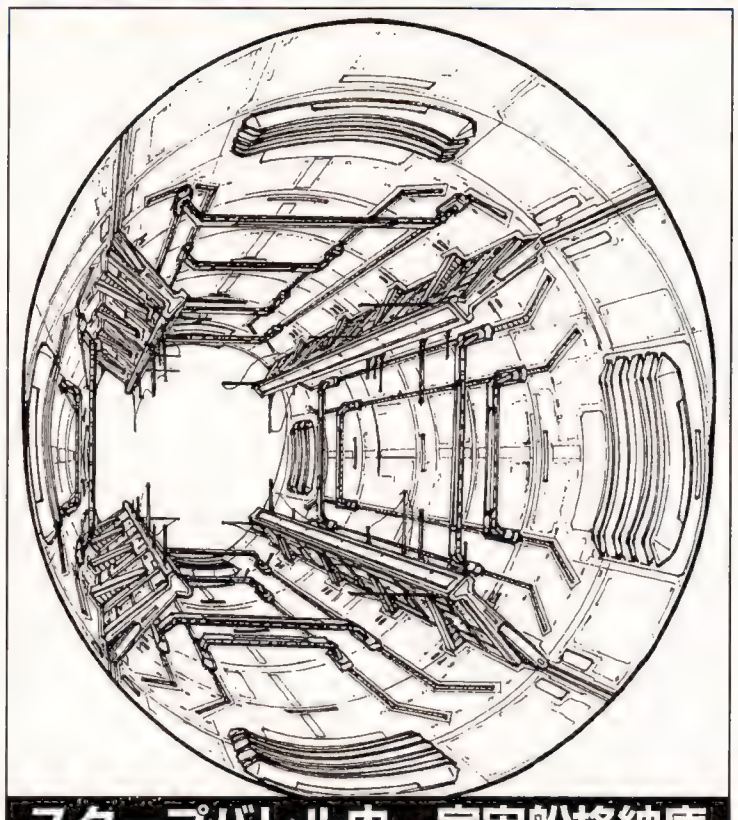
『∀ガンダム』の中で、宇宙空間がおもな舞台となった話はわずか6話にすぎない。だが、その中にはこの世界が置かれている状況の片鱗がうかがえる。ここでは、ザックトレーガーとミスルトゥを中心に紹介していこう。

ザックトレーガー

ドイツ語でミノムシを意味するザックトレーガー。これは現実にもスカイフックといった形で提案されている宇宙往還システムだ。

全長、約8000キロの長大な棒が、地球から見たときに垂直方向に回転しながら衛星軌道をめぐっている。その先端は、もっとも地球に近づいたときには高度100キロ程度となり、そこにタイミングよく乗り込み、地球からもっとも離れた高度8100キロほどのときに飛び出す。そうすれば、ザックトレーガーの回転運動によって放り出されることとなり、より高い高度から、より速い速度で打ち上げられるのと同じことになる。また、このときザックトレーラーから失われた、運動エネルギーは宇宙から帰還するときにザックトレーガーに帰されることとなる。そのため、地球と宇宙の間に一定の行き来があれば、エネルギーをほとんど使わずにすむ。つまり、エレベーターが昇りと下りの2台でエネルギーをやり取りして省エネをしているのと同じわけだ。そのため、ロータベーターとも呼ばれているのである。

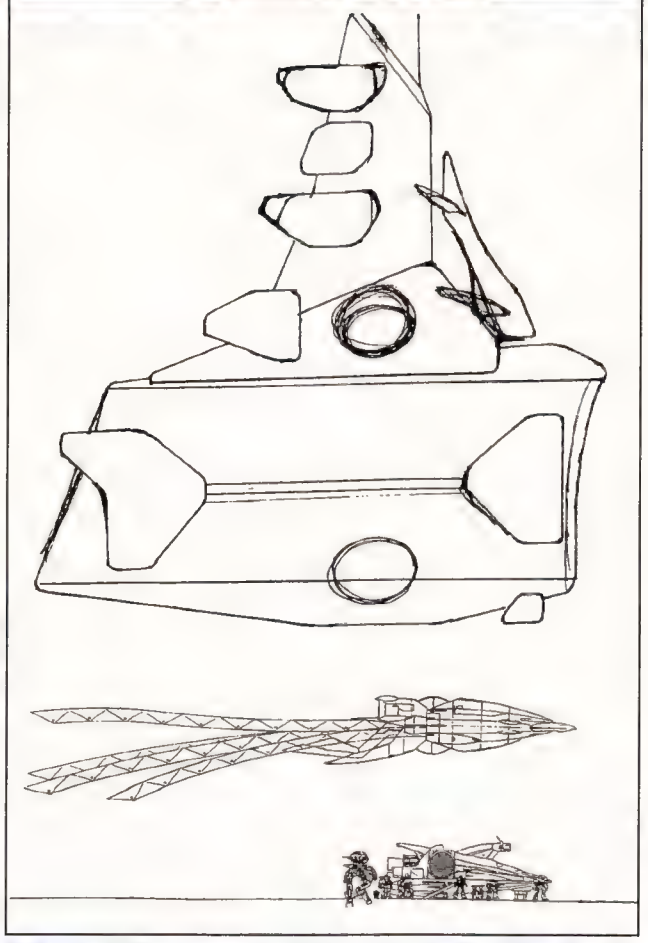
だが、長期にわたって使用されなかった場合、構造材の疲労や、大気摩擦によるエネルギーの欠損など、かなりのメンテナンスが行なわれ続けていなければ回転は遅くなり、やがて地球に落下する。それがどうやって回避されていたか。それは、劇中では明らかにされていない。



スクープバレル内　宇宙船格納庫

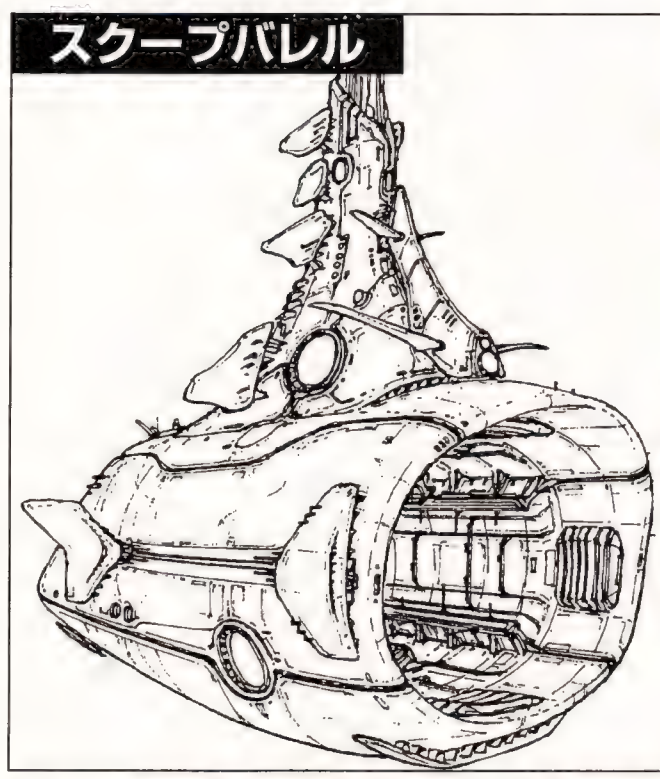
スクープバレル内部の様子。上下のみならず、左右にも宇宙船が係留できるようになっている。詳しくは宇宙船対比目安の項目参照

スクープバレル部と宇宙船との対比



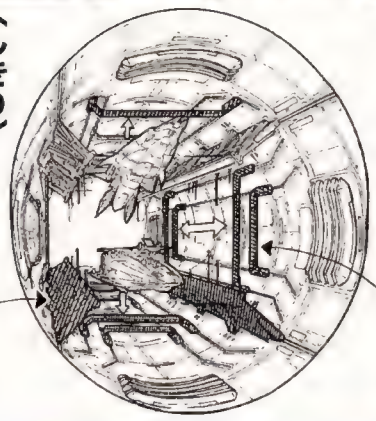
真横から見たザックトレーガーのスクープバレル部と宇宙船、モビルスーツとの大きさの比較。スクープバレルは、本当はもう少し長め

スクープバレル



スクープバレル部は、ザックトレーガーの先端にある宇宙船係留用の装備。左の対比図などと比較しないと、大きすぎて逆にそのスケールがわからないだろう

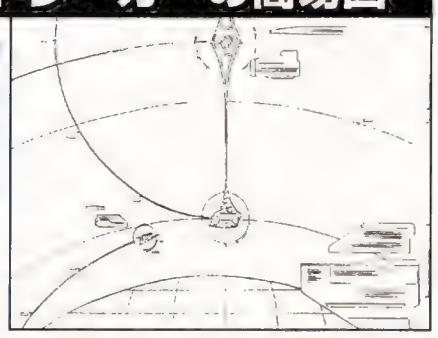
スクープバレル内格納庫 宇宙船対比目安



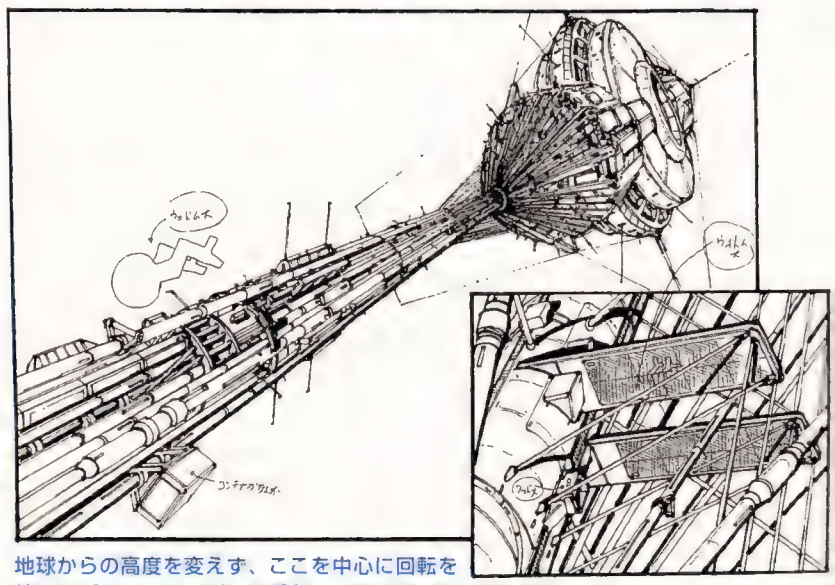
スクープバレル内のウィルゲムとジャンダルムの大きさの比較。斜線部が可動部分。合計4隻の宇宙船を係留可能なのがよくわかる

ザックトレーガーの簡易図

ザックトレーガーの簡易図。センターハブとスクープバレルが巨大に、もしくはその間が極端に短く表されている。ウィルゲムも巨大だ

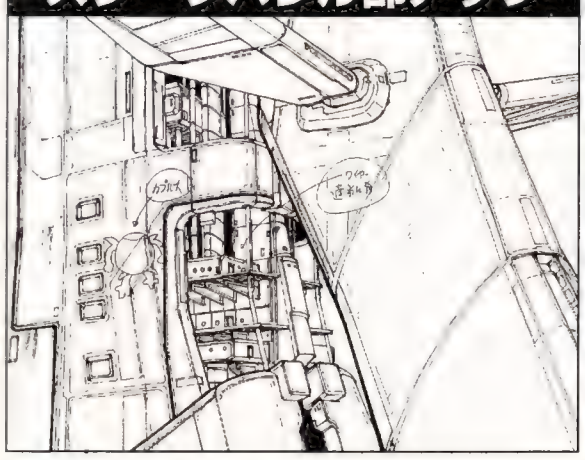


センターハブ付近



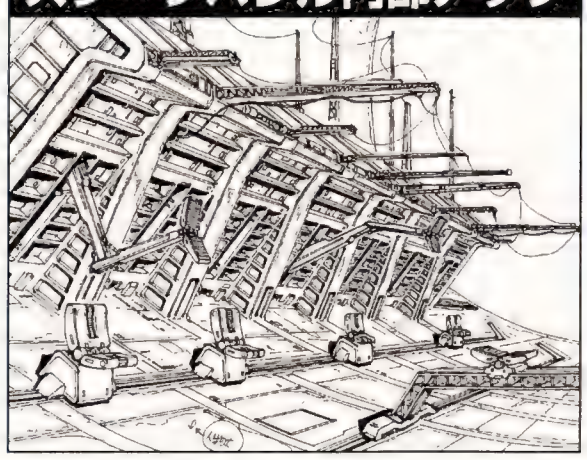
地球からの高度を変えず、ここを中心に回転を続けるザックトレーガーの重心。ここにディアナ・カウンターの保安部隊が駐留している

スクープバレル部アップ



スクープバレル外観の一部アップ。右上のスクープバレルの図と比べればどの部分かわかるだろう

スクープバレル内部アップ



スクープバレル内部のしきりや、着艦用ピアのアップ。下に書かれている対比用の人物から大きさがわかる

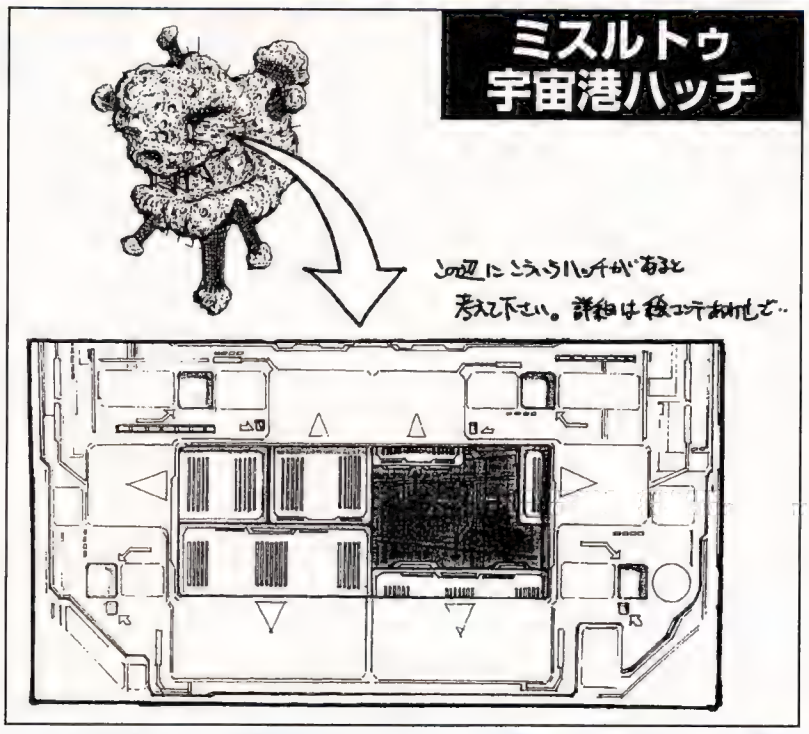
小惑星ミスルトゥ

ソレル家が月面で農業を可能にするための研究をおこなっていたコロニー。ミスルトゥとはヤドリギの意であり、ロランはその名前に思わず「ディアナの森のヤドリギ」という言葉を漏らす。その内部は凍りついていたが、空気は保たれ、また電源も通っており、往時の再現ができるようになっていた。

小惑星ミスルトゥ全景

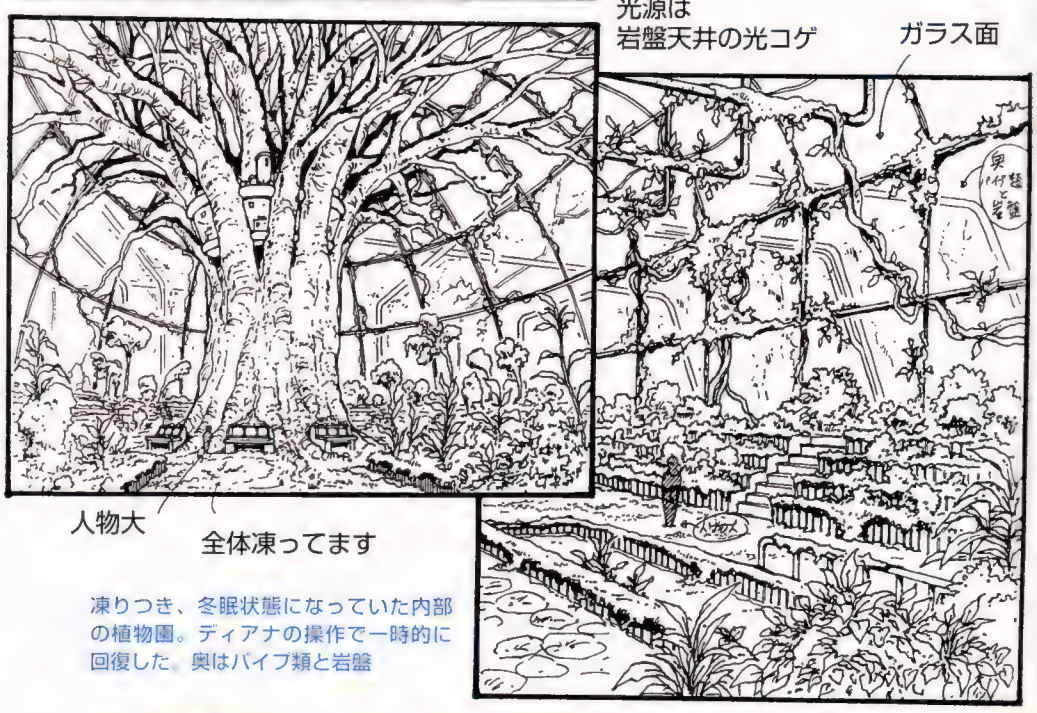
廃棄コロニーとして登録されているミスルトゥ。その軌道は、つねに一方の方向を太陽に向けているらしい

ミスルトゥ宇宙港ハッチ



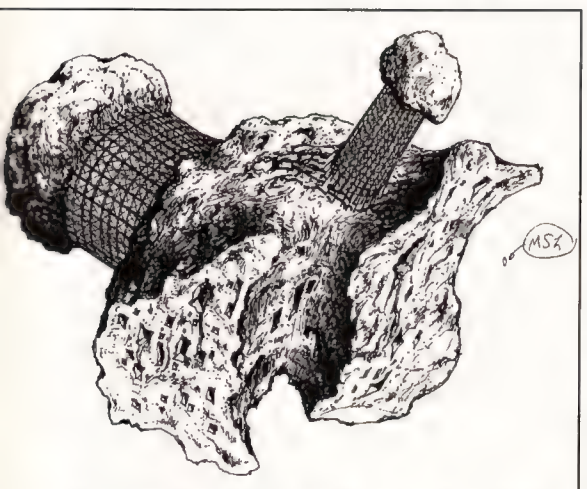
ジャンダルムをシャトルで逃げ出したディアナとレット隊の２人がミスルトゥに入港するのに使ったハッチ。エアロックになっており、ディアナの操作で機能を回復した

ミスルトゥ内部



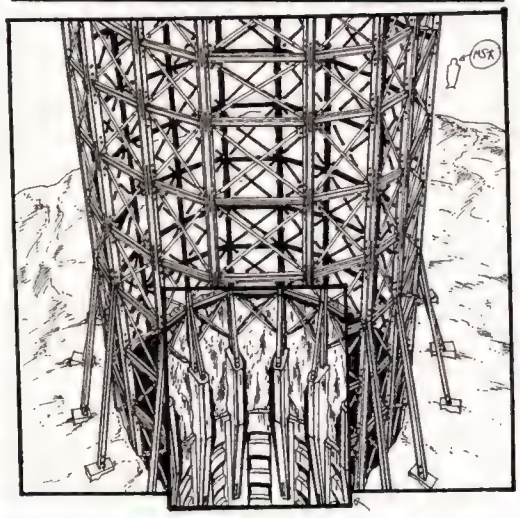
凍りつき、冬眠状態になっていた内部の植物園。ディアナの操作で一時的に回復した。奥はパイプ類と岩盤

ミスルトゥα



破壊されたミスルトゥの一部。フォン・シティへの降下軌道に乗るが、ロランの核爆弾で軌道を変えられる

ミスルトゥ鉄骨アップ

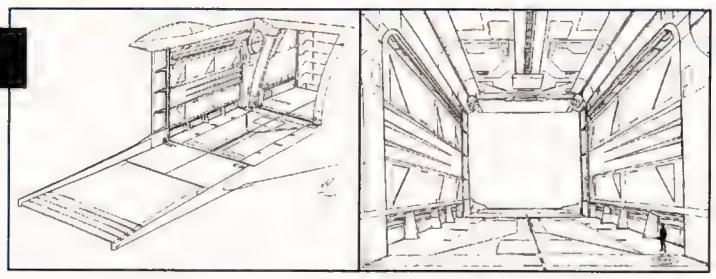


ミスルトゥの構造をささえる鉄骨部　この鉄骨部を舞台に、ギンガナム軍とロランたちが戦闘した

モビルスーツデッキ

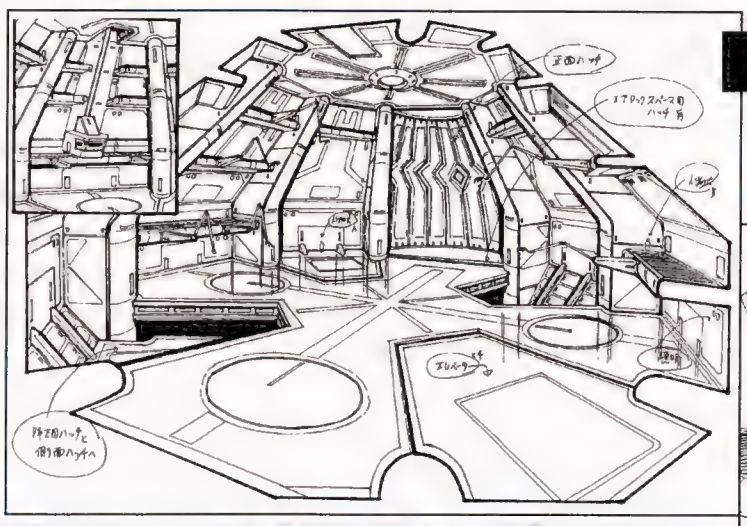
舞台が宇宙に変わってから、もっぱらドラマが語られたのは各々の宇宙船の中でだった。グエンたちミリシャを中心とするウィルゲム。ミドガルドがディアナ送還に使用しようとしながらもそれを果たせなかったジャンダルム。ギンガナム軍の主力艦、アスピーテ。ここでは、そのモビルスーツデッキを比較することで、∀世界を透かし見たい。

ジャンダルム



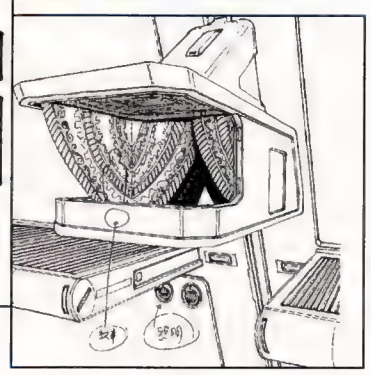
モビルスーツを搭載していなかった、ジャンダルムのデッキは非常にシンプルで、その点はアスピーテとも共通

アスピーテ

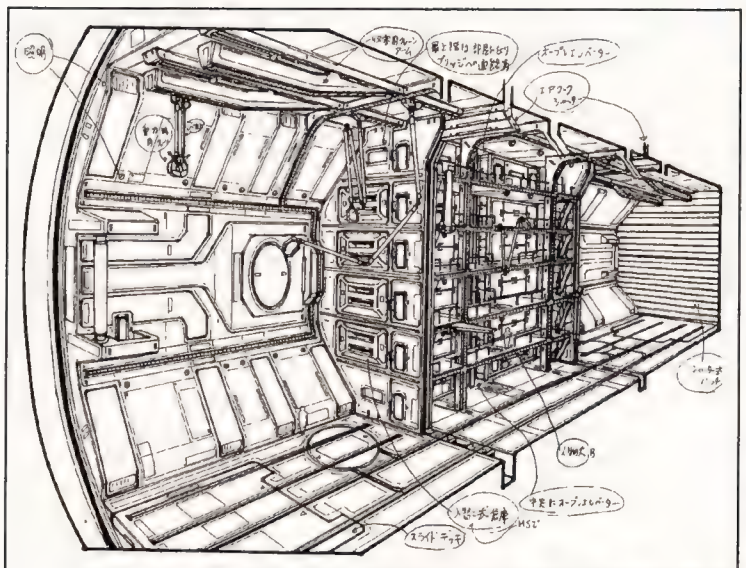


非常にすっきりしているが、実用性は不明。そこここに各種ハッチやエレベーターが見られるのも使い手がいいのか、悪いのか難しいところだ

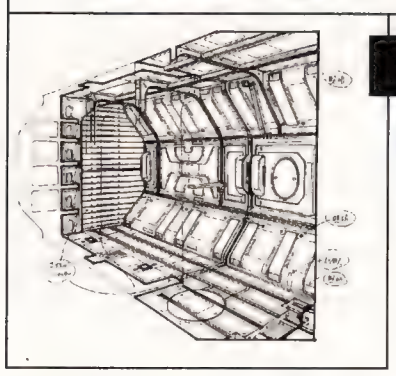
アスピーテのモビルスーツデッキ内に設置されているギンガナムのお立ち台。ギンガナムが自分で言うほど実戦的ではないことの証だろう



ウィルゲム



狭い空間に整備用や発進補助のための装備が詰め込まれているウィルゲムのモビルスーツデッキ。３隻中で一番、実用性が高そうに見える



第40話 月面の海戦

ストーリー解説

ロラン、ソシエ、ディアナは月の運河へ入った。ソシエは、運河の潮の香りに驚くのだった。ロランはそこで、幼なじみの少年、ハメットやドナと再会する。ドナたちから、地球での地球人とムーンレィスの争いなどを知らされていないと知り、情報統制がされていると教えられる。アグリッパによる戒厳令が敷かれていたのだ。ディアナはゲンガナムへ向かい、アグリッパに会わなければと考える。

グエンはギンガナムと交渉していた。アグリッパと接見したいという意図を伝えるグエンだが、ギンガナムは冷たくつっぱねる。

ゲンガナムへ向かうため、運河を利用しようと考えたロランたちは運河の地下へ向かう。ハメットたちはそんなロランに協力して、∀を鯨に偽装するための布作りを行ってくれる。しかしそこへ、追跡してきたマヒロー隊が追いかけてきた。運河を気にして思いっきり戦えないロラン。そこへ現われた鯨の群れにより、ロランは危機を脱出。マヒロー隊は退却していった。

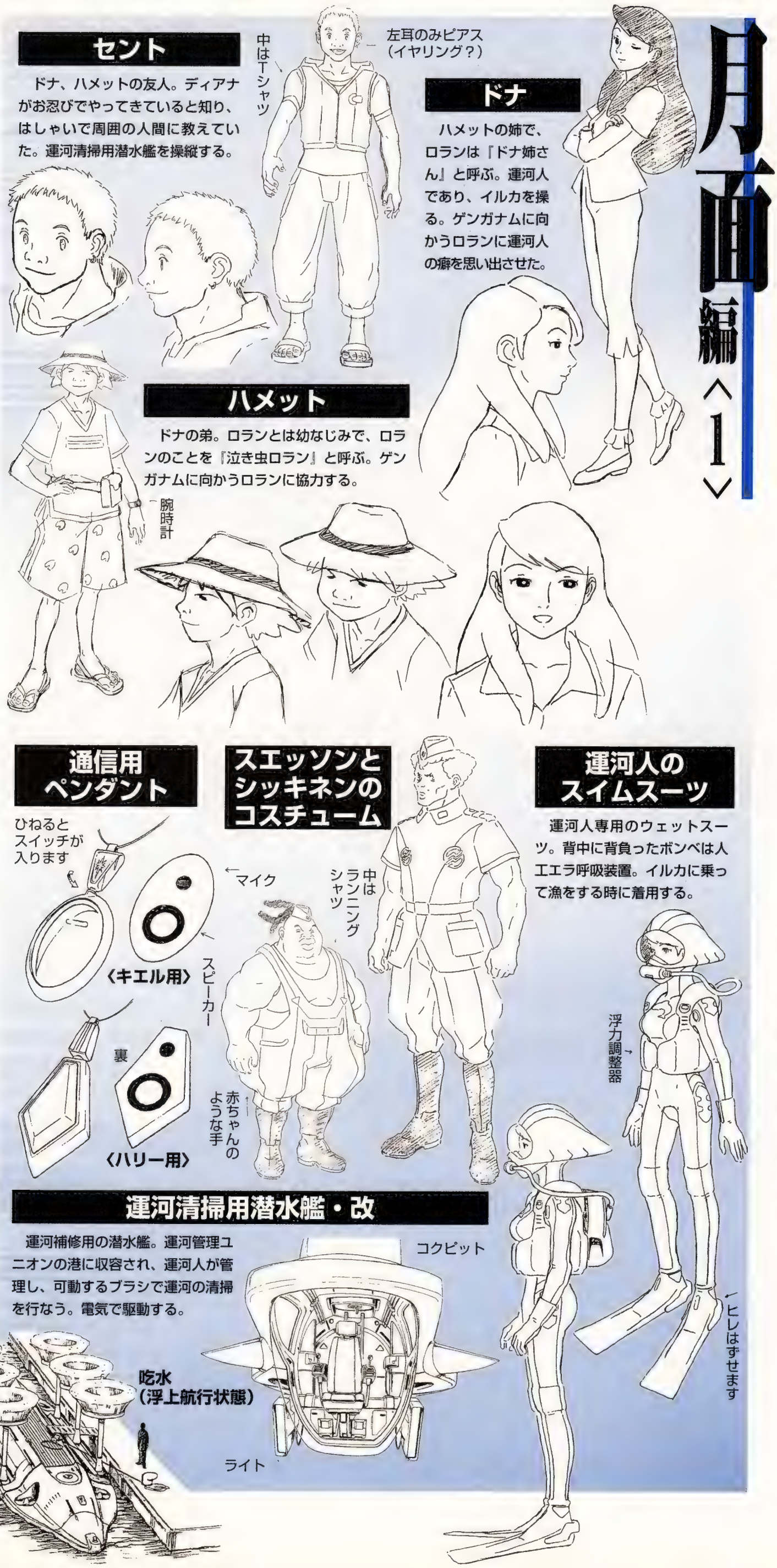
ウガンダ・トラ(スエッソン・ステ役)

スエッソン・ステロとして印象に残っているのは、『宇宙の世界なのに、こんなに食べなきゃいけないのか』ということですね。監督からの指示はあまりありませんでした。あっても、うまくできなかっただろうと思います。∀ガンダムは、SFなのに人間関係が多いことが面白かったですね。好きだったキャラクターは、やはりスエッソン・ステロ。絵と自分がだぶってしょうがないです。声優の仕事は初めてだったので、とても難しかった思い出があります。

スタッフの視点から

月面を運河にするという案は最初からありました。「月面に都市を作る時には運河にして欲しい」と森田さんの方から提案がありました。運河の下に都市があれば、紫外線や宇宙線が水で防御できるんです。水を利用するにもいいですしね。そこに潜水艇みたいなものがあって、生き物がいて、中を掃除する人がいる……という話はある程度あったんですよ。あそこまで漁村になるとは思ってなかったですけれど（笑）。勝手に生態系ができちゃってる。あそこに適応させた生き物とか、クジラとかイルカとかがいますし、食料にしたりとか。実際、月の設定を作り込んでいく段階で、殺伐とした未来都市構想はなくなりました。割と人に優しい怪しげな未来都市になっていったという感じですね。良くある未来っぽい銀色の町だと、そんな所に絶対千年も暮らせないですよね。それと、参考にしたオランダの町が、人工の都市なのにフリーマーケットがあったりとか、かなりゴチャゴチャしているんです。その辺はかなりオランダ、ベルギーの港町の資料を使っています。木造の建物とか。リサイクル可能な木材の代替素材で作ってるんだろうとか。美術の池田さんとそういう設定を作っていた記憶はあります。あれは木じゃないことにしましょうと。屋台とかでも、燃やすのはまずいという意見は賛成だったので（笑）、あくまでも火は焚かずに電気で焼きますとか。そういう感じでしょうか。

ロランは最初下層の出身という設定だけだったんですが、佐藤茂さんの小説の中で運河人にしましょうと。あの人は海洋に詳しいんですよ。メイザム地区がどこかってのも決めてなかったですからね。



第41話 戦いの決断

ストーリー解説

ロランたちは月の首都、ゲンガナムへ侵入した。

ギンガナムに率いられてきたウィルゲムも月の首都へ案内されていた。

リリの外交手腕のおかげで、アグリッパとの接見が許されたのだ。そうと知ったディアナは、キエルとして行動を共にすることになる。

月の軌道上、ギンガナム艦隊ではハリーが行動を起こしていた。ここにいても何も情報が得られないからだ。

ハリーはキエルと共に脱出をはかる。スエッソン・ステロが勝手に出撃した。停泊中のウィルゲムに襲いかかってきたのだ。反撃するロランたち。

ウィルゲムは街を盾にするため動き出す。白の宮殿に近づけば、攻撃を受けないと読んだのだ。

その頃、グエンたちはアグリッパと接見していた。キエルのふりをしているディアナに驚くアグリッパ。そして、接近してきたウィルゲムに恐慌をきたす。肉弾戦を仕掛けてくるマヒローに対抗するVだが、ステロは、Vを引き渡すよう要求してくるのだった。

石丸博也（マリガン）＆アグリッパ・メンテナー役

アグリッパについて、監督からは、小心者のくせに表面上では非常に強がりな性格のバランスについて指示を受けました。マリガンと二役やらせて戴き、二つの違った役柄をやらせてもらったことが難しくもあり、楽しくもありました。

演じ分けについては、自分なりの解釈と役柄の特徴を把握することでしょうか。把握できてもうまく演じ分けができたかどうかは別の問題ですが（笑）。感想としては、途中からの参加だったので作品の世界観や人間関係を把握するまでが大変でした。録音中、総監督富野先生の作品に対する熱気と迫力がひしひしとスタジオを満たしていたのが印象的でしたね。とにかくすごい方です！　個人的に好きなキャラクターは、情けない奴だけど、やはりマリガンとアグリッパ。アグリッパの幼児めいた行動は、思うに彼の幼児期の家庭環境に原因があるのではと思います。自分が危うくなったら、秘書を置いても逃げ出す小心さについては、どうしようもない身勝手な男だと思えましたね（苦笑）。

スタッフの視点から

アグリッパはかなり衝撃的な登場をしますが、それは石丸博也さんが声を入れた段階で……テンションの高さが凄かったですね。最初はもっと宇宙に適応しちゃった人という扱いでした。ミュータントっぽかった。最初にアグリッパが出てきた時はもっと格好良かったんです。キャラクターとしても手足が長くて超人類でしたね。でもディアナにやっていることが姑息だから二流の男だろうと。

また、この辺からいわゆる『富野語』が増えてきていますね。「DNAが～」とか。舞台が宇宙に変わったからでしょうか。富野さんは二十年やってきているから、宇宙でのお約束ごととかはもう独断場ですね。39話以降の話は富野さんが出してきた構成に従ってやってるんです。街から出るにもエアロックのある世界ですから、街の構造とか距離感を把握するのが大変でした。

月面編〈2〉

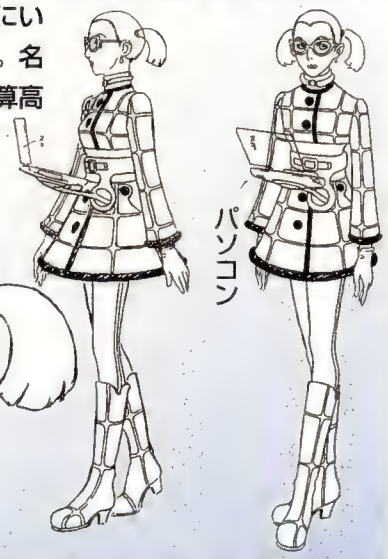
アグリッパ・メンテナー

ディアナが不在の間、月の政務を執り行ってきた男。地球人の闘争本能が月の人々に伝染するのを恐れている。本来はギンガナムと並び、ソレル家を支える存在。

大柄な男で、その服装も奇異。しかしその性格は小心で、小者的人物である

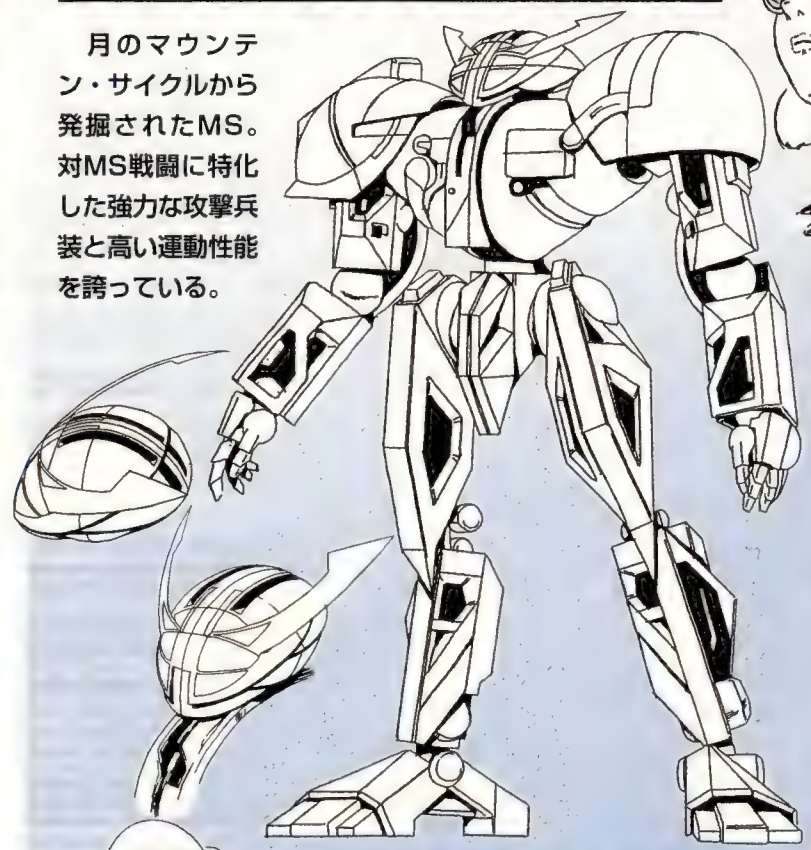
ケイサン・ダーカイ

アグリッパのそばにいる秘書のような存在。名前の通り、とても計算高い性格という設定になっている。



G-MIF／XM-0754　バンデット

月のマウンテン・サイクルから発掘されたMS。対MS戦闘に特化した強力な攻撃兵装と高い運動性能を誇っている。

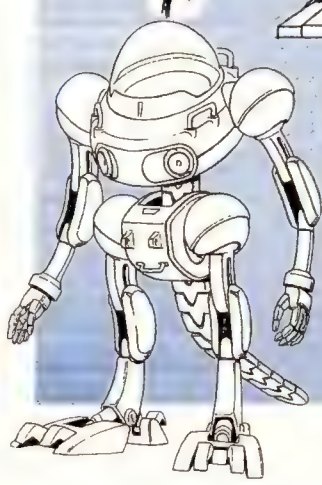


白の宮殿 兵士・待女・待従

ディアナに仕える白の宮殿の召使いたち。ディアナにそっくりなキエル（実はディアナ）を見て驚いていた。

MRC-C03　ベロナ

汎用作業MS。一人乗りである。重力が1／6なので、手足がひょろ長い。背中にコンテナを装着することができる。



第42話 ターンX起動

ストーリー解説

マヒロー隊と睨み合うロランたち。ミハエル大佐は敵とはったりの交渉を行なう。

ギンガナムは、彼らにゲンガナムを攻撃できるはずがないとアグリッパに告げる。アグリッパは穏やかにことを収めたいと考えており、両者の考えは噛み合わない。

ディアナは、このような事態になったのは自分の責任だと考える……。

ギンガナムはターンXを起動させた。その頃、ステロのマヒローがヤを取り押さえようと暴れていた。ロランは必死にその攻撃をかわす。

アグリッパは、そんなロランに月面上でターンXを倒して見せろという。そうでなければ、人質となっているグエンたちを処刑すると。ロランは戸惑うが、戦う決意をする。

ディアナは、アグリッパになぜディアナ暗殺をたくらんだのかと問いかける。アグリッパは、地球帰還作戦に乗じて、穏やかだった月の民が闘争本能に目覚めるきっかけをディアナが作ったのだと答える。

ロランが月面に出ようとした時、月に停電が起こった。ターンX起動のためだ。

キエルがハリーと共に白の宮殿に現われた。ディアナを撃とうとするミドガルドに、キエル、ディアナは自分がディアナだと告げる。

アグリッパはディアナに政権を返すことを拒み、ヤが地球の文明を滅ぼした存在だと告げ、逃走する。

ロランは月面で戦いを開始した。ヤはターンXと呼び合っているようだ。

水野龍司（ミドガルド役）

終盤の参加だったので、役の役割や、ストーリーを把握することもさることながら、個人的にアニメーションの経験がほとんどなかったので、洋画の吹き替えとは違ったキャラクターのデフォルメの仕方に戸惑いました。『ヤガンダム』は年齢的に若い役者さんが多くて、活気がある、一人一人がこの作品を本当に愛しているんだなと思わせる方々ばかりでした。また、慣れない私のような中年にも、優しく、色々と教えてくださり、今改めて感謝しています。

スタッフの視点から

ここでターンXが起動しますが、いきなり暴走して味方殺しまでしてしまいます。

これは単純に刀の錆ですね。敵の数が多いから整理しないといという話もあったんですけれど（笑）。普通のロボットアニメの悪役の行動をしたなぁと。

本当は、ロランが戦って倒すというシチュエイションに持っていければ良かったんですが……なかなか難しかったです。

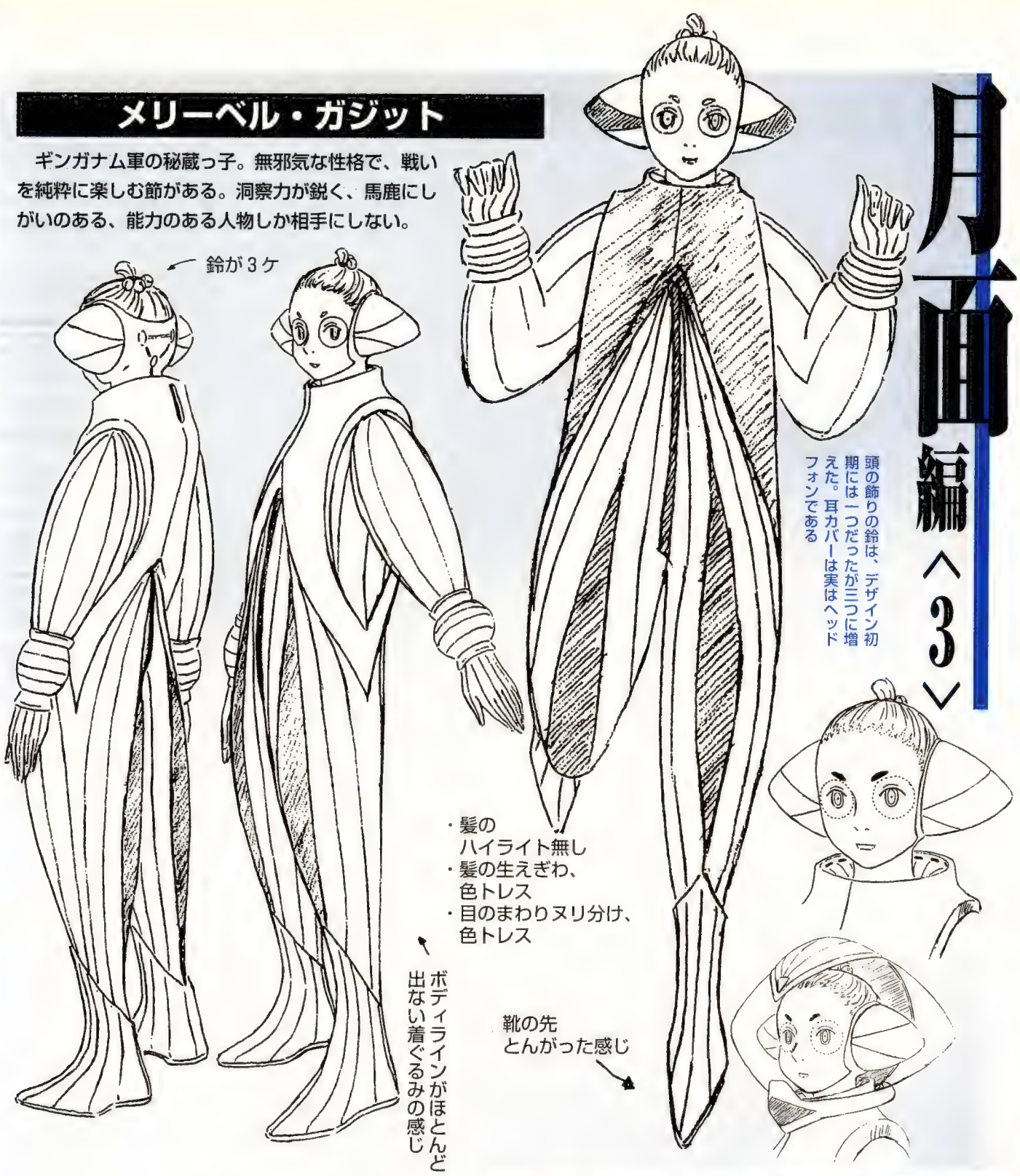
この辺り、アグリッパとギンガナムはお互いに、隙あらば倒そうと考えています。でも、月の枠で物を考えていますけれどね。

アグリッパの秘書にケイサン・ダーカイという女性が登場しますが、最初、彼女はハリーの嫁で、アグリッパの人質だったというアイデアがあったんですよ。でもそういったキャラクター付けが一切消えたので……。ハリーの話であって、ロランに絡みませんから駄目になってしまったということですね。あの名前が体を現しているキャラということで、そういう性格だそうです。

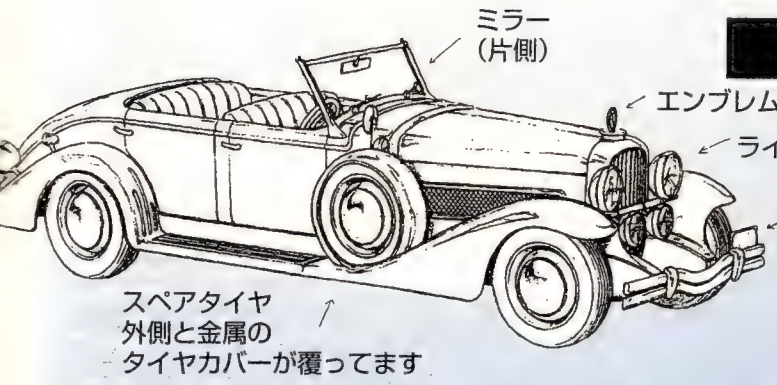
月面編〈3〉

メリーベル・ガジット

ギンガナム軍の秘蔵っ子。無邪気な性格で、戦いを純粋に楽しむ節がある。洞察力が鋭く、馬鹿にしがいのある、能力のある人物しか相手にしない。

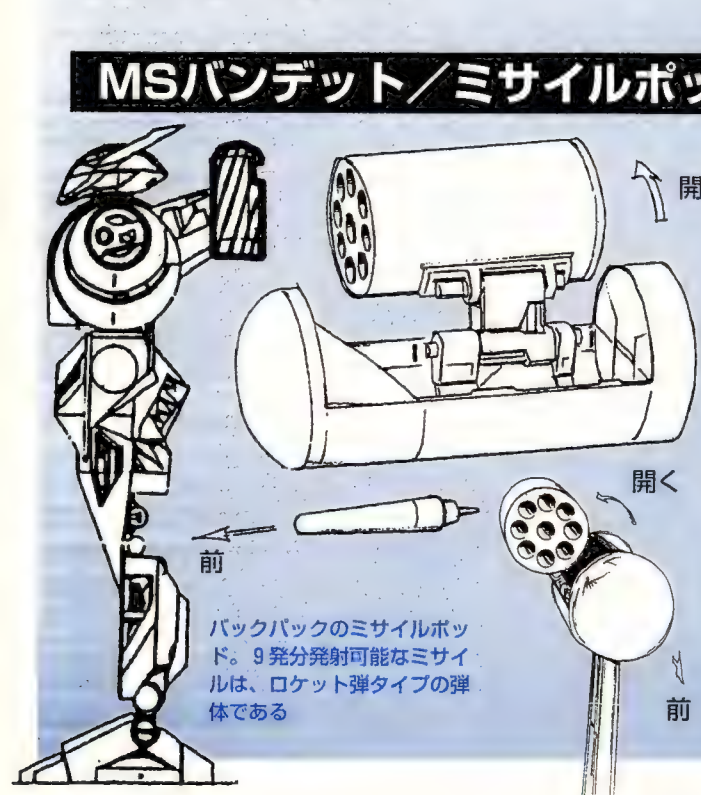


ミリシャ兵たちの乗った車

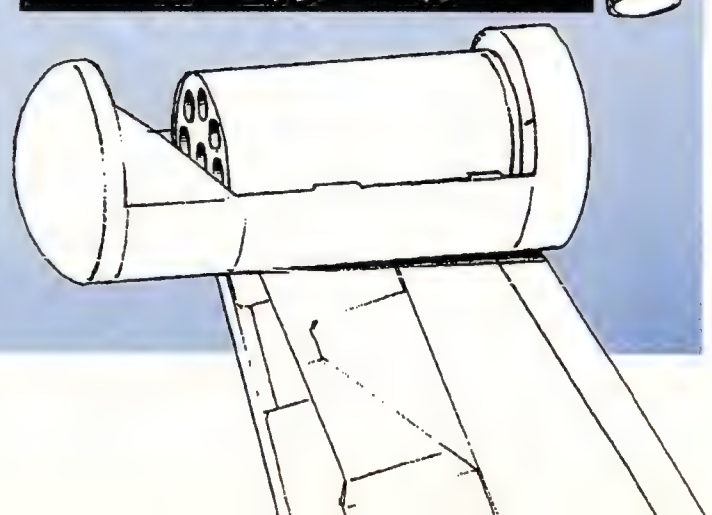


グエンの持ち込んだ地球の車。デューセンバーグが基本モチーフの水素エンジン車。通常は4シートで、後部トランクが開いて6人乗りになる。

MSバンデット／ミサイルポッド



MSバンデット ビームサーベル



第43話 衝撃の黒歴史

◆ストーリー解説

月面で睨み合うνとターンX。ロランは戦いを拒むが、ギンガナムは応じようとしない。メリーベルは、ターンXがかつてνを倒し損なったMSなのだと語る。そして、νは地球の黒歴史を埋葬した存在だと告げる。

そのころ、ディアナ、キエルたちは封印された黒歴史の真実を知るため、アグリッパの管理する冬の宮殿へと向かっていた。

そこは、ムーンレィスたちが冷凍睡眠を行なうための巨大な施設だった。そこでソシエたちは、ディアナとキエルが今までずっと入れ替わっていた事実を改めて思い知ることとなる。二人は、今までずっと二人で一つの心を共有してきたのだった。

地球人など放っておけとの命令を無視したスエッソン・ステロが勝手に出撃した。ディアナの城である白の宮殿前ですら戦うことをよしとするステロ隊の前に、ハリーのゴールドスモーが立ちふさがる。かつてギンガナム軍にいたハリーは、マヒローの弱点を知り尽くしており、たった一機で見事な戦いを展開。ステロ隊を秒殺するのだった。

冬の宮殿には、逃げ延びてきたアグリッパとミドガルドが到着していた。彼らは月から脱出し、ギンガナムと合流するつもりだったのだ。しかし運悪く、そこへミリシャが追いついてきた。ディアナは、地球人に対して偏見を隠さないアグリッパと正面から対決する。そして、地球、月、全ての人々に隠された黒歴史を開く。それは、太古の昔から続けられてきた、二千年にも及ぶ戦いの歴史だった。そして、その中には、地球の文明を埋葬していくνの姿も映っていたのだった……。

◆宇垣秀成(ヤコップ役)

キャラクター全作りに当たってですが、ヤコップやブルーノは、シリアスな役が多い『νガンダム』の中で唯一、楽しいドジな役だったので楽しかったですね。でもふざけすぎてしまうといけないので、そこがちょっと難しかったかな。印象に残っているのは、ウガンダさんが演じたスエッソン・ステロ。出てきたときは、『おーそのまんまだなぁ』と思いました(笑)。個人的に好きだったと言うか、演じてみたかった役は、ギム・ギンガナムかな。

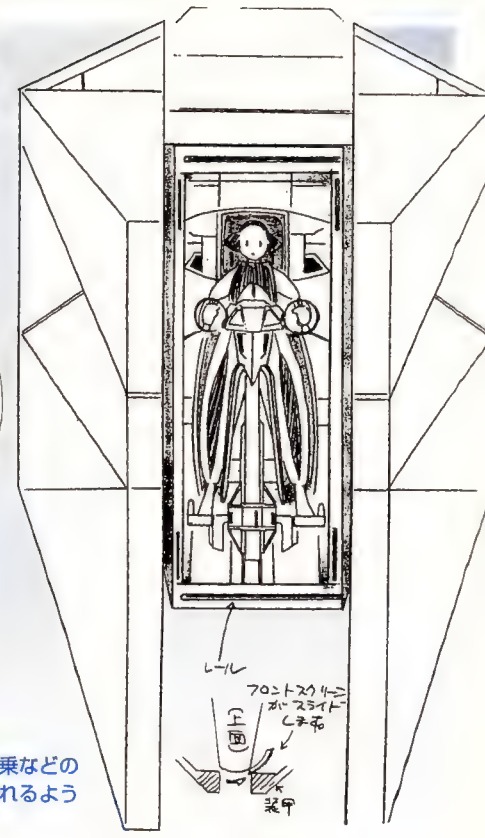
◆スタッフの視点から

この43話は全ストーリーのキーポイントになる話ですね。ディアナとキエルの入れ替わりもここで終わらせました。もしかしたら、最後まで入れ替わったままでとも考えられましたが、もはや双子的な効果がないんですね。監督が当初考えていた、ディアナが黒歴史の秘密を地球人に突きつけるという話でスタートして、ただその後どう着地させるかが次のステップ。とりあえず、ここまでは見えていたんだけど、ここからはどうやって終わらせようかと。最初はこれ以後ミリシャが黒歴史のデータを利用して強力になり、ロランとディアナの敵になってしまうという……。要するに、黒歴史を見たおかげで、それぞれの価値観が180度転換して……っていうストーリーも考えていたんだけど、そういう話にはなりませんでしたね。黒歴史を知ったからって人がそんなに変わるかというのもありました。だから、ちょっと強引にグエンのポジションを変えたくらいのことしかできませんでしたね。

月面編〈4〉

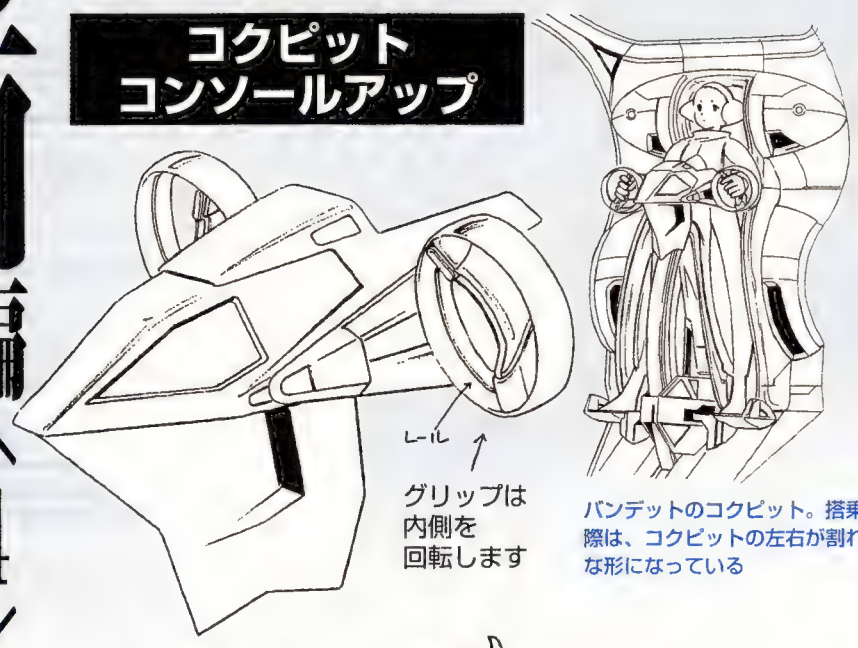
MSバンデット/コクピット

立ち乗り形式になっているコクピット。バンデットは数機が発掘されたが、パイロットはメリーベル一人で、あとの機体は無人機という設定になっている。



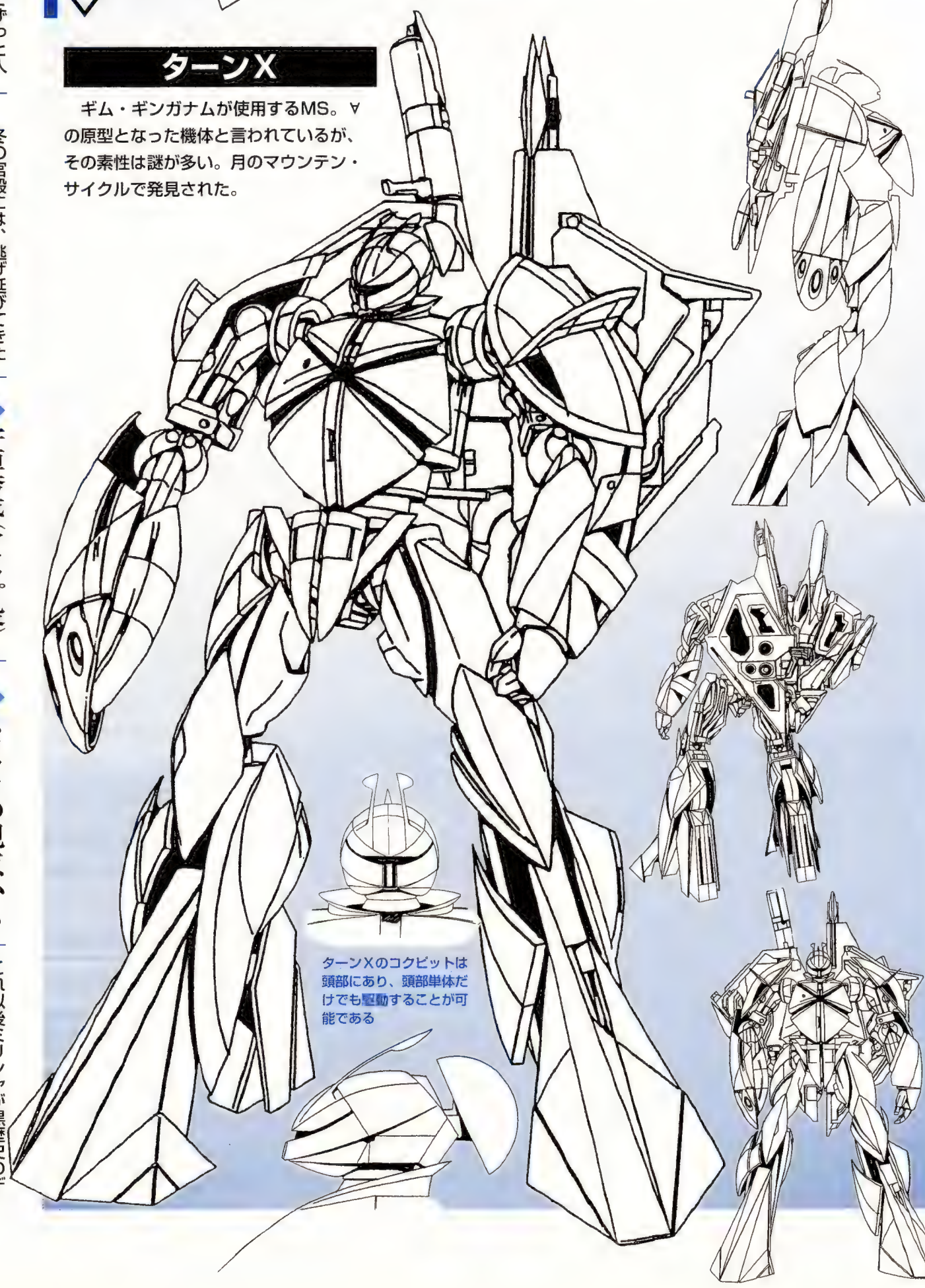
バンデットのコクピット。搭乗などの際は、コクピットの左右が割れるような形になっている

コクピット コンソールアップ



ターンX

ギム・ギンガナムが使用するMS。νの原型となった機体と言われているが、その素性は謎が多い。月のマウンテン・サイクルで発見された。



Kihel Heim

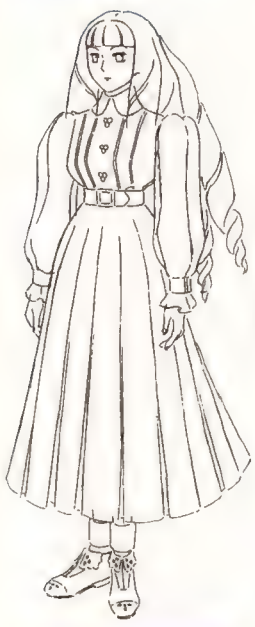
キエル・ハイム

地球のお嬢様としてのファッションが多かったキエル。そのデザインをここに公開する。

キエルの服

＃27から登場

形のしっかりとしたブラウスと、青いロングスカート姿



キエルのコスチューム

＃4に登場

ボレロ風の上着をまとった簡素なドレス。普段着と言えるだろう

手袋してます

寝巻き姿

＃1に登場

白いネグリジェタイプのもの。薄い素材のものだと思われる

公務姿

＃10に登場

グエンの秘書の姿。まとめた髪とフリルの多いブラウスが特徴

パーティードレス

＃2に登場

パーティー用にあつらえたもの。イブニングタイプのドレス

ドレス

＃47に登場

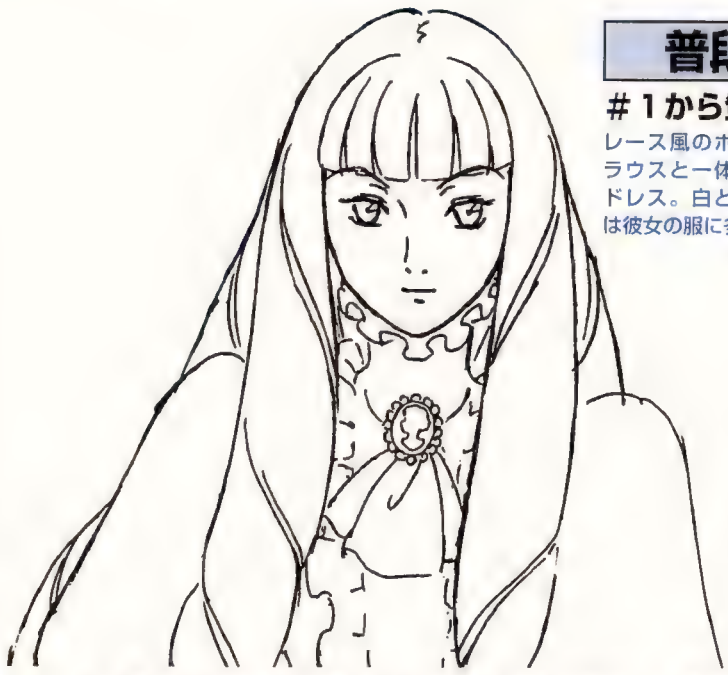
秋冬用のドレス。色はシックな紺色。ソレイユ搭乗の際に使用した

手袋してます

普段着姿

＃1から登場

レース風のボレロが、ブラウスと一体化しているドレス。白と青の色使いは彼女の服に多い



下着姿参考

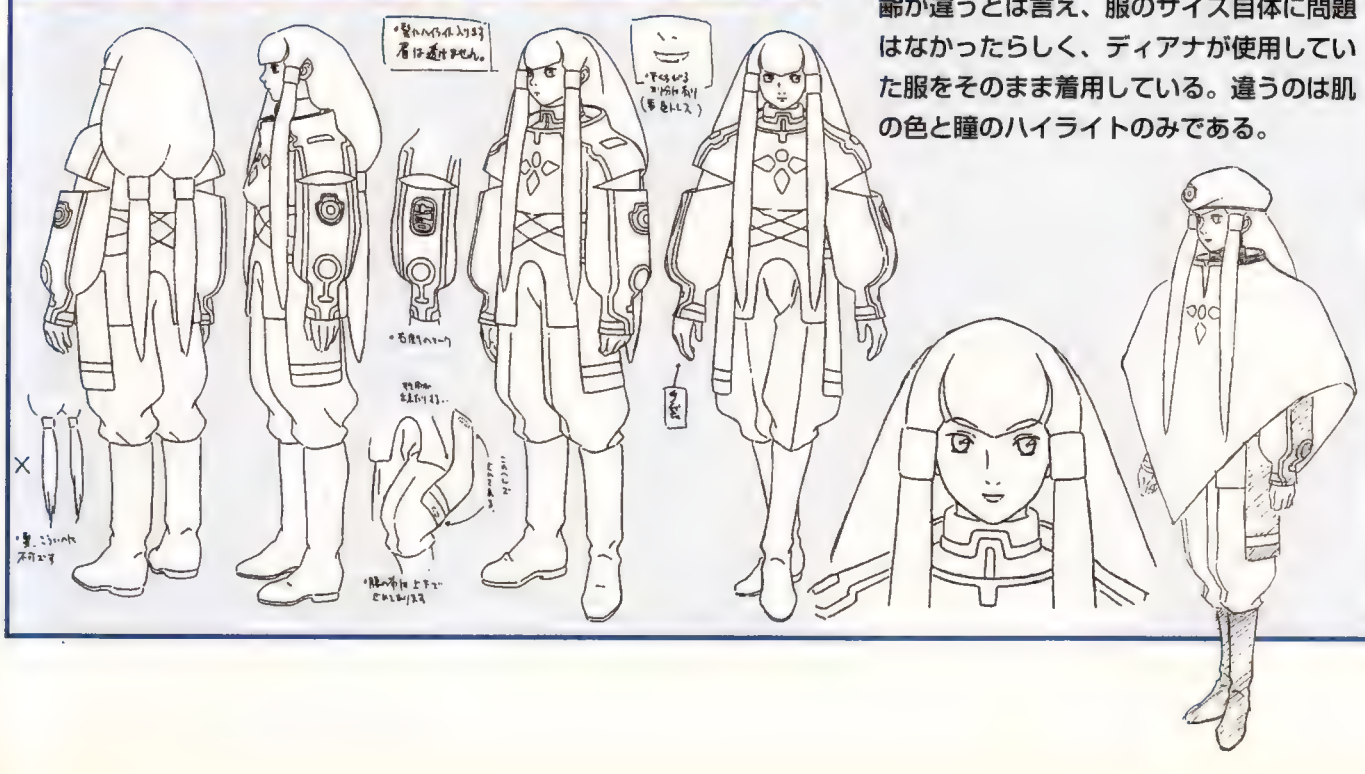
＃35に登場

レースをふんだんにあしらった下着。ごくふつうの女性のもの

ごく普通の上流階級の娘としての服装が多いキエル。長い金髪に合うように、白、青の組み合わせの服が多い。これは彼女のセンスの良さを表わしている。ロングドレスが多いのは、この時代の女性のたしなみと言えるだろう。

ディアナになったキエルの正装

基本的にはディアナとまったく同じ。年齢が違うとは言え、服のサイズ自体に問題はなかったらしく、ディアナが使用していた服をそのまま着用している。違うのは肌の色と瞳のハイライトのみである。



turn A world for Episode Fashion

Dianna Soriel

ディアナ・ソレル

女王としての威厳あるものから、キエルとしてのお嬢様ファッションまで、幅広い服装を披露した。

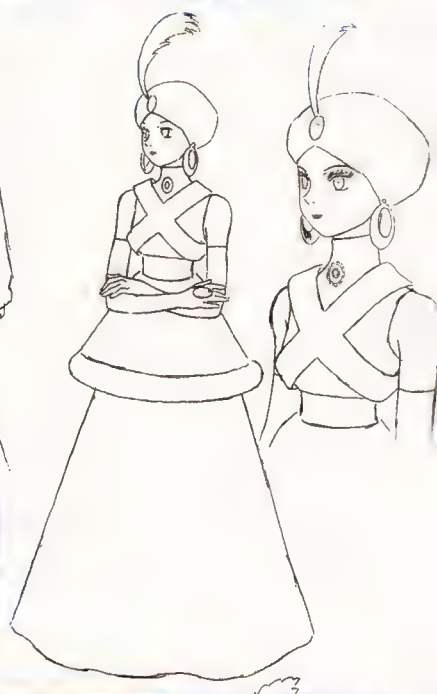
女王としての正装は、月のイメージを表わしたのか、白と紺というシックな色使いのもの。女性らしさというよりは、月の女王としての威厳のようなものを感じさせる。キエルとして行動するようになってからは、実に様々なファッションを見せてくれた。

宇宙服髪型参考

巻いた髪をポニーテールにしている。これなら無重力でも髪が広がることはない

パーティードレス

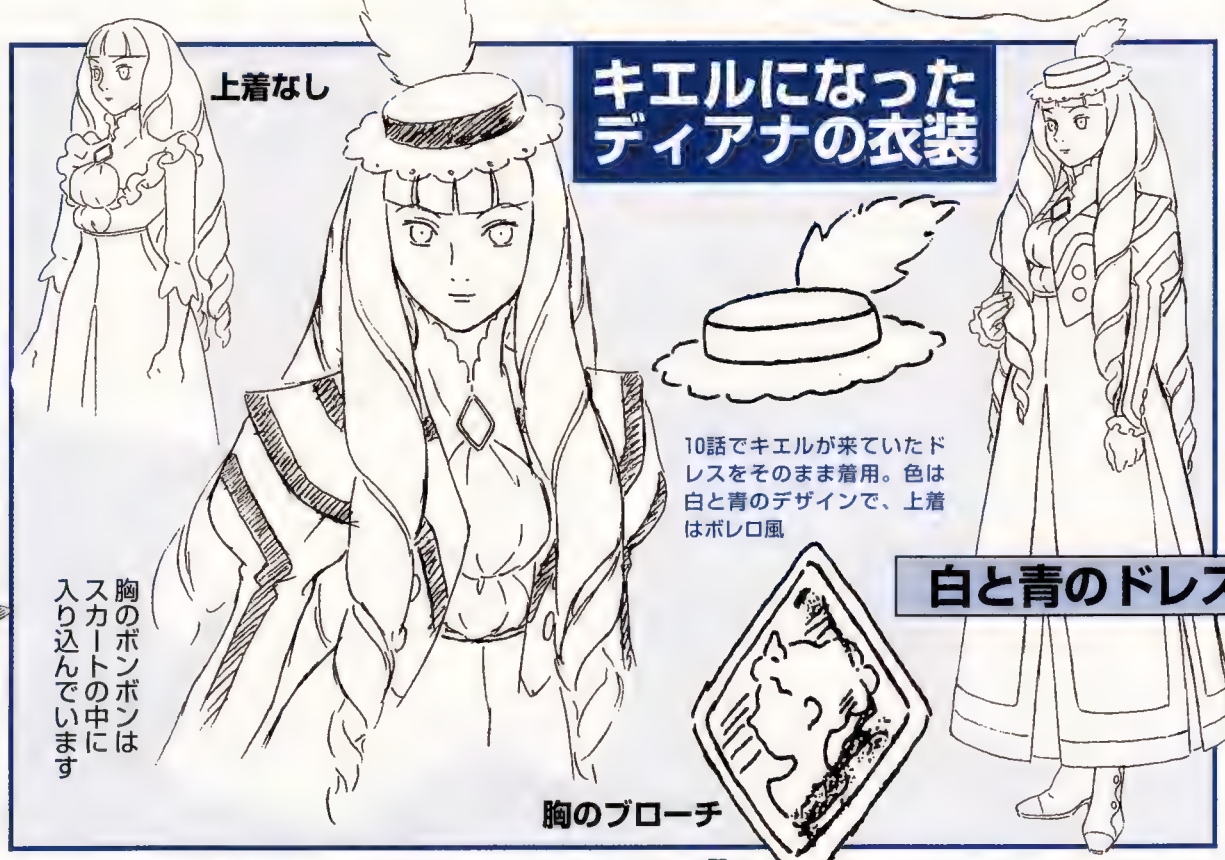
珍しく化粧をしている姿。ドレスは月独特のデザインで、白が基調となっている



パーカー姿

ディアナと悟られない変装のため、運河人に急遽借りたもの。色は紺色

キエルになったディアナの衣装

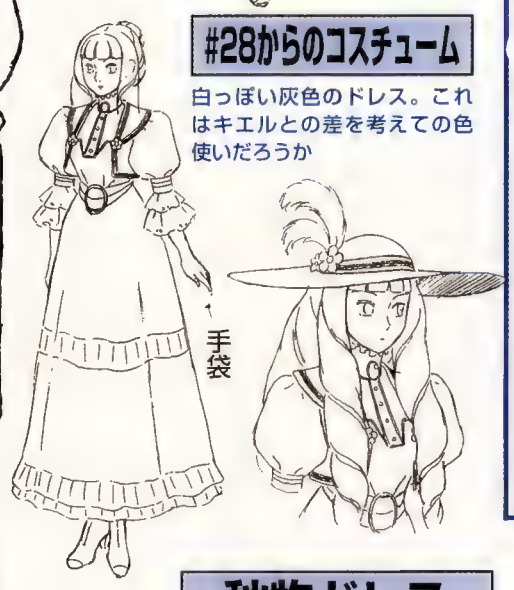


10話でキエルが来ていたドレスをそのまま着用。色は白と青のデザインで、上着はボレロ風

白と青のドレス

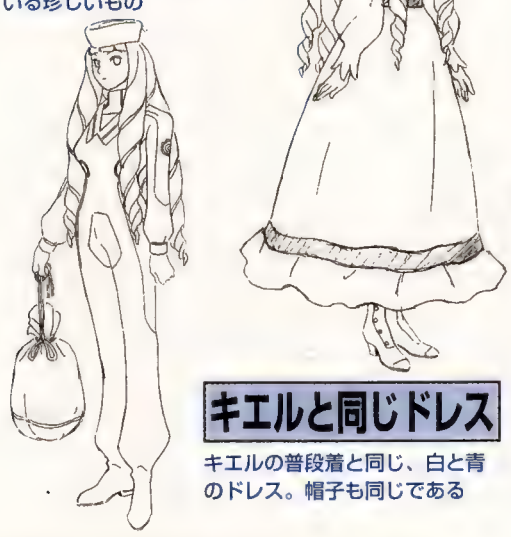
#28からのコスチューム

白っぽい灰色のドレス。これはキエルとの差を考えての色使いだろうか



一般兵姿

ソレイユ侵入の際に使用。体のラインが出ている珍しいもの



秋物ドレス

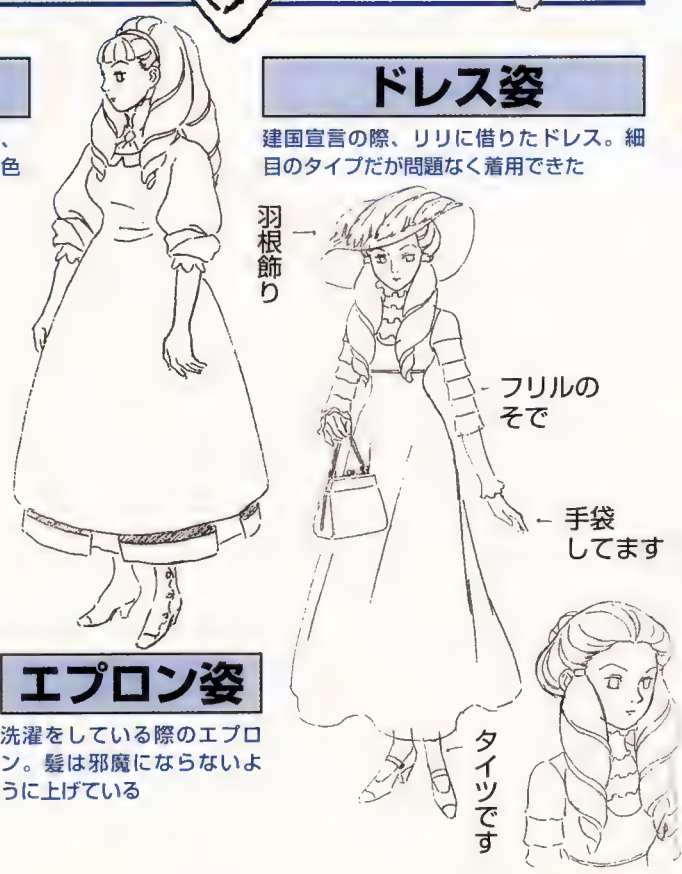
キエルと同じデザインのドレス。おそらく、後にキエルにゆずったものと思われる

看護婦姿

邪魔にならないよう髪をまとめ、エプロンをしている看護婦姿。色は白でまとめられている

ドレス姿

建国宣言の際、リリに借りたドレス。細目のタイプだが問題なく着用できた



キエルと同じドレス

キエルの普段着と同じ、白と青のドレス。帽子も同じである

エプロン姿

洗濯をしている際のエプロン。髪は邪魔にならないように上げている

第44話 敵、新たなり

ストーリー解説

アグリッパとの睨み合いが続く中、ディアナはアグリッパを激しく糾弾する。そして今すぐ戦いをやめさせるよう告げる。

キエルもそれに続き、アグリッパの考えを否定する。地球人は覚醒を始めていたと。

しかしアグリッパはあくまでも闘争本能に目覚めた者は排除するべきという考えを覆すことはない。

月面では、いまだ∀とターンXの戦いが続いている。

その頃、白の宮殿周囲や街では暴動が起きていた。黒歴史の映像を見せられた市民達が真実を求めているのだ。

ハリーは暴走しそうなマヒロー隊をとどめるべく出撃、ステロと睨み合う。

ディアナとキエルはアグリッパを亡き者にしようとするが、それを行ったのはミドガルドだった。そしてミドガルドはディアナまでも殺そうとするが、リリの機転によって危機を脱する。

ウィルゲムは冬の宮殿近くに退避していた。ディアナはこの周囲でのMS戦を固く禁じる。

冬の宮殿には一千万人ものムーンレィスが眠っているのだ。

しかし戦いは起こってしまう。そこへ、ミドガルドのジャンダルムが駆けつけた。ミドガルドは冬の宮殿を巻き込む攻撃をも辞さない。ロランは宮殿を守るため、∀の月光蝶の力を発揮してその攻撃を退けた。

そして人々の暴動を鎮めるため、ディアナは全ムーンレィスに向けて演説を行なうのだった。

石丸博也（マリガン&アグリッパ役）

アグリッパっていうのは、自分の信念を貫くこともできず、あまつさえ部下を置いて逃走するような、精神的に成長の出来ていない男。

あっけないと言えばあっけない死に様については、身勝手な男の自業自得な最後だと思うよ。『∀ガンダム』で印象に残っているのは、やはり最終回でしょうか。

スタッフの視点から

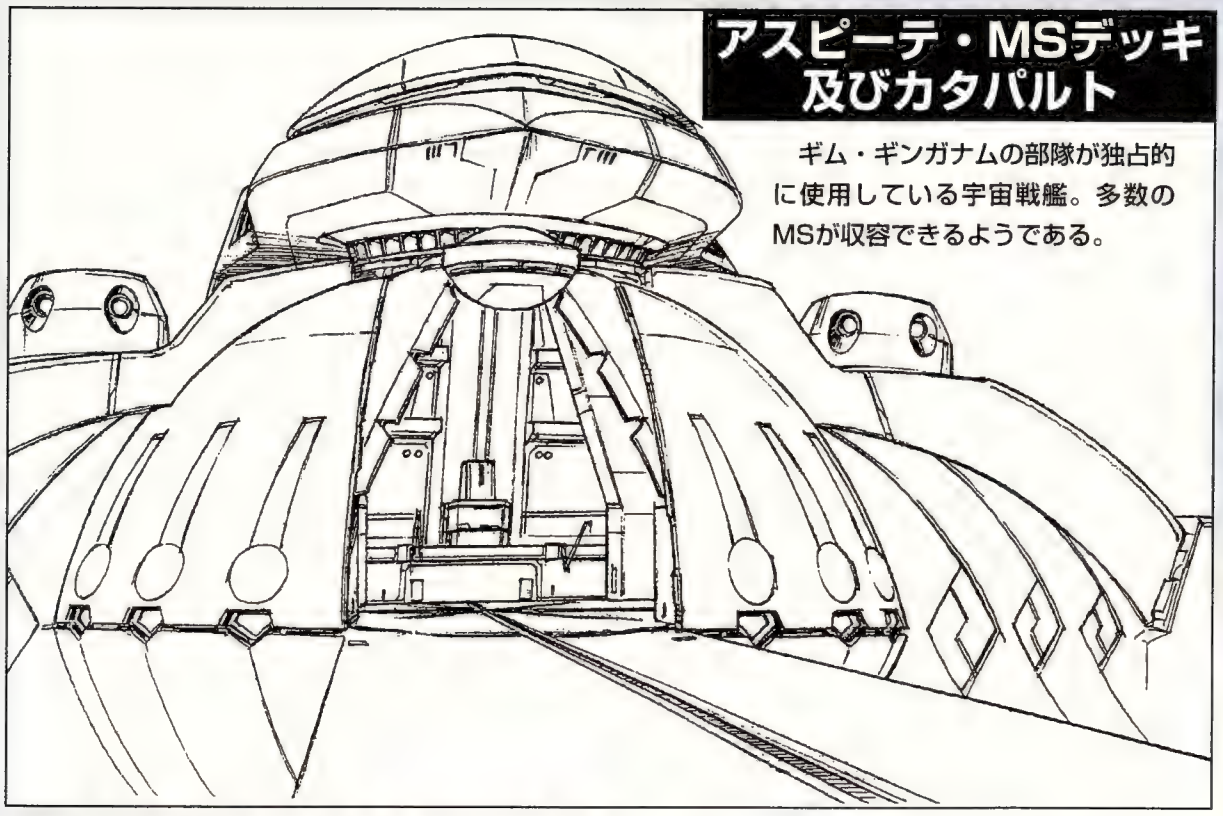
アグリッパが死んでしまうわけですが、最後の敵にするという案もありました。けれど、ギンガナムもいますから、この辺で殺しておかないと（笑）。ミドガルドの攻撃を防ぐシーンで月光蝶らしき光が出ていますが、これはのちの伏線ですね。一応、エネルギーを吸収したりしているんですよ。

ミドガルドの最期については、『暴れん坊将軍』の『成敗』です、まちがいなく。酷い死に方ですね。

あと、実はこの回でハリーが死ぬはずだったんですよ。実際、ハリーは何回か死ぬ予定だったんですけどね。47話でもそうだったし。結局、生き延びました。もう残り話数をカウントして、途方に暮れていた頃ですね。何話で誰を処理して……という。最終回になっても戦争が終わらないというのもありだと思いますけれどね。その意味では、戦争の中枢に関わる人を出しすぎたかも知れない。最初富野さんの言っていた、巻き込まれた民衆の側からだんだんと戦争が広がっていく、というような話だったのが、この頃になると完全に上層部の話になっていますね。

月面編〈4〉

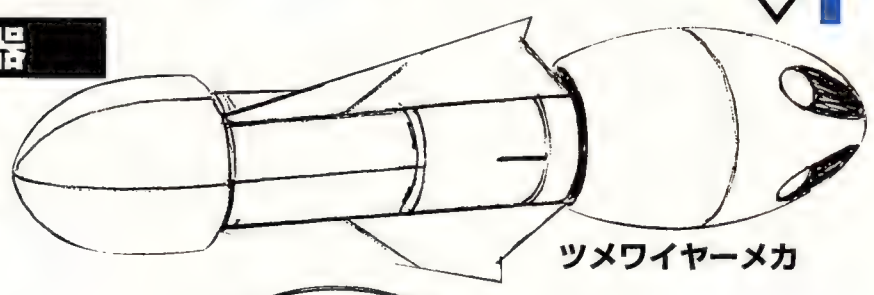
アスピーテ・MSデッキ及びカタパルト



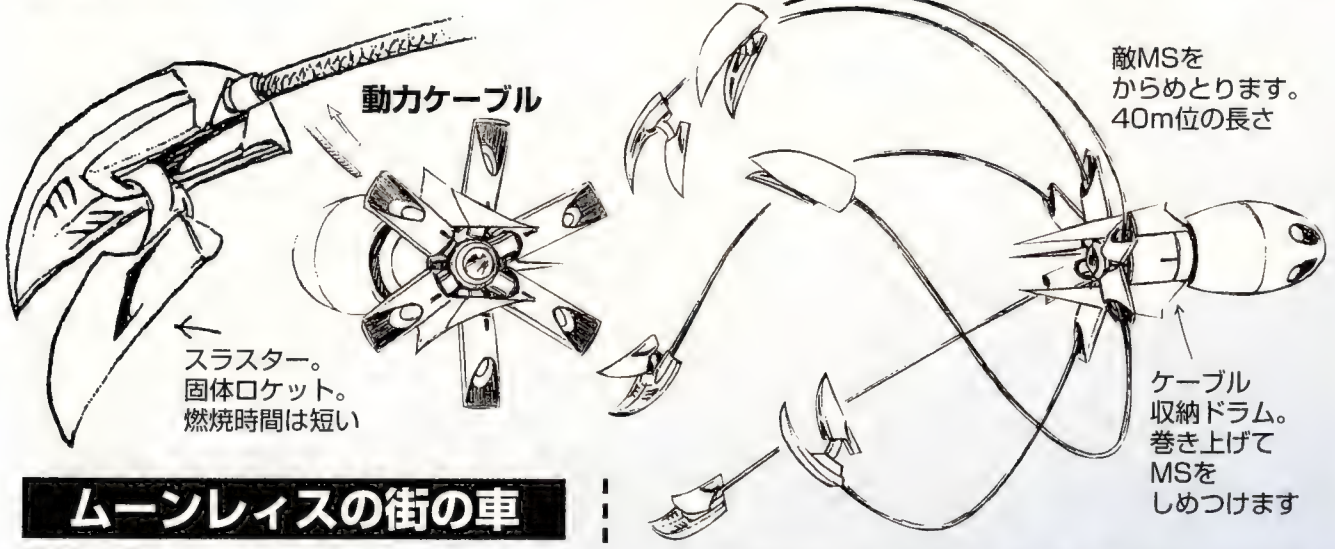
ギム・ギンガナムの部隊が独占的に使用している宇宙戦艦。多数のMSが収容できるようである。

MSバンデット／武器

バンデットの腕に装着されている武器。ツメワイヤーメカと称されており、仕込まれているワイヤーは約40メートル。これを使って敵MSなどを絡め取り、得意の接近戦に持ち込むのだ。

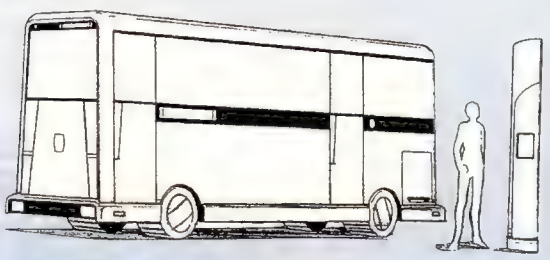


ツメワイヤーメカ

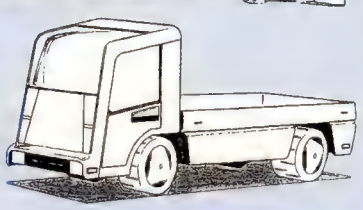


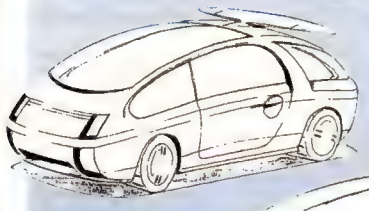
ムーンレィスの街の車

地球のものとは多少違い、スマートなタイプのものが多い車。過剰な装飾などはなく、実用的なイメージでまとめられている。小型のものが多いようだ。

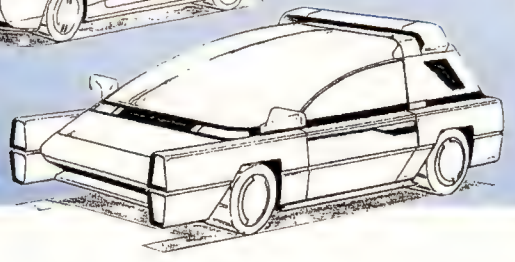


バスのような車。月の道幅に合わせてあるのか、かなり細目のデザインである。ドアは前後に2カ所設置



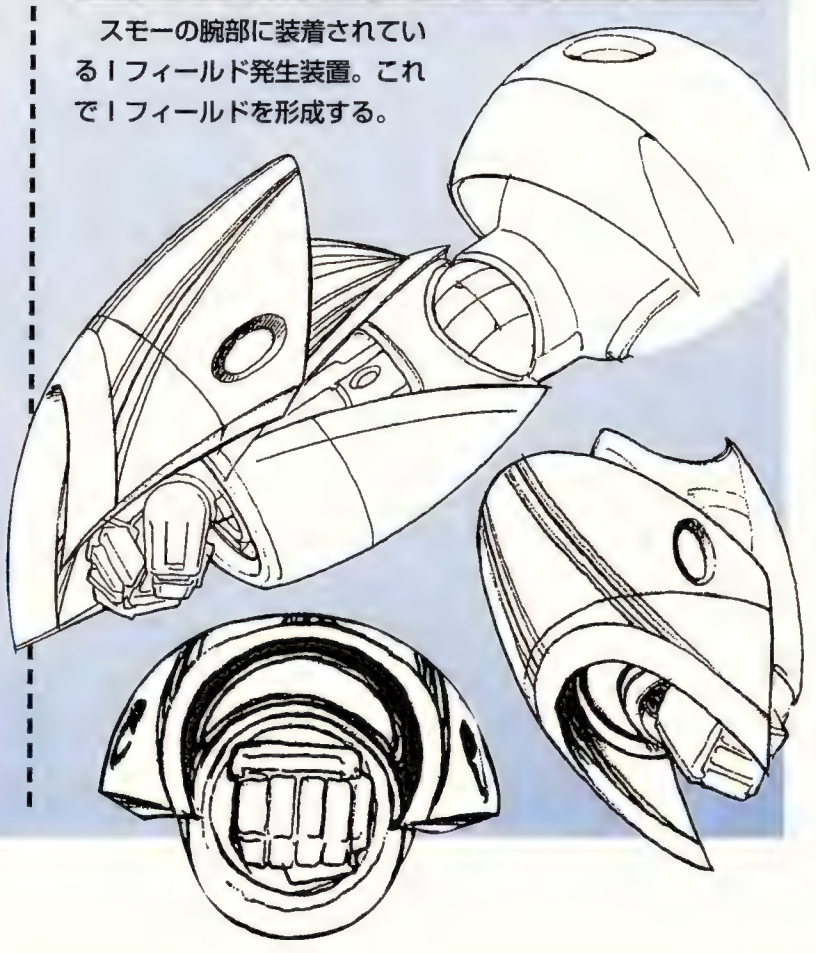


月の一般車両。やはり小型のものが多く、地球の車に多い過剰な装飾はほとんど見られない



MSスモー用Iフィールドジェネレーター

スモーの腕部に装着されているIフィールド発生装置。これでIフィールドを形成する。



第45話 裏切りのグエン

◆ストーリー解説

暴動は収まった。月の民は真実を知り、落ちついてきている。フランは街中を取材して回る。

ウィルゲムには、グエンの命令で冬の宮殿から黒歴史のデータが持ち出されていた。グエンはこれらのデータを使ってアメリアの科学技術を格段に上げ、文明開化をするつもりなのだ。

ギンガナムが白の宮殿に参上した。ディアナはギンガナムにマウンテン・サイクルで堀出したMS、ターンXを渡すよう要求する。ギンガナムはその件を渋々ながら了承する。しかしそこへ、グエンが現われてギンガナムに取引を持ちかけた。同盟を組もうと言うのだ。

ウィルゲムが地球に向けて出航することとなった。しかしこのことは一部の者だけにしか知らされていない。ロランはそれを知らされ、いきなりのことに反発する。ロランは月へ戻ろうと、∀で出撃。ウィルゲムを月へ押し戻そうとする。しかしそこへ、ターンXが現われた。戦う∀とターンX。ターンXの威力に押されたロランはコア・ファイターでたった一人戦場を脱出する。

◆夏樹リオ（メリーベル・ガジット役）

監督からは、メリーベルは全てにおいて悟ってしまっているけれど、頭が良いので、そんなことは全然表に出さない……、と、いうようなことを最初にお聞きしました。最初はすごく考えて役を作ったりしたんですけれど、考えれば考えるほどわからなくなってしまって。途中からホントに真っ白になってしまいました。本当に難しかったです。

印象に残っているシーンは、ラストのグエンと一緒にいるメリーベル。グエンみたいな人は、野望とか陰謀とかを追いかけている方が幸せで、それを達成した途端、破滅していくんじゃないかと思うんです。そういう意味で、ロランたちと出会えたことは、彼にとって幸せだったんじゃないかと……。私はラスト10話からの参加だったので、スタジオの中はラストに向けてもうすごくテンションが上がっていて、度々皆さんに助けて戴きました。すごく熱い作品だったと思います。色々な意味で、参加させて頂けたことが自分の糧になっていると思いました。

◆スタッフの視点から

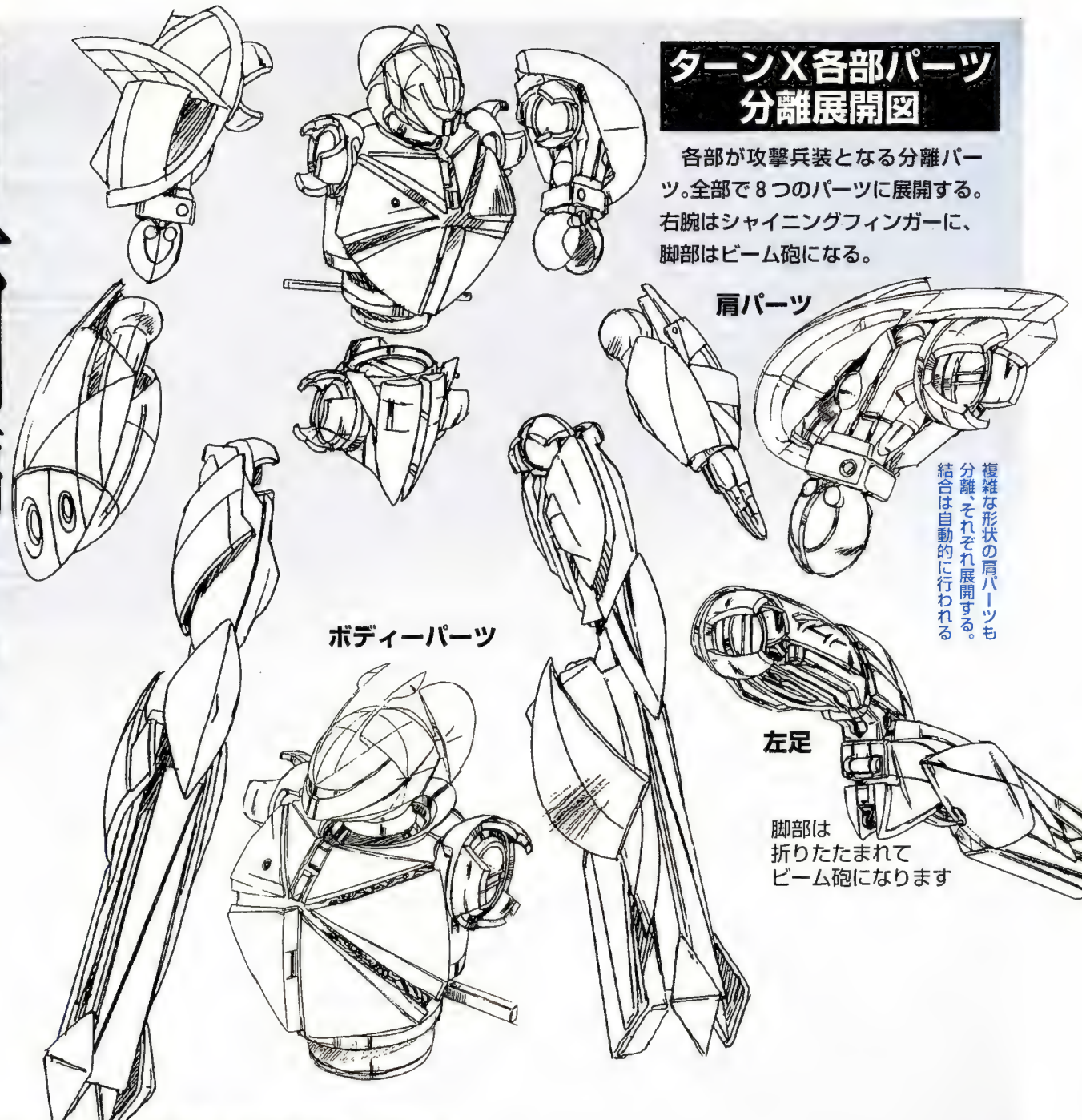
ギンガナムが裏切ったのは、グエンと組むことになったからでしょうね。特に、彼らは補給無しではやっていけない。基本的に使う側の人たちですから。誰かが作ってくれないとご飯も食べられない人たちですし。補給部品とかもないわけじゃないですか。だからその生産施設を月にきちんと押さえておかないと好きに演習もできない。それで今まではアグリッパからもらっていたんでしょうけれど、ディアナが押さえちゃった。だからディアナの命令に従わなければならないのかと思っていたら、グエンがお金を出してくれると。だから彼と組んでしまったわけです。ギンガナムは戦いたいだけの人だから、口実があればいいんですね。

あと、ここでコア・ファイターが出てきますが、最初はどこで使おうとかは全然決めていませんでした。凄い機能がある∀をロランが間違って使って街を滅ぼした、っていうのはさすがにまずいから、じゃあ敵に奪われるシチュエイションを作りましょうと。それでロランはコア・ファイターで脱出するわけです。

月面編〈5〉

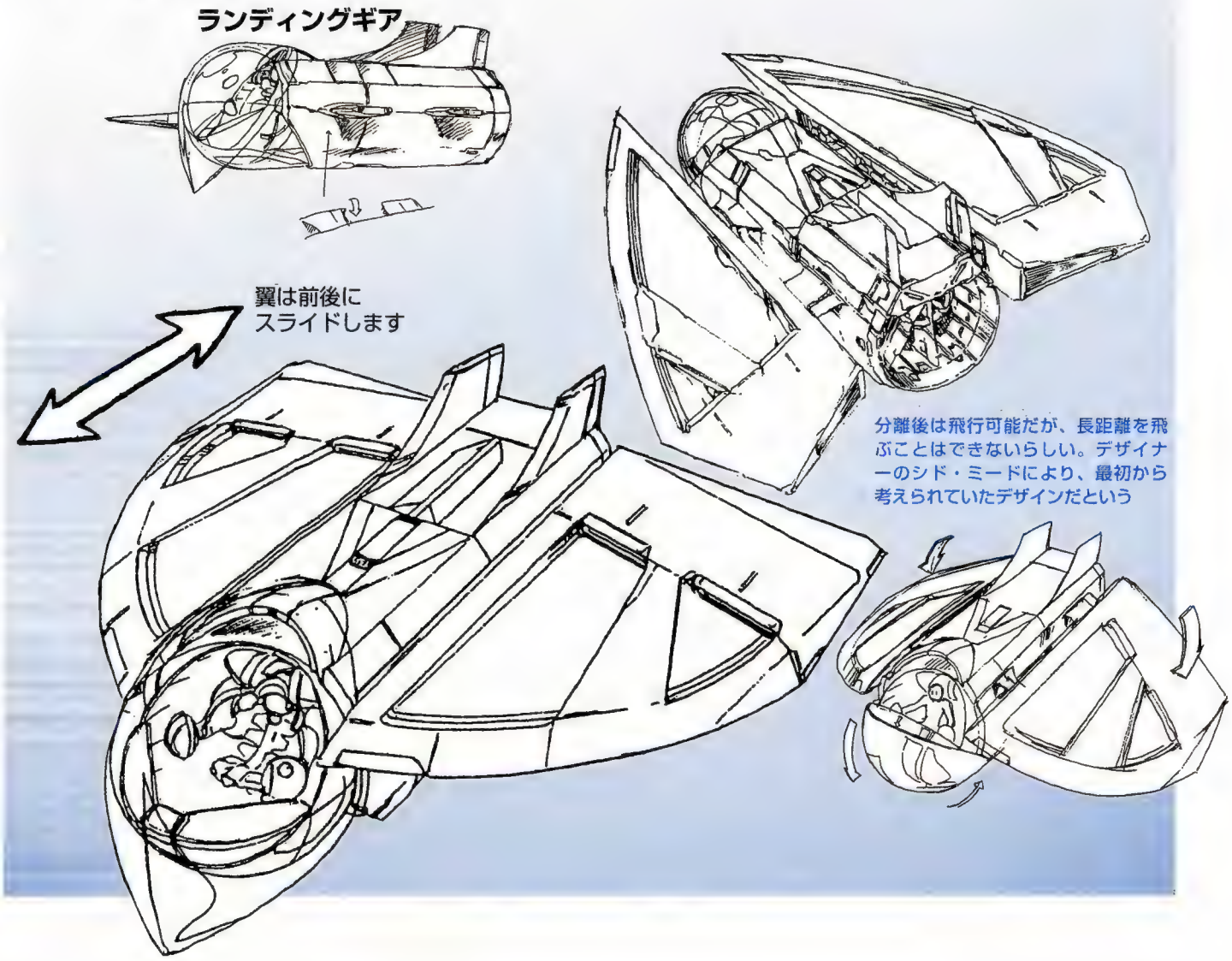
ターンX各部パーツ分離展開図

各部が攻撃兵装となる分離パーツ。全部で8つのパーツに展開する。右腕はシャイニングフィンガーに、脚部はビーム砲になる。



∀ガンダム／コア・ファイター

∀ガンダムのコクピットブロック。着脱はかなり容易であり、数人でも短時間で換装が可能。固定武装は不明で、本編では急遽ミサイルが取り付けられていた。



第46話 再び、地球へ

ストーリー解説

脱出したロランはゲンガナムへ逃げ込む。ウィルゲムはVを回収し、地球へ向かって航行を開始した。

ロランは事の次第をディアナたちに報告、今後の事を相談する。追ってVを取り戻そうと言うディアナ。しかしギンガナムの動きが速すぎる。港はギンガナム軍に抑えられているらしい。実際、ギンガナム軍のMSはディアナの専用空港にある宇宙船をすべて破壊していた。

しかし人々の心はディアナの上にあった。地球へ航行可能な船も見つかった。ムーンレイスの人々と協力し、船の整備が行われる。その中には、ロランの幼なじみ、セント、ドナ、ハメットの姿もあった。

月のギンガナム・ズサン部隊がその阻止に出撃してきた。そうと知ったハリーは船を守るため、数体の親衛隊とロランのコア・ファイター、ボルジャーノン、カプルと共に出撃。そして見事敵を撃破する。

船は整備を終え、ホエールズと名をつけられて月の重力を脱出して行った。

鬼頭典子(メシェー役)

監督からは、『男の子っぽくしゃべろうとしなくていい』と言って戴いて楽になりました。でも、折りに触れ、もっとパワーとか元気さを出すように言われたことがあります。女の子なのにボーイッシュで、戦える。たまらなくおいしいキャラでしたが、その分、戦闘シーンが多くて、台詞も大体が叫んでばかりいましたからニュアンスとかリアリティを出すのがとても難しかったですね。『ボーイッシュにしゃべる』ということに捕らわれて、台詞が淡泊になってしまいがちでした。とり直したいところ、いっぱいあります……(笑)!

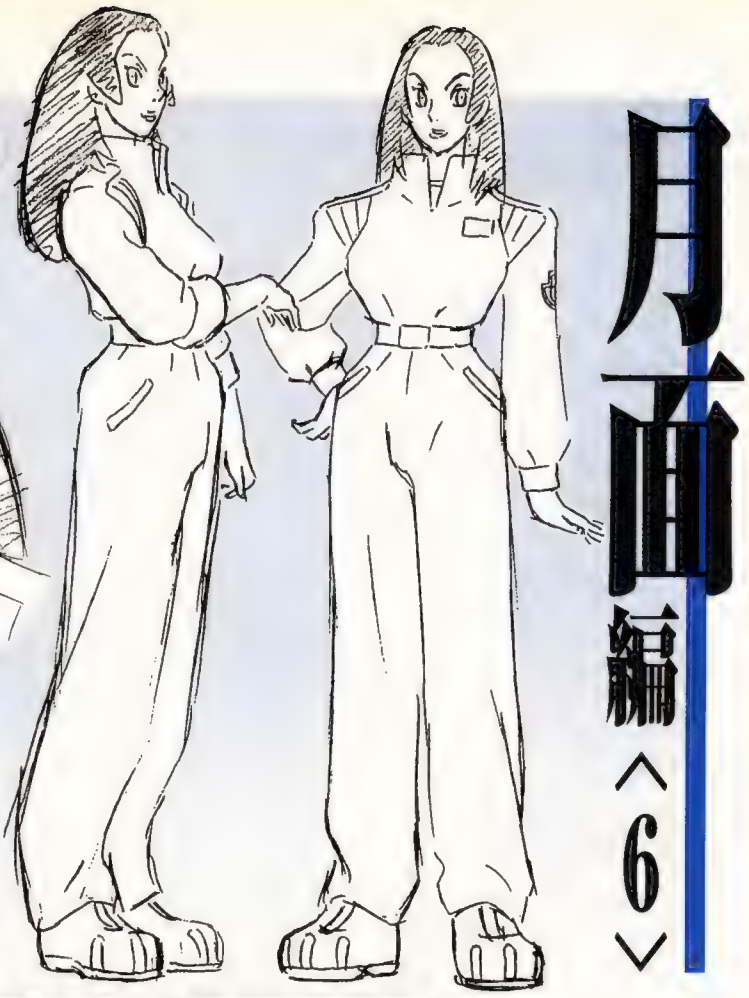
印象的なシーンは『夜中の夜明け』のラスト。核爆発のシーンはやっていてゾッとしました。ロランを始め、メインキャストは個人的にみんな好きですが、あほなヤーニとか、暑苦しいコレンとか、渋すぎるミドガルドとか、脇役陣の愛らしさもたまらなかったです。イッちゃっているギンガナムも好きでした。

スタッフの視点から

比較的単純な、ガンダムっぽい話ですね。唐突に出てきたように見えるがMSズサンは、コンテチェックの段階でネタが足りないと言うことで出すことになったメカ。非常に昔のガンダムに近い話ができあがったんです。ズサンの作業も突貫でした。三日くらいで仕上げられるMSは何かないかっていう選択だった。それにズサンの活躍するシチュエイションも作らなきゃならなかった。でもただミサイルとビームを撃つだけのメカだったらつまらないでしょう。何にしようか……と言うことで、ズサだったら変わった戦い方もできるんじゃないか、ミサイルだけじゃなくて、変な紐をつけたパンチみたいな奴にしたら面白いんじゃないかな……という打ち合せをしてました。3日で作るという前提で。

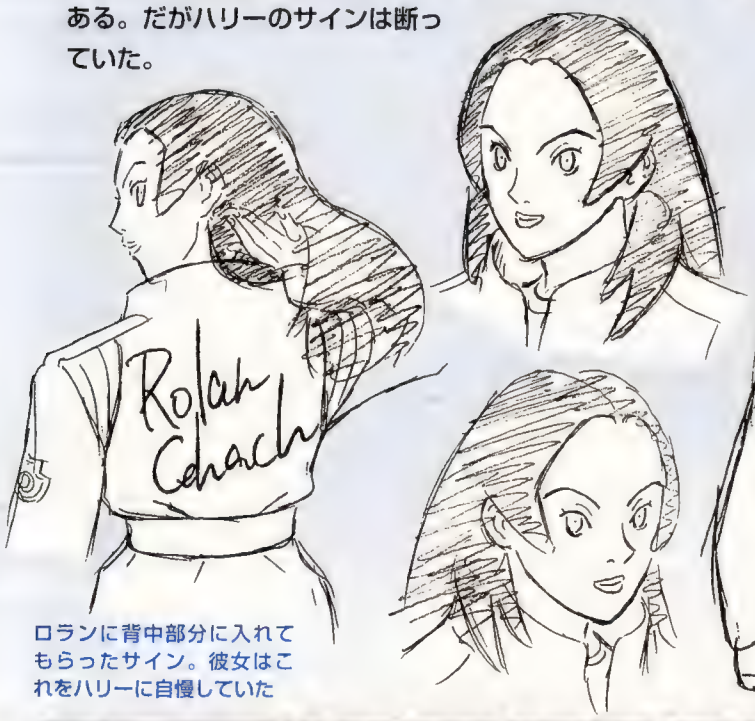
この時、ディアナとキエルは二人してお茶を飲んでいますが、ディアナは外の戦闘のことを知っているけれど、キエルは知らないという設定。その辺は、フィルムを見ただけではちょっと分からないですね。船を修理している人たちに知らせると大騒ぎになりますし。

月面編〈6〉



女性隊員

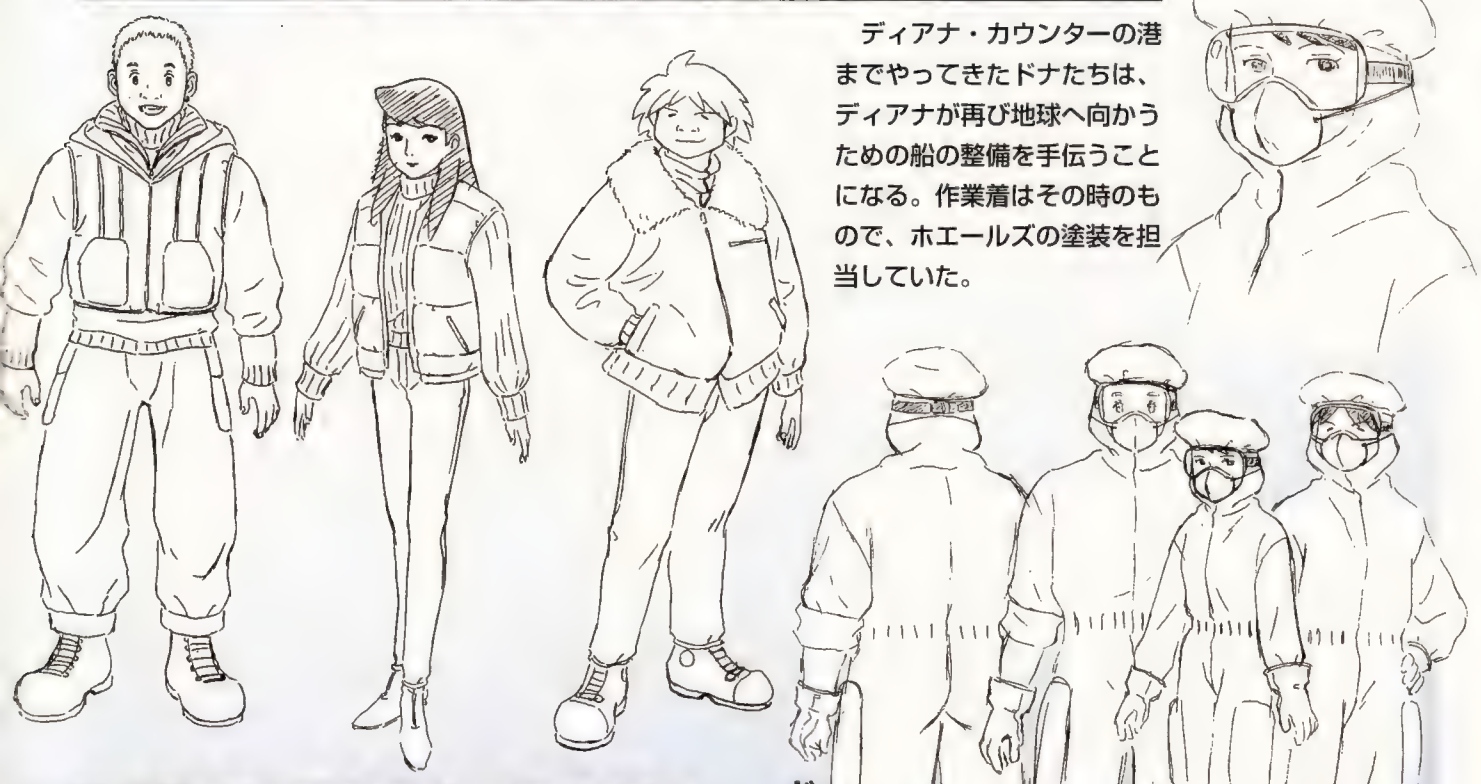
双子の整備員。ディアナ・カウンターの一員らしい。ロランにサインをねだったりと、妙にミーハーな面がある。だがハリーのサインは断っていた。



ロランに背中部分に入れてもらったサイン。彼女はこれをハリーに自慢していた

ドナ・セント・ハメットの冬服

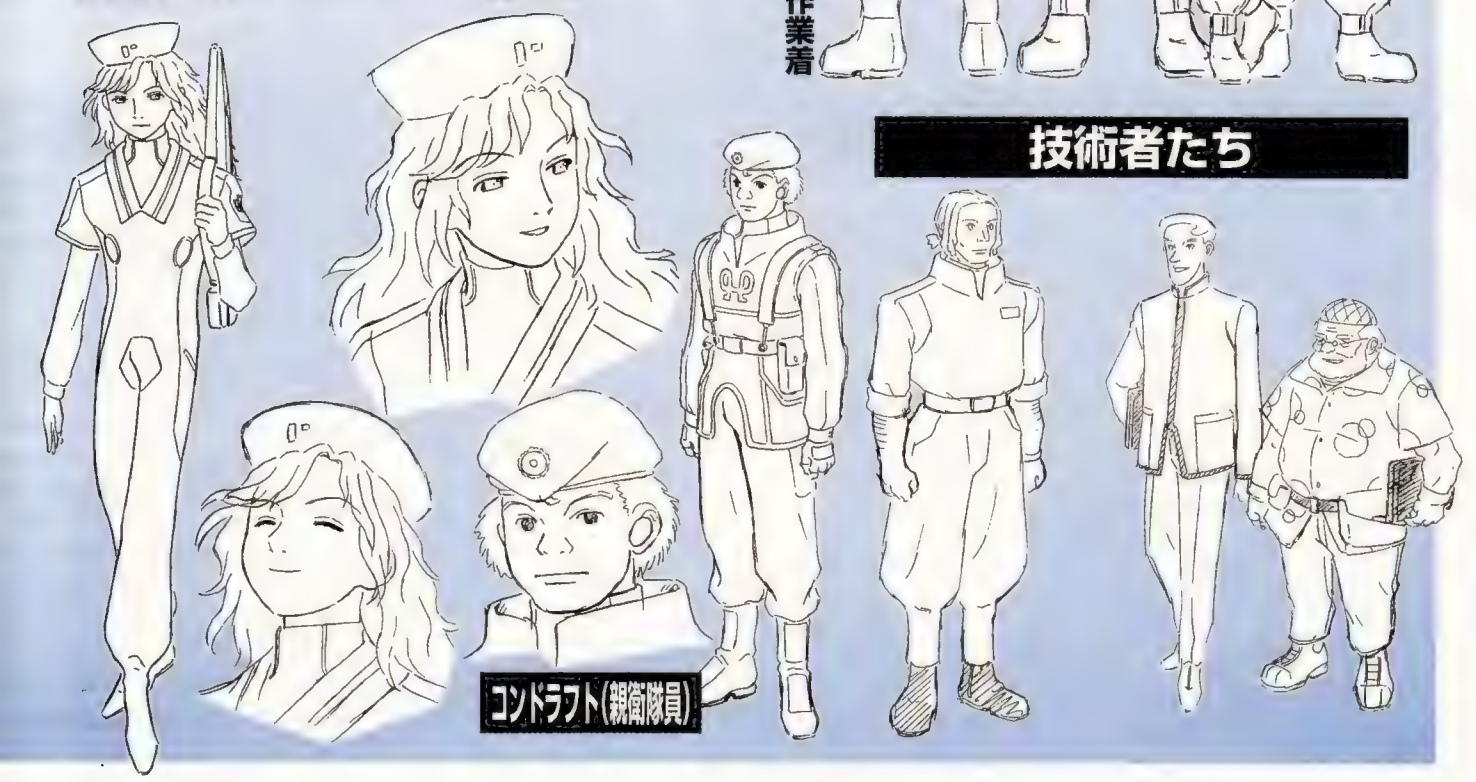
ディアナ・カウンターの港までやってきたドナたちは、ディアナが再び地球へ向かうための船の整備を手伝うことになる。作業着はその時のもので、ホエールズの塗装を担当していた。



ドナたちの作業着

ディアナ・カウンターの少年兵

メシェーといい雰囲気になっていた少年兵。多少臆病な部分があるらしい。ウァッドで出撃した。

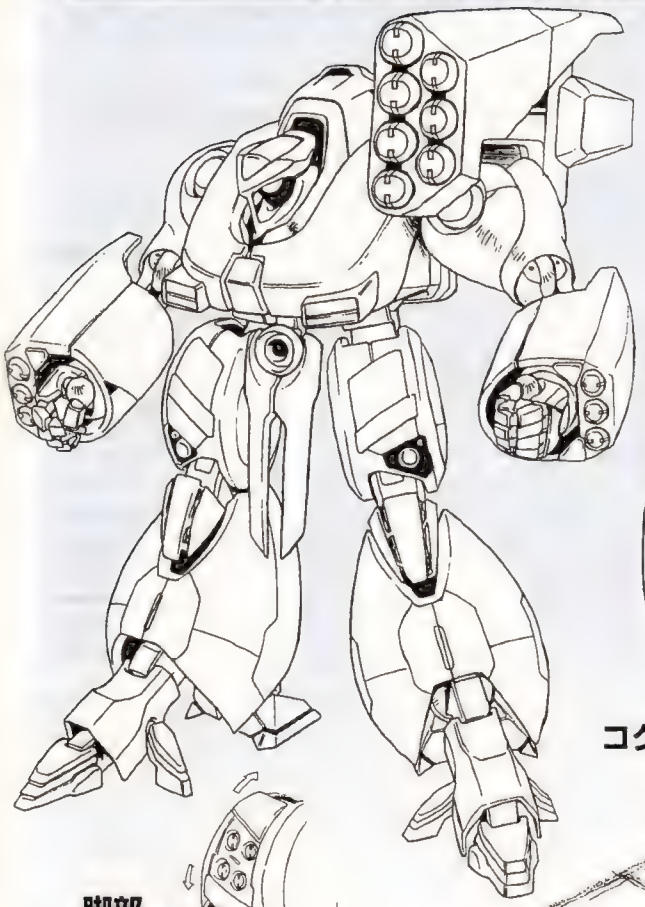


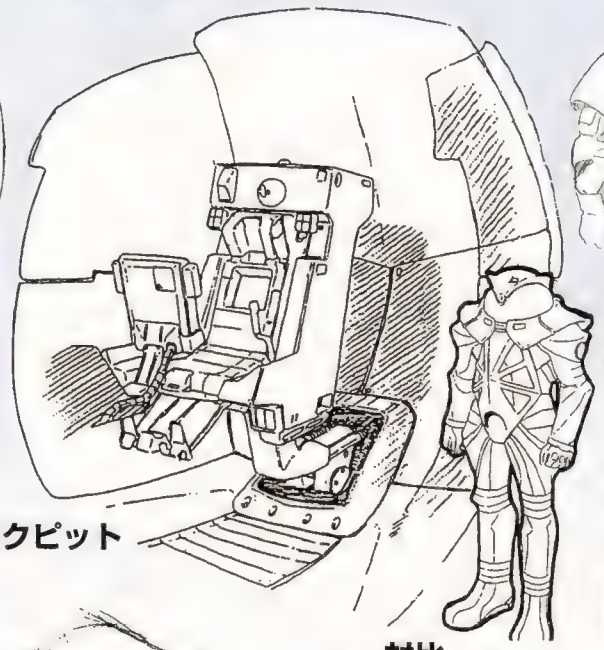
技術者たち

コンドラフト(親衛隊員)

G-M2F/AMX-1002　ズサン

月のマウンテン・サイクルから出土したMS。ギンガナム隊に接収され、本隊が地球に出奔した後、ディアナらの追撃を阻止するために残留組が整備して使用した。

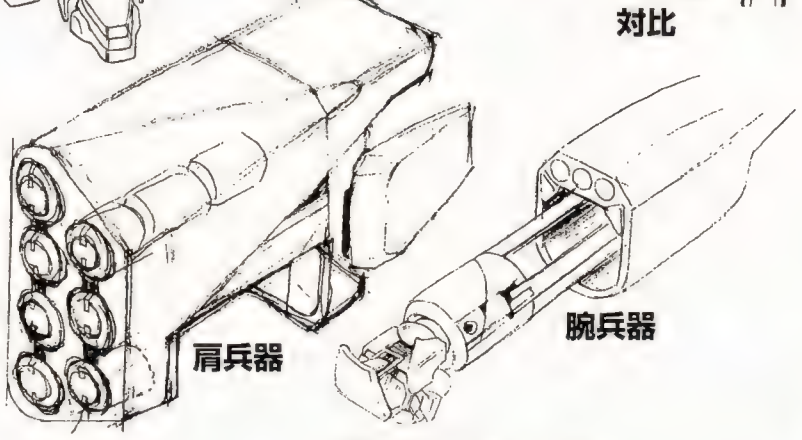




コクピット

対比

脚部
ギミック

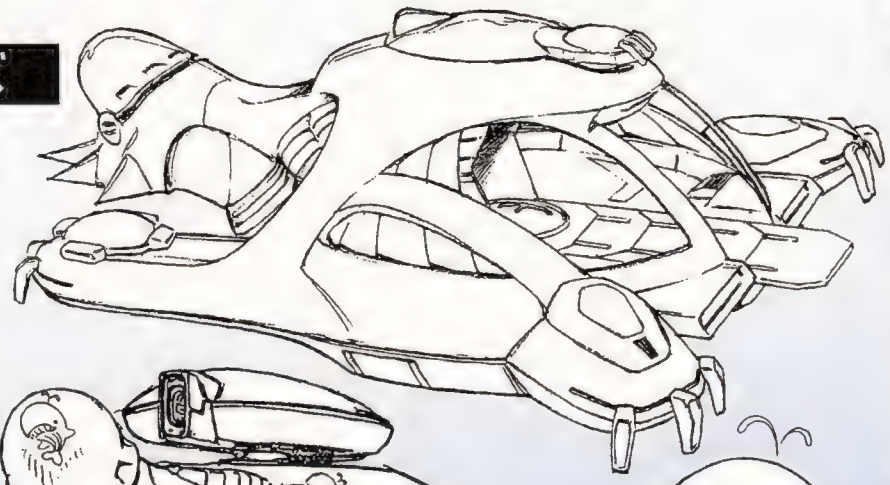


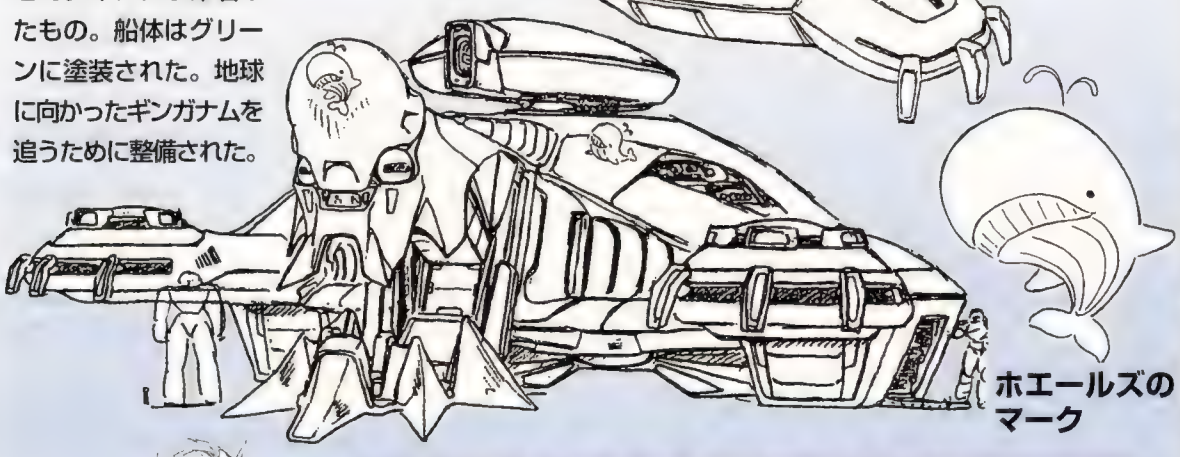
肩兵器

腕兵器

ホエールズ

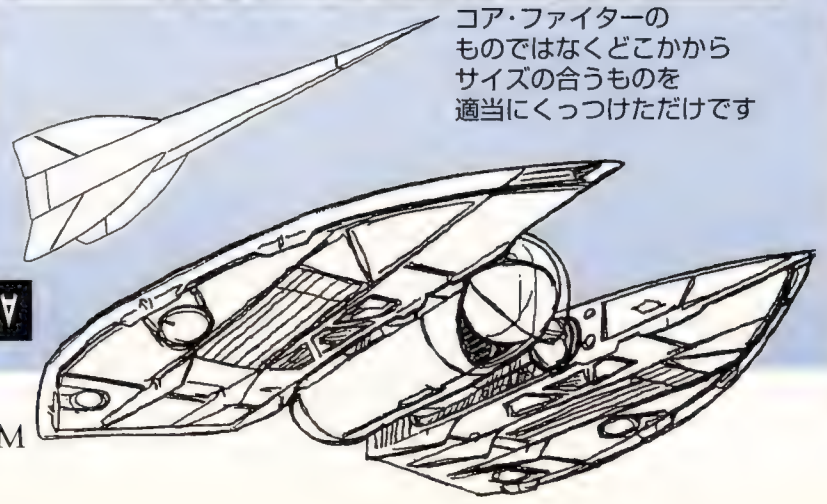
親衛隊が秘蔵していたアルマイヤー級戦艦。ハメットたち運河仲間が、船体にクジラのペイントを施したことでディアナが命名したもの。船体はグリーンに塗装された。地球に向かったギンガナムを追うために整備された。





ホエールズの
マーク

∀のコア・ファイターに取り付けた小型ミサイル

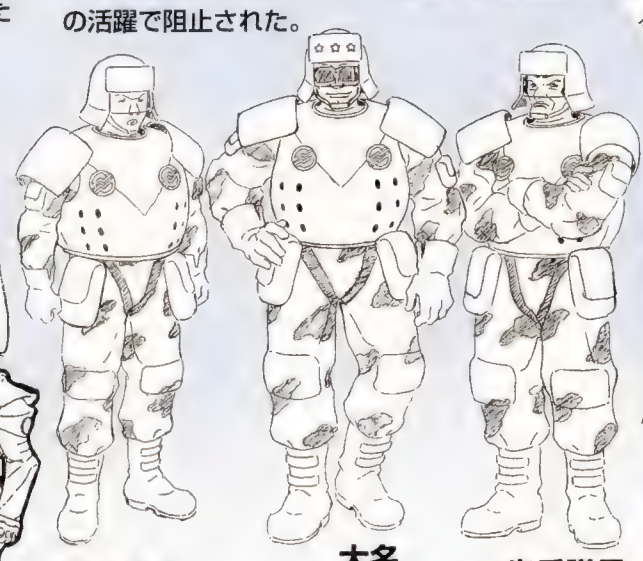


コア・ファイターの
ものではなくどこかから
サイズの合うものを
適当にくっつけただけです

スモーコクピットをつけた∀

ギンガナム軍・兵士たち

月面基地に残留したギンガナム軍の部隊。MSズサンを操り、ディアナの地球出発を阻止しようとしてきたが、ハリーの指揮する親衛隊の活躍で阻止された。



ヨハネス

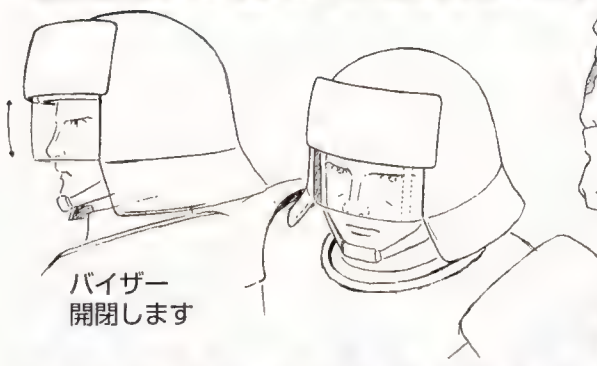
大名

歩兵隊長
カシム

大名

ギンガナム軍部隊長の呼称。部下たちとともにMSズサンで親衛隊と渡り合った

ギンガナム軍歩兵



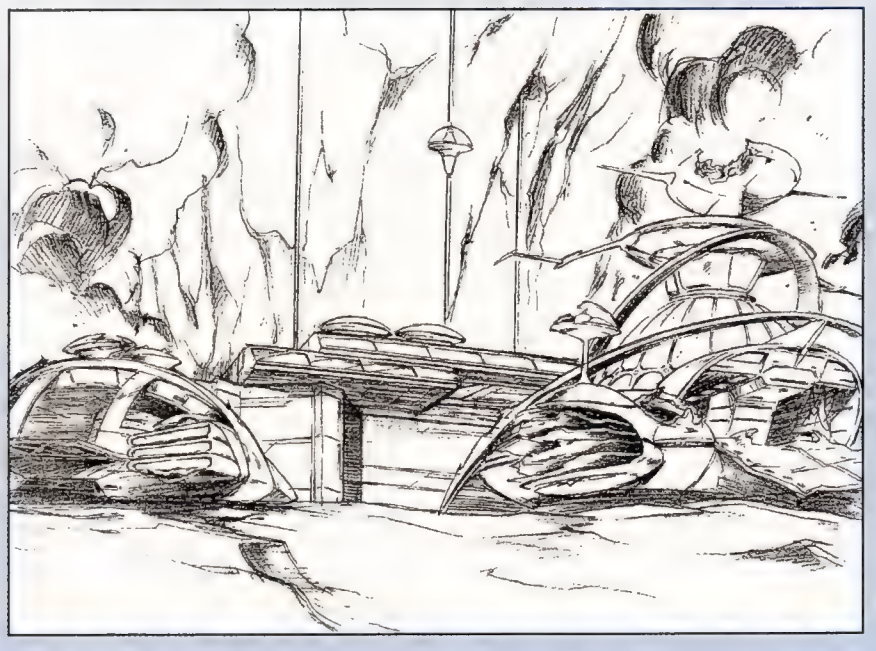
バイザー
開閉します

安いヨロイ

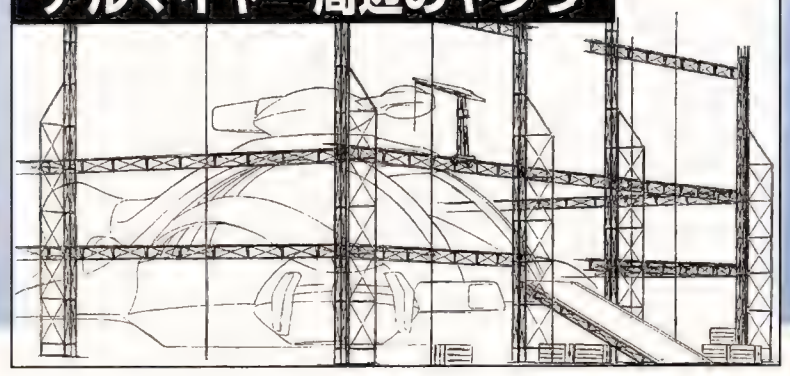
ディアナ・カウンターの壊れた宇宙船

地球へ向かったギンガナム軍が、ディアナたちの足を奪おうと壊していった宇宙船。月の港は同じように軒並み襲われたらしい。見るも無惨な姿となっている。

この時、周辺の住民も集まっていた。ディアナは人々を不安に陥れないよう配慮する



アルマイヤー周辺のヤグラ



一隻だけ無事だったアルマイヤー級を急遽整備するために組まれたもの。周辺住民の協力で行われた

turn A world for Episode #40-46

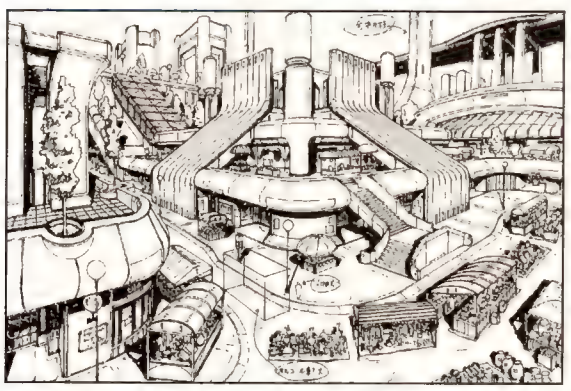
∀の世界

我々の感覚では、月もまた真空の宇宙の一部にすぎない。だが、ムーンレィスにとってそこはふるさとであり、生活の場でもある。そんな、人の暮らす月面の姿を、月の文化の異現とでも言うべき月の都市の姿を紹介していこう。

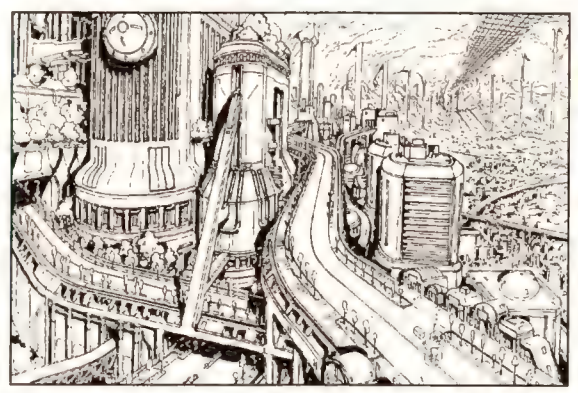
月面都市ゲンガナム

ギンガナムの祖先が作った月面の大都市。月の首都でもある。左下から右上に伸びているのが月面の運河。ゲンガナム上でそれと直角に交差している線状の構造物は幹線道路である。また、運河と貯水池を結ぶ線は循環用の支線。クレバスの下にもドーム都市が築かれている。

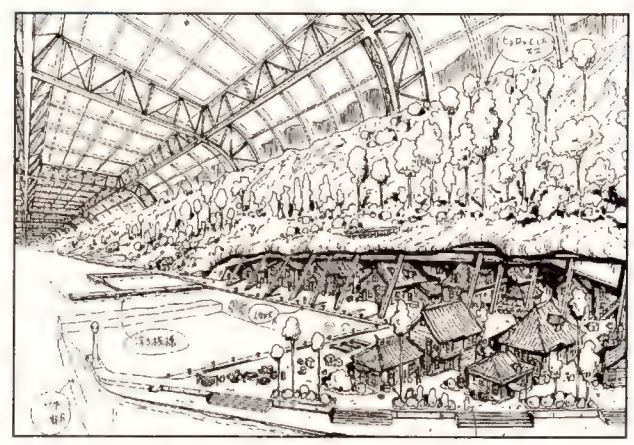
ゲンガナム全景。左上の構造物は3000メートル級のハッチ。左のクレーターは貯水池



ゲンガナムの町中の商店街。暴動の舞台になった。普段は屋台が並んでいる



ゲンガナムのメインストリート付近。右奥、天井を流れる運河は電気的に発光



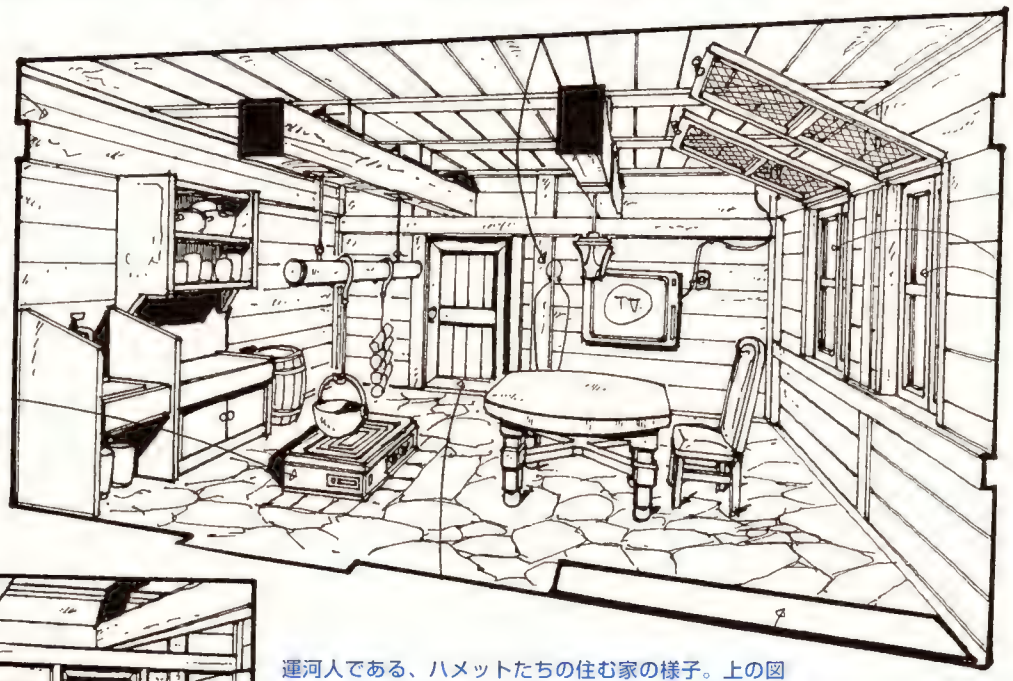
運河人たちの港。天井のガラスには電気的に発光する物質がサンドイッチされている

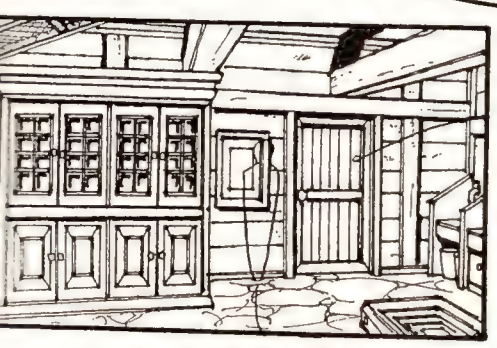
運河下のフォン・シティ全景。天井をささえる柱は鉄骨、または大木に見えるコンクリート

月面の運河と運河人たちの町

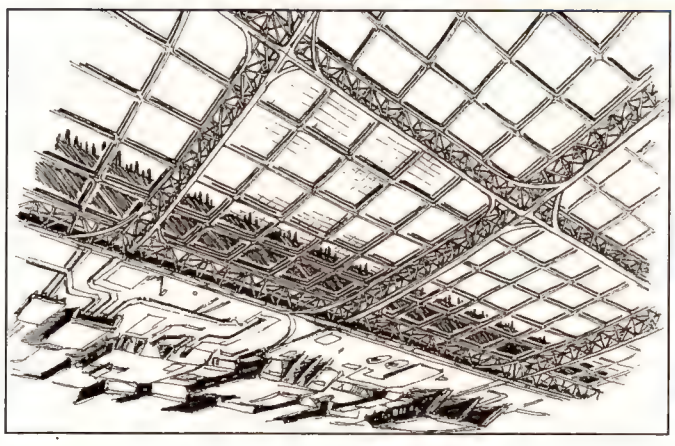
ロランの故郷である運河人たちの町。宇宙線をさえぎる役目も持つ運河の上にある、下層民の住む場所。だが、すさんだ様子はなく、下町か漁村のような人情味あふれる町となっている。

構造材は、月面では貴重品である木材ではなく合成樹脂プレートが使われている。そのため木目は見られない。一方、ステンレスなど鉱物資源は豊富なため、そこそこ使われている。また、煮炊きなどは酸素を消費しないホットプレート型のものを使用

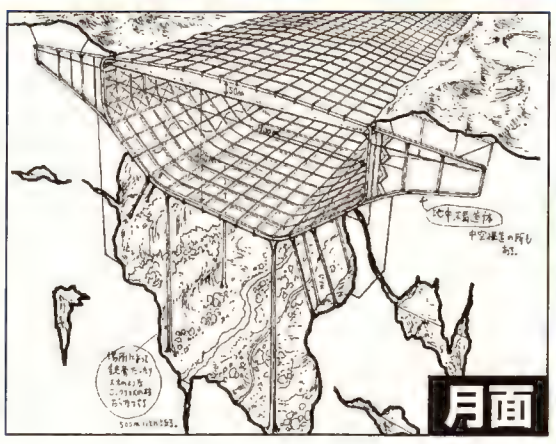




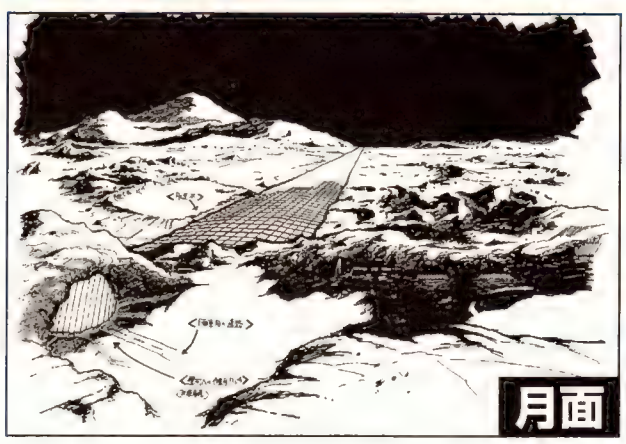
運河人である、ハメットたちの住む家の様子。上の図の扉は外に通じている。また、左の図は同じ部屋を逆方向からみたもの。扉は次室に続いている



運河から見上げた天井のガラス面。その厚みは約50メートル。すぐ外は真空の宇宙空間

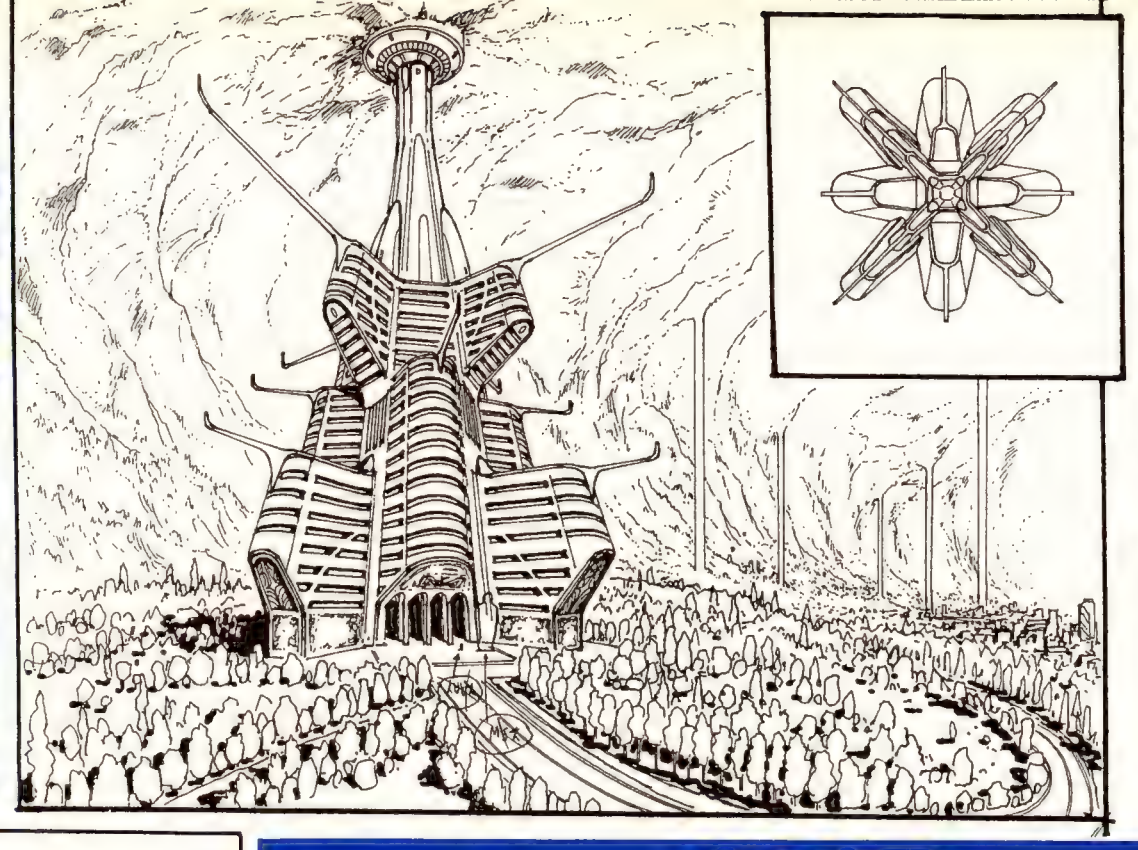


月の運河の構造。運河の幅は900メートル。高さ450メートル。総水量は約6千億トン弱

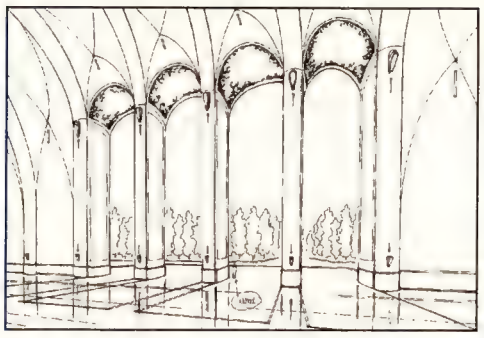


月面に延びる運河。総延長は月の赤道と同じ10915キロ。手前左は作業用ハッチ

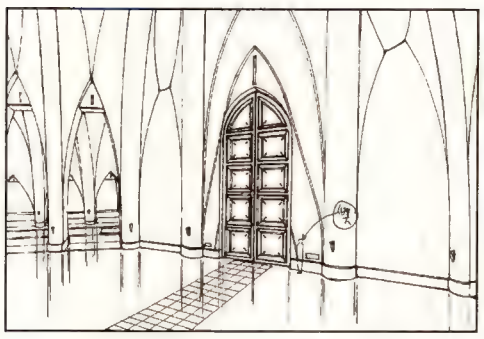
ゲンガナム内にある月の行政府、そしてディアナの居城でもある。独特のデザインは6分の1G仕様？　ディアナが地球降下作戦のため留守にしている間に、アグリッパが私し、自分の紋章を描かせたりもしていた。謁見の間にある世界樹レリーフの後ろに月面からのモビルスーツ用エレベーターが通じていたり、地下に冬の宮殿への通路があったりもする。



白の宮殿の外観。右側は、真上からみた姿。ただし、塔の先端は都市の天井と繋がっているため、実際にこの姿をみることはできない

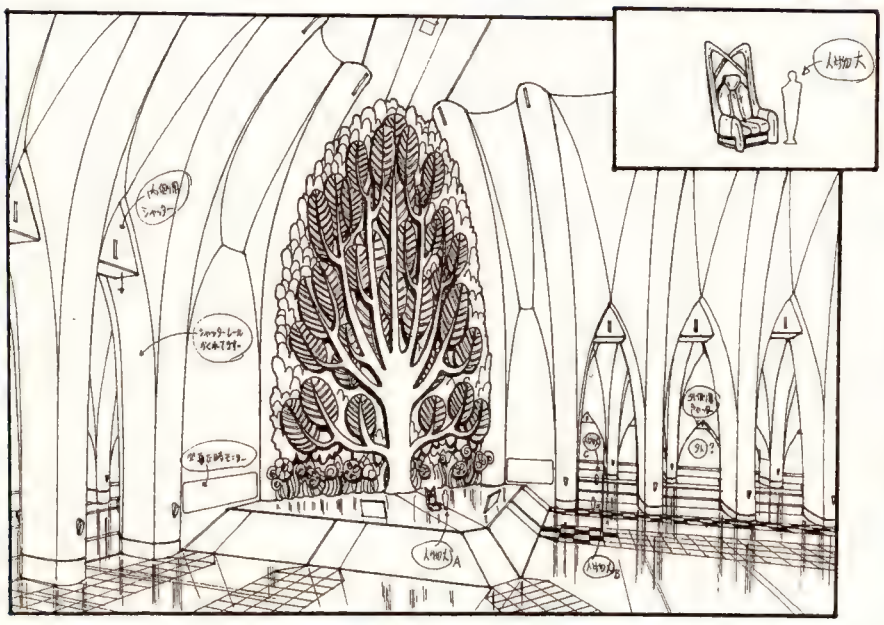


白の宮殿の巨大な玄関を内側から見たところ。その壁などに使われている素材はグエンには理解できないものだったらしい

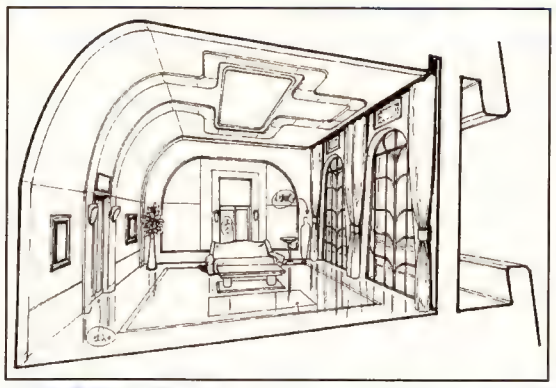


謁見の間の入口。この扉も小型モビルスーツなら通れそうなほど巨大。ディアナの祖先は、意外と権力指向が強かったのか？

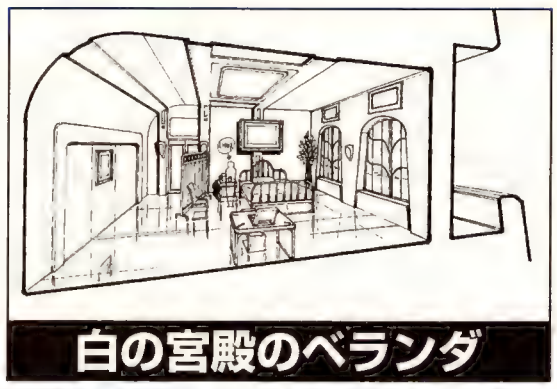
白の宮殿



白の宮殿・謁見の間。チェス盤状の模様の落とし穴、シャッターが閉まる窓、天井の脱出口と意外と仕掛けが多いのに驚かされる



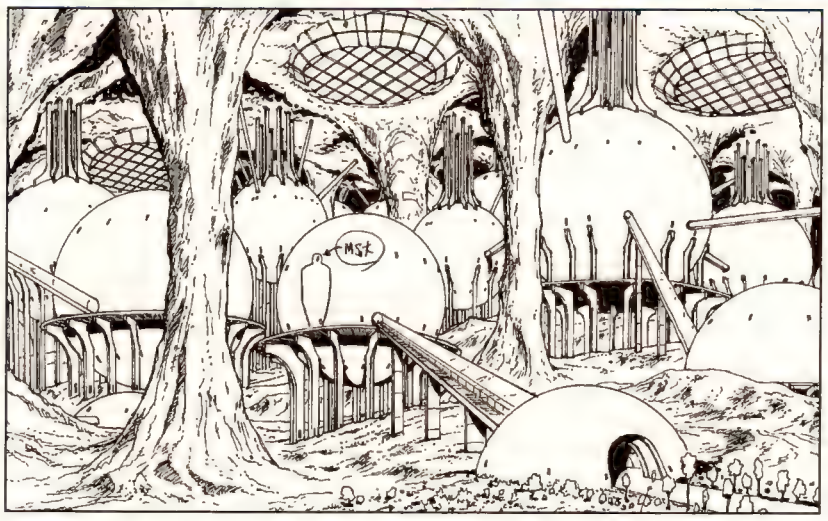
白の宮殿控えの間。グエン、リリ、キエルのふりをしたディアナたちがアグリッパとの謁見の合間に休んでいた部屋。ミドガルドは、そんな彼らを見張っているつもりで同行していたが、いささか間が抜けていたようだ



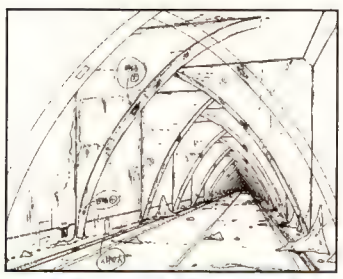
白の宮殿のベランダ

白の宮殿内の医務室。ミドガルドを処断したあと、倒れたハリーが体を休めていた場所。本来の医務室なのかどうかは不明。空き部屋にベッドなどを運び込んだだけなのかもしれない

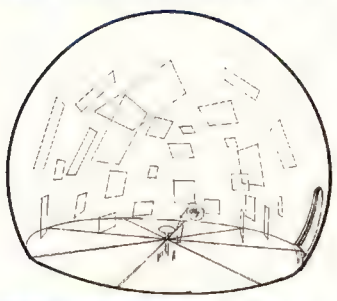
冬の宮殿



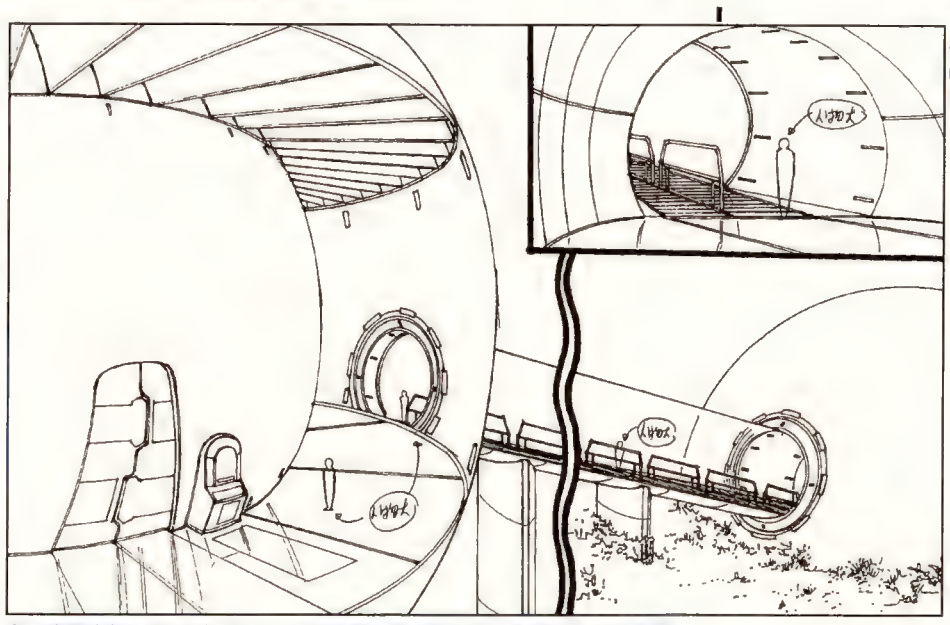
真珠状のタンク内に、ムーンレイスたちの冬眠カプセルが保管されている場所。低温で高山植物が生えている。ムーンレイスにとって一種の聖地といえる。また、黒歴史のデータが保管されている場所でもある。



白の宮殿から冬の宮殿へと続く地下通路。低温で、あちこち凍っている



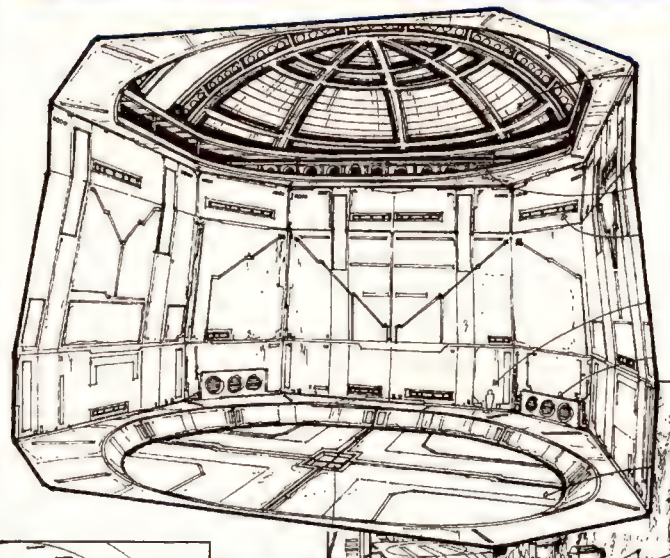
黒歴史の情報が保管されているデータルーム。中央に制御装置がある

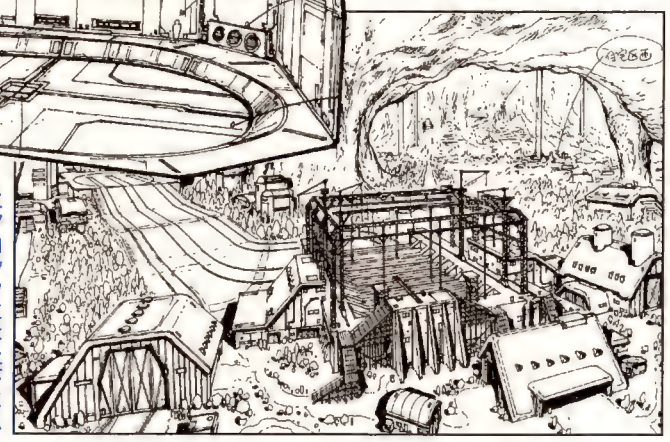


冬の宮殿内部にあるデータルームの外観。基本的には、冬眠カプセルを保管している球体と同じ外見をしているが、その周辺にモビルスーツが乗れるほどのベランダが装備されているのが大きく異なる

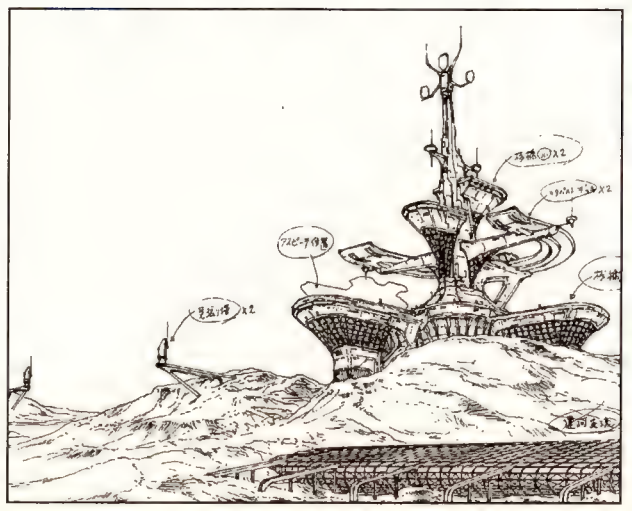
宇宙港

ゲンガナムの郊外に存在する宇宙港。ディアナ専用のものらしく、小さいながらも美しい宇宙港だったらしい。下の図の手前がドック。そこからレールが伸び、左奥のハッチに続く。そのハッチから、左の図のエアロックにつながる。





エアロックには上下にハッチがあり、下がゲンガナム、上が月面へと通じている



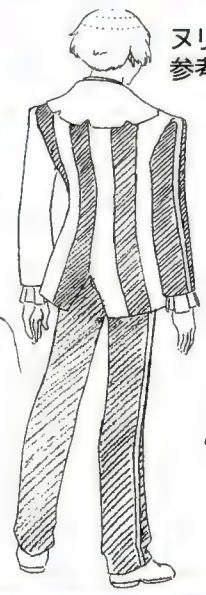
ギンガナムの月面基地。タワーの基部にはアスピーテが使える桟橋が3基。中程にはカタパルトデッキ2基。上に小型の桟橋が2基ある。手前に見えるのは運河

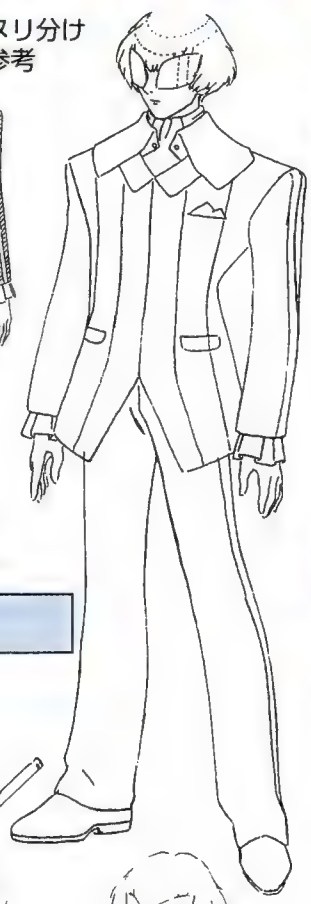
Harry Ord

ハリー・オード

変わったデザインの服装が多いハリー。彼のファッションをここで検証してみよう。

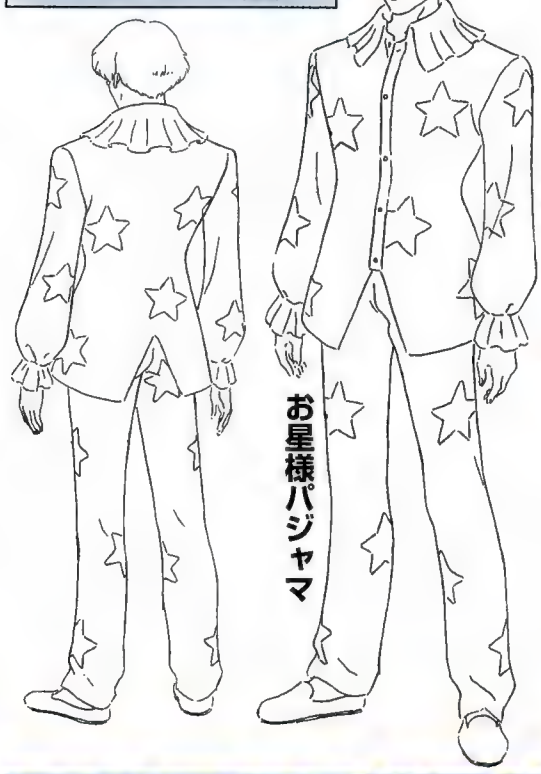
変装姿





正装姿

パジャマ姿

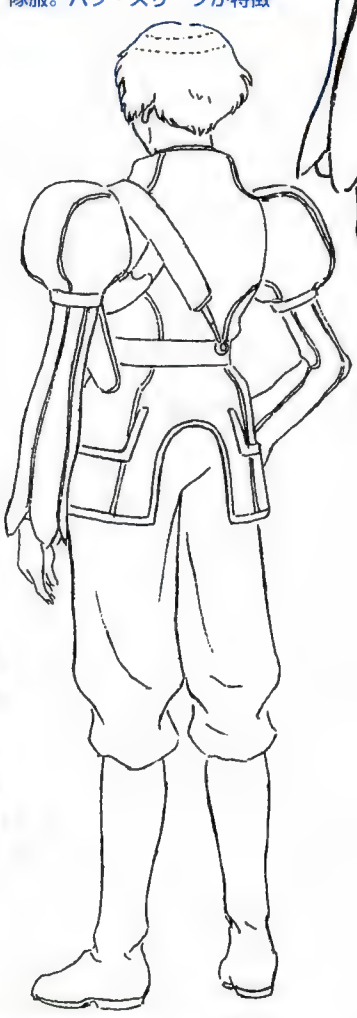


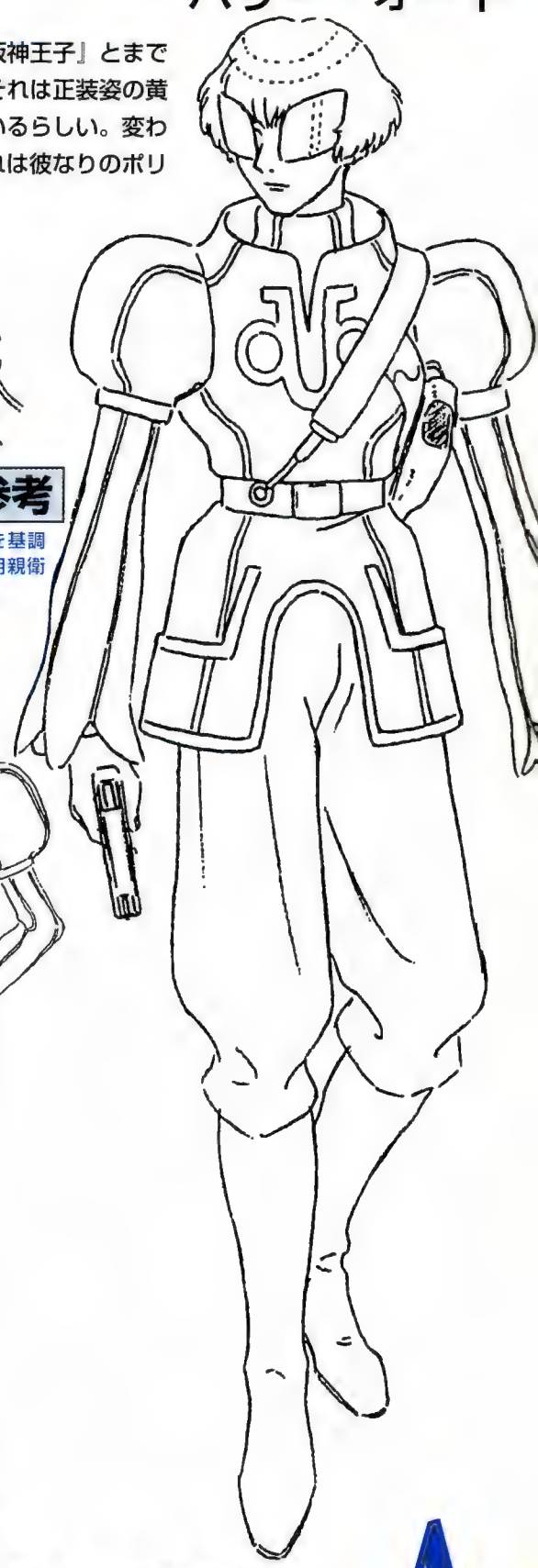
#26のハリー

スタッフの間では『阪神王子』とまで言われていたハリー。それは正装姿の黄色と黒の衣装からきているらしい。変わった服装が多いが、それは彼なりのポリシーなのだろうか。

そでの内側参考

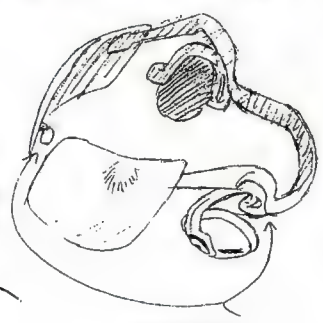
ディアナと同じく、白と紺を基調としたデザインのハリー専用親衛隊服。パフ・スリーブが特徴

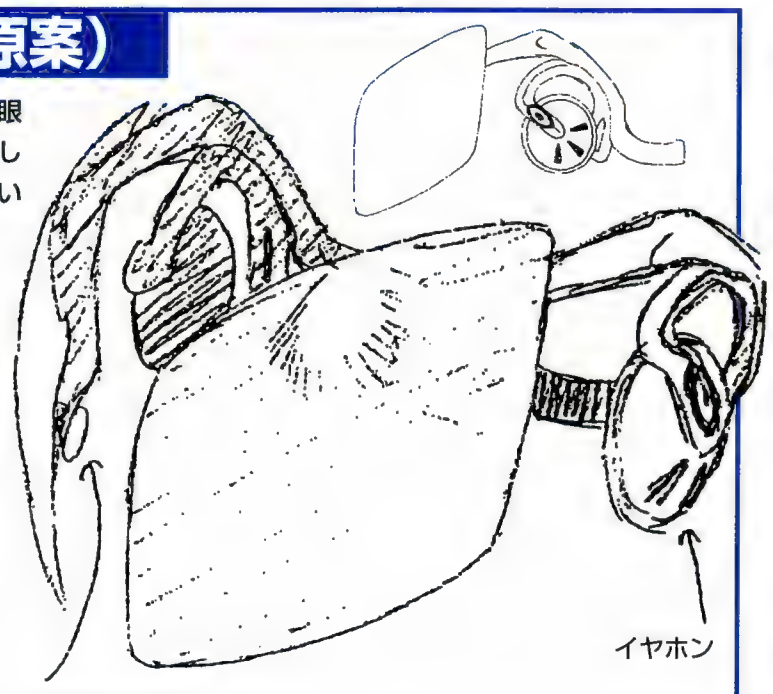




ハリーのメガネ（安田原案）

彼の特徴となっている暗視グラス。正面から見ると眼鏡には見えにくいが、実は頭部などで支えるきちんとした眼鏡になっている。耳の部分はイヤホンが付属しているのだ





turn A world for Episode Fashion

第47話 ギンガナム襲来

地球再戦編〈1〉

◆ストーリー解説

地球では早くも、ギンガナム軍の侵略が始まっていた。初めての地球にはしゃぐマヒローのステロ隊。各地のミリシャも応戦するが、ギンガナム軍の戦力には遠く及ばない。そしてその戦いに、キースとベルレーヌも巻き込まれた。

ホエールズが地球に到着した。探知はされていないようだ。リリは、グエンとギンガナムに対抗するために各地の領主へ協力を求めようと動いている。

グエンは工業の近代化を考えていた。そしてキースの工場で働いているムーンレイスの技術者の協力が必要だと考え、キースとホレスに接触する。

そのキースにジョゼフたちも接触を計る。そこへホエールズが到着した。そこで今後の事を話し合うディアナたち。戦うつもりに見えるディアナたちに不快感を隠さないキース。

ウィルゲムが再び到着した。グエンとリリ、ディアナたちは最後の話し合いを行なう。しかしジャラピィ隊が戦いを始めた事で交渉は決裂してしまう。ディアナたちはホエールズへ引くが、キースのパン工場は大破してしまう。

◆福山潤（キース役）

キースは、戦争によってパン屋として成功するという目標は達成したが、その工場を中心とした中立地帯を作るという、新たな目標を達成するため、ミリシャ、ディアナ・カウンター両軍に〝食糧〟という最大の武器で政治的な行動を取ったと思います。

それと同じに、各地のムーンレイスと地球人の間に入り、両者の友好に尽力した。その中で戦争を戦うという一つの形として、武力でではなく、生きる、生活をしていくという、ごく当たり前のことを守るために、中立地帯を作ることで、戦争を戦っていたと思います。それにより両者の信頼を、そして自分の大切な人を守るという責任を負い、一七歳とは思えないほど、計り知れない人間的な成長をしたのではないでしょうか。

個人的に好きなキャラクターは、やはりキースが一番ですね。

◆スタッフの視点から

いきなり舞台が地球となってしまい、ここから四本はきつかったですね。

ここでキースのパン工場にみんなが集まると言うのは、すごく都合が良かったから。

以前使った舞台ですし。それと、キースの話をここで終わりにしようとか、ケリをつけようと言うような、最後のキース話にしようと言うのがありましたね。本当はここから四本で一クール分くらいの分量があれば……キース話をまたじっくりとやる可能性もありました。

メリーベルが使っていたVにはシルバースモーのコクピットがついています。これはギンガナムがどこからか調達してきたものです。同じ月の者同士ですから、なんとかなっちゃったというところでしょうか。

あと、ルジャーナ領主たちが『抵抗はするな、でも降伏はしない』って言っていたんですがこれはボイコットをするつもりだったんです。抵抗するとやばいけれど、でも降伏はしないぞという知恵はついていたんでしょうね。

第48話 ディアナ帰還

ストーリー解説

グエンは、地球の都市を破壊することにはしゃぐギンガナム軍を牽制し、ディアナ・カウンターを討つべきだと進言する。しかしギンガナムはそんなグエンを見下している。

その頃、メリーベルの∀が起こす月光蝶に、かつての記憶を掘り起こされたコレンは、ディアナの元に馳せ参じ軍に加えてほしいと申し出る。ロランはそんなコレンの姿に心を打たれるのだった。

攻撃を仕掛けられたディアナ・カウンターはギンガナム軍に反撃を開始した。艦隊戦からMS戦へ移行するその戦いは、多数の死者を出す非常に凄惨なものとなる。

ロランはジョゼフたちと共にウィルゲムを訪れた。グエンの真意を正すためだ。しかしグエンは自分の考えに取り付かれ、ギンガナムを利用するのだという。そしてロランに協力を要請するがロランは拒否。ジョゼフは∀を奪って逃走した。

そしてソレイユにはコレンと共にディアナが帰還。裏切りを許されたミランたちはディアナに再び忠誠を誓うのだった。

佐藤せつじ(ジョゼフ役)

監督からは、とにかく『ぶっきらぼう』で『棒読み』でいいと言われていました。最初にいただいたキャラクター設定で、ジョゼフの年齢が16歳と書いてあったので、16歳のぶっきらぼうを作りました。これだけで難しかったのですが、五話ぐらいたった時に、実はグエンより年上の26歳だと知り、分からない程度に少しずつ年齢を上げて行きました。これは自分だけの中でやっていく作業だったので、難しく、疲れました。

『後半、ロランのライバルにまで成長していく重要なキャラクターである』と聞いていたので、僕自身、野心を抱き、〝ロランのライバルになるまでは〟と感情を抑え、棒読みに徹していました。けれどギム・ギンガナムの登場で、僕の野心も途絶えましたね。グエンに対しての台詞で『俺は地球で成り上がりたかったのに、あんたはあんな奴を連れてきた!』というのがありましたが、あれがジョゼフと僕の全てです。素で言いました。

スタッフの視点から

コレンが復活し、ディアナが戻ってきたらあっさり受け入れるディアナ・カウンターが印象的ですが、あれはほかにやりようがなかったのかなぁと今でも思うところなんですが。ポゥ以外は全員死んでいるとか……。ここでは本当に格好悪いですからね、フィルとミランが。本人たちは根がまじめなので、極端なことを考えて……。もうちょっと何か、状況判断しているシーンがあればいいんですけれどね。死んでいると思った者が堂々と生きて帰ってきたんだから、クーデターは失敗だ、とか。自分たちはいつの間にか悪者になっちゃったの? という状況ですね。

コレンについては出すしかないと言う状況でしたね。本当なら、もう出番はなかったんですが。もうちょっとキャラが変わっていたら格好良かったんだけど、変わってないですね、この人。本当はまじめで凄い人だったんだよ、くらいに変わっていると面白かったんですけれど。前から、性格あまり変わってないし。

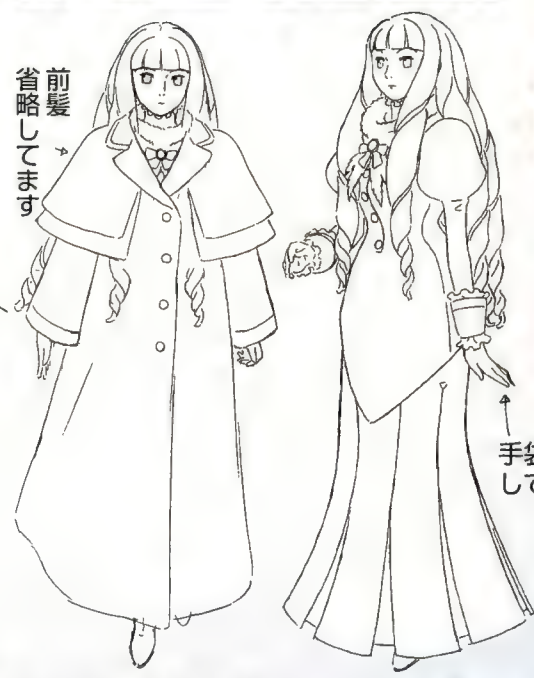
地球再戦編〈2〉

コレン・ナンダー パイロットスーツ姿

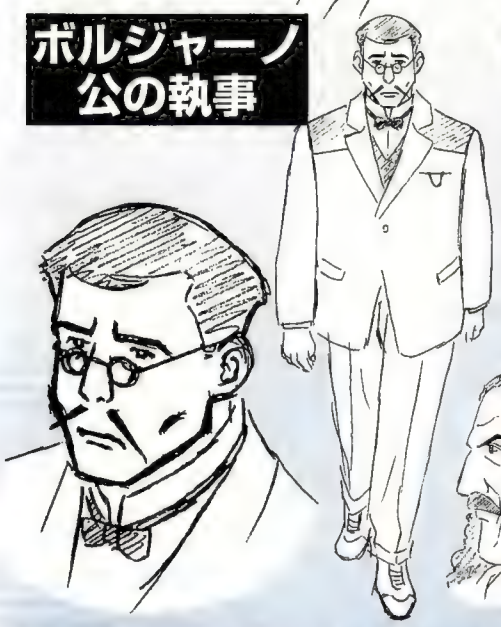
∀ガンダムの月光蝶の輝きに、記憶を取り戻し、ディアナ・カウンターに参加したコレンの姿。そこにかつての狂気的な面影はないように見受けられる。

ソレイユ・ブリッジ　クルー

キエル　コスチューム

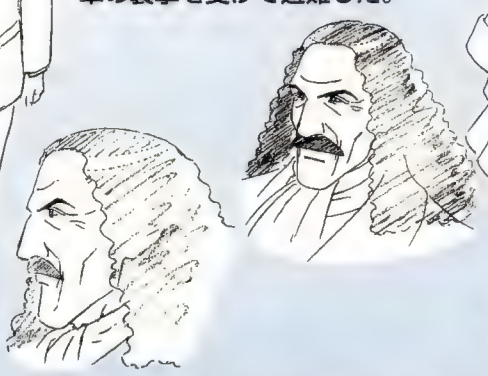


ボルジャーノ公の執事

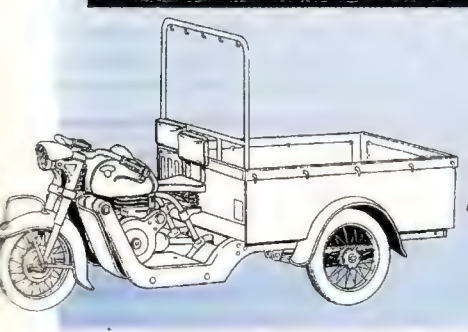


ボルジャーノ公

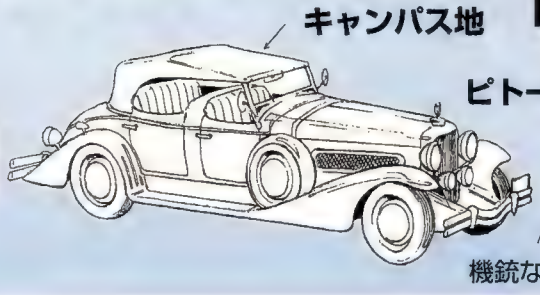
ルジャーナの領主にして、リリ・ボルジャーノの父親。リリを始め、13人の子持ちとのこと。ギンガナム軍の襲撃を受けて避難した。



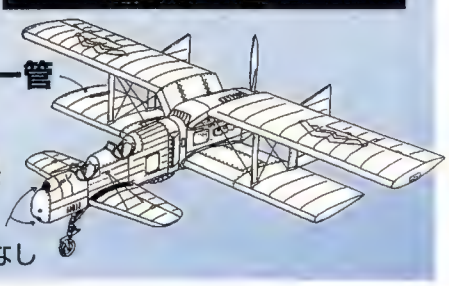
コレンの三輪車



グエン達の車



コレンとディアナの乗るヒップヘビー



第49話 月光蝶

ストーリー解説

ディアナが復帰した事で、ディアナ・カウンターには活気が戻った。地球での戦争を終結させるため最後の戦いの準備が着々と行われていく。今まで敵同士だったディアナ・カウンターとミリシャが一つとなっているのだ。

ジョゼフはかたくなに∀から降りようとしない。それは地球人の手で決着を付けたいとの思いからだった。

膠着する戦いに業を煮やしたギンガナムは、自らターンXで出撃してくる。

だが、∀の攻撃はターンXに通用しない。ギンガナムは∀の月光蝶の力を取り込み、戦場を移動しながら味方のはずのステロまでも撃破しながら戦い続ける。倒れたジョゼフを回収するロランたちのそばを、ハリー率いるスモー部隊が駆け抜けていく。ターンXを取り囲むスモー部隊。だがそこで、ターンXの月光蝶が発動した。∀の能力を完全に取り込んだのだ。コクピットを換装した∀を受け取ったロランは、最後の戦いに決着を付けるため、月の輝く夜空に飛び立って行くのだった。

佐藤せつじ（ジョゼフ役）

『月光蝶』の回でのジョゼフの裏切りについてですが、ギム・ギンガナムを倒すという目的はロランと同じだったと思うので、裏切ったつもりはないですね。

ロランに対しての感情ですが、ジョゼフは田舎出身で、月の技術が扱えるロランに対して、憧れやコンプレックスがある。自分が内向的なこともあり、感情表現豊かで、いい人すぎるロランを見ていると、ムカついてしょうがないけれど、心のどこかで自分もそうなりたいと思っていると考えています。しかしムカつくんでしょうね。

印象に残っている場面は、最後の最後で∀に乗れたことかな。乗ってみたかったので良かったです。

個人的に好きだったキャラクターはギム・ギンガナム。ああなりたかったです。

スタッフの視点から

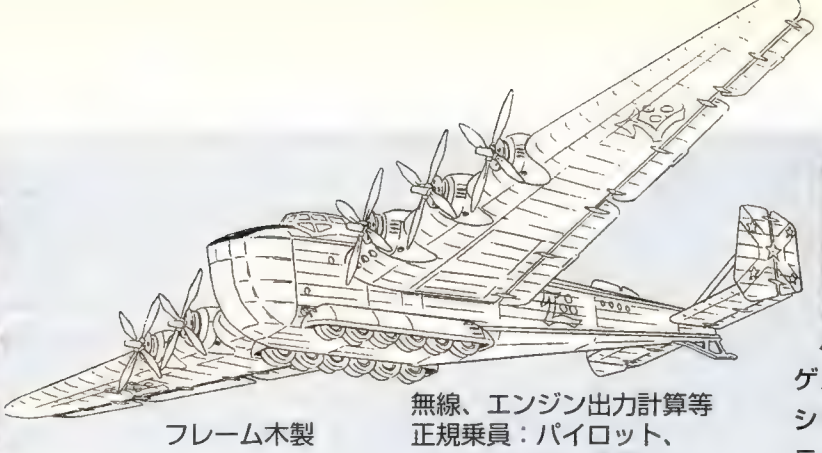
実は、ジョゼフは最初から敵に回そうとしてました。死なす予定はありませんが、敵に回ってグエンの方に回そうと言う話はごく初期にありましたね。一応、そそのかされてはいるんですよ。そのシチュエイションだけが生きていて、でもそこでグエンに騙されるのではつまらないから、自分なりに考えていることを言わせてやろうと。

この辺でギャロップの艦隊が出てきますが、これらは堀り出したものですね。この辺で、やっと富野さんも戦争物にしようと考えたらしい。だから戦争マニアぶりが少しずつにじんできているんですよ（笑）。

ディアナ・カウンターもたくさん出てきますが、最終決戦の時は、地上にディアナ・カウンター、ギンガナム軍双方ともに二十から三十の艦艇がありましたかね。

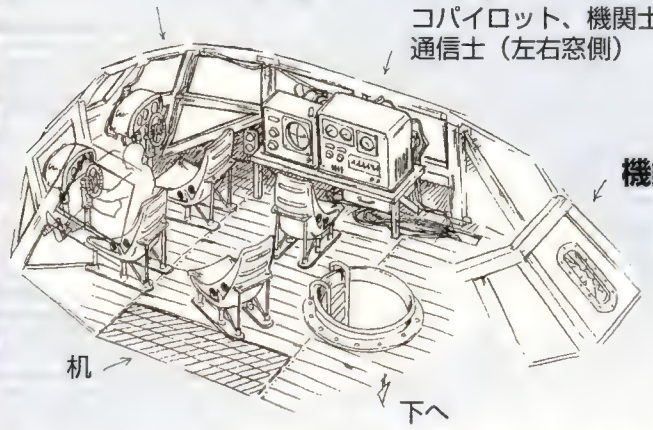
それと、シナリオ段階ではブルーノが死ぬことになっていました。コレンが死んで、その後、ブルーノがヤコップに『俺に任せろ』みたいに死んでいったんですよ。でも『死なないでいいよね。時間がないから』と。

地球再戦編へ3

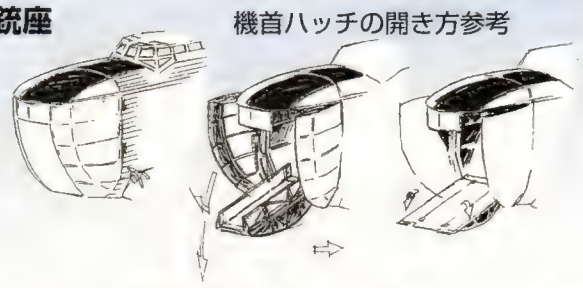


ルジャーナミリシャの輸送グライダー ゲズロックTP.003

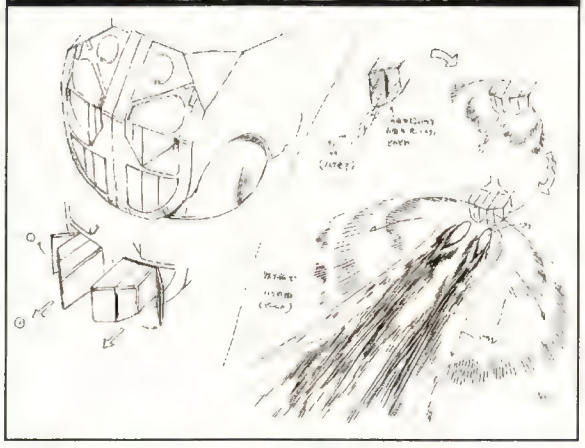
ルジャーナミリシャの輸送グライダーゲズロックTP.003。ルジャーナのミリシャが兵力を輸送するために使用したグライダー。急遽作られたものらしく、ハッチ以外は木と布製。使い捨てのものであり、一度しか飛ばすことができない。リリは出来の悪さに文句を言っていた。



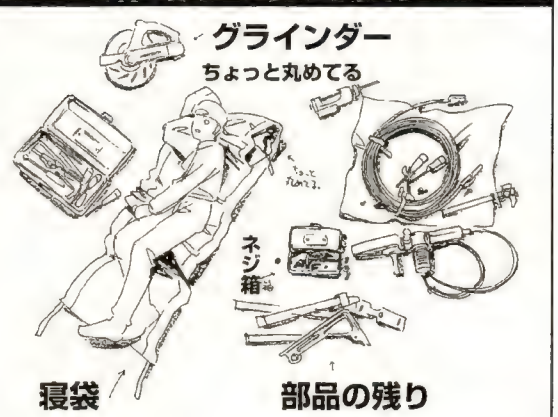
機首ハッチの開き方参考



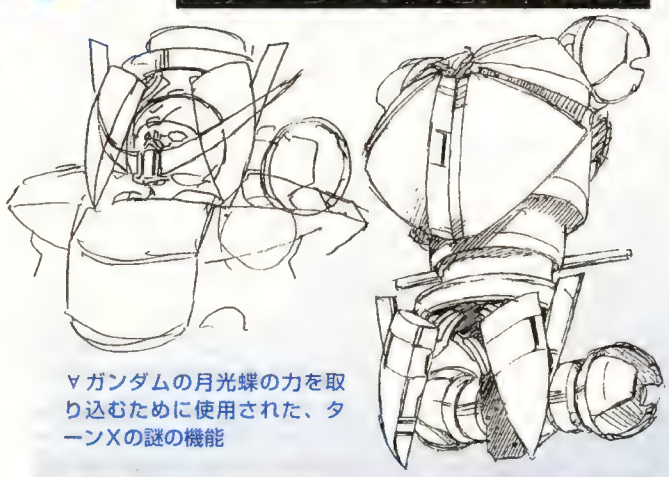
∀の胸部ビーム砲



工具 参考ラフ

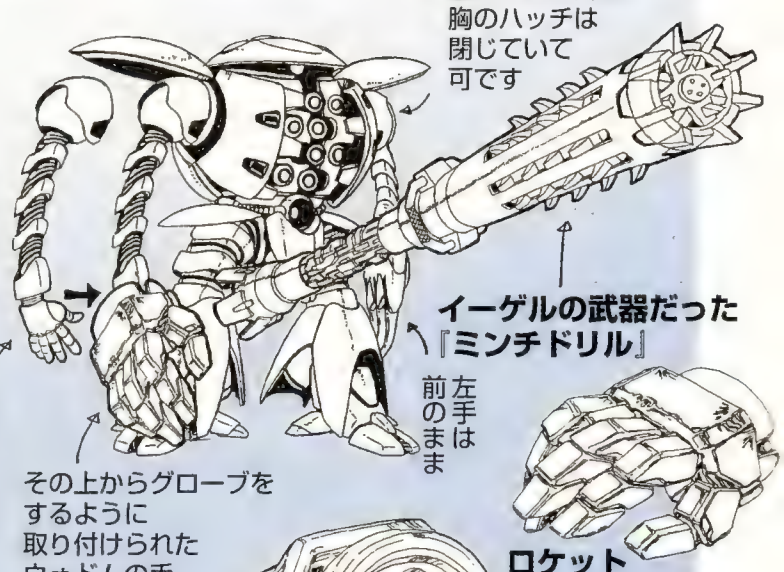


ターンX謎の新機能

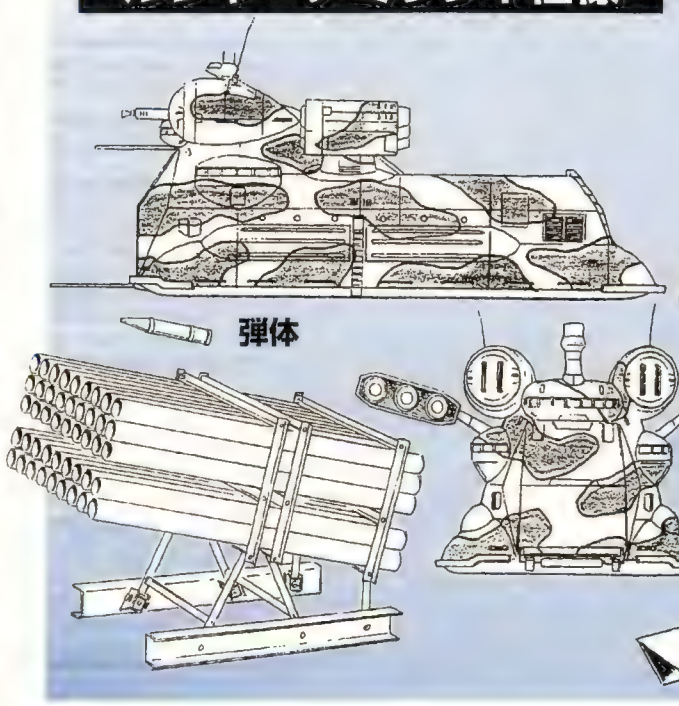


∀ガンダムの月光蝶の力を取り込むために使用された、ターンXの謎の機能

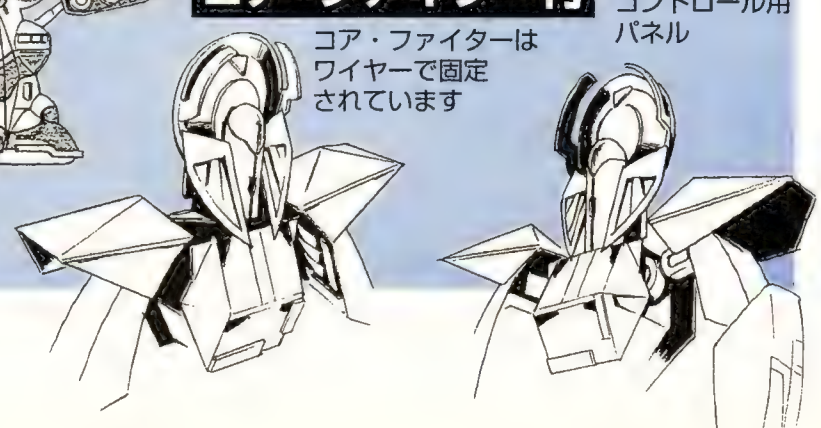
コレン・ナンダーのカプル改 『コレン・カプル』



ギャロップ迷彩パターン ルジャーナミリシャ仕様



フラット／コア・ファイター付



地球再戦編〈4〉

第50話 黄金の秋

ストーリー解説

月触の始まった夜、ついにロランのヤとギンガナムのターンXが接触した。

その頃、コレンはもう一度出撃する準備に追われていた。ロランたちが向かったロスト・マウンテンへ向かおうとしているのだ。コレンは、準備を手伝わせたソシエたちに、戦士たちの生き様を後世に伝えよと言い残し、飛び立っていく。

ターンXとヤの戦いに巻き込まれ、墜ちていくバンデットにコレンのカプル。戦いは凄惨を極めていた。ディアナはターンタイプの放つ月光蝶の盾となろうと、ソレイユで出撃する。

ターンXが放った攻撃の余波を受け、ウィルゲムは大きなダメージを受けていた。墜落したウィルゲムに、リリが現われる。すべての戦いに破れたグエンに、アメリアから出るよう言外に告げるリリ。グエンは再起を誓い、メリーベルと共に去っていく。

ギンガナムとロランは互いの主張をぶつけ合いながら戦い続けていた。地球を破壊する必要はないというロラン。人は戦いを忘れられないというギンガナム。二つのターンタイプは激突するごとに月光蝶の力を呼び、引かれ合うように戦う。そしてついに決着がついた。相打ちであった。

ギンガナムは生身での戦いをロランに挑むが、月光蝶の力が作りだした繭に包まれてしまう。

そして戦いの後。人々はそれぞれの未来に向かって歩きだした。地球に残る者、月へ向かった者……。

ディアナは全ての責任を自分のものとし、ロランとともに静かな暮らしを始める。そしてキエルは、ディアナとして月へ向かい、新たに月の人々を導き始めた。

◆福山潤（キース役）

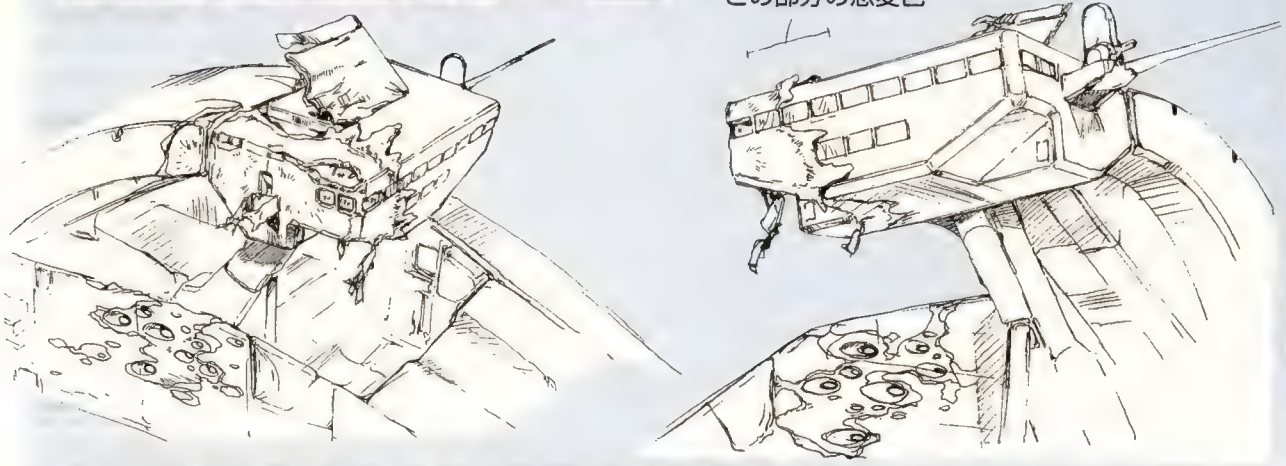
印象に残っているのは、第一話の地球へ降下するシーンでしょうか。あと、特に監督から指示を受けた、というかやり直したのはくしゃみのシーン。何度もやりました。キャラクター作りにあたって難しかったのは、出番の度にめまぐるしく変わっているキースの状況や成長に、僕自身を追いつけることでしたね。作品としては、僕自体が『ヤガンダム』とはどういうものだったのか、まだ観ている最中です。だからまだ僕の感想としては言えません。

◆スタッフの視点から

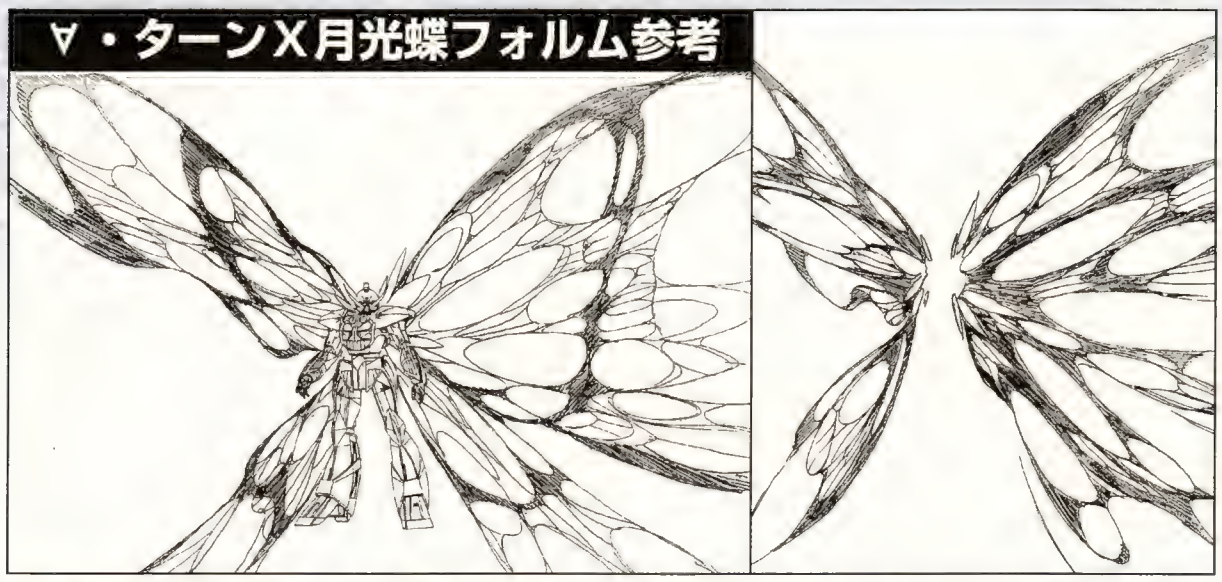
最終決戦で、ターンXの首が飛んで行くのは、機体が壊れても戦うようにしようと。残っていたら後々まずそうだから、ということでそうしたんですよね。大体、ターンXの頭にコクピットがあるからああいうシチュエイションになるんです。あれはデザインのオーダーがジオングを踏襲しちゃっているから、自ずとそうなってしまうと。ギンガナムは剣持ってるし。元々、コクピットから降りたロランにギムが刀持って迫るというプロットは入っているから、多分みんなで打ち合わせしたときにこのアイディアは出たんじゃなかったかな。ギンガナムとロランをどうやって戦わせようかといった話をしていたんだよね。お互い因縁もないし。でも戦うっていう時にどういう戦いになるか。ロランにギンガナムは切れないだろうし。ロランには刀渡されても切る意味が無いんですよ。

前半はともかく、後半は実は放映されたものと絵コンテ、シナリオなどがだいぶ変わってしまいました。特にエンディングのローラ号がウィルゲムの改造というより新造じゃないかというくらいシステムが変わっています。

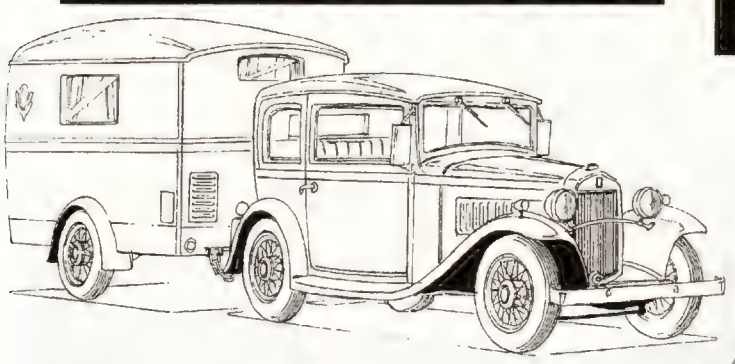
ウィルゲムこわれ設定



ヤ・ターンX月光蝶フォルム参考

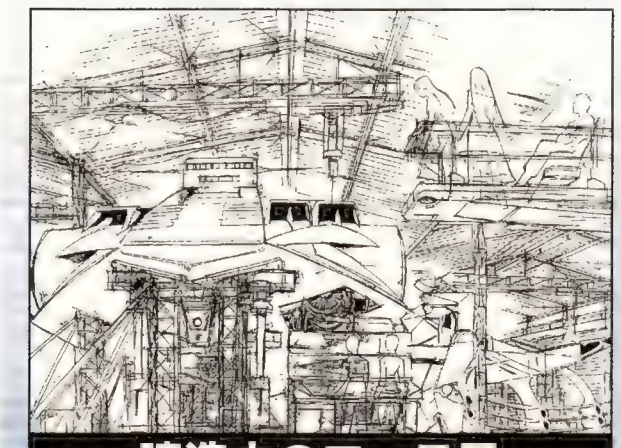


ロランのキャンピングワゴン



NTBの看板付TV車

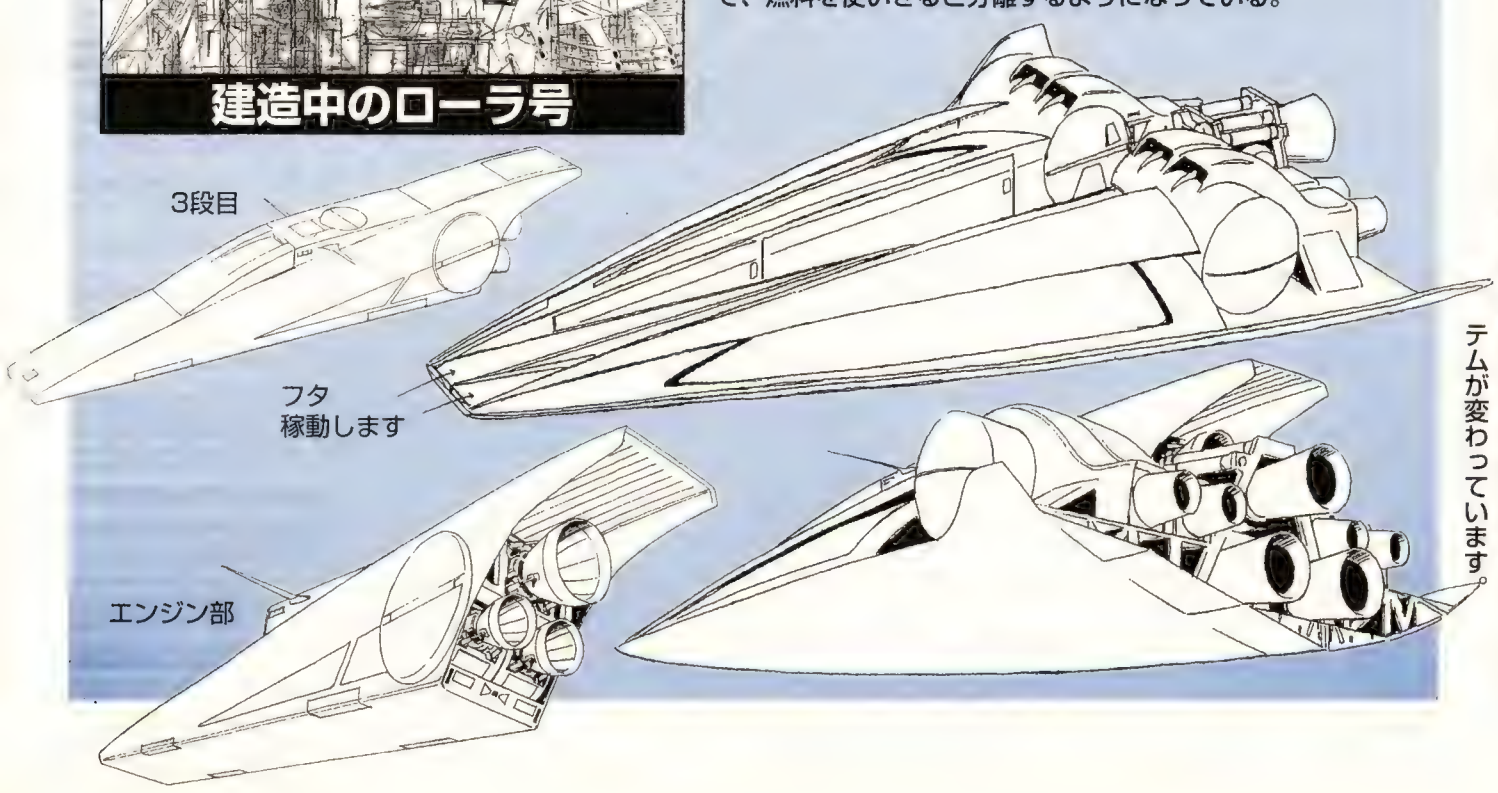
フランが出勤に使っていた車。NBTはノックス・ブロードキャスト・テレビジョンの略



建造中のローラ号

ローラローラ号

破損したウィルゲムを改装し、正式に月との定期的な交流をはかるために作られた宇宙船。エンジンは3段ブースターで、燃料を使いきると分離するようになっている。



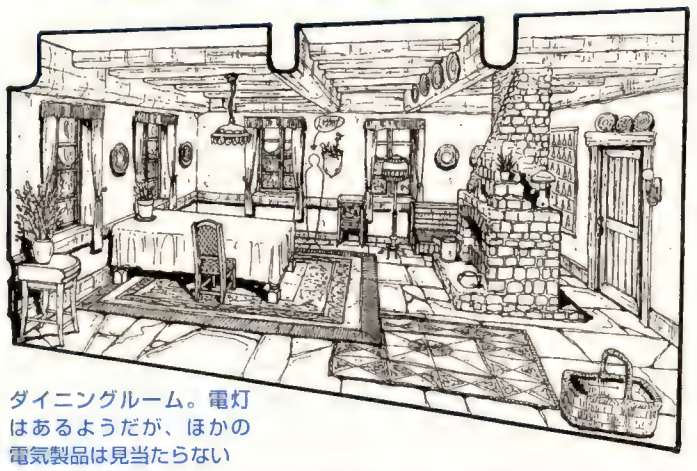
turn A world for Episode Last

∀の世界

再び地球に戻り、取りあえずの幕引きを終えたふたつとひとつの物語。そのクライマックスでは、∀の世界を語るための舞台はほとんど描かれることはなかった。最後は、その中でも数少ない、∀的なる舞台を紹介しよう。

ディアナのログハウス

太陽電池芝パネルらしきものは見られない。絵だけではよくわからないが、ベランダにも屋根が伸びている。これは陽よけ、雪よけのためらしい

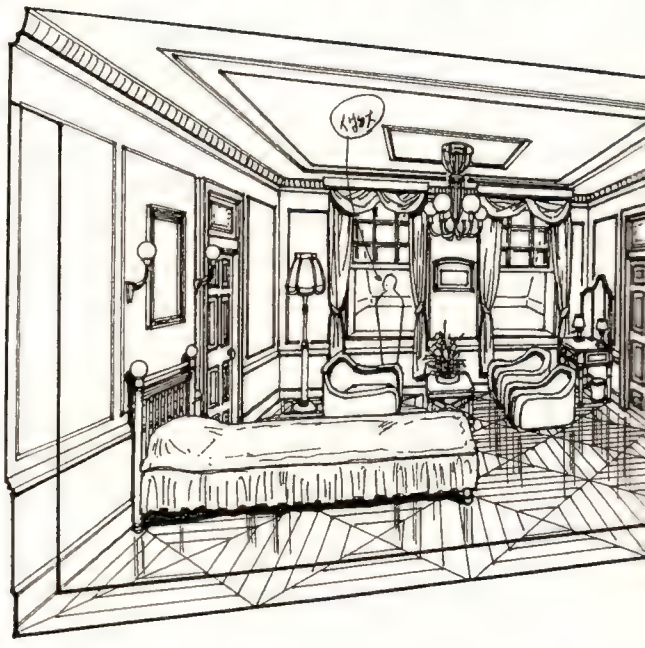


ダイニングルーム。電灯はあるようだが、ほかの電気製品は見当たらない

エピローグで、ディアナがロランと余生を過ごすこととなったログハウス。低緯度地帯にあるのか、ずいぶんと雪深かった。

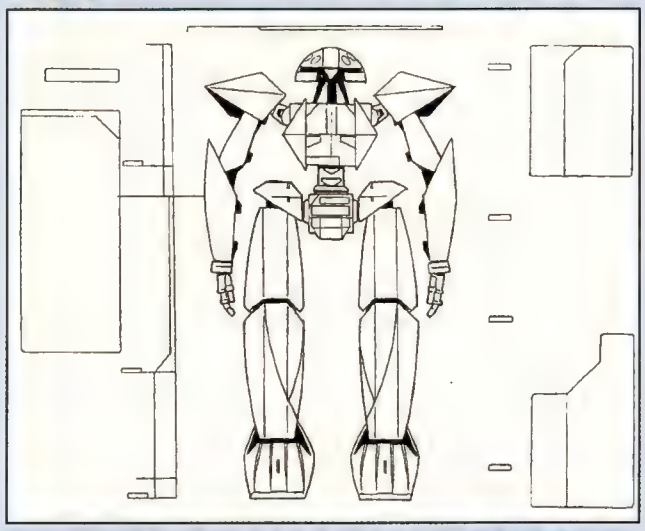
ベルレーヌの部屋

ギンガナム軍の襲来により傷ついたキースの大切なお嬢さん、ベルレーヌが伏せっていた部屋。キースのパン工場にある私室であり、実際の画面ではダンボールがうずたかく積み上がっていた。これは、キースたちの商売が繁盛し、片付ける間もないほど拡大したため、書類などがたまった結果だという。

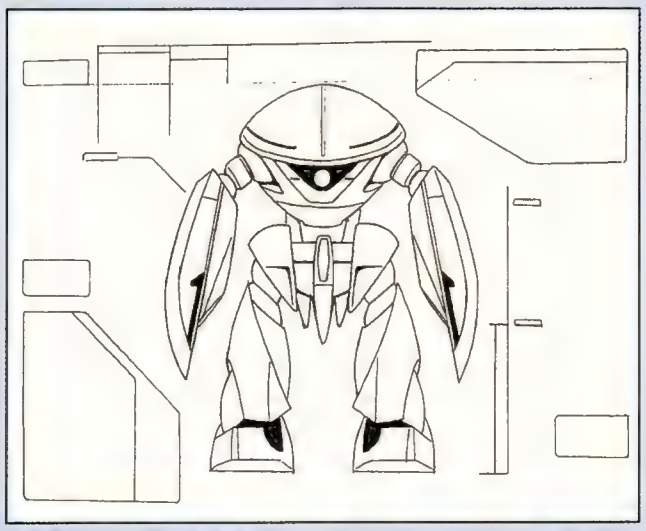


Appendix 黒歴史のデータ

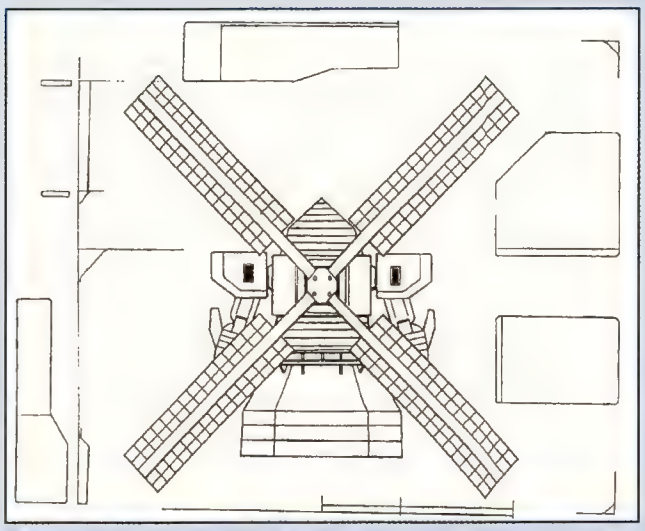
第46話『再び、地球へ』で、シドじいさんがウィルゲムのブリッジでモニターに表示させた黒歴史の機械人形のデータ。その主なものを紹介しよう。



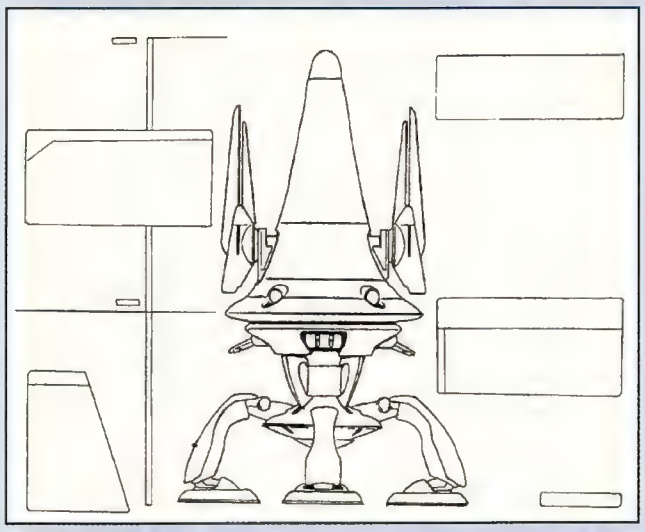
明らかにフラットだと思われるデータ。ちなみに、建造に必要な細かい図面も、ほかにちゃんとあるのだとか



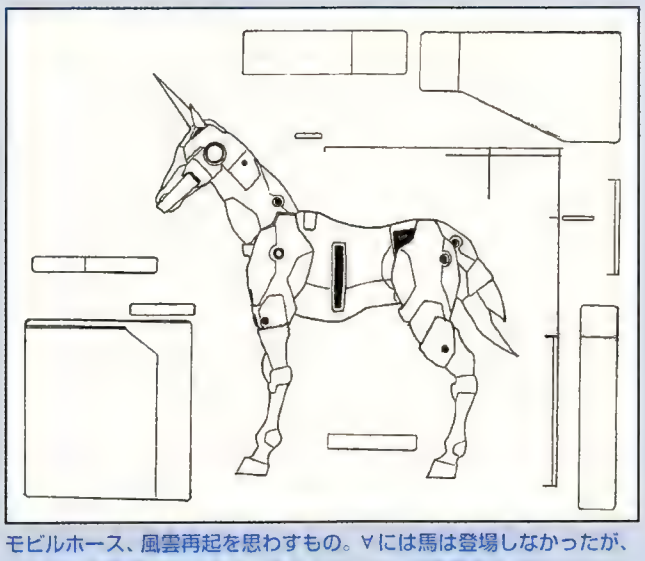
水中用モビルスーツを彷彿させる、オリジナルのデザイン。手足のラインに、そこはかとなくターンXとの共通点が見受けられる



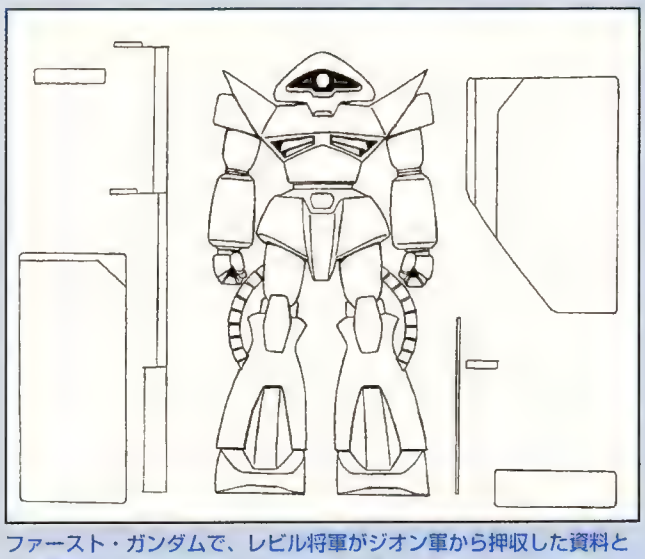
風車形態のネーデルガンダムとおぼしきモビルファイター。ミリシャとしても、正確には機械闘士とよばなければならない？



オリジナルの陸戦用モビルアーマー？　ちなみにこれらのデザインは、いずれも黒歴史のデータ用に新規に描き起こされたもの



モビルホース、風雲再起を思わすもの。∀には馬は登場しなかったが、もしかして絶滅している？　するとドンキーが搭乗するのだろうか？



ファースト・ガンダムで、レビル将軍がジオン軍から押収した資料として紹介していたモビルスーツと似ている

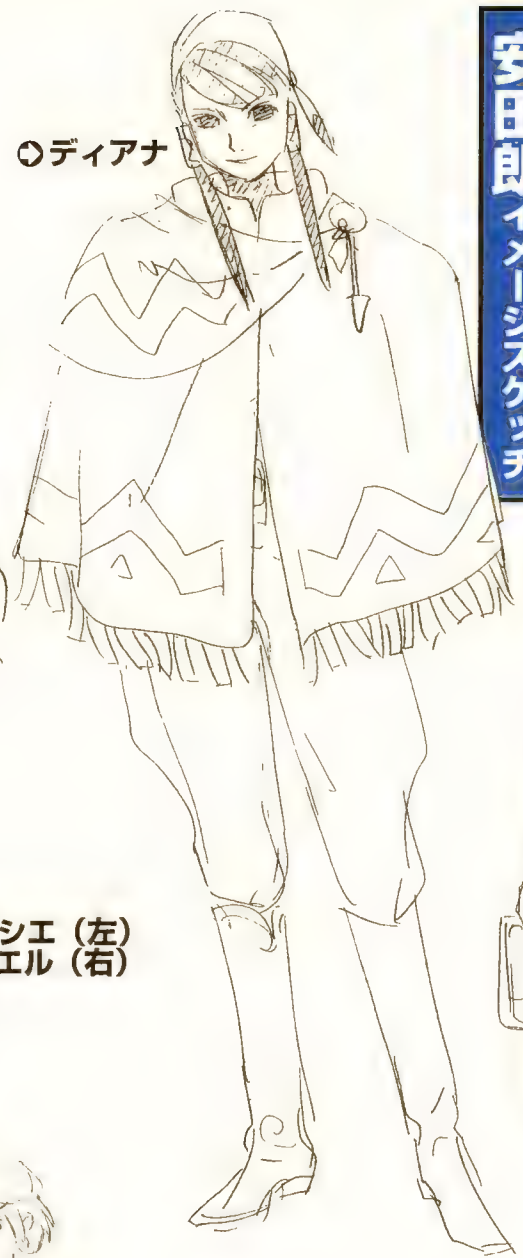
∀GUNDAM in the CRADLE

～揺籃期（ようらん）の∀ガンダム～

『∀』という新たな作品を作る。その作業は決して平坦ではなかった。これら資料はあくまでベースであり、これが完成に至るまでに多くのスタッフのさらなる創意が込められているのだ。その過程を想像しつつ読んでほしい。

97年6月～ 安田朗イメージスケッチ

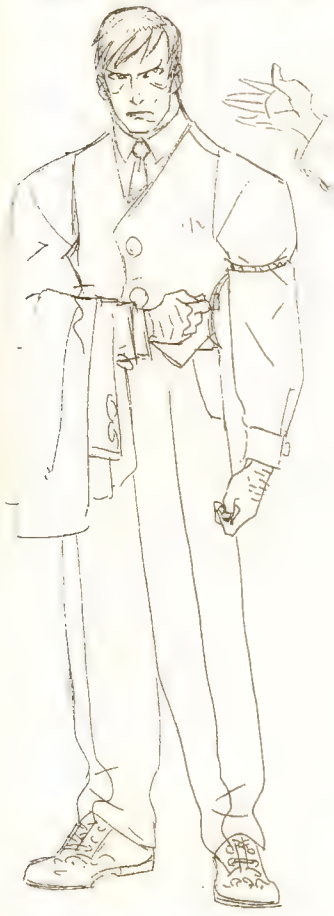
ソシエ（左）とキエル（右）



ディアナ

仮面のライバル

アーミーのリーダー

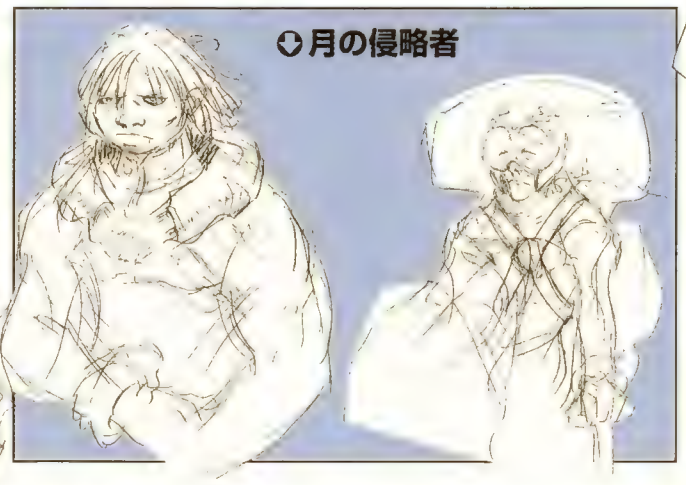


（表記なし）メシェーか？

ソシエ

ローラン・ソアック成人式の衣装

月の侵略者



【解説】

ガンダム20周年となる'99年に向けて、『新ガンダム』の企画が富野由悠季監督の下、動き始めたのは'97年4月。富野監督の自伝的エッセイ『∀の癒し』によると、吉井孝幸サンライズ社長から「20周年の記念イベント的なものではなく」という趣旨の依頼があったという。6月には、'96年に富野監督と知己を得ていた安田朗氏がキャラクター原案として参加することが決まり、「新ガンダム」の原型がかたまり始めた。

P68のラフは、ファックスの日付から推定するに、富野監督から「一週間ぐらいで5～6体描いてくれないか」と、試しにオーダーを受けた時期に描かれたものと思われる。

この時期は、「過去のガンダムを全肯定しながらも新しいガンダムを登場させられる」「平気でウソをつくヒトの習性をテーマにする」という方向で企画を練っていた段階で、登場人物もまだ名前と役割程度しか決まっていなかった。そのため、ローラン・ソアックは普通の少年ぽいデザインになっている。また、仮面のキャラについては、まだ人物も設定されていない段階で、安田氏が「景気づけ」に一枚描いたものと思われる。

この後、富野監督をはじめサンライズ第一スタジオが『ブレンパワード』の準備に入ることもあり、デザイン作業は一旦中断する。

P69の企画書は翌'98年になり、'99年中の放映を目指し、再び『新ガンダム』の企画が動き始めた春頃にまとめられたらしい。'98年秋からの放映を想定して書かれている。ただし、実際は'99年春から放映となった。この時点でのタイトルは『環（リング）ガンダム』あるいは『リング・オブ・ガンダム』。テーマである「巡ること」が、タイトルにも反映されている。

登場人物の説明を見ると、名前の細部が異なるが、生い立ちの基本的な部分は決まりつつある。ただし、この企画書からは本編の企画書には新たに描かれたディアナと、仮面の敵フィルなどが新たに掲載されている。

また、この時点ではまだメカニカルデザインのシド・ミード氏は参加が決まっておらず、企画書には大河原邦男氏によるモビルスーツが掲載されていた。

98年春 企画書「環（リング）ガンダム」

■企画意図

ガンダム・シリーズの20周年企画として、時代のランドマークになるモノを意識した、とする。21世紀を視野にいれて、不安を払拭するSFエンターテイメントを目指し、新しいガンダムの20年を視野に入れたい。

■制作の骨子

人間、責任とれよ。

人間、誇りをもてよ。

この原理原則の主張を基点にして、世紀末的ないやなものを一掃できる物語を若者たちに提供したい。そのことによって、メカ・オタクから市民に解放されたガンダムという物語の復権も目指し、新たに広いマーケットを開拓する。

■物語

時代は不明。しかし、西暦2107年と認められましょう。場所は、地球ではあっても、荒涼とした大地の一角にある村のような町から始まります。

歴史はどこかで分断されて、人々に戦争という概念も存在していません。

数本の槍のような峰をもつマウンテン・サイクルの山すその小さな町ビシニティで、純白のドールに運ばれて、『アーキ』の像の前での成人式の日。

キエル・ハエルを密かに恋する16才のローラン・ソアックは、ビシニティの町が、巨大なドールに焼かれる事件に遭遇します。

片思いのキエルの妹、ソシエが、『なぜあたしだけが助かったのか、分からない』と泣いて、ローランに、姉のキエルも焼かれたと報告します。

ローランは、ドールでソシエを助けて、マウンテン・サイクルに逃げようとしますが、そこにも巨大なドールが襲って、危機に陥ります。

しかし、巨大なドールの攻撃を阻止しようとする軍隊「ミリティア」が出現して、ローランは、彼らから「ドールはモビルスーツという兵器だ」と教えられます。さらに、ローランは、ビシニティの崇めていた純白のドールが「ガンダム」というものだと知らされます。

ローランとソシエは、ミリティアの戦士になって、ビシニティとキエルを焼いた巨大なモビルスーツを殲滅しようとします。しかし、彼等は、宇宙に逃亡してしまうので、ローランのガンダムとミリティアの軍は、月まで追撃することができます。

そして、月の裏側に、巨大モビルスーツを発進させた「ディアナ・カウンター」という軍の本拠地があって、ローランは、そこで、ディアナその人と対決するようになります。

しかし、そこで、ローランは『罪の源』を知らされて、ある事を決意するのです。

何を？　なぜ？　どうして？

それが、この「リング　オブ　ガンダム」の物語なのです。

■キャラクター

ローラン・ソアック（17歳になる16歳）

本人は内向的性格だと思っていたが、鋭い反射神経を持っているから、外向的性格に育っていく。その瞬発力の高さに、自分でも困るという部分があるが、アナクロな熱血漢でもなく、クールな殺し屋でもない。

キエル・ハエル（15歳）

ローランとは、ひとつ年下だが、お姉さんに見える存在。厳然たる初恋の対象で、ローランのなかに、永遠に生き続ける。

ソシエ・ハエル（14歳）

ローランにとっては、キエルの代わりにはならないが、愛くるしい部分は、とりあえず心の拠り所になる気性の明せきな少女。勘がいいのだろう。

ディアナ・ソレル（年齢不詳だが、外見は19歳）

ディアナ・カウンターの創設者の直系の娘。宇宙の民の苦しみを一身にうけとめて、その代償行為を果たさせようとする情熱的な少女として描かれる。

フィルム・ムンザ（?歳）

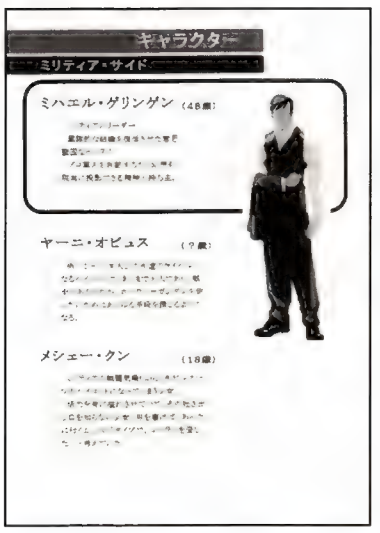
例のごとし仮面を被ったライバルとして設定されよう。ディアナに心酔するパイロットで、自身は、月からの使者といっているかもしれないが、メシェー・クンを見初めるかもしれない。

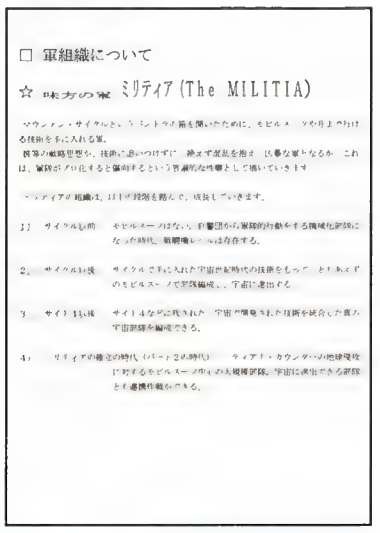
ミハエル・ゲリンゲン（48歳）

ミリティアのリーダー。軍隊的な組織を復活させた意思堅固なインテリ。プロ軍人を自認するが、幻想を現実に投影できる精神の持ち主。

メシェー・クン（18歳）

ミリティアの戦闘機乗りから、モビルスーツのパイロットになってしまう少女。活力を身に溢れさせていて、その吐き出し口を知らない少女。男を磨けば、あんたに付くよ、というタイプで、ローランを愛したいと考えていた。





∀ガンダム製作年表

'97年4月 企画スタート
'97年夏　安田朗氏の参加が決まる。最初のキャラクター・ラフが描かれる
'98年春　'98年秋放映に向けた企画書まとめられる
'98年4月『ブレンパワード』放送開始
'98年6月 シド・ミード氏にメカデザインのオファー
'98年7月末 シド・ミード氏来日し、サンライズスタッフとMSの打ち合わせ
'98年8月『ガンダム　ビッグバンプロジェクト』で、正式に『ガンダムAプロジェクト』として、新作の製作がアナウンスされる。会場には富野監督はもちろんのこと、安田朗氏、シド・ミード氏も姿を見せた
'98年9月 P72～P74に掲載したストーリーメモがまとめられたのが、この時期。8月までに物語の骨子がかなり明確になり、シナリオ作業もスタートした。第一話のプロット打ち合わせの段階で、ロランが地球生まれからムーンレィスへと変更される
'98年10月 安田氏、サンライズ第一スタジオに常駐となり、キャラクター設定作業に本格的に取りかかる。安田氏は約半年間サンライズで作業を進める。
'98年11月『ブレン・パワード』放送終了
'98年12月『∀ガンダム』作画イン
'99年2月『∀ガンダム』製作発表記者会見　この頃、「∀」のデザインが公になり、「ヒゲ」が賛否両論を巻き起こした
'99年3月～4月　シド・ミード氏にバンデット、ターンXのデザインが発注される
'99年4月『∀ガンダム』放映開始
'99年5月 P75～P77のストーリーメモまとめられる。物語後半部分のツメに主眼が置かれている。
'00年4月『∀ガンダム』放映終了

98年8月 キャラクター設定

【解説】

'98年夏から、物語の骨子作りが本格化する。ここでは'98年8月8日の日付が入れられた構成案からキャラクター設定を抜粋した。

ロランは女性に間違えられるという設定はここで登場。グエンが意外なトラウマの持ち主だったり、「田中角栄」「ハワード・ヒューズ」とたとえられている点も興味深い。一方、本編と印象が違うのはキエルであろう。上昇志向の強いお嬢さんというアイデアは、この後のページを見てもらえば分かるとおり、ストーリー構成にもかなりの影響が残っている。その姿は、むしろこれまでの富野アニメのヒロインを彷彿とさせるものだ。逆に言うと、ディアナとキエルをすりあわせるように、まさに一心同体として描いたことが、本編の『∀』らしさの一端を担っていることがよくわかる。

構成案にはキャラクター設定のほか、どのように戦争が泥沼化していくのか、といった作劇上のアイデアや、イングレッサ領やほかの領の名前が入った北アメリアの地図も収められていた。「戦争の経緯」という文章には、ムーンレイスの地球入植から始まった戦争は、やがて月へと飛び火し、再び地球へ戻って最後の戦闘がある、という大まかな展開が書かれている。ラストに関しては「グエン・サード・ラインフォードVSロランの図式を成立させる。ディアナは……?」との記述も。また、「発掘される核爆弾」「月へ行くためのスカイフック(本編のザックトレーガー)」などのアイデアはこの時点で既に盛り込まれている。

別項に収録した「ディアナとロランが出会ってからの物語」と「留意事項」も、この構成案に収められていた。どちらも『∀』の企画意図に触れる内容だ。

さらに、8月から9月にかけて富野監督は、作品世界の雰囲気を伝えるラフスケッチを描いている。P70からP76にかけて掲載したのはそのスケッチである。ビシニティの風景からフラットを降下させる宇宙船まで、文章だけではなく、ビジュアル面でも『∀』の世界が富野監督の中で固まりつつあったことがよくわかる。

ロランー〝自己〟を持っているディアナー民の苦しみを一身にうけとめる情熱

ロラン・セアック(17歳になる16歳)

工業化の波の中で技術者になりたいとは思うハイム家の馬丁の子。15歳の「ホワイト」の成人式の日に父が死に、炭鉱労働につくしかない運命がある。物語の冒頭、ハイム家から17歳の「ホワイト」の成人式に参加するなら、ハイスクールには行かせると提案されたが、屈辱的に感じている。美少年であるために、女性と見る人は、彼を「ローラ」と呼ぶ。男性と見る人々は、彼を「ローラン」と呼ぶ。これが、彼にいまさら成人式も必要ないと考える根拠である。が、この時だけは迷ったのだ。基本的には、第三者の視点を意識することがなく、言葉遣いは変えず日本語表示は「ぼく」。

生きられるようにしか生きられず、生きたいと思うように生きるしかないと考えて、その時々の状況を取り込める度量がある。戦争に巻き込まれても、気持ち良く生きる、という美意識を育てている。戦闘中にデジャヴを見ることがある(封印されているかつての人類の記憶)。戦闘力に応用できる反射神経は鋭く、その瞬発力の高さに自分でも困ることがある。(ニュータイプと直結しない。若い時の長嶋、寺尾であり、カズ、川口である)

事態について〝なぜ〟を心に描けるので、結果を予測することができなくても、最大公約数はまちがいがないだろうという判断のもとに対処してみせることができる。つまり、外界との緩衝地帯である〝自己〟を持っている。(環境に巻き込まれて順応するタイプがアニメでは多いので、状況に翻弄されず、弄されず、アナクロな熱血漢でもなく、クールな殺し屋でもない)

確固とした人格を有しているから、意識がブレルことがない。ディアナ・サイドについても、いい奴のまま裏切るからいい奴、とする。が、ロランはディアナを守ったつもりでいるが、究極的には、ディアナ的なものに守られた結果があるだろう。

初恋の対象であるキエル・ハイムの行動は、すべて許すことができる。そうでない時があっても、ともかく、独自で解決しようとする。

キエル・ハイム(17歳)

鉱山経営をしているハイム家は、成り上がりの中産階級だから、長女として、上昇指向が強い。淑女を演じながら、グエン・サードと結婚することをアッパー階級であれば、相手は誰でもいいという覚悟がある。ノックスの西駅の大時計のある屋敷に住みたいと思っている。ロランが女性と見られている部分を嫌悪しているが、それを利用しようと冷酷な処もある。使用人として卑下する部分を持ち合わせている。ディアナに生き写しであることが、事態を複雑にして、その結果、流浪の旅に出るような悲惨な運命が待っているが、それを乗り越える力も持っている。

「罪を感じない人間なんているかしら? 神様という絶対的な者が支配しているという宗教もあるらしいけど、そういう者がいたら、わたくしはそのような者に仕えます」

高潔に感じられるがけのことだ。

ソシエ・ハイム(15歳)

キエルの妹。姉の生き方を嫌悪しているが、うまくやってくれれば、楽ができるとも思っている。ロランとは、同じ成人式を迎えることになって、ディアナ・カウンターの攻撃以後、家を守るためには、戦わなければならない、と決心する。次女らしいはしっこさがあり、自動車の運転手になり、モビルスーツに乗るようにもなるのは、姉の代りになる必要があると感じるからだ。

「なんで過去にこだわるの? 私たち生きているのは、今なのよ!!」

「本当は、男も女もない。要はその人の生き方次第でしょ」

姉キエルに似ているディアナに会った時、自己崩壊したくないため、ディアナを倒したいと思うだろう。

(幼馴染みの美少女タイプというのは手垢に塗れている。それほど都合がいい女などはいない、と世の男共に知らせる必要がある。とすれば、彼女は、ミリシャのリーダー、ミハエル・ゲルンとひっつくか?)

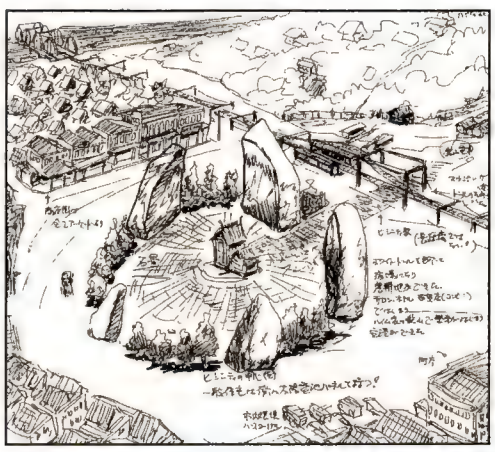
■ミリシャ・サイド

グエン・サード・ラインフォード(19歳)

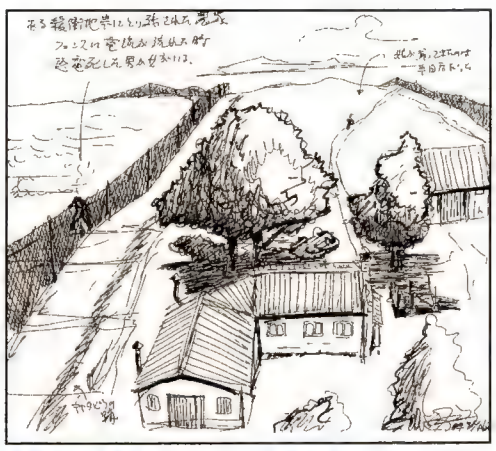
「私が惚れた以上、逃がすものか」

北米最大の領「イングレッサ」の領主、ラインフォード家の「御曹司」。幼い頃、祖父に犯されたというトラウマが、彼をして、ロランに愛を振り向けようとする。が、「若き田中角栄」で、産業革命の寵児になろうと言う現代的ないい奴。未来を考えていないのが問題なのだ。

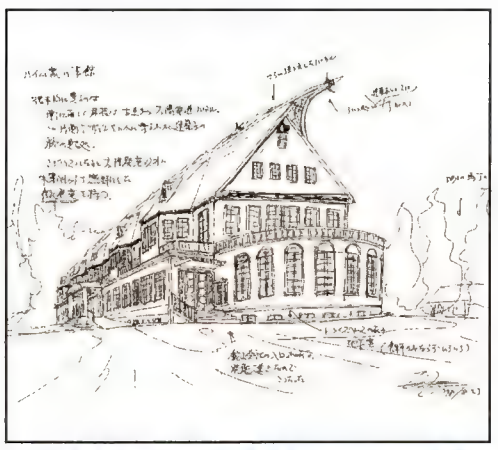
ラインフォード家は、ノックス(現在のボストン辺り)の郊外に豪壮な屋敷を構え、第一次自動車産業ともいうべき工場を有して、スポーツカー、飛行機の開発をすすめていた。ディアナ・カウンターの交渉が始まってからは、彼の試作スポーツカーは、ミリシャの軍用に改装されて量産に入らせ、飛行機の生産にも手を染めて、自身、テスト・パイロットまでやる。ミリシャの増強に邁進する先進性、実業家としてセンスは圧倒的で、モデルはハワ



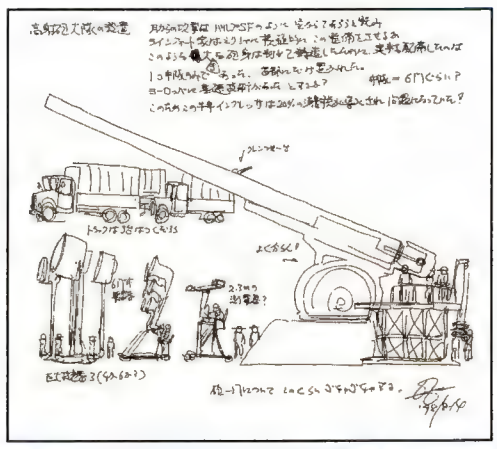
ビシニティの中心部。「ホワイトドールを目印に宿場となった。ハイム鉱山で繁栄が始まり空港ができた」



緩衝地帯の農家。「フェンスに感電死した男か女がいる」「娘が帰ってきたのは半日後だった」



ハイム家本館。「南に面した屋根は古来から太陽電池パネル。この片側デザインが建築家の腕の見せ所」



高射砲。メモには「このような大きな砲身は初めて鋳造したので、実戦配備したのは1コ中隊のみ」とある

ホワイトドールの祭壇の場。ホワイトドールのデザインが違うが、雰囲気はほぼこの時点で固まっている

ディアナとロランが出会ってからの物語

ディアナは、ロランが、歴史の事実を知ったときに、真っ当に反応してくれた男と感じ、愛を実感する。だから、ロランのために、月に地球を再現しようとしたり、初恋の人に似ているなら、ロランの求める淑女を演じようともする。それもロランの求める淑女を演じようともする。それも滑稽で可愛いだろう。そのようなことでディアナは、豊かになるが、それが、部下たちの反発を買い、ディアナはその帳尻合わせのために、地球再侵攻を決意することになる。

ロランは、ディアナが地球人の抹殺など考えず、ただ緑と青空に唯憧れていたことを知り、月で奇形になり、人間の記憶まで失っていくかもしれない同胞を地球に戻してやりたいと考えているディアナに崇高なものを感じるから、地球人として贖罪する相手が見つかったと感じている。だから、キエルにかわされてしまった愛をディアナに向ける。

二人は、忘却を手にしなければ、存続を手にいれることができなかった地球の歴史を自己否定とわかったから、ミリシャに代表される工業化社会の到来を否定し、せっかく獲得した穏やかな地球の歴史を継続させるために、人類は、増殖する事なく死んでいける生命の流転に身を任せるべきであると主張するようになる。

献身を示すことができるということは、己を愛することができるという高みを得たということであり、そのような者がよりそっているなかで死んでいくことができたディアナは、至高であったとロランは理解できるだろう。それは、生物のあるべき姿であったから、これが全ての意志あるものの行為であればいいと思うのである。

以後、歴史は、人が死ぬべきものであるという認識を明確なものにして、地球が死するまで、命あるもの命を楽しむ場として存続させる運命を享受することを受容する認識が生まれた。

'98年5月29日（訂正8月7日）

【留意事項】

◆ガンダムにミリタリー色が不可欠と信じられているが、限界がきているのではないか？ ガンダム以後のミリタリー指向は、オタッキーの推進でしかなかった。現実の戦争が遠くなった現在、軍隊的カラーはエンタテイメントの一要素として復活する。上記の問いと卑下と予想に対しては、以下の要素を投入することで、解答としたい。

◇軍隊が健全であるためには、徴兵制が必須である。市民軍でなければならない。なぜなら、プロ（武闘オタク化）になった集団は偏向する。が、各種職業を持つ人々が参加する集団は、組織内自省が働き、軍の暴走を食い止めることができる側面がある。（開かれた軍隊）

◇古代ローマ軍が精強であったのは、納税市民で編成されて、奴隷は正規兵ではない。ここに、義務感によって支えられている軍の強さがある。そのローマが衰退したのは組織疲労が原因で、トップの爛熟からくる情実と怠惰である。

◇市民戦争の時代に戦場が拡散する。組織が膨大になり、機動力が増大したからであるが、同時に、戦争指揮権が分散化したからである。さらに、責任分散が無意識のうちに行われたために、敗北の責任を回避するために殲滅戦に移行したからである。（市民の中の戦争論の喪失）

◇技術の特化が、軍人のプロ化を押し進めて、軍隊は特種社会の閉塞化に陥り、上記要因を加速した。湾岸戦争は、指揮権を大統領に集中し、市民の厭戦思潮を追い風にして、軍人の独走に歯止めをかけた。これは善きにつけ悪しきにつけ現代的である。

ード・ヒューズ。

女と遊ぶことは知っていても、コネを求める女は徹底的に苛め抜く。だから、キエルもその餌食になるのだが、なぜか、肝心な処でキエルは逃げる術を心得ているので、グエンにとっては、ハテナと感じさせる女となる。

工場は、西隣の領「ルジャーナ」の首都オールトン（田園工業都市）に建設していて、点在する工場で生産をしていたので、ディアナ・カウンターの第一次攻撃によって全滅するようなことはなかった。が、後に、エリゾナ領の塩の都市「ソルトポウ」に後退して、生産と経済の指揮を取ったりする。

ミハエル・ゲルン（35歳）
ミリシャのブルージャケットのリーダー。

「戦争の対義語は平和ではなく、文明の産物なのだ！」

「男というのは、力を使わなければ女に勝てない動物だ」

平和しかなかった地球のインテリだが、戦争ができる集団をでっち上げた実行力がある。プロの軍人は、政治を支配しなければならないと考えている。

メシェー・クン（16歳）

活力の吐き出し口を知らない少女。男を磨けばあんたに付く、とロランに愛そうとした。（女子プロレス＋少し頭がいいタイプ）しかし、ロランに惚れたばかりに、ミリシャのレッドジャケットに入隊して（物語の冒頭で入隊しているかもしれない）、ロランに嫌われていると知れば、ディアナ・カウンターに寝返り、さらに、またミリシャに戻る事ができるという少女。

その途上、ディアナ・カウンターのハリー・オード中尉に身も心も捧げる決意もするが、ハリーのディアナ一辺倒という心情が、実は彼の弱さからだと知って、嫌いになっていくだろう。

■ディアナ・カウンター・サイド

ディアナ・ソレル（年齢不詳だが、外見は19歳）

専制君主による平和維持を月で可能にしたソレル家の最後の当主。ディアナ・カウンターの最高司令長官でもある。宇宙の民の苦しみを一身にうけとめて、その代償行為を果たさせようとする情熱的な部分が、一兵卒にも身を委ねてしまうところがある欠点も持ち合わせる。

「私が悲しんでいるのは、あなたたちが戦いを忘れると同時に、他人を思いやる気持ちまで忘れてしまうからです」

「私が愛されないのは我慢できますが、でも、私はあなた方すべてを愛します」

ハリー・オード大尉（18歳）

ディアナ・カウンターの近衛師団の俊英で、自身は「月の改革者」と信じる。ディアナを愛するが故に、近くにいることができず、最前線を渡り歩きながら、絶対にディアナを守り切るという信念に生きる。近衛でありながら、単独行動を認められている士官。

ナノスキン・モビルスーツ「アンマ」（仮称）を操って登場するが、ロランと戦場で出会った時、彼をローラと認識をして、女に敗北しそうな自分に嫌悪する。その反動が、メシェー・クンを見初め、策謀を巡らすかもしれない。が、それでは暗くなるので、なんとか健やかな敵にしたい。

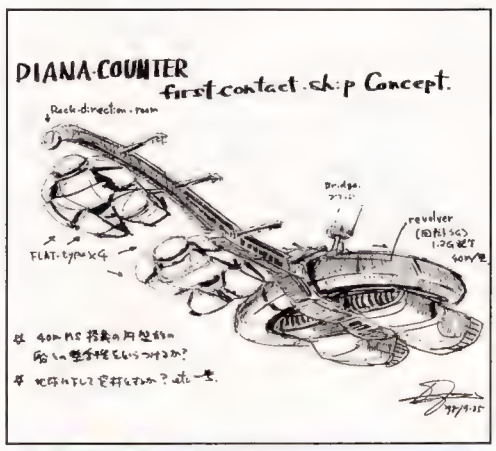
フィル・アッカマン大尉（25歳）

近衛師団に対する艦艇師団の中堅士官。

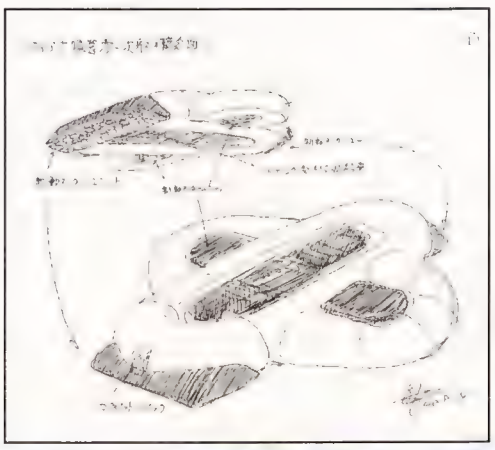
ディアナのやり方は甘いと苛立ち、ディアナ・カウンターを憎悪の軍隊に変えていく。

ポゥ・エイジ少尉（20歳）

地球のモビルスーツを使ったという一点で、ロランに敵愾心を抱き、地球には潜在的に月に捨てられた人々を迫害すると思い込む。

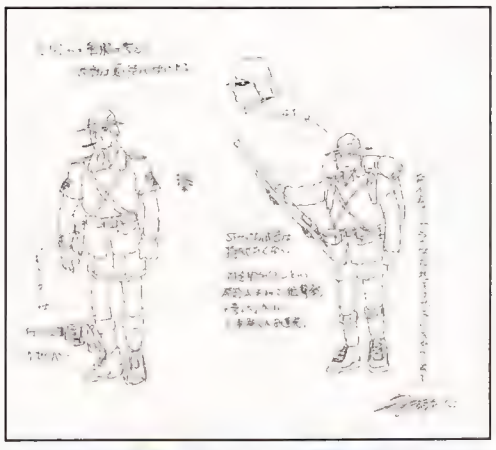


1話冒頭に登場したディアナ・カウンターの宇宙船。設定は作られずここから原画が起こされた。



ディアナ・カウンターの移民船。このほか、この分離パターンの設定もほぼ同時期に描かれている

ノックス市電の車庫付近。市電の前に女の子が腰掛けており、ノックスの生活感が感じられる。



ミリシャ兵の服装。「SFチックな武器は持たせたくない」「対空用ライフルという発想がある」

98年9月 ストーリーメモ

【解説】

P70、71に掲載された構成案から一月半ほど後の9月28日にまとめられた構成案から、物語のラストに至る部分を抜粋した。この構成案は、全33ページにわたってひととおりの物語が書かれたもので、特に、最初の12話については特に詳しく1話ずつの粗筋が書かれている。

この時点で既に第1話のシナリオ作業はスタートしていた。そのため、第1話の粗筋については、わきに「星山（博之氏、1話のシナリオ担当）プロットによる」と但し書きがついている。ここからロランはムーンレィスという設定になり、キースやフランが登場する。第2話以降の展開は、ミリシャが「夜明けの惨劇」と呼ばれるムーンレィス入植者虐殺事件を起こすなど、戦争色が強いのが特徴。それは後半の物語にも共通する。

また収録したメモの直前には、P77収録の「ディアナが延命を拒否した理由」の原型となった言葉と、次の詩が挿入されている。「前頁のテーマ」とはその二つを指していると思われる。なお、芥子は富野監督が使っている雅号。

《人よ》
進化するということは拡大するということと
拡大の果ては拡散と終焉
なのに人は進化することを善とした
その知恵の愚鈍さよ
様々な延命策がなかった時代
人はいっぱい人の死を見て
全身で悲しむ慟哭という言葉を知っていた
それでも人は自殺することなく
明日の命を長らう
その刻苦は人を堕落させることはない
現代の人の生死の光景を知らない長寿は
安穏と時間と物を消費する
だから
自己という中で逼塞し崩壊する脆さを手にして
精神が病むとうっすらと怨しんで見せる
怠慢な生き物……

1998年9月27日芥子

前ページのテーマに向かって、後半の物語が開始される。

◇

地球から帰還したディアナ・ソレルに対して、アグリッパ・メインテナーたちが反乱することがないのは、本能的に暴力を遺棄するからなのだが、戦闘に対しては脆弱だった。

月に辿り着いたグエンとミハエルは、長期戦にすれば、ムーンレィスたちは衰微して朽ちると分かる。ナノマシンの機能は、軍事的行動に即応する速度は持たないのだから、技術に絶対的によりかかっているムーンレィスはモロイと判定したのだ。が、現在の月の科学技術を地球に移植したいと考えるグエンは、全面的な破壊には反対である。技術は地球にもちかえって、現代産業の寵児になりたいと考える。近代的軍事行動に興奮し、その行使に取り付かれているミハエル大佐たちは、月の殲滅を開始し、ジョゼフの「生物兵器」による爆撃案は実行されようとする。

ロランは、その作戦を中止させようとするが、説得しようがなくなり、ついに、ミリシャの宇宙船を破壊しようとする。しかし。キエルを助けなければならないという気持ちがロランの行動を甘いものにして、キエルをともなって月の裏側に逃亡する結果になる。

その間に、ジョゼフたちが、戦端を開く。

◇

アグリッパ・メインテナーたちは、防衛戦を想定していないドームがミリシャの小さな部隊の攻撃で簡単に破壊されてる光景を見て、為す術がない。メシェーのような純粋な地球人は、この作戦の正義を疑うことはないし、父親の仇を討っているつもりである。アグリッパたちは、ディアナを売って投降しようと策動する。しかし、ハリーの紅蓮隊やポゥたちは、徹底的に抵抗戦をはり、ソシエもその戦列に加わっていく。ロランは、月の裏側のドームに潜入できて、ディアナの懐かしい城の光景を目にできる。

「キエルさん、あれがディアナ・ソレルのお城なんです」

「あなたが命を捧げる女王の城？」

それはロランには痛烈な皮肉に聞こえる。その二人を襲うのが、ソシエだった。キエルは、そのソシエを叱るが、ハリーたちの動向を知るきっかけにはなる。ハリーたちは、自分の庭の戦争であるから、局部戦闘を有利にすることはできるが、アグリッパたちの意思が、防戦の作戦の足を引っ張る。ハリーは、ディアナの冬の城（冬眠室がある）を最後の防衛戦と考えている。

◇

【中略】

◇

ロランは、グエン、キエル、ソシエたちに人類の古代宇宙世紀の真実を語り、反省を促そうとして、グエンには薬を盛ってまで拉致する。それが成功するのも、グエンがロランを愛しているからであり、ロランが、ディアナ・カウンターの前線を突破できるのは、ソシエが協力してくれるからである。

メシェーはグエンとするのだが、追撃の途中でロラン同行する形をとるようになってしまう。ハリーは、ソシエがロランを誘導していると知れば、矛を鈍らせ、ロランの潜入を許すのである。

そして、ロランが行き着いたのは、ディアナの冬の城のちかくにある巨大なビジュアル・データ室！

「昔、こういうことがあったんです！」

グエン。キエル、ソシエ、メシェーの眼前の数百のモニタは、かつての地球人たちの宇宙戦争の時代の戦争が描き出される。スペースコロニー、アフター・コロニーの時代等々……。壮絶に繰り返される近代科学技術戦争の描写に、グエン、キエル、ソシエ、メシェーは圧倒される。

「噂通り、ロランはムーンレィスだったのか」

「これだけの技術をもった人々が、なぜ、戦争をやめられないんです？」

「人には、闘争本能がある」

「闘争本能を抑制するDNAが開発されているんです。アグリッパ一派はそのようなものの下でムーンレィスとして進化してきたんです」

「ロランは地球人の尾體骨をもったムーンレィス？」

「大半がそうです。人間ですから……ですから、僕らは協調しあえるはずなんです」

しかし、

◇

キエルは、

「太古に宇宙時代があったから、現在の歴史が築けたのでしょう」

その発言に、ロランは絶望する。

「そうではありません。キエルさん！絶対平和、それを構築していかなければ、また人類は絶滅寸前までいくんです！」

「月の技術を地球にもちかえって、環境保全から考えた産業を立ち上げればいいのです」

ロランは、キエルに真実をどのように理解するのか教えてやりたい衝動に駆られて、ディアナに帰順する。恐怖と痛みを知れば、分かって貰えるだろうと思うのだがそれは若い思考である。

「協調するために時を経たというのに、我々はそれができない情けない人類と言う事か？」

「はい……悲しいけれど、現実でしょう」

ロランの意見には、全員が同調する。グエンは、生命そのものは未来を考えることはしないと豪語しながらも、ディアナとの和解を探ると約束する。しかし、好戦派のミハエル大佐やヤーニ、ジョゼフたちがどこまでも死なないので、手を焼くことになる。戦争とは暴走である。暴走をとめるのは、始めるよりも難しい。

メシェーはなにを教えられても、近親者を殺された憎悪を癒すことができないから、徹底抗戦をする姿勢を堅持するのだが、それは悲しい現実逃避の姿でしかない。しかし、時代にとっては、革新の戦士に見える。

独特の形状をした飛行船とヒップヘビーの原型と思われる複葉機。副座で、前が銃撃手、後ろがパイロット、とのメモがある。

「泣かなくていいでしょう……地球で暮らしましょう。かぐや姫になって……」

◇

ロランとハリーは、ソシエを同道して冬の城にディアナを訪れる。懐かしい再会。ディアナは、ハリーとロランが宿命の敵という関係を氷解させる儀式をするのだ。それは、あの成人式とはちがう意味で、ロランを大人にする。

「ディアナ・ソレルのためが、人類のためになるのなら、この命を捧げましょう」

そのハリーとロランの宣言は、ソシエには拷問の鞭に感じられる。その痛みを忘れるためには、ハリーを自分の男と位置づけるしかないと思う。

◇

そして、ロランは、ジョゼフ・ヨットが強力な敵になっている現実と直面する事になる。モビルスーツ乗りにとっては、ミハエル大佐やヤーニなどはクズでしかない。そう思ってしまうロランも、戦争のなかで小さな男になっているのだろう。

ソシエには、ディアナを愛しながらも、キエルを求め、グエンの愛に精神的に応えようとしているロランの複雑さを悪口の材料にするしかない。ハリーで我慢する術も覚えてしまうソシエだからできることである。ポゥ中尉は、そんなソシエが面白いから、部下として使ってやる。ソシエは、ハリーをポゥから寝取ったという自負があるから、ポゥの嘲笑が苦痛ではない。が、ポゥには戦えることに楽しみを見い出しているから、嫉妬心など遠い世界のことでしかないのだ。それもこれも、小さな女をつくることでしかない……。

◇

ロランは、キエルにディアナと一緒にいて欲しいと願い、敵になってもその説得をつづける。

「それができなければ、ノックスもビシニティも焼きますよ」

キエルが率直に動いてくれないので、ロランは怒りにまかせてそう言ってしまう。

「月に超兵器があっても、そんなことはできないでしょう。ディアナ・カウンターは、敗北の連続なのですから」

「直接攻撃することもできるのです。ハリーがそれをやろうとしています」

「ハリーが……!?」

キエルは、ソシエが心惹かれ、ザックトレーガーの攻防戦でも会った男を思い出す。

「それを制止したら、グエン・サードをディアナに会わせるように計らってくれますか?」

「会いましょう」

キエルは、ハリーの説得に行く。が、ハリーが地球を直撃するレーザー砲の封印を解く光景に立ち会ってしまう。その背後には、アグリッパたちの策動もあったとしよう。キエルは、ハリーたちの作戦をやめさせようとするが、ハリーは聞く耳をもたない。

◇

地球直撃作戦は、ディアナの了解する処ではないので、ロランはハリーと対決することになる。ハリーは、地球で変節したロランとヤへの憎悪を消すことができず、ロランを倒そうとする。地球直撃のレーザー砲は、一度、虚空をよぎって発射されるが、その下で、ロランはハリーを倒してしまう。ソシエは、ロランを本当に憎むことになる。

◇

ハリーの死を悲しむディアナは、ロランを罰することはしないものの、複雑な感情を抱くようになる。ロランは、そのディアナの許しを得るために、ハリーの弔い合戦をやってみせるという意気込みで、ミリシャの艦隊を破壊するミリシャの攻撃を遮断するためでもある。その脅威にジョゼフとメシェーは、グエン、キエルともに地球に後退しようとする。

このとき、グエンは、ミハエルやヤーニたちを月にとりのこそうと策動するのだが、失敗する。ミハエルとヤーニたちは、月の技術を頂戴して地球帰還に成功して、しかも、月の施設の大規模な破壊工作を施すことを忘れなかった。彼等はタフだ。

◇

ロランは、ミリシャの破壊工作をキャッチして、それを阻止するのだが完全にはできず、そのために、撤退するミリシャの艦隊を送迎するように、月の施設の炎上を花火のように見せてしまう。ディアナは泣いた。ロランは、身を揉む。ディアナは、新たな嫉妬に身を焦がして、紅蓮隊のチーフになる。

◇

グエンは、地球で再軍備をしてロランを待つ。ディアナは、ノックスの産業革命の火を消す必要を感じるから、小さな艦隊を組む。そして、地球。ザックトレーガーの近くでは、かつての同乗者のフラン・ドールが赤ちゃんを抱いてロランを迎える。「父なし子でも元気です」。ロランと紅蓮隊、ポゥ大尉たちは、ミハエル大佐とヤーニの新たな防衛戦を突破しなければならない。が、ジョゼフとメシェーが、ロランを倒しにくる。キエルは傍観する狡猾さを身につけて、ディアナは説得できる隙もないと知る。

◇

ボストニア城に追った紅蓮隊のソシエは、ジョゼフとの戦いでモビルスーツから引き出されて、捕虜になる。それを知ったロランは、ジョゼフを倒し、メシェーを後退させ、ミハエル大佐の指揮するミリシャを撃破する。そして、ミリシャは全滅する。しかし、グエンは、後方で超然としているだろう。

「愛するローラが強いのは嬉しいことだ。ローラは月の技術をわたしに運んできてくれて、そのようなローラをわたしは征服できる……!」

◇

キエルは、グエンにロランを渡したくないから、ディアナにグエンのいる場所を知らせるだろう。ディアナは。ロランの姿を求めて自らモビルスーツを操るかもしれない。そして、ディアナはグエンと対決するのだが、ロランに制止させられ、ロランは間違ってグエンを殺してしまう。いや、間違いではなかったかも知れない……。

終戦は、赤ん坊を膝の上にしたフラン・ドールが、一等先に直感するが、キエルはいつまでも戦争はつづくと独白をつづける。ロランは、決して振り向かなくなったと分かったから……。

◇

ソシエはハリーの思い出を求めて、ひとり、ザックトレーガーから射出される船に乗り込むが、それは月に辿り着ける保証はない破損した船……。

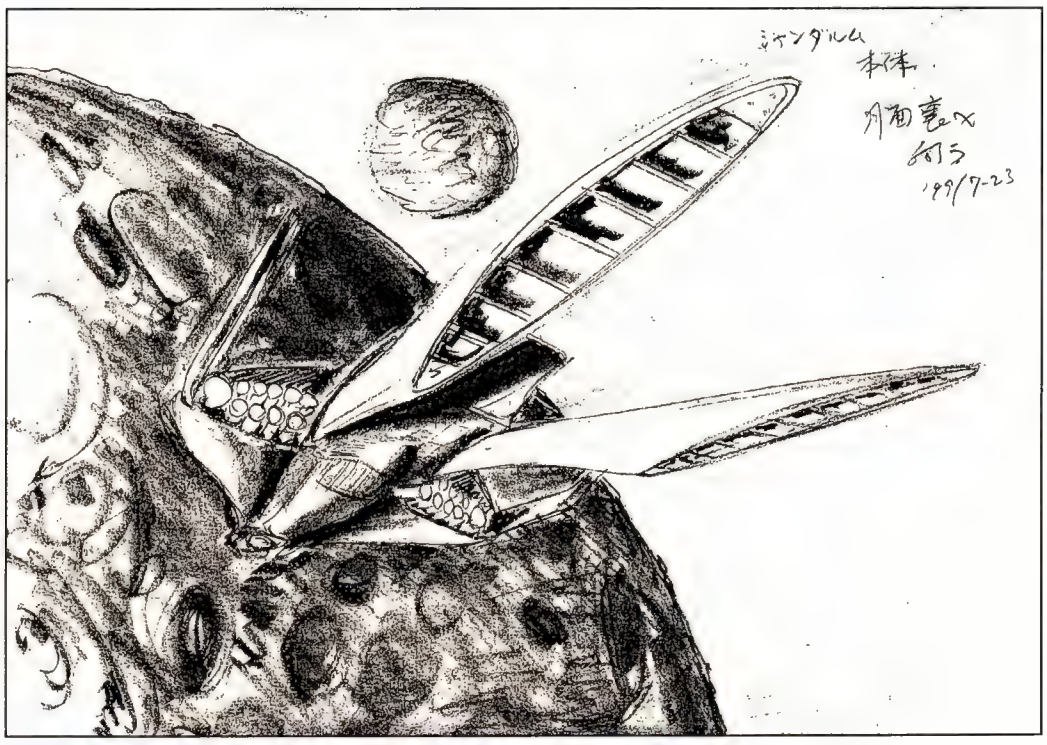
ロランは、レッドリバーであのブリキの金魚を浮かべてみて、それが沈むのを見て泣いてしまう。その金魚を掬い取ってくれるのは、ディアナの裸体だろう。

「泣かなくていいでしょう……地球で暮らしましょう。かぐや姫になって……」

その二人の背後には、∀かその後継機であるかも知れないモビルスーツが、朽ちていきたいと願うかのように天を仰いでいる。

太陽はまだ消滅する気配などみせず、また「ホワイトドール」が荒野にできるかもしれないと語りつづける。

1998○9／27



これは少し後に描かれたスケッチ。'99/7・23と日付が入っている。月面裏へと向かうジャンダルム。ジャンダルムは富野監督がラフを描いたメカの一つ

99年5月 ストーリーメモ

【解説】

'99年5月19日の構成案より、第39話以降のストーリーメモを掲載した。この構成案は富野監督が27話以降の展開をまとめたものだが、その物語は本編と大きく異なっている。

まず違うのは、P72、73に掲載した'98年秋の構成案と同じく、戦争色が本編よりも強い点。特にこの後半はまさに富野アニメともいえる展開をみせており、ディアナとグエンをロランが焼き尽くすシーンなどは、『Vガンダム』の1シーンを見るようですらある。だがご存じの通り、結果的にこのメモはほとんど本編には採用されていない。富野監督自身「2クール以降に制作した物語には、数人のシナリオ・ライターのアイデアと感性がはいっていて、いくつかのエピソードには、僕はまったく関与していない」(『∀の癒し』)と発言している。つまりこの従来の「富野ガンダム」の匂いを持つメモをたたき台にしながら、「ガンダム」ではなく、『∀』らしい物語とは何かを模索する作業こそが、∀という物語作りのポイントだったということがわかる。

またこの構成案には、ディアナが老化防止を拒否する理由を書いたメモも含まれていた。これは'98年のストーリーメモ中に書かれた文章をリライトし、独立させたものだ。その分量に、富野監督がこれを物語の重要なポイントと考えていたことがよくわかる。『∀』のテーマ「ただ巡ること」と深い関連のあるディアナの決意はいかに物語に組み込まれたのか。このメモを読んでから、本編のラストに至るディアナの行動を見ると、新たな発見があるのではないだろうか。

ちなみにスニーカー文庫版『∀ガンダム』(佐藤茂)も、ハルキノベルズ版の『∀ガンダム』(福井晴敏)も、この富野構成案を下敷きにしており、当然ながら結果的に本編よりもハードな展開の物語となっている。

なお、メモ中に登場する「影紅蓮」だが、これはハリーの指揮する部隊が「紅蓮隊」と呼ばれている、という設定を踏まえてのネーミングだ。

#39～42　月からの光景

◇

戦争とは暴走である。(クラウゼビッツの戦争は政治の延長だ、という論には従わない)暴走をとめるのは、始めるよりも難しい。

キエルは、ディアナとなって戦艦『アンドリュー・アンドレ』を旗艦にして、ウィルゲムやディアナ・カウンターに立ち向かおうとする。アグリッパは、自然界の転生輪廻を思って逼塞する。が、真なるディアナは、キエルに言う。

「地球に住む人々は、すべてニュータイプだったから、絶対平和のなかで歴史を刻むことができました。でも、平和を揺るがすものが出ると、ニュータイプは兵器になります。キエルさん、あなたは、今、兵器になりました。武闘を正道と考えていらっしゃる」

「ディアナ様は、侮蔑すべき女性だと思います。ひとつの恨みで戦争を起こして、憎しみを増幅し拡大して、ニュータイプを兵器に覚醒させたのです。そうでないとおっしゃるなち、恋心に殉じて、お一人だけ安楽死を選ぼうとなさって地球に降下なさった」

「それは、ニュータイプになれたと錯誤した人のおっしゃる傲慢です。太古に宇宙時代があったから現在の歴史が築けた人の英知の成果を否定することになりません」

どちらの発言であっても、ロランは絶望する。

「どちらでもないですよ。キエルお嬢様！　ディアナ様！　絶対平和、それを維持していかなければ、また人類は絶滅寸前までいくんですよ！」

◇

ロランは、キエルに真実をどのように理解するのか教えてやりたい衝動に駆られ、ウィルゲムを支配する。

ディアナは、そのロランのやり方を見届けようとするから、ウィルゲムに乗り込んでくる。

「協調するために時を経たというのに、私たちは、それができなかった情けない人類という事なのでしょうね？　ロラン……」

「はい……悲しいけれど、ディアナ様も愚かかも知れません。けれど、千年も一万年も生かされていれば、愚かにもなりましょうね……一人の人間は一人の人間でしかないのですから……」

「そう、あたしは恋心に浸って人生を全うしたかった……」

◇

【中略】

◇

キエルのもとには、ハリーがソシエとポゥを連れてくる。

ソシエは、姉がアグリッパと手を組んでいることで、自分の選択が正しいかもしれないと錯覚するし、ハリーをポゥから寝取ったという自負があるから、ポゥが偉ぶって自分をつかおうとするのも苦痛ではない。ソシエもポゥも、戦いに喜び見い出す小さな女になっていく。

ハリーは、先妻アマンマ(注・#33～35のメモに登場)のことをどう考えているのかは、一考したい。

◇

だから、ソシエはハリーに口ランを討って欲しいと頼む精神状態にもなり、キエルがそれを聞くかも知れないが、今のキエルはそのことが戦力論のなかで必要なことと感じてしまう。(欺瞞の癒しという、際どい人間関係が生まれていくのも、戦場で悟性を確立しようとするあがきなのかもしれない)

ハリーが、ソシエを利用して、ロランを本気で討とうとするのは、地球でのディアナとの生活を夢見、強力になったVを捕獲したいからでもある。

ロランは、が、そんな作為ある戦闘をロラン切り抜けられる。

そのために、ディアナの志を受けたロランが強くなっている、という展開にしたい。しかし、それでも、ロランは、キエルとディアナは一緒にいて欲しいと願っているから、キエルへの説得へのメッセージを送り続ける。

◇

しかし、キエルは、アグリッパ一派の主導をとり、ハリーと共にフィル麾下のディアナ・カウンターをつかって応戦する。その経緯のなか、ロランとキエルが出会うことがある。その時、ハリーにロランを討って欲しいと依頼したソシエまでがいて、二人の心情を聞くことができるとベターである。

キエルは言う。

「ウィルゲムの∀の存在が、グエンたちを増長させているのです。処女体験のようなもので、新しい体験と珍しい道具にはしゃいでいるグエン・ラインフォードは、地球を、太古の宇宙戦争の時代におこなった結果と同じにします。それをさせないようにしようとする私の道は正しいのです」

「ディアナ様は、諫めようとなさっています。グエンさんを説得することはできます」

「できません。時代の行為、というものに乗っていらっしゃるのですから」

「これでは戦乱がつづき、ノックスもビシニティも焼く結果になりますよ」

「ハリーは、戦乱は一挙に解決してみせると言っています。ロラン、私の元にいないと死にます。それは、させたくありません……」

ハリーの考えている手法については、キエルも知らないから、そこまでしか言えない。ソシエは、揺れる……。

◇

一度は、キエルの指揮のもと、ハリー、ポゥと共にロランの部隊と戦ってみたソシエは、違和感を感じている。

富野監督によるストーリーメモは、グエンとロランのすれ違う思いの物語、とも読める。これはグエンとロランの出会いをイメージした1シーン

ロランに謝りたい衝動に駆られる。だから、ハリーの行おうとしている作戦を知ると、ハリーのもとを脱出する。そして、ロランに、ハリーが月にある超兵器で地球を直接攻撃し、ウィルゲム以下のロランの艦隊も一挙に殲滅しようとしていると教えてくれる。

「ハリーが……!?」

「ディアナ・カウンターの連敗を甘受できないと言っているのよ……!」

ソシエは、ロランにそんなことを言いに来たことを後悔していない自分を発見して嬉しい。ディアナは、そのソシエを上手に慰められない自分を情けないと感じる。

◇

ロランは、ウィルゲムがフォンに戻ったとき、ハリーが地球を直撃するレーザー砲の封印を解く光景に立ち会う。アグリッパたちの決定もあったのだ。

キエルは、レーザー砲の実態を知ったとき「ビシニティも焼かれるというのも本当なのだ」と、その作戦をやめさせようとするが、ハリーはポゥとともに独走する。地球直撃作戦は、ディアナにも了解できることではない。

ロランはハリーと対決することになり、ハリーは、地球直撃のレーザー砲を発射させることもできるが、その下で、ロランはハリーを取りに逃がしはするが、ポゥを戦死させる戦いをしてしまう。ソシエは、自分がやったことを正しいと思うが、姉を取り戻すことは不可能だろうと思い始める。

◇

【中略】

◇

アグリッパたちは防衛戦を想定していない地下ドームにいて、ミハエル、ヤーニたちの攻撃で簡単に破壊されるかもしれない。ハリーの先妻のアマンマは、ここで劇的な死を迎えるかもしれない。それが、ハリーに打倒∀を決意させる。が、ここでは、キエルもアグリッパたちも、為す術がない。キエルをディアナとして苛めてしまうような小心者でしかないアグリッパは、なにを勘違いしたかキエルを売って、投降しようと策動するかもしれない。

キエルは、グエンのもとに来るのだ。キエルは、騙されたという構造にしたい。グエン、ミハエルとヤーニたちは、そんな糞にもならない提案などは無視して、バンデッツ（注・ここではMSではなくムーンレィスの戦闘集団の名）の巡洋艦『ケイテケー』以下、味方になったディアナ・カウンターの艦艇をつかって、月の施設の大規模な破壊工作を施して、月を離脱しようとする。彼等はタフだ。

◇

ロランは、ミリシャの破壊工作を阻止しきれず、撤退するグエンのディアナ・カウンターの艦隊を送迎するような形になってしまって、月の施設の炎上を花火のように見てしまう。

グエン・ラインフォードは地球を、宇宙戦争の時代と同じ結果にします

その混乱した状況のなかで、ディアナとキエルが同居している状況を知らないソシエは、「ディアナの名前で父は焼かれ、母は記憶さえ取り戻せない人になってしまいました。それは許すことができない！」

ソシエは、ディアナ殺しを策動して、キエルを傷つけてしまう。姉殺しをしそうになったのだ。

「ああ……あたしは姉さんを殺そうとした！」

そのソシエを助けるのが、負傷したロランだろう。ロランはそうして強くなる。

#43〜45　地球という光景

◇

ソシエに殺されそうになりながらも、キエルは、アグリッパ一派の小心者の策動にのってしまった自分を恥じて、ミドガルトの『アンドリュー』に逃亡する。

キエルが、第二の決心をしたのだ。ディアナの意思をうけて、その体制を維持してきたアグリッパたちの狂いを是正するという名目である。

戦乱になって、アグリッパたちも戦闘行為のなかで思考回路が狂ったと感じたのだ。

（かつてのドイツ、日本、イタリア、共産主義体制下、また現在のユーゴの一部、アフリカの一部。それらの国民は戦いの大義を信じていた。そういう思考回路はある）

ロランは、それを知って追うのだが、アンドリューのマサダ・ホフィ大尉の阻止にあう。

その『アンドリュー』には、アグリッパ一派がいて、ガリアの人々と協調作戦をとろうとしている。

それを知って、ロランは、そんなにもまたアンドリューに居着く。

そう、ロランは、久し振りにハイム姉妹と落ち着いた時間をつくれる。

「ディアナ様はグエンを諫めようとウィルゲムに行き、私は、アグリッパ一派を利用してでも、グエン様の慢心を諫めようとする」

そして、リリの裏切りがあるだろう。

グエンは、すべてを敵にすると見える。

ちと共に拡大路線に入っている。ラダラム、メシェーたちもその戦線上、ロランに敵対する存在として立ち現れる。

ロランは、『アンドリュー』のミドガルドから指揮権を奪ってでも、ウィルゲムとソレイユを討とうとするが、心情的にできない苦しみがある。

グエンの分厚い戦術展開をみて不安になったキエルは、アンドリューを出て、グエンを説得に行くかもしれないし、ディアナが捨て身の説得にも出るだろうが、

グエンは、ついに口にする。

「女に興味がない。ローラをくれないか」

ディアナもリリもキエルも、そういうグエンに慄然とする。

そして、リリの裏切りがあるだろう。

グエンは、すべてを敵にすると見える。

球に技術を持ち帰れるから、アメリア大陸からガリア大陸までの制覇を考える。バンデッツの総髪の白面の美男子、ギム・ギンガナムは「土地と飯をくれれば、グエンに協力する」と宣言して、ロランにとって強力な敵として立ち上がってくる。ジョゼフ、ラダラム等もグエンに合流するが、メシェーは悩む。

ジョゼフ・ヨットは、なんの感慨もなく打倒∀に立ち向かうように現れるのは、兵器の性能に興味をもつだけの男になっているからだ。

彼は、普通の男で、フラン・ドールは、そんな夫ジョゼフのことを心配する。

◇

【中略】

◇

グエンのウィルゲムは、ソレイユと連合する。

ジョゼフたちはミハエル、ヤーニたちと共に拡大路線に入っている。ラダラム、メシェーたちもその戦線上、ロランに敵対する存在として立ち現れる。

ロランは、『アンドリュー』のミドガルドから指揮権を奪ってでも、ウィルゲムとソレイユを討とうとするが、心情的にできない苦しみがある。

グエンの分厚い戦術展開をみて不安になったキエルは、アンドリューを出て、グエンを説得に行くかもしれないし、ディアナが捨て身の説得にも出るだろうが、

グエンは、ついに口にする。

「女に興味がない。ローラをくれないか」

ディアナもリリもキエルも、そういうグエンに慄然とする。

そして、リリの裏切りがあるだろう。

グエンは、すべてを敵にすると見える。

が、ここで、キエルのまたなる変心がある。

◇

キエルは、『アンドリュー』のロランに説得に来る。

「あたしと一緒に逃げないかしら？あたしの好意ではなく、ディアナ様がいわせていることでもあるのですが……」

と、ロランをグエンのもとに同道しようとするのだ。すべてを敵にしてでも男の事業欲を満たしたいというグエンに、キエルはやはり惚れているのだ。そのためには、生け贄も必要とみたのである。戦乱だけは回避できるだろう、という甘い読みである。

究極的に、お嬢さんなのだ。

ロランは、そんなキエルの底意を洞察しつつも、ディアナ会いたさで、ソシエのおかしいな、という感触も承知しつつ、グエンとの接触を試みよう。

◇

懐妊したかもしれないと感じたフラン・ドールは、そんなグエンに接触するだろうし、キース・レジェが、港湾まるまるマウンテン・サイクル化した場所を発見しているかもしれない。

それらの事項が、ロランの動きを左右するように構成されたい。

◇

ロランは、ディアナを愛したい。それで良いと思えるのも、それがロランにとっての気位であるからだ。

それは、ビシニティでキエルやソシエたちの少女の時代から教えられたことだとロランは信じるから、キエルが自分を生け贄として利用しようとしているとは思わない。

グエンと出会っても、ロランは、グエンを、過去を忘却した人々が堆積するだけの星のなかで、活性を望んでいる成体だと理解する。

だからといって、ローラであることは拒否をする。

「真実、男性であれば、同性を愛したいなどと思うことはないはずです。そ

れでもそうお思いになるのなら、ご自身のなかの女性的な部分をお認めになって、スカートでもお履きになったらいかがです。それは、誰も笑いませんよ」

ロランは、グエンにそう言うのだろう。ディアナもキエルも、それはそうだと言うだろう。

◇

だから、ロランは、グエンの意思の体現であるバンデッツを倒し、グエンの目を覚まさせようとするのだが、グエンはディアナをともなって逃亡する。

ロランが人の原罪を粛正する方法を発見したいと考えていることなどは、グエンには、想像もできない。

スカートを履けといったロランの言葉は、グエンには、決定的な侮辱として傷（トラウマ）になっているのだ。

棄てられた人々の痛みを体現するディアナを慰めるのは必要なことだと思うようになっているロランは、ディアナを拉致されたことが無念である。

ディアナが憎悪をするものを粛清すれば、ディアナは、たいらかになれるのに、その具現者であるグエンに拉致されている。

それでは、ロランの安息にない。

キエルには、ディアナに代わってでもという気持ちを万人に分かってもらえるという確信がある。

ソシエには、そんな姉や逡巡するロランが、軟弱な人と映って、断罪するようになって、協調できなくなる。

◇

「ニュータイプが記憶の消去からはじまっているのは、過去の遺物だからだ。それは無残なことなんだ。そんな無残な人の一部ならぼくもニュータイプだけれど、ぼくは、愛する人の幸せを祈るだけなんですよ」

ロランはグエンを討つために、ディアナと共に炎で焼いてしまう

「あたしは、父さんの焼けた死体を忘れないわ！　あなただって見たでしょう！　あたしは、ただの人として、ディアナ・カウンターを許すことはできないし、グエン様がやろうとしていることも許せないのよ！」

と、言っていることは同じなのに、ロランとソシエはまたも分断する。

◇

フィルたちは、ディアナ、キエルの双方の殺害を意図しようとして、ジョゼフがフィルに手を貸す。

それをフランがとめるのだが、成功しない。

キースは、武器を持った者は狂うのが世界だ、と言い始める。

◇

ロランは、ジョゼフが強力な敵となって出現してくるので、ミハエルなど組織を束ねようとする者たちをクズだと思ってしまう。

#46〜51　地球の景色

◇

グエンのミリシャは、巨大になった。

ディアナは、グエンを説得できる暇がないと知って、指揮振りを傍観するだけになる。

「人は天国では暮らせない。少なくとも、男は戦いを知らなければ、女に勝てないのだ！」

グエンのコンプレックスは、マウンテン・サイクルのすべての技術情報を活性化させることに成功して、そのサイバネスティックな光景は、ディアナにも異様に写る。

だから、ディアナは、グエンの手を離れ、ロランのもとに向かう。

◇

【中略】

◇

ディアナとロランには、ギャロップという戦力しかない。なのに、バンデッツの生き残りとジョゼフとメシエー、それにレット隊を敵にしなければならなくなる。そのうえ、ハリーの部隊もだ。その戦いをソシエが陰ながら助けるという役回りになっていく。

ソシエは、なにも考えなくなって、ロランはいつか自分のもとに戻ってくるという直感にすがったのである。

◇

しかし、マウンテン・サイクルの町、ビシニティに戻った∀は、内包していた宇宙時代のサイバネステックな情報が開花する。そのためロランの∀は圧倒的になっていく。

ここからがロランとディアナの本当の戦いがはじまった。かつての僚友たちであったミリシャであれ、敵味方として交流のあったハリーの率いるディアナ・カウンターであれ、それらと戦わなければならないロラン！　ロランの戦争となる。

敵たる者たちは、錯覚ではあるが、真なるディアナを掌中にすることによって大義、正義の御旗があると思いしたのである。

そのような付加価値などディアナにはなくとも、敵味方にその存在を知られたディアナは、大義の象徴になり出している。

それをロランは、「影紅蓮シャドーブルーム」であるソシエから知らされる。だからといって、ロランもディアナもそれを否定する力などはない。

グエンのミリシャもハリーのディアナ・カウンターも、戦争遂行と勝利の大義を掲げるための道具が必要であるのだから、叫ぶよりディアナがいたほうが早いのである。

アグリッパはその事態を感得して、またもディアナ奪取に走るだろう。グエンのミリシャもハリーのディアナ・カウンターも、それは同じである。それらの敵からディアナを守るのが、ロランの任務となる。支援するのはソシエである影紅蓮。

◇

廃墟のままのノックスの街角で、ロランはフランからディアナの誘惑から逃げなければ早死にする、と忠告される。

「そのように見えるのか……？」

キースからは「修羅の鬼になったって、天国にはいけないぜ」と諭される。

そんな時に、半壊したままのボストニア城を拠点としたジョゼフのジャラピイ部隊に影紅蓮のソシエが迫る。

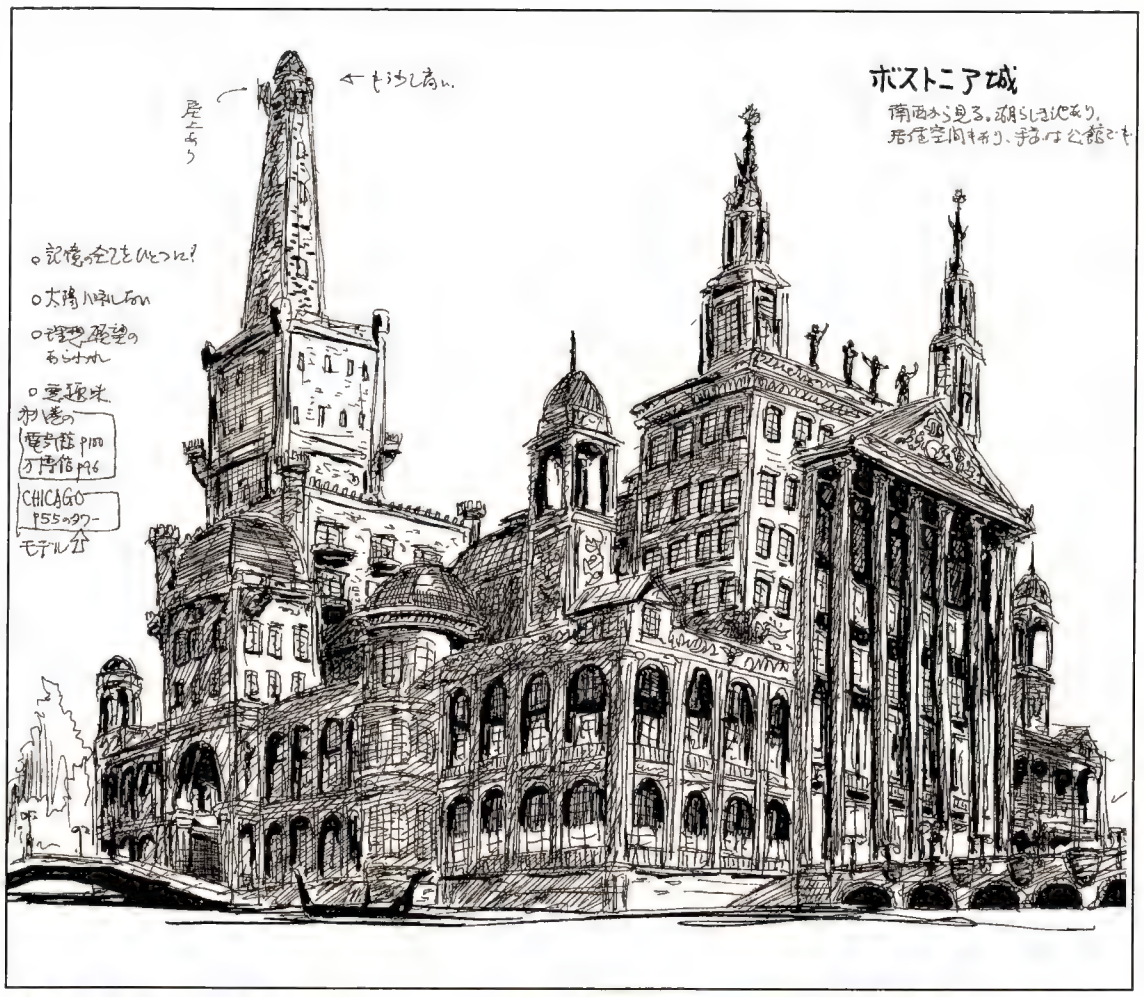
ロランにとってもっとも厄介な敵に育っていたジョゼフは倒さなければならないからだ。が、その戦いで、ソシエはモビルスーツから引き出されて捕虜になり、影紅蓮がソシエであるとわかってしまう。

◇

それを知ったロランはジョゼフを倒し、メシェーをラダラムのもとに後退させ、ミハエル大佐の指揮するミリシャを殲滅しようとする。

しかし、グエンは後方で超然としているだろう。

「愛するローラが強いのは嬉しいことだ。ローラは月の技術を私に運んできてくれて、そのようなローラを、わたしは征服できると確信する！」と叫ぶ。



「記憶の全てを一つに」「太陽パネルなし」などのメモがある。あらゆるデザインが混在した不思議な城となっている

◇

キエルは、グエンにロランを渡したくないから、グエンのもとを抜け出して、ロランをそそのかす。

「ディアナ・ソレルのところには、ロランが欲しがるものは何もないのよ。彼女にあるのは、宇宙と地球の図式にのった怨霊の権化です。それはゴースト。そうでなければ、死にたがっているお姫様。ロランはおバカさんね。男は女にすがって生きようとするようだけれど、ディアナ・ソレルは、もうメスでもないんですよ」

それは、コ、ト、バの機関銃。

ロランは、キエルにそうまで言われるのなら自殺してもいいと思えるので、なりふり構わない戦闘パイロットになっていく。

「そうして、できるならグエンをお倒しなさい。そうすれば、ロランはグエンに汚されることもない」

キエルにも、ロランを愛する心が目覚めたのか……？

◇

ディアナは、キエルの思いに反して、月のシンボル的なデザインをもった巨大モビルスーツを持ち出すだろう。ディアナは、まだ女力が充溢している生体である証拠。

そのモビルスーツは、ディアナ一人で操縦できて、月の力を借りたといえるような戦闘をする。

その名前は「月光蝶（ムーンバタフライ）！」

ディアナの月光蝶は、ロランを助け、場合によってはソシエの影紅蓮も助けて、ハリーの率いるディアナ・カウンターも、フィルやポゥなどの部隊も壊滅する。ハリーは、ディアナに殺されるなら本望だと叫んで逝く。

その戦いの渦中、ロランは、言葉の機関銃を発したキエルを助けざるを得ないように動いてしまう。その偶然に見える展開に、ディアナはロランを疑ってしまう。

「あの子は、何者であったか!?」と……。

その一瞬の疑念は、女の情念が叫ばせることだ。悲しいディアナ。可愛いディアナ。ディアナはまだ恋をしたがっている！

◇

そのディアナの前に、グエンが発したジョゼフ以上の強力な敵、バンデッツが姿を現す。

キエルを助けられたのなら、ロランは、ディアナを守ってみせる。それは、∀の苦戦になる。

しかし、影紅蓮のソシエがキエルを戦場から脱出させてくれるので、ロランは、ディアナを守ることに集中できて、バンデッツの部隊を撃破することで、この物語は収束する。

沈んでしまうので泣いてしまう。その金魚を掬い取ってくれるのは、ソシエだ。

「泣かなくていいでしょう。どこかで暮らすのは難しいことではないのだから。かぐや姫みたいにさ――」

その二人の背後には、∀が朽ちていきたいと願うかのように天を仰いでいる。それはまた、ホワイトドールになるのだろう。

太陽はまだ消滅する気配などみせず、地球には、まだ飽きるほどの時間がある。冬の風が、肌を刺す季節になっていた。

◇

再建なったノックスの街角で、膝の上に赤ん坊を抱いたフラン・ドールが、ローラそっくりの人形を使った大道芸をやっている。

それは、蝉がかしましい季節だった。

1999○5／19

ディアナがナノマシンによる老化防止を拒否した理由

継続の獲得は、怠慢につながる心の在り様になろう。

増殖は、エゴの拡大と強化であり、更新されるものは、ただナノマシン的なものでしかなく、生の喜びはない。

永遠の生が獲得できれば、喜びは深いというのは誤解であろう、と感じる。

なぜなら、永遠に生きるという意思は、他者の存在を否定し、孤高の存在を認めさせようという傲慢でしかない。

それが、生命なのだろうか？

ナノマシンの『クリカエシ』と『ゾウショク』のいきつく果ては、宇宙のチリでもない存在であろう。

星が亡くなくなった宇宙空間で、ナノマシン的を「アクティヴ・アクション」がつづけられても、そこには「ある」ということでしかなく、その存在を享受するサムシングはない。

そのようなものであっても、宇宙そのものを食い尽くすまでアクティヴでは有り得ない。なぜなら、存在するものは有限であるからだ。

生命が有限であるからこそ、その刻々の命の輝きの喜びに身を委ねることができるのではないか？

終了があるから輝くのだろう。死があるからこそ輝くのだろう。

その輝きをもつことのない存在などは、宇宙にあっても意味がない。なぜなら、星々は自らの輝きを見せて終わることで、それを示している。

永遠の存在などは、なにに向けて見せるものであるのか？　なにに向けて、永遠でありたいと思うのか？　なにに対して、永遠を保証してくれと叫ぶのか？

その心は、愚かしい。

終わりを恐れるな！

終わりがあるからこそ、生が輝き、その喜びに命のすべてを感じるのが我らなのだから！

その喜びを忘れた人々が増殖し、増殖が永遠で、増殖する事が「神」に近づくことになると誤解した人々が、古代宇宙世紀の人々だったのだ。

生体がニュータイプになる。

それは、死を受容できる人でしかないという意味を忘れ、能力が永遠を獲得できると誤解したのだ。

なんとあさましい！　なんと愚かしい人々よ！　彼らこそナノマシン的な人々と言えよう。

故に、古代宇宙世紀の地球は崩壊し、人は、命を享受する生命体として多少賢く再生を果たそうとしていた。

それが現代であった。

にもかかわらず、ムーンレィスは、過去の人の傲慢を復活させ、地球に持ち込もうとした。

潜在意識下にナノマシン化した記憶をもつ人類は、簡単にその記憶を復活させ、またも、増殖を渇望する。それが、宇宙戦争のクリカエシになる。

おお、愚鈍な人よ！　驕慢な種よ！

ニュータイプは死する存在であるという意味であるにもかかわらず、ニュータイプたり得ぬ人、見果てぬ欲望に身を晒す人は、真実のニュータイプは外宇宙に行ったという伝説を弄ぶ。

データにそんなものがあるように見えるのだ、と賢しい人が語る。

しかし、そうなのか？

データに真実が隠されているのだろうか？

データはデータ。人の恣意が選別し、入力したものでしかない。光速を超え、次元飛行ができるというようなことは永遠にできないのだから、太陽が消滅するときには、人類という命は失われる。

が、その失われる人類の存在は、輝きとして悠久の刻を越えて、他の生命体が感知するのだから、それで良しとできないのか？

光に乗ったデータは、一千億光年の彼方の生命体に、我らの存在を伝えてくれる。

そして、我らの生き生きとした輝きに感動してくれるだろう。

光は、この太陽系の、この地球の、この大陸の、この島の、この町の、この家のデータを選別することなく、一千億年の彼方に伝えてくれるのだ。

この場（フィールド）という形状が、我らの記憶を伝えてくれる。

故に、命を輝かそう。

その輝きは、他者に感知される。

だから、我々は孤独ではない。

だから死ぬとロランに言うのだ。

それは、悲しみではない。あるべき姿だと。

死の向こうにあるのは、永遠の安息。

無！

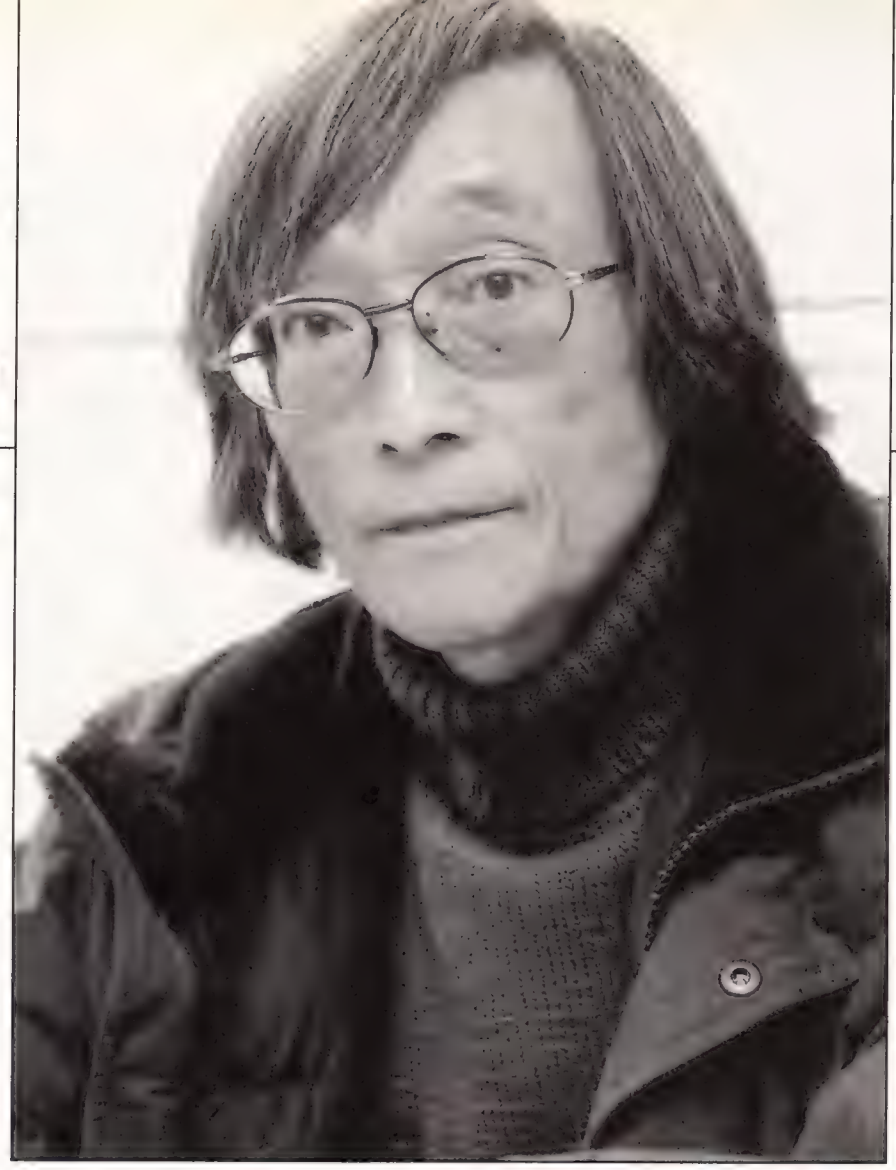
それは命にとって悠久の安息……

だから、ロラン、君も命を享受したいのなら、そのようにおし、と、ディアナは言ってくれたのだ。

脚本家

星山博之インタビュー

『機動戦士ガンダム』と『∀ガンダム』、ふたつの『ガンダム』に関わった唯一の脚本家、星山博之。彼が『∀ガンダム』に託したもの、提供したアイデア、そして参加の経緯。『∀ガンダム』を読み解くための視点のひとつがここにある。



shot by JUNJI OKUNISHI

PROFILE

昭和19年5月13日東京生まれ。中央大学中退。脚本家として『太陽の牙ダグラム』『銀河漂流バイファム』『新世紀GPXサイバーフォーミュラ』など多くのサンライズ作品に参加。とくに『無敵超人ザンボット3』『無敵鋼人ダイターン3』『機動戦士ガンダム』では富野監督とコンビを組んで活躍。ほかに『ゲゲゲの鬼太郎』など代表作多数。

上から見下ろすのではなく周りを見たら戦争をやっていた

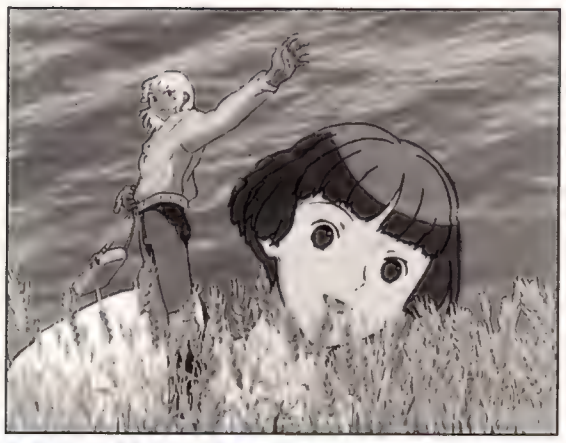
◆最初に生まれたイメージ

――今回、∀に参加された経緯は？

星山博之（以後、星山）　まあ、スタートする1年前から新しいガンダムの企画が動いているということは知っていて、植田さんの方から一応読んどいてくれと言われて、資料を読んだりもしていたんですよね。最初の案は初期に戻りたいという話で、僕もまたやりたいというのもあったんだけど、富野監督がもうひとつぴったりとこなかったらしいのね。僕もマシンで戦うばかりの話はいやで、精神的にも初志に戻りたいというのがあったし。それで富野監督から、一番最初にやったお前だったら今どういう風に料理する？　と相談を受けたとき、今の時代には名作というか、ハイジみたいな世界を中に入れたガンダムがいいんじゃないかと話したんだ。主人公が麦畑の中を走るようなね。非常に抽象的な話だったんだけど、そういう絵が欲しい、という。オープニングにその雰囲気が残ってるでしょう？　要するに、地に足のついた話がやりたかったの。富野監督って、観念的に神様の視点から下を見たようなお話を作っちゃうこともあるけど、僕は逆に、下から見上げた世界の方が好きだから。僕が立って周りを見て見たら戦争をしているという雰囲気というかね。だから、今回はそういう世界で作りたいな、というのを話して、富野監督ともそれがいい、という話になったんだよね。

――最初は、∀にどういう形で参加される予定だったんですか？

星山　最初はシリーズ構成をとも言われてたんだけど、ちょっとしょいきれないので（笑）。まあ、サンライズだとシリーズ構成がない作品も多いし、富野監督のやりたいものをやってもらうためには、最初の世界観の統一だけしとけばいいだろうな、と。



星山さんの提案した「麦畑を走るようなイメージ」が採用された旧オープニング。本編にも影響下のカットあり。

◆生み出されたキャラクター

――星山さんが作り上げたキャラクターと言いますと？

星山　まずはコレンですかね。何か危ない奴も出てこないと、という話になってはずみで作っちゃった（笑）。とにかく、刑務所で冷凍されていたとか、極悪非道だとかめちゃくちゃな性格の奴。だから最初は生き残るとは思ってなかったんだけど、どうせ生き延びるなら人が変わるぐらいでちょうどいいだろう。そういうことで『ビルマの竪琴』でもないけど、心を入れ替えたようになってるとし

【解説】

●「植田さん」

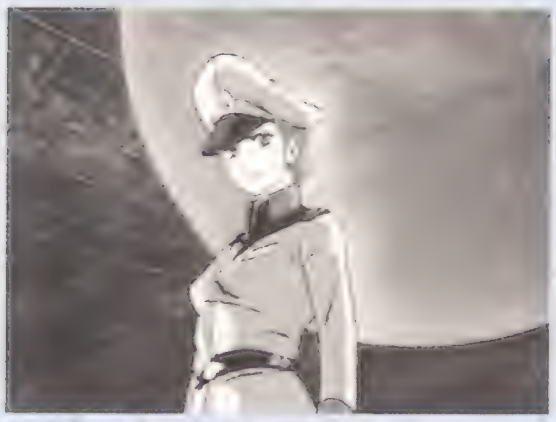
当時、サンライズのプロデューサーだった植田益朗氏のこと。『機動戦士ガンダム』制作進行、サンライズ第3スタジオプロデューサーを経て、当時はサンライズ常務取締役兼ガンダム事業部長。現在はフリーのプロデューサー。

●「シリーズ構成のない作品」

サンライズはオリジナル作品が中心のため、明確なシリーズ構成が存在しない話が多く、富野監督による『ガンダム』シリーズもそのひとつの典型といえる。

●「マチルダさん」

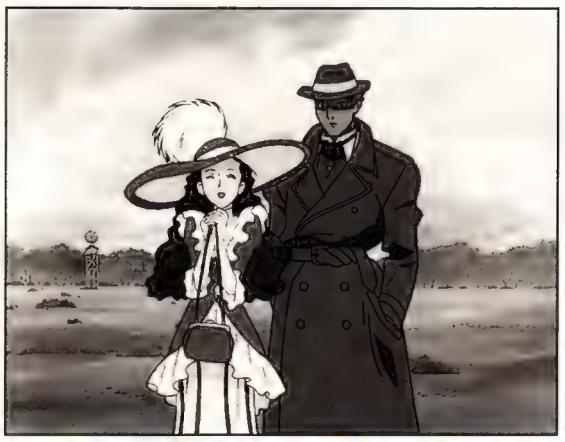
『機動戦士ガンダム』でアムロが憧れたマチルダさんのこと。TV版では廊下ですれ違ったマチルダさんの香りにアムロ



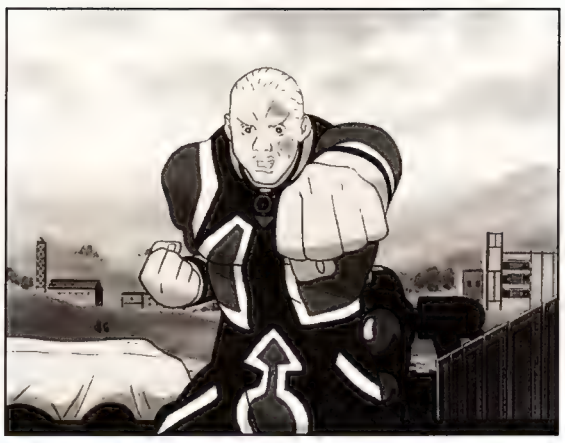
補給部隊の士官、マチルダ・アジャン。アムロに大人の女性の魅力を感じさせるが、目前で戦死することになる。

ファースト＆∀ガンダム星山博之担当話数リスト

話数	機動戦士ガンダム	話数	∀ガンダム
1	ガンダム大地に立つ!!	1	月に吠える
5	大気圏突入	5	ディアナ帰還
9	翔べ！ガンダム	9	コレン、ガンダムと叫ぶ
13	再会、母よ……	12	地下回廊
19	ランバ・ラル特攻！	19	ソシエの戦争
23	マチルダ救出作戦	21	ディアナ奮戦
27	女スパイ潜入	28	託されたもの
31	ザンジバル追撃	28	ソレイユのふたり
34	宿命の出会い	35	ザックトレーガー
42	宇宙要塞ア・バオア・クー	41	戦いの決断
43	脱出	46	再び地球へ



リリも星山さんの提案のあと、キャラクターが膨らんでいった。そのため、急遽ココア好きという性格も追加された。



星山さんが提案したコレン。本当なら12話で死んでいるはずだった。復活時の性格の激変も、やはり星山さんのアイデア。

たんだよね。

――リリも星山さんがキャラクターを立てたとお聞きしてますが。

星山　富野監督が女の人3人出すとみんな似ちゃうんだよね。自分では違うつもりなんだけど。だから、脚本家の方で変えていかないとまずい。それで、ソシエはちょっとはきはきしていて、喜怒哀楽をはっきり出すキャラクター。キエルは上昇指向の強い、キャリアウーマン的なキャラクターという具合に膨らましていったんだよね。それで、リリはたしか12話でグエンをいじめに出てくるのが初登場。すごくいい娘なんだけど、人を平気で傷つける。嫌な奴だけど可愛いという。だって「父が落ち目になったと言ってましたよ」とか普通言わないじゃないですか。相手が一番落ち目になっているときに(笑)。だから、リリはそこまで打算的ではない。その意味では大人じゃない。でも、そこでなぐさめるようじゃ、逆にいやらしい女になっちゃいますからね。一方、そういう意味で言えばソシエは一番素直だよね。感情で動いているだけだから(笑)。

◆エピソードのエピソード

星山　第1話で、一番心を砕いたのは光とか、草の臭いとか。そういうのが欲しかったんだよね。もっとも、僕はいつもそう言うものだから富野監督に「星山さん、匂いなんか出せないんだ」と言われる。『ファーストガンダム』のときもマチルダさんが通ると、大人のいい匂いがしたっていうのを書いて文句を言われたし。今回の主人公は汗臭い男より、前を通ると石鹸の匂いがする奴というようなキャラクターにしたいなというのも言ってましたしね。

――以前、ロランは素直なアムロだとおっしゃってましたが?

星山　やっぱり時代というのがあって、あの時のアムロくんはパソコンの世界に入っていたんだけど、自分を主張して出すところがあった。ところがロランはあまり自分を出さないので、心の揺れや何かを表すため、月から一緒に来たキャラクターを2人回りに置いたんだよね。主人公が説明ゼリフを話すのも何だし。だから、最初はキースやフランもそれだけでいなくなるはずだったんだよね。

――とくに苦労したお話というと?

星山　『ザックトレーガー』だね。

人間と人間の出会いをやりたかった

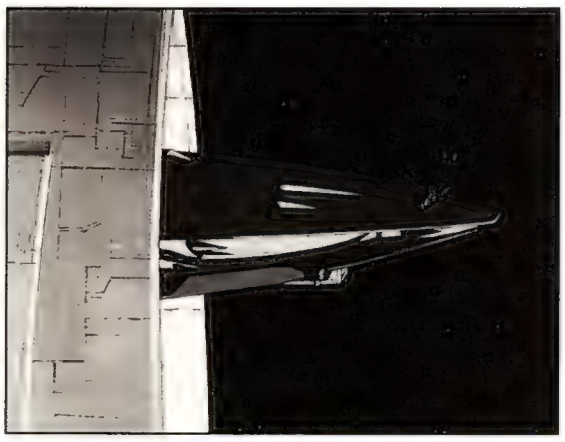
◆∀ガンダムの目指したもの

――∀ガンダムが洗濯出動をしたりしたのも凄かったですが、このあたりのアイデアは?

星山　掻き回せば洗濯機にもなるんじゃないか、というのは富野監督のアイデアでしたね。ショックを受けたガンダムファンも多かったろうけど、昔、ロボットでヘビを捕まえるというアイデアも使ってた人だから。それに、今回のガンダムは戦争に行かない話になっているから。まあ、それでも主人公ロボットだから動かないといけないので、洗濯出動で見せ場を作ったということですね。

――それでは、最後に∀で提示されたものとは何だったんでしょうか?

星山　今、僕がやればこういうのがやりたいというものをちゃんとやらせてくれたから。そういう意味では富野さんとはちゃんと意見が合って、伸び伸び仕事ができたということがあります。要するに科学と進歩は絶対にいいことだけど、人間には自然回帰みたいな、もうひとつ引っ張っているものがあるんです。そこに生じるのは不便なんだけど、不便もまたいいじゃないか、と。結局、人間と人間がぶつかるといいこともあれば、嫌なこともありますが、今は逃げられるんですよね。だけど現実には嫌いな奴も、好きな奴もいる。だから、『∀ガンダム』ではとにかく、人と人とを出会わせてみたいというのがあったんですね。それが何か人に影響を与えていくという。それはなにかずっと脚本を書くうえでのテーマでしたからね。好きだとか恋だとか。バカバカしいことも人間やるし。でも、生のコミュニケーションさせてみたいな、というのが。富野監督もむしろそれで行こうと言ってくださってね。非常にクラシックな、人間と人間の出会い。そういうのをやりたかったんですよね。ロランが歩くと、回りがいい気分になるとか、そういうのが出せていればいいですね。



ザックトレーガーほどの設定を1話で説明し、ストーリーも進行させるのは大変。そのため、思い入れも一番だとか。

設定は面白いんだけど、規模がでかくて、そこに行って何をするかとか見せ方がぜんぜんわからない。設定は面白いからどうしても使おうとするんだけど、ドラマと離れて説明になってしまうところが出てしまってね。そこが一番苦労した。どこに何があるのか頭に入れるのでせいいっぱいだし、端から端まで8千キロメートルもある中で何をするかがね。だから、結局4稿までいったしねぇ。あと、最初はロランが月に行く理由がなかったので、第28話でゼノアさんから核爆弾をあずかって、それを捨てにいくという動機付けをしたんですよね。だから、ゼノアとアムロとラルの出会いの大人版みたいな感じを狙ってたんですけどね。

●「アムロくんはパソコンの～」

オタクという言葉のなかった当時、パソコン趣味というのは根暗な正確を端的に言い表すアイテムだった。

サイド7に鳴り響く警報にも気づかず、マイコンを組んでいるアムロ、というのが初登場でのシーンだった。

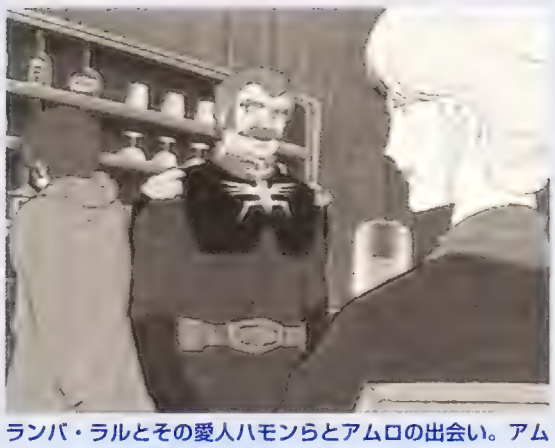
が頬を赤らめる描写もある。

●「4稿までいった」

通常、アニメのシナリオは打ち合わせの後書かれる最初のものを第1稿と言い、書き直す度に2稿、3稿と呼ばれる。最終稿は決定稿とも言う。

●「アムロとラルの出会い」

ホワイトベースを飛び出したアムロが、砂漠の町で敵将であるランバ・ラルと出会ったエピソード。ロランとゼノアの出会いは、このエピソードの裏焼きらしい。



ランバ・ラルとその愛人ハモンらとアムロの出会い。アムロという少年の成長を垣間見させる描写だった。

●「ヘビを捕まえるというアイデア」

『無敵鋼人ダイターン3』第19話「地球ぶった切り作戦」。コマンダー・ジライヤとの戦いのため、波乱万丈はダイターン3でヘビを捜して突きつけるという描写がある。ちなみに、児雷也は大ガマの術を使うためヘビに弱い、というのは講談ベースのかつての常識のひとつ。

最終話「黄金の秋」シナリオ完全収録

『∀ガンダム』の物語を締めくくる最終話「黄金の秋」。ターンXと∀の激しい戦闘の決着から、その後の平穏なそれぞれの生活まで、物語は一気に展開する。ここに作品の設計図ともいえるシナリオを完全掲載した。また下段に注釈を施し、放送に至るまでにどのようなアレンジが施され完成品となるかどうかを示した。

∀ガンダム第49話「黄金の秋」

第三稿　浅川美也

登場人物

ロラン
ギンガナム
ソシエ
キエル
ディアナ
ハリー
リリ
グエン
メリーベル
そのほか

□地上

上昇していく"モビルスーツ・∀"と"モビルスーツ・ターンX"を見上げている、スモーに乗ったハリーとポゥ。
その足下に駆け寄ってきたソシエ、飛び去っていく、∀ガンダムとターンXを見つめる。
ソシエ「ロラン……！　あんた一人に、任せるしかないの……？」
"モビルスーツ・スモー"のコクピットからハリーが、
ハリー「ディアナ様はターンタイプを追うとおっしゃっている」
ポゥもコクピットから顔を出し、
ポゥ「いくら"ソレイユ"でも、月光蝶に巻き込まれれば無事ではすまないぞ！」
ハリー「恐ろしいなら、ここに残るがいい！　じきに救援部隊が来る！　私は"ソレイユ"に向かう！」
ハッチを閉じかけるハリーに
ソシエ「私も連れていって！」
ハリー「"ソレイユ"だぞ？」
ソシエ「こんな所で待っているよりましよ！　それに、もう敵も味方もないんでしょう!?」
ハリー「肝の座ったお嬢さんだ」
ハリーの"モビルスーツ・スモー"、ソシエを手に乗せて上昇する。

□ディアナカウンター旗艦"ソレイユ"・ブリッジ

通信機を持ったディアナ、
ディアナ「ギム・ギンガナム！　私の声が聞こえるのなら返事をなさい！　今一度、私と話す事を考えなさい！」
ディアナ「……私にできる事はもうないのか……！　ロランに任せるしか……！」
モニターに映る"モビルスーツ・∀"と"モビルスーツ・ターンX"を睨む。
戦艦"ホエールズ"
木々をなぎ倒し、不時着している。
×　×　×
ブリッジ。
騒然と動き回る、技術者たち。
モニターで、外の様子を見るキエル。
キエル「被害の状況は!?」
ハメット「エンジンに支障はありません！　離陸できます！」
キエル「ロランたちが向かった方角へ！」
モニターに、リリが映る。
リリの声「キエルさんご無事かしら!?　各戦場にルジャーナ・ミリシャの救援隊を向かわせておきましたけど」
キエル「こちらは大丈夫、ロランの元へ向かいます！」
リリ、キエルが映るモニターの前で、
リリ「私は"ヴィルゲム"を追っているの」
キエルの声「グエン様を!?　一体何をしようと……」
リリ「わかりませんけど、油断のならない方ですから……」
隣のモニターに視線を移すリリ。
煙を吐きながら不安定に飛行する宇宙船"ウィルゲム"が映っている。

□宇宙船"ウィルゲム"・ブリッジ

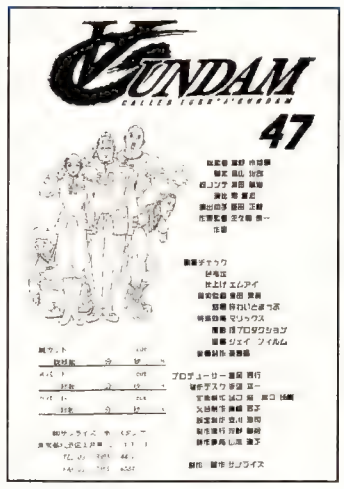
揺れに耐えながら、必死に操縦するヤーニ。
艦長室で、ミハエルに腕の傷を手当してもらっているグエン、
グエン「なんとしても、機械人形の量産工場まで持たせてくれ！」
ミハエル「今更、行ってどうするおつもりか!?」
グエン「無傷の機械人形を持って、ほとぼりが冷めるのを待つんだよ。できれば"ウィルゲム"の修理もしてね」
グエン「しかし、あのギンガナムが暴れ続ける限り……」
大きく揺れ、艦長席に掴まるグエンとミハエル。
グエン「そうなったらアメリアは終わりさ。そうならなかった時の事を考えなければ」
ミハエル「何をのんきな！」
グエン「私はいつでも先の先を見据えているのだ！」
ヤーニ「もうダメです！　落ちます！」
ミハエル、駆け出し艦内放送用のマイクを握り、
ミハエル「この船は不時着する！　私と共にこの船を降りる意志のある人間は指示に従え！」
グエン立ち上がり、
グエン「あきらめるな！　工場はもうすぐだぞ！」
ミハエル「お好きなように！　もう御

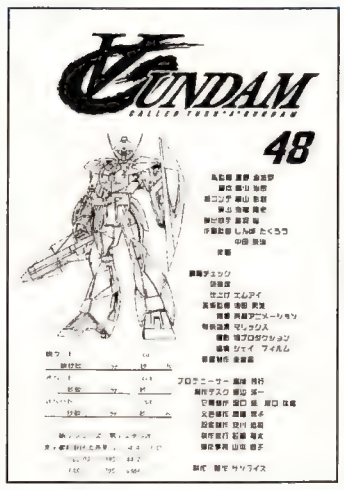
□大型ホバー車輌"ギャロップ"・ブリッジ

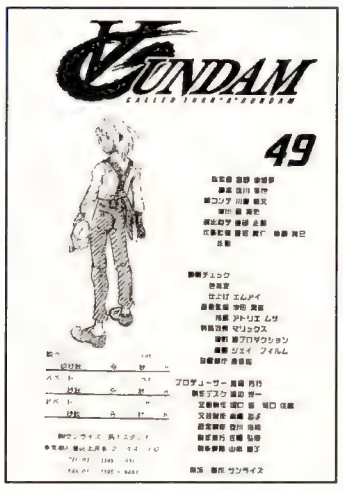
注釈

■最終回に至るまで

物語のクライマックス部分である第48、49、50話のシナリオは、コンテの段階で大幅な組み替えが行われている。以下、大きな変更点を記す。
第48話ではコレンが過去の記憶を取り戻し、月光蝶システムの仕組みを「汚染物質分解型ナノマシンを散布しているのだ」と、ディアナたちに解説するシーンがある。そして、ディアナ・カウンターに復帰したコレンは49話で、カプル改を操りターンXを止めるために戦死する。また同話で、ヤコップもシャイニングフィンガーを止めるために戦死する。また48話で、ジョゼフが∀を奪う理由についても、シナリオでは自らの上昇志向の産物となっている。このジョゼフの行動は、当初ロランのライバルになると想定されていたことの名残であろう。
なお、最終回シナリオが第49話となっているのは、総集編である第16話『∀のすべて』が製作ナンバーにカウントされていないためだ







■最終回冒頭部分

フィルムでは、ソレイユのディアナ、ホエールズのキエル、ギャロップのリリと小刻みにシーンを転換しながら戦況を俯瞰させる。その合間に、中隊長マークをつけた赤いコレン・カプルの発進シーンも挿入される。一方で、ミハエルがグエンを見限るくだりはほぼそのまま残っている。

曹司にはついていけん！」

□平原

上空より舞い降りる〝モビルスーツ・ターンX〟と〝モビルスーツ・∀〟。

ギンガナム、ハッチを開けて身を乗り出し、〝モビルスーツ・∀〟のコクピットを見下ろしニヤリと笑う。ロランもハッチを開けて、

ロラン「僕は今まで、ホワイトドールだって正しく使えばみんなの為になるって信じてました」

ギンガナム「笑わせる！　全てを破壊するために生まれたモビルスーツだぞ？」

ロラン「そうかもしれないけど！　今の地球を破壊する必要なんてどこにもない！」

ギンガナム「必要だからこそ現れたのだろう〟∀〟は。人間は耐えきれなくなったのだ。何も変わらない、ただ時が流れていくだけの暮らしに」

ロラン「そんなことない！」

ギンガナム「だったらなぜディアナはモビルスーツで地球帰還を始めた？　地球の人間は反撃した？」

ロラン「それは……」

ギンガナム「今までの歴史は間違っていたのだよ。戦いを忘れる事などできはしない。だからこの〝ダーン・X〟で、全てを破壊し、新しい時代を始めるのだ！」

と〝モビルスーツ・∀〟の後方より砲弾が放たれ、続いてメリーベルの〝モビルスーツ・バンデット〟が飛来してくる。

ギンガナム「下がれメリーベル！　お前の出る幕ではない！」

メリーベル「さっきの月光蝶といい、つまらない戦いをするギンガナム様なら、メリーベルが盛り上げてあげるよ！」

ライフルを乱射する〝モビルスーツ・バンデット〟。

ロラン「やめろ！」

月光蝶の力で、砲弾をそらす〝モビルスーツ・∀〟。

ギンガナム「戯れ言を言うなメリーベル！　目を開けてとくと見るがいい！　私の戦いを！」

ビームサーベルで〝モビルスーツ・∀〟に切り込む〝モビルスーツ・ターンX〟。

メリーベル「その調子、その調子。あははは」

〝モビルスーツ・ターンX〟の攻撃を避け、反撃する〝モビルスーツ・∀〟、近くに工場地帯があるのに気付く。

ロラン「ここじゃまずい！　離れないと！」

ギンガナム「どこを見ている！　本気を出さずに戦える相手と思っているのか！」

〝モビルスーツ・ターンX〟の月光蝶が光り始める。

ロラン「やめろ!!」

月光蝶で突っ込んで行く〝モビルスーツ・∀〟。

メリーベル「あははは！　すごいすごい！」

〝モビルスーツ・ターンX〟と〝モビルスーツ・∀〟の月光蝶がぶつかり合い、四散する。

その一つに巻き込まれる〝モビルスーツ・バンデット〟。

メリーベル「ぎゃあああ!!」

砂嵐の吹き荒れる、工場地帯の近くの森へ墜落していく。

ギンガナム「わかったか！　ターンタイプが動けば、全ては破壊されていくのだ！」

ロラン「そんなことあるもんか！」

猛烈な勢いで〝モビルスーツ・ターンX〟につかみかかる〝モビルスーツ・∀〟。

ギンガナム「本気になったようだな！　戦いの中でこそ、我々の命は燃える！　気付けロータ、己の中に沸き上がる闘争本能に！」

ロラン「僕は、戦う事に心を委ねたりしない！」

〝モビルスーツ・ターンX〟を掴んだまま、猛スピードで飛び去る〝モビルスーツ・∀〟。

×　×

□旗艦〝ソレイユ〟ブリッジ

扉が開き、入ってくるハリーとソシエ。

ハリー「ディアナ様！　ロランたちは？」

ディアナ、モニターに映る地図を見つめたまま、

ディアナ「見失いました……方向だけは何とかつかめましたが……」

ソシエ「そんな……！」

地図に走り寄りソシエを見て、ギョッとするディアナ。

ディアナ「ソシエさん！　ハリー、どうして〝ホエールズ〟にお送りしなかったのです！　私はターンタイプを追うディアナ様の影武者をやり通せたのでしょう？」

キエルの声「ディアナ様！　私たちロランを見失ってしまいました！」

ディアナ「キエルさん！」

ハリー「こちらもです、キエル嬢」

ディアナ、ハリーを押しのけ、

ディアナ「これ以上、危険な事をする必要はありませんか？」

せて下さい！」

キエルの声「ディアナ様、私たちの心は一つなのではありませんか？」

ディアナ「けれど……」

キエルの声「それに、ホワイトドールは地球から出てきたもの、私たちには最後を見届ける義務があります。どうかお分かりになって下さい、ディアナ様」

ディアナ「……確かにその通りですね。任せろなどと、失礼しました。合流いたしましょう！」

微笑みあう、ディアナとモニターのキエル。

ハリー「ロランたちの足取りは、まったくわからないのですか？」

キエルの声「ええ……」

ソシエの声「ロスト・マウンテンよ……！」

ソシエの方を見る、ディアナとハリー。

ソシエ「絶対そうよ！　この方向にロスト・マウンテンがあるの！　被害が及ばない所をロランなら選ぶはずよ！」

地図上を指す、ソシエ。

□ロスト・マウンテン・上空

組み合ったまま飛行してきた〝モビルスーツ・∀〟と〝モビルスーツ・ターンX〟、はじかれた様に別れ地上に着陸する。間髪入れず、攻撃を仕掛ける〝モビルスーツ・ターンX〟。

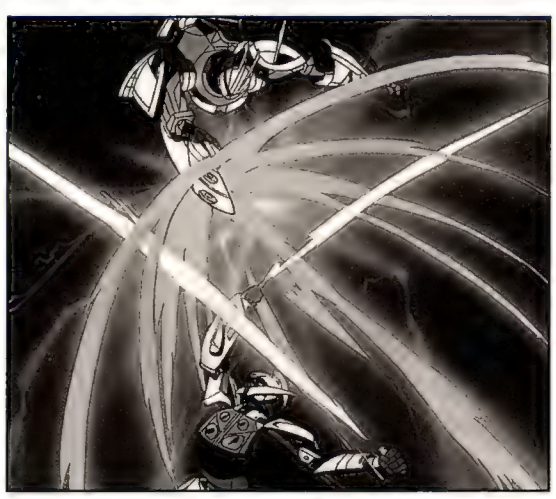
ギンガナム「戦ってこそ人は生き生きと輝けるもの！　死を意識しなければ生きていると実感できはしない！」

ロラン「その先にあるのは破滅だってわかっていたから、黒歴史は封印されたんでしょう！　同じ事を繰り返さない為に！」

ギンガナム「違う！　繰り返すとわかっていたから、戦いが又いつか起きるとわかっていたから、全てを破棄せず封印したのだ！　破られるその日を待ち続けていたんだ！」

ロラン「そんな事は絶対違う！」

ギンガナム「皆、戦いは放棄するといいながら、戦う力を失うのが怖かったのだ！」



■ターンXと∀の戦闘

ギンガナムとロランの会話の後、メリーベルが戦闘を仕掛けてくる展開は同じ。ただし、戦闘にちょっかいを出されたギンガナムが「運河人以下の貴様を今日までかってやってきたのによくもほざいたな」と罵声を浴びせる。その後。膠着状態に陥ったターンXと∀の戦闘に、コレンが介入、ロケットパンチを繰り出す。シナリオでは月光蝶に巻き込まれているメリーベルのバンデットは、本編ではコレンの攻撃で墜落。その代わり、コレンが月光蝶に巻き込まれ戦死する。

■ソレイユのブリッジ

ソレイユのブリッジでディアナとハリー、ソシエが、ロランの行く先について会話する部分はカット。本編では、戦闘は最初からロスト・マウンテンで行われている。

■ロランとギンガナムの対話

この部分の会話の一部は、P82からP83にかけての戦闘シーンとまとめられた。

ロラン「それでも、それを使わずに生きることだってできるはずです！」
ギンガナム「ならば、我がギンガナム家はなんの為に存在するのだ!? 戦う力を守るため二千年もの間、相手のいない戦いを続けてきたのだ！ 思いをもたない機械ならばいい！ だが、私は人間だ！ 封印されたままで生きろと言うのか！」
〝モビルスーツ・∀〟の攻撃を、機体を分離して避ける〝モビルスーツ・ターンX〟。
ロラン「だけど！ 戦いの歴史を繰り返すわけにはいかないんだ！」
ギンガナム「黒歴史の封印は破られたのだ！ もう一度封じるというならばやってみるがいい！ この生気あふれるいきた黒歴史、ギム・ギンガナムを！」
分離した〝モビルスーツ・ターンX〟に翻弄される〝モビルスーツ・∀〟。

□ロスト・マウンテン近く

強風の中、着陸する旗艦〝ソレイユ〟。後方から戦艦〝ホエールズ〟も近づいてくる。
ロスト・マウンテンの底から、月光蝶の光が輝くのが見える。

□戦艦〝ホエールズ〟・ブリッジ

キエル「これ以上は近づけないのですか？」
セント「無理をすれば月光蝶にやられます」
モニターに映る旗艦〝ソレイユ〟から小型艇〝マゴガメ〟が発進していく。
キエル「ディアナ様は進むおつもりです！ 追いましょう！」

□旗艦〝ソレイユ〟・格納庫

修復中の〝モビルスーツ・スモー〟に駆け寄るハリー、作業員に、
ハリー「どけ！ ディアナ様がお一人で戦場に向かった！」
コクピットに乗り込むハリーに、駆け寄るソシエ。
ソシエ「私も出る！ 機械人形を貸して！」
ハリー「ディアナ様をお止めするだけだ！ 今モビルスーツをだしても月光蝶のナノマシンをかぶれば機械類はひとたまりもない！ 出るだけ無駄だ！」
ハッチを閉め、動き出す〝モビルスーツ・スモー〟。
ソシエ「ここまで来て見てるだけなんて……！」
辺りを見回すソシエ、奥の方に置かれた一機の古い複葉機を見つける。

□工場地帯近くの森

木々をなぎ倒し停まっている、明かりの消えた宇宙船〝ウィルゲム〟。

□その近くに着陸する大型ホバー車輌〝ギャロップ〟。

タラップを降りるリリ、見上げると、宇宙船〝ウィルゲム〟の甲板にグエンが一人立っている。

□宇宙船〝ウィルゲム〟・甲板

風に向かって立つ、グエン。
背後の扉が開く。
リリ「とうとう、ミハエル大佐たちにも見限られておしまいになったのね」
グエン、少し笑って、
グエン「リリ嬢は私がどん底の時いつも現れますね」
リリ、グエンの前に立ち、
リリ「もう日は昇りませんわね」
グエン「何度失敗を繰り返しても、人生の最後に成功すればいいことです」
乱れた髪を整える。
リリ「その成功もアメリアがあってこそでしょう？」
グエン「今私にできるのは、愛するローラの勝利を願う事だけだ」
遠くの空を見つめるグエンに、リリ、ため息をつく。
リリ「ローラは男の子ですよ、そんなにも愛しているなら、ご自分がスカートをお履きになればよろしかったのに」
グエン「スカートを履いて産業革命を起こせるような世の中になるには、まだまだ時間がかかるのですよ」
と、リリを押し倒し、転がる。
同時に、銃声が響く。
拳銃を構えたメリーベルが立っている。
メリーベル「〝ウィルゲム〟を飛ばせ！」
衣服は所々破け、額から血を流している。
グエン「立っているのもやっとという感じですね」
リリ「あちらもボロボロねぇ」
リリ、地上に倒れている〝モビルスーツ・バンデット〟をのぞき込む。
メリーベル「ギムたちを追うんだ！」
リリ「置いてきぼりにされたの？」
メリーベル「飛ばせ！」
拳銃を撃つが、ふらふらして見当はずれ。
グエン「残念だったね、〝ウィルゲム〟は運転手に逃げられてしまったよ」
メリーベル「何!? ……そんな……」
気を失い倒れるメリーベルを、抱き上げるグエン。
グエン「おや？」
一隻の飛行船が、風にながされ猛スピードで近づいてくる。

□飛行船・操縦室

激しい揺れで扉が開き、落ちかけたミハエルの腕を掴むヤーニ。
ミハエル「〝ウィルゲム〟に来てどうする！」
ヤーニ「文句は風に言って下さい！」
はい上がろうともがくミハエル、非常用ボタンを押してしまい、縄ばしごが降りてしまう。
ミハエル「私のことはいい！ 早く、縄ばしごを切れ！ 御曹司が登ってくる！」
ヤーニ「は、はい！」
ヤーニ慌ててナイフを出すが、ゴンドラが揺れて、落としてしまう。
ミハエル、げんなりとして、
ミハエル「御曹司とは離れられない運命なのか!?」

□宇宙船〝ウィルゲム〟・甲板

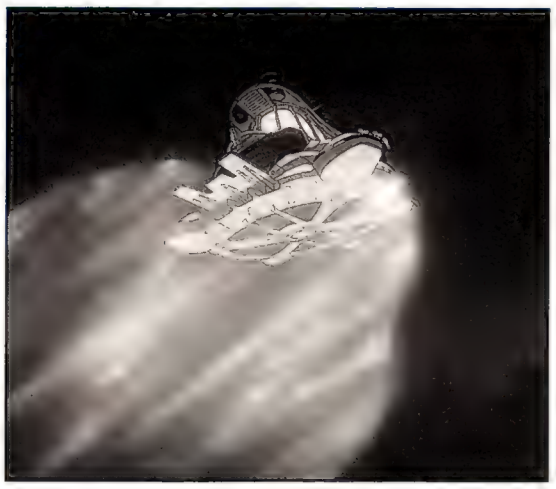
メリーベルを抱えて縄ばしごを登っていくグエンを、見上げるリリ。
リリ「ガリアにでもお逃げなさい。どう転んでも、アメリアにいればあなたの命はありませんわよ」
グエン「アメリアの未来が心残りですが」
リリ「ご心配なく！ アメリアは私が治めますわ、スカートのままでね！」
飛行船に向かって小さくなっていく、グエン。
リリ、大型ホバー車輌〝ギャロップ〟の方を向き、
リリ「さあ！ 後はホワイトドールの戦いにかかっています！ ディアナ様の所へ向かいますよ！」

□ロスト・マウンテン近く・上空

小型艇〝マゴガメ〟を前から押さえるハリーの〝モビルスーツ・スモー〟。
減速して、着陸する小型艇〝マゴガメ〟。
追ってきた戦艦〝ホエールズ〟も着陸する。

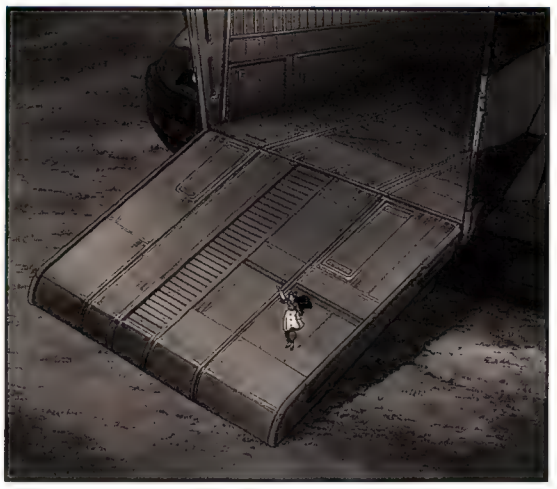
□地上・戦艦〝ホエールズ〟

戦艦〝ホエールズ〟の出口から、駆けだしてくるキエル。
キエル「ディアナ様は！」
小型艇〝マゴガメ〟の近くでもみ合うハリーとディアナに向かう。



■マゴガメ発進
本編ではディアナはあくまでソレイユのまま前進し、やがてバリアで月光蝶を押さえ込もうとする。また、その前進を見送るディアナと、その姿にアデスカの王の死を重ねるソシエの姿が描かれている。

■グエンとリリ
グエンとリリのやりとりはほぼそのまま本編に反映されている。なお、本編ではリリが「アメリアはわたくしがスカートのまま治めますわ」というシーンの後でCMが入る。



■ディアナとハリー
マゴガメの近くでもみあうハリーの登場はない。最終回でハリーの登場するシーンはなかりカットされている。

□地上・小型艇"マゴガメ"のそば

暴れるディアナの腕を抱えるハリー。

ディアナ「離しなさい！　ハリー！」

ハリー「今は見ている事しかできないのです！　こらえて下さいディアナ様！」

駆け寄るキエル。

キエル「ハリー大尉！　離してあげてください！　ディアナ様！　私も参ります！」

ハリー「キエル嬢まで！」

ハリー、キエルの腕を掴み、

ハリー「誰も巻き込まないと、一人で決着をつけようというロランも気持ちがわからないのですか!?」

ハッとする、ディアナとキエル。

ハリー「私たちが近づけば、困るのはロランです」

膝をつくディアナに、寄り添うキエル。

その上空を、一機の複葉機がロスト・マウンテンに向かって飛んでいく。

□ロスト・マウンテン

激しい攻防を続ける"モビルスーツ・∀"と"モビルスーツ・ターンX"。

ロラン「あなたが戦う力を守ってきたのは、月を、ディアナ様をお守りするためだったんでしょう!?　その誇りは持ってないのですか!?　戦う事だけに心奪われてしまったんですか!?」

ギンガナム「その誇りを与えたのがディアナなら奪ったのもディアナだ！　ねぎらいの言葉一つかけず、演習を繰り返す私たちを悪しき物でも見るように遠ざけて！」

ロラン「それは、あなたたちが戦いに取り付かれたように見えたからでしょう！」

ギンガナム「だまれ！　豊饒の女神はもう必要ない！　これからは戦いの中で生きる意義を見つける時代が来るのだ！」

月光蝶の嵐が、空に浮かぶ赤黒い月を隠す。

□上空の複葉機

強風の中、必死で操縦桿を握るソシエ。

ソシエ「これならきっと近くまでいける！　ロラン一人でなんか戦わせない！」

月光蝶の光、目指して飛んでいく。

□ロスト・マウンテン

"モビルスーツ・ターンX"の激しい攻撃に、防御しかできない"モビルスーツ・∀"。

ギンガナム「楽しい！　楽しいぞロラン！　私はこの日を待っていたとよく分かる！」

ロラン「そうやって、あなたが戦いを楽しむだけしかできないのなら、僕はあなたを殺します」

ギンガナム「望むところだ！　私は今生きていると感じる！　体中で感じている！　お前の様に何かを守るためだと甘いことを言っているような奴に私は倒せまい！」

ロラン「倒します!!」

ビームサーベルを振り上げて、猛進する"モビルスーツ・∀"。

ギンガナム「気合いだけで、やれると思うな！」

"モビルスーツ・∀"の胸をシャイニングフィンガーが貫く。

ギンガナム「純粋に戦いを楽しめる者こそ勝利を得られるのだ！」

ロラン「守るものがあるからこそ、自分を捨ててまで戦えるんです、わかって下さい！」

片手で"モビルスーツ・ターンX"をしっかり抱える"モビルスーツ・∀"。

ギンガナム「貴様!?　そのつもりで……！」

ロラン「地球にも月にも、もうターンタイプは必要ないんです！」

"モビルスーツ・ターンX"の背中から、"モビルスーツ・∀"共々、ビームサーベルで突き刺す。

ギンガナム「おのれ！」

XTOP（エックストップ、"ターンX"の頭部）を離脱させるが、煙を吐いて降下していく。

コクピットを降ろしながら、開け、銃を手にするロラン。

と、両機の月光蝶が激しくなる。

ロラン「何!?」

コクピットから慌てて飛び降り、見上げると"モビルスーツ・∀"と"モビルスーツ・ターンX"が、激しさを増した月光蝶に揺り動かされるように、押し合っている。

□地上・小型艇"マゴガメ"近く

リリが、ディアナ、キエル、ハリーの元へ駆け寄る。

リリ「どうなったの!?」

キエル「まだ分かりません……」

と激しくなった月光蝶に気付く、ハリー。

ハリー「ディアナ様！」

リリ「何が起きているのですか!?」

ディアナ「分かりませんが、今までの月光蝶とは違う……」

ギンガナムの声「まだ終わってはいないぞ！」

ロラン振り向くと、ギンガナムが刀を抜いて立っている。

その背後では、XTOPから炎が上がっている。

慌てて銃を構えるロラン。

ロラン「動かないで下さい！」

ギンガナム「お前に撃てるものか！」

ロラン「うぉー！」

ロラン、銃を乱射するが、一発ギンガナムの頬をかすっただけで、弾切れになる。

ロラン「ああ……」

ニヤリと笑うギンガナム、もう一本の刀を抜き、ロランに放る。

ギンガナム「刀を使ったことはあるだろう」

ロラン「い、一度だけです！」

ギンガナム「十分だ！　行くぞ！」

慌てて刀を拾うロラン、振り下ろされたギンガナムの刀を受ける。

刀を押し合うロランとギンガナム。

ギンガナム「黒歴史を封じるのだろ?」

うなずくロラン、両手が震えている。

ギンガナム「できるものならやってみるがいい！」

ロランの刀を跳ね上げる、ギンガナム。

と、その時、XTOPが爆発する。

ギンガナム「ぐっ！」

飛び散る破片の中、動きの止まるギンガナム、ゆっくりと崩れ落ちる。

ロランも気を失い、その場に倒れ込む。

ソシエの声「ロラーン！　早く逃げるのよ！」

ハッと気が付くロラン、見上げると、ソシエの複葉機が急降下してくる。

ロラン「ソシエお嬢さん……！」

ソシエ「乗って！」

地面を滑走する複葉機に、飛びつくロラン。

ソシエ「しっかり掴まっているのよ！」

スピードを上げ、ふわりと上がる複葉機、後部座席でぐったりとするロラン、

ロラン「ソシエお嬢さんの声は耳によく響きますね、一発で目が覚めました」

ソシエ「褒めてるの!?　けなしてるの!?」

振り向いたソシエ、ハッとして、

ソシエ「ホワイトドールが！」

背中合わせに座った"モビルスーツ・∀"と"モビルスーツ・ターンX"、月光蝶に包まれ繭の様になる。

光が消え、小さなマウンテン・サイク

■複葉機に乗るソシエ

フラットに変更。ソシエの決意のセリフがない替わりに、本編ではフラットが大きく踏み出すシーンを印象的に入れている。

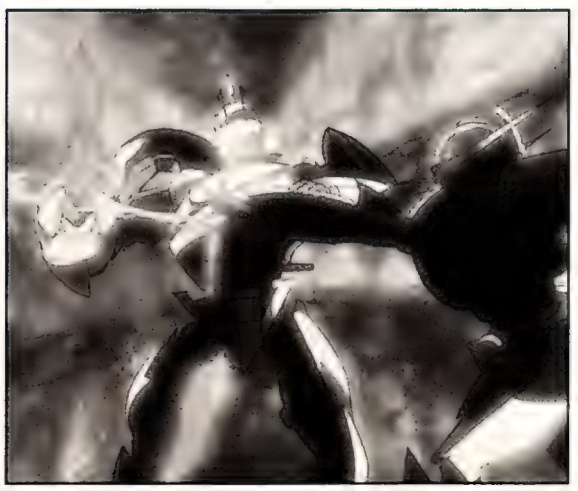
■ロランとギンガナムの決着

本編では、CM明けからターンXと∀の戦闘が展開。そこで、ギンガナムの戦いを求める心が説明される。シナリオでは戦闘の駆け引きなどはあまり描かれていないが、本編ではかなりの時間を割いている。ターンXと∀が相討ちとなるシーンのセリフは、シナリオのセリフが端折られて、

ギンガナム「純粋に戦いを楽しむ者こそ！」

ロラン「自分を捨てて戦える者には！」

となっている。いわゆる「富野ゼリフ（富野監督独特の言い回し）」だ。



■拳銃を撃つロラン

拳銃を撃つ展開はカット。そのままギンガナムと剣を交える展開に。

■ディアナのお話

最後の戦いが終わった後、ディアナが自らの決意を語る部分はカット。本編では、ロランがフラットの掌に倒れ込むシーンの後、ソシエが「繭の玉が立っているみたい」と二機のターンタイプのいた場所を見やり、ソレイユのディアナの表情を見せると、そのまま後日譚へとつなげられた。

ルになる。遠ざかる複葉機の上で、黙って見ているロランとソシエ。
空には、光を取り戻し始めた月が浮かんでいる。

□**地上・小型艇"マゴガメ"近く**

着陸した複葉機に走り寄る、ディアナたち。
ディアナ「ロラン……！」
後部座席でぐったりしていたロラン、ディアナをみて微笑み、気を失う。
ディアナ「私が決着をつけるべき戦いを、ロランに任せ、こんなに傷つけて……私はどうすれば全ての責任を取れるというのでしょう!?」
その場に泣き崩れる、ディアナ。
ハリー「ディアナ様！」
掛けより、立たせるハリー。
ハリー「〝ソレイユ〟に戻って少しお休みになりましょうディアナ様！」
ディアナ「いいえ！　私は話さなければいけません！　私の責任の取りようを！」
もみ合うハリーとディアナ。
ロラン「やめて下さい！　ハリー大尉！」
ヨロヨロと複葉機から降りてくるロラン。
ディアナ「大丈夫ですか!?　ロラン！」
支えようとしたディアナの手を、やさしく押し返す、ロラン。
ロラン「僕は平気です。どうかお話を続けて下さい」
ロラン、ソシエの肩を借りて、ハリーのそばへ行き、
ロラン「ハリー大尉もディアナ様の邪魔をしてはいけません」
睨むロランの気迫に押されるハリー。
ハリー「……」
ロランたちと共にディアナのそばを離れ、歩き出すハリー。
ロラン「ディアナ様のお気持ちを話させてあげたいんです……」
ハリー「分かっている」
涙を流すディアナを、見つめるキエルとリリ。
ディアナ「たくさんの人々が死にました。月も地球も含め……」
キエル、ディアナに近づき、
キエル「全てがディアナ様の責任ではありません！　一人で背負い込む必要はありませんわ！」
ディアナ「いいえ！　全ての罪は私にあるのです！」
キエル「地球降下作戦が全ての元凶だとおっしゃるのでしょう!?　けれど、死力を尽くしこうして収めたではありませんか！　そのような事はおっしゃる必要はないと私は……」
ディアナ「もしも、アグリッパやギンガナムがもっと違う心を持ってくれていれば、こんなにも戦争は大きくならなかったでしょう」
キエル「でしたら……」
ディアナ「彼らの、そのような気持ちを育ててしまったのは私の責任です。違いますか!?」
キエル「……」
ディアナ「ディアナ・ソレルという女王が至らなかったのです……もとより、一人の人間が全体を束ねるということこそ、間違いなのです……月は女王制を廃止します」
キエル「そのようなこと、この場で決めることではありません」
ディアナ「いいえ！　今はっきりとこの意志をあなた方に伝えなければなりません！　そして今までの戦争の責任を、私の命で償います！」
息を呑むキエル。
キエル「……どうして死ななければならないのですか？　責任をとるとはそういう風にしかできないのですか!?」
リリ「キエルさんの言うとおりよ、ディアナ様」
ディアナの正面に立つリリ、
リリ「その命で責任をと言うのなら、生きていただきましょう。ディアナ様」
リリ、ハンケチでディアナの涙を拭い、
リリ「残りの仕事をすましましたら、隠居していただきます。それがあなたの責任の取り方ではないかしら?」
体の力を抜き空を見上げるディアナの顔を、満月が照らす。
ディアナ「生きる……私はまだ生きなくてはいけないのですね……そういう責任の取り方もあるのですね……」
瞼を閉じるディアナの頬を、一筋の涙が伝う。

□**ノックス近郊・上空**

一隻の飛行船が、空港に近づいていく。

□**飛行船・客室**

窓からノックスの街を見下ろすキエル。
復興は進んではいるが、まだ残るあちこちの空き地で、青空市場が開かれたりしている。
記者2「月の女王ディアナ・ソレルの影武者をやっていらしたという噂がありますが、その事と関係があるのですか？」
キエル「プライベートの事なのでお話する事は何もありません！　すみません、通して下さい」
記者をかき分けて、走るキエルのそばに一台の車が止まる。
ハリー「迎えにあがりましたよ、キエル嬢」
キエル「さすがは大尉！」
助手席にキエルを乗せ、瞬く間に発車するハリーの車。

□**ノックス郊外・道路**

野菜を積んだリヤカーを必死で引く、首にタオルを巻いたポウの脇を、猛スピードでハリーの車が通り過ぎていく。
ポウ「ん？　あれはハリー大尉に似ていたが……？」
立ち止まり、タオルで顔を拭う。

□**ノックス・町中**

ハリーの車が走っていく。
所々、建設中の建物がある。

□**ハリーの車**

ハリー、携帯ラジオをキエルに渡し、
ハリー「リリ嬢の挨拶にはぎりぎり間に合いそうですね」
キエル「よかった」
キエル、ラジオのスイッチを入れ、
キエル「月と地球を結ぶ定期便が始まるなんて……ノックスだってこんなに早く復興するなんて……」
周りを眺めるキエル。
工事現場で働く、モビルスーツがちらほら見える。
ハリー「ここは表通りですからね。少し裏に入ればまだまだ……」

□**ノックス・青空市場**

バラックのような店がひしめき合っている。
汚いが、活気があふれている。
広場の一画で、大道芸をしているブルーノ。
ブルーノ「〝ターンX〟の右手が光り始めた！　危うし！　ホワイトドール！　危うし！　ローラローラ！」
ブルーノが器用に動かす〝モビルスーツ・∀〟と〝モビルスーツ・ターンX〟の操り人形を見つめる見物客。
ブルーノ「と！　そのとき！　一人の

■**女王制**

女王制の廃止を決意するディアナは、本編では描かれなかった。

■**後日譚**

これまでの物語の展開の変更を引き受ける形で、この後日譚もまた絵コンテの段階で大幅な変更が加えられた。登場人物が多く、またエンディング曲『月の繭』に合わせてシーンが展開する構成のため、絵コンテ作業ははなかり難航したという。シナリオではリリの演説が流れているが、本編では歌が流れているせいもあって、状況を説明するようなセリフはほとんどなくなった。

■**本編のシーン展開1**

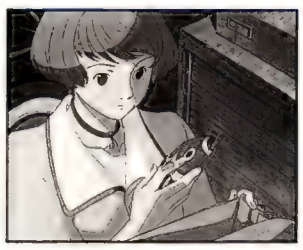
ロランの運転する乗用車にキエル、ディアナ、ソシエが乗っている。助手席にはハリーの姿も見える。彼らはハイム家へと向かうのだ。

■**本編のシーン展開2**

街頭で人形劇を見せるブルーノとヤコップ。シナリオではもの悲しい展開だったが、本編ではコレンの偉業をたたえる二人の姿を見ることができる。

■**本編のシーン展開3**

ウィルゲムのローラ号への改造シーン。キエルとディアナ、リリに加え、ボルジャーノ公のほか、ミハエル大佐、ヤーニ軍曹の姿も見える。



■**本編のシーン展開4**

シナリオとの最大の差の一つ。ソシエがロランに振られるシーンが明確に入れられた。雪の降る日、ロランはソシエの下を離れ、ディアナとともにキャンピングカーで山へと向かう。後にソシエは自らの思いをぬぐうように、残された金魚を川へと流す。このあたりのニュアンスはシナリオに似ていながらも、トーンは大きく違う。

男が"フラット"に乗って、その右手に……右手に……」

涙で声が詰まり、続けられない。

客1「おい！　どうしたんだよ！　続けろよ」

地面に伏せて、泣き出すブルーノ。

客2「これでおしまいさ、いつもここで泣き出して続きは見られないのさ」

泣き続けるブルーノから離れていく、見物客たち。

どこからか、ラジオの声が流れてくる。

アナウンサーの声「……から始まる、地球・月間の定期便の式典はたくさんの人で賑わっています……今、ローラ航空総裁のリリ・ボルジャーノ嬢が挨拶のため、演壇へと登っていきます……」

□空港・式典場

演壇に上がったリリの背後には、客船に改造された宇宙船"ウィルゲム"（ローラ号）が見える。

壇上のリリ、晴れやかな顔で客船を見渡し、

リリ「本日は、地球と月を結ぶ宇宙船の初飛行にこれだけたくさんの人が集まって下さった事をとても嬉しく思います」

報道陣の最前列にいるフランが、シャッターを切っている。

□フランの家・庭

ラジオから流れるリリの声

リリの声「みなさんは、ホワイトドールのローラという女性を覚えていらっしゃいますか？　この前の戦争を終結に導いた女性です」

聞きながら、うたた寝をしているシドのそばの揺りかごは、赤い髪の赤ん坊。

少し離れた所で洗濯物を干しているジョゼフ。

リリの声「ホワイトドールのローラはいつでも、地球と月の和平を願って戦っていました」

□ビシニティ・ハイム家

窓に置かれたラジオを聞く、ハイム夫人とソシエ、ジェシカもいる。

リリの声「今なお、戦争の傷跡は街や人に残っています。あのような戦争を二度と起こさないためにも、月と地球はお互いを許しあい、理解しあう努力をしていくべきなのです」

ハイム夫人「キエルは本当に大丈夫なのかね、月に行くなんて……」

ソシエ「大丈夫よ、一回行ったことあるんだから」

立ち上がり、部屋を出ていこうとする。

ジェシカ「ラジオをお聞きにならないんですか？」

ソシエ「部屋でラジオを聞く天気じゃないわ、散歩に行ってくる！」

リリの声「確かに本当にわかりあうには長い時間がかかるでしょう」

□空港の周り

たくさんの屋台が出て、お祭りのよう。

その中で、ひときわ大きなキースの屋台。

スピーカーから流れるリリの声。

リリの声「けれども、その気持ちがあればいつか必ずその日はやってくるのです」

忙しくお客をさばくベルレーヌにそばへ来たキース、ひとかけらのパンを突き出す。

キース「食ってみろ」

ベルレーヌ、キースの手からパンを食べる。

ベルレーヌ「……あら、うちのよりおいしい」

キース「だろ！　あっちの屋台のパン屋だ。俺は工場に戻って、もう一度パンの作り方を研究する！　後は頼んだぞ！」

走って行ってしまうキースの後ろ姿に微笑むベルレーヌ。

リリの声「これから始まる定期便で、地球人とムーンレイスが行き来し、お互いの理解が深まり、より良き関係がきずけるようにと願いを込めて、この宇宙船もローラ号と名付けました」

盛大な拍手が聞こえてくる。

□空港・ゲート

続々とゲートをくぐっていく、乗客たち。

その中には、レッド隊の姿も見える。

乗客の列には、ローラ号に向かって伸びている。

□ローラ号・貴賓室

窓から乗客の列を見ている、キエルとハリー。

キエル「私が月でできる事は本当にあるでしょうか」

ハリー「もちろんです」

キエル「ディアナ様と似ている分、反発されないでしょうか？」

ハリー「きっとディアナ様が来たと喜ばれますよ」

□ビシニティ・川原

川に沿ってぶらぶら歩くソシエ、川岸に流れ着いた金魚を見つける。

ソシエ「あ……！」

拾い上げ、川上を見つめる。

ソシエ「そうそう人間は流れてこないわよね」

微笑んで、金魚を見つめる。

しばらく眺めているが、大きく振りかぶり金魚を川に向かって投げる。

放物線を描いて、川に落ちていく金魚。

にっこりと笑うソシエ。

□河口

金魚は海に向かってゆっくりと流れていく。

暮れ始めた空に月が浮かんでいる。

□アメリア大陸北・湖畔

小さなログハウスが建っている。

辺りには紅葉の始まった木々が、柔らかい風に揺れ、湖畔に落ち葉を飾っていく。

森の中から、斧を打つ音が響く。

□斧を振り下ろすロラン。

大きな音をたてて、木が倒れていく。

□水辺で、落ち葉を拾う老婆の手。

斧の音はやんでいる。

その老婆の肩に、ショールをかけるロラン。

ロラン「お寒くはありませんか？　ディアナ様」

ディアナ「ありがとう」

ディアナの顔は見えないが、その声は明らかに老いている。

近くのベンチにディアナを座らせるロラン。

木々や落ち葉が夕日に染まり、紅葉を際だたせている。ベンチに座っているロランとディアナ、静かに景色を眺めている。

ディアナ「落ち葉が全部落ちるまでは、まだまだ時間がありますね」

ゆっくりとベンチにもたれるディアナ。

ロラン「ええ。まだまだずっと……あと数年……いえ、十年はかかるでしょう」

ディアナ「じゃあ、この景色はロランがキャンバスに描いたものなんですかねぇ」

ロラン「そうですディアナ様」

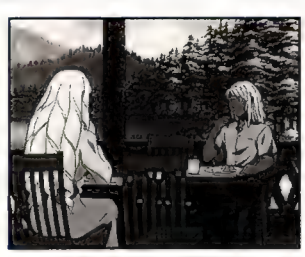
ロラン、ディアナの曲がった腰を抱くようにして立ち上がらせ、ログハウスへと導いていく。

ログハウスの向こうの空に、月が見える。

（終）

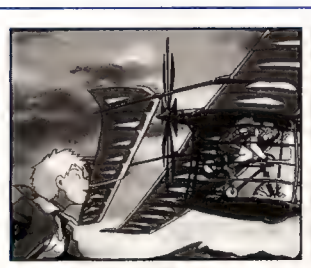
■本編のシーン展開5

改造されたローラ号の発進。ザックトレーガーを使わずに月へと向かえる二段型ロケットになっている。その合間に、森で暮らすディアナとロランの姿がインサートされる。月へ到着したキエルはディアナとしてムーンレイスのために働く。その傍らには、ハリーの姿がある。



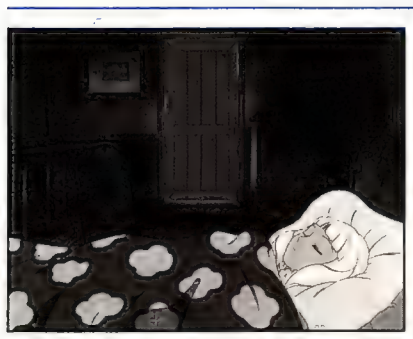
■本編のシーン展開6

子どもをおんぶしたジョゼフと、仕事に出かけるフラン。発掘中らしいシドとボウ。キースは新しい店を手に入れ、そこには曾孫と孫のベルレーヌに囲まれたアニスもいる。メシェーは、ムーンレイスの美少年と人力飛行機に夢中だ。ヒゲを生やしたグエンは、メリーベルとともに海を渡っている。



■本編のシーン展開7

ロランとディアナの静かな生活。本編ではディアナの老いをあえて強調するような描写はさりげなく入れられただけであった。そして、眠りにつくディアナと「ディアナ様、また明日」と声をかけるロラン。ディアナの寝顔で物語は終わる。



ターンエー座談会

堂々たる完結を迎えた「∀」。その締めくくりに企画された富野監督と声優陣を交えての大座談会。ところがそこに、総集編の企画が進行中との情報が。そこで本座談会は急遽、各キャストがテレビ版を踏まえ、富野監督に総集編の内容について直接迫る内容となった。でも、仲のいいメンバーだけに雰囲気はついつい脱線気味に……。

朴　総集編っていったいどうなるんですか？

稲田　ストレートな質問（笑）。基本はやっぱりテレビの流れですか？　それともサイドストーリーというわけではなく？

富野　そういう風に、普通の人が想像するような事は、口が曲がってもやりたくないの。だから総集編を作るにあたって当然自分に課題を課したわけ。それが難しくて、今は絶対まとまると思ってないね。

朴　だめじゃん（一同爆笑）。

稲田　話がもっと膨らんだりして。

青羽　全然違う話になっちゃったりして。

富野　いや、まじめな話をすると、本当の話、もうこの時期になったら、まあ5時間以内にまとめられるだろうって思っていたんです。5時間以内というのは、それぐらいにまとめないと、誰も見てくれなくなるからね。

朴　それって映画になるってこと？

富野　基本は映画サイズを想定していますます。映画って1時間40分とか1時間50分とかが理想なのね。興行を考えたときの絶対的なその数字は、単に一般的プロデューサーレベルの考えとして妥当な線というんじゃなくて、今はそれが本当に厳然とした基準になっちゃってるの。映画で2時間超えるっていうのは本当に大変で、もうちょっと緩やかだった数年前の『タイタニック』だって、3時間をを突破するというのは本当に大騒ぎだったらしいのね。……ところで、理恵子さん大丈夫？　洋服もお顔も真っ白で、疲れてるんじゃない？

高橋　ええっ？　大丈夫です。

富野　あ、きれいにお化粧してるのね（笑）。だから製作側の要請ではなく、内容のことは一切考えないで見やすさを考えて二部構成でせめて5時間を超えないようにパッケージングする、ということを目標にしているんで、ものすごくハードルが高い。それでもおかげさまで、第一部のほうは核爆発（第27話『夜中の夜明け』）までのところで、2時間20分ぐらいにはなるだろう、というメドが立ちました。ということは、後半の方もそのくらいでまとめなくちゃならない。言ってしまえば、それだけのことなんだけれど、外伝を作る訳じゃなくって、TVのまんまのストーリーを5時間に圧縮するってことは、なかなか……。

青羽　すごいですよね。

稲田　それって、ビデオ早回しして見たって、5時間なんて無理ですよね。

富野　だから、その方法をこちらが教えてほしいぐらい。ほんとにこの作業をしていたこの半年、つらかった。最初の『ガンダム』は戦闘シーンを毎回入れなくちゃならなかったんで、そういう余分なものをはずすと、けっこうそれなりにまとまったの。ところが『∀』はそういう話じゃない。戦闘シーンもあるけれど、入れなくちゃいけないから入れたという作り方はしていないし、物語はなんとなくつながっている。そういうお話を2時間半で全部見せるテクニックは、普通はありませ

最終回では泣かないつもりだったのに

朴 璐美
ロラン・セアック

演劇集団円所属。『ブレンパワード』カナン・ギモス、『デジモンアドベンチャー02』一条寺賢ほか

ん。だけど一部の2時間20分っていう数字がなんとなく見えてきたんで、まあ最終的には二部の方もいけるだろうと、今は思ってます。どうやってまとめたかは、だから見てのお楽しみ、というのと同時に、逆に言うと、TVシリーズを知っている人には腹が立つようなまとめ方になっているでしょう。ただ、少なくとも第一部に関してのまとめ方を見ると、一気に見られるような構成には出来たかな、という自惚れはあります。

朴　彼女は出るんですよね、マヤリト。

富野　どうかなぁ。

朴　でないの？

青羽　そんなにマヤリトが好きだったの？

朴　うん、あの話、好きやってんなー。って、なんであたし訛ってるんだろう（笑）。

青羽　そういう点では、出てこないキャラクターとかも出てきちゃうわけですよね。

富野　うん。話の流れ方はTVを見てる人は「えっ！」て思うんだけど、知らない人はおそらくそのツギハギが見えないはず、というところまで組み込んだ。その意味では、凄いよ。

稲田　本当なら、凄いよ（笑）。

朴　おお、自信満々だ。

富野　一番はじめのプランニングだと、それこそ1話はまるまる残しちゃうの。でも、すると27話までを絵コンテでぱーっと構成した時に、最低でも5時間ぐらいになる。それを2時間半にする。これは出来るわけないよね、って所からはじめたわけ。5時間にするだけでも2～3ヶ月かけたのに、その上で出来るのかな、というんで勝負をかけたわけ。そのためにどういう圧縮をしたかって言うと、1話ってのは最終的には7分ぐらいになっちゃった。

朴　えっ！

稲田　うーん、7分で納まる……納まっちゃったんですか。

富野　普通には納まらない。

朴　あの、聞いちゃだめですか？

稲田　懇願するまなざしだ（笑）。

朴　あの、オープニングの……。

稲田　あ、最初の歌のシーン？

富野　見事に残ってる。

朴　あ――（拍手）。良かった、あれが好きなのよー。

青羽　あれははずせないでしょう。

富野　実を言うと、1話を圧縮する方法を思いつくまでに2～3ヶ月かかってるの。例えば、少しぐらいお話が変わってもきれいな絵の部分だけでつないでいく方法もあるわけ。でも、それじゃあ本編が22分あるとすると、15分の大台は割れない。だから本当に夏前はつらかったね。じゃあどうしたか、というと、そのヒントは実は『∀』のエピローグにあったの。あの大エピローグって、あれでみんなパッとわかるんだよね。なんで物語の段取りが一切ないのにあれでわかるんだろう、って事をまた改めて考えたわけ。音楽でまとめていって、つまり物語の段取りを一切つけてなくて、物語の段取りを追うのは一切合切やめるって決めてるのはみんな観客側に全部あずけるっていうのが∀のエンディング。これって、実はもともとは映画が得意とする方法なのね。だったら頭もそうすりゃよかろうと、ようやく思い切れて、1話が終わるまでは全部音楽ブロック。それでセリフが少しだけ、エピローグみたいに、それがポツッポツッと入る。

一同　おお～。

富野　その構成にする、って思いついた瞬間に、20分のものが7分にバッと圧縮された。それで「そうか」ってわかったから全体の構成も、物語の段取りを追うのは一切合切やめるって決めた。わかりやすく言うと、ウィルゲムの発掘があるでしょ。でも、発掘のシーンを見せる余裕はない。だから、もう発掘していて出てきてもいいようにするにはどうするかっていう事を考えて、前の段階でグエンとミハエルのそれらしいセリフをテレビの流れの中に足したりして、あちこちにセリフを入れていくの。とにかく話をつなげて最大限の密度にするために力を入れたので、本当のところ感覚でやったことは何一つない。全部ロジックでぱーっとまとめた。

朴　ナレーションって、じゃ一切、一つも入らないんですか？

富野　今のところは、入らない予定。

朴　いいですねぇ。

富野　だから当然なんだけれども、実を言うと個々のキャラクターを描くためにTVでつづったエピソードっていうのは全部なくなっちゃった。そんなのをやってる暇はない、もう骨格というか、本筋だけを見せていくっていう。

朴　じゃあ、ウィル・ゲイムさんは？

富野　だから出ない。やってる暇がないもの。

朴　じゃあ、ディアナさんが泣く事もないんだ。

稲田　じゃテテスさんとかも？

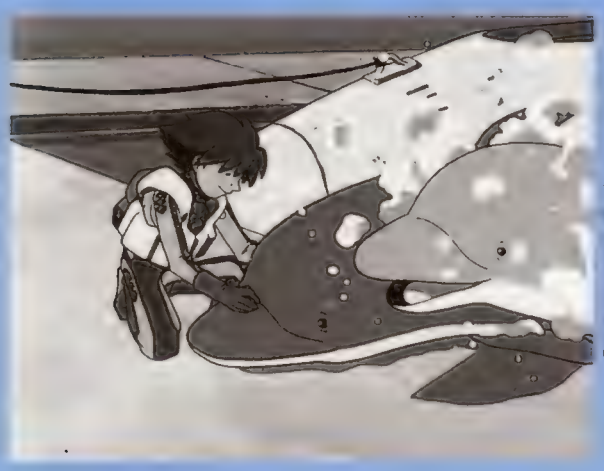
富野　それが、不思議とねぇ。

稲田　残りますか？

富野　絶対に出なくちゃならない。カットしようとも思ったんだけれど、カットできなくなっちゃった。どうしてかっていうと、みんなが月に行くためには、暗殺者集団がいたっていう事実が一番大切なんで。それから核爆発のシーン、エピソードでそれは、一部のクライマックスだから。ほとんどシー

私の忘れられないシーン

「一話の冒頭のシーンは、やっぱり一番好きですね。鳥肌が立つような感じがします」



「結構好きだったのが、月でクジラやイルカが出てくるシーン。可愛いんですよね」

キエルとディアナは難しかったです

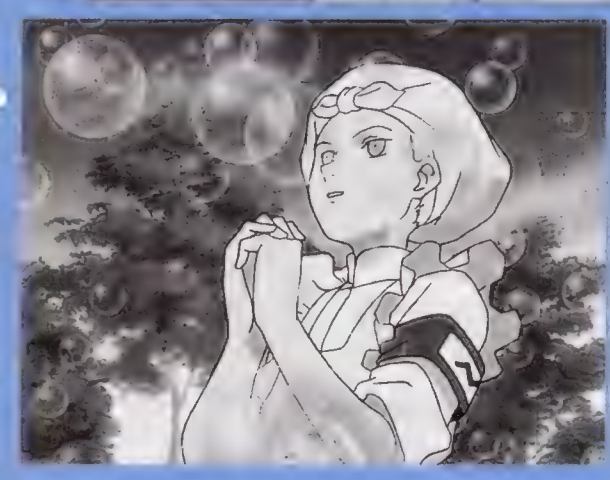
高橋理恵子

キエル・ハイム／ディアナ・ソレル

演劇集団円所属。海外ドラマ「ドーソンズクリーク」レギュラー、映画「トイストーリー2」ほか

私の忘れられないシーン

「印象的だったのは2話でソシエのアメを取り上げて舐めちゃうシーンです」



「ディアナは、やっぱり洗濯シーンのシャボン玉ですね。画面を見て驚きました」

ンを抜いていない。ここも凄いよ。

朴　おお、凄いんだ。

稲田　核爆発で第一部が『完』な訳ですよね、核爆発で。衝撃ですよね。あれはオンエアで見て寒気しましたもん。

富野　でもね『∀』っていうのはそういう作品じゃないから……。

稲田　衝撃では終わらせない？

富野　衝撃ではない。というのも実は、第二部がまだ7時間かな？　それぐらいの長さがあるわけ。絵コンテがどんな厚みかっていうと、30センチぐらいの厚さでまだ残ってる訳。これをまとめるとなると、第二部で、ソシエがドレスを着て死んだギャバンに「あたし素敵でしょ」っていう話。あれはカットするしかないっていうことになったわけ。

村田　ああ～。ショック。

富野　それで、第二部からそれは抜いたの。その代わり、実を言うとそれを含んだあるシーンを第一部の最後に持ってきたの。これはもうフィルムを見てほしい。

一同　ええー。

富野　そうかっ！　エンディングロールこういう作り方があるのかっ！　って思ったんだから（笑）。2ヶ月位前に自分で感動しましたもん。

村田　えええ。

朴　ちょっと待って下さい。それはいつ頃出来上がるんですか？

富野　うーん、わからない。まだまだ第二部の総量が3時間ぐらいかな。でも、ちゃんと作業は進んでるから。

朴　こうやって話を聞くと、何をカットしてるかもうわかんなくなっちゃう。じゃあイルカは……ああ、あの人は出ますよね。ギム・ギンガナム。

富野　だって、あれ出ないと……。

稲田　終わんないでしょ。

富野　まとめて見やすくするけれど、それが固有の作品としてダイジェスト版には見えないというかなり奥の深い事をやってるからね。久しぶりにこの半年、すごい仕事したよ。こんな歯ごたえのある仕事っていうのは、僕にはもう出来ないかもしれないけれど、きっと……（ニヤリ）。

青羽　うわぁ……。

朴　やな笑みだよぉ。

稲田　撮影されていないのが残念ですね、今の顔が。

富野　だから今もう、一方的な僕の話はここで終わりで、あとはもうあなたたちで話をしなさいと言ってるの。

朴　はいはいはい（笑）。だけどですね、渡されたレジュメには監督に対する質問事項の方がいっぱいなんですよ。みんなさぁ、段取りどうする？　私、司会？

青羽　よろしくお願いします。

朴　よし、いくぜーみんな！　TV版のアフレコを振り返って、アフレコ時の監督の印象は？　レジュメには「前向きに」と書いてあるんで、前向きに（笑）お願いします。

富野　（司会者の口調で）監督は、とりあえずアフレコの方には毎回来てましたね？

朴　あれ、監督は、向こうでお食事しててくださいよ。

富野　じゃあこういう言い方します。特に高橋さんの場合には、シリーズでレギュラーっていうのは初めてって伺ってますけど、アニメのアフレコっていかがでしたか？

（一同爆笑）

高橋　うーん……もう、最初は自分の事しか頭にないっていうか、周りを見る余裕はなかったんですけど。

富野　（引き続き司会者調で）じゃあ、二役でしたんでそういうご苦労っていうのはおありだったでしょうか？

高橋　監督からは声を変える必要もないとおっしゃっていただいて。

富野　それはそれは、やさしい監督さんですね。

高橋　ええ、ほんとに（笑）

朴　ちょっとちょっと待って。やらせじゃないの？　今の。

青羽　あははは。

稲田　これ、そういうコーナーなんですか？　監督をたたえる。

朴　じゃあみんな、監督をたたえましょう。（爆笑）

高橋　シリーズ版で初めてのアフレコは……。

富野　いかがでした。はい。

高橋　でもなんか、気持ちがこう……自分に来ないから……みんながみんないる状況で拡散されて。それが凄くやりやすかったです。

富野　良かったんだ。

朴　理恵子さん、なんだか泣きそう。

富野　だけど実を言うと、演じる側にしてみるとその、拡散する気分っていうのはつらくない？　手がかりがなくなるような感じがして。

高橋　でも私は、何も知らなくて、そこからスタートしたんで……。そういうものと思っているわけじゃないけど、まず、そういう部分があったから入っていけたんです。

朴　そうですもんね。だって、機械人形の名前も全然覚えてませんでしたもんね。

高橋　おぼえてるわよ（笑）。

稲田　カプルが可愛いという話をしてたら「それに乗って地球に降りてきたんでしょ」って言ってましたからね。

高橋　うそうそ。違う。ちゃんと覚えてる。

富野　え～なんかもう、理恵子さん好きになるのやめようかなぁ。

村田秋乃
ソシエ・ハイム

劇団ひまわり所属。『ブレンパワード』宇都宮比瑪、ドラマ『私の青空』『ハートにS』ほか

ソシエのおかげで前向きになれました

（一同笑）

富野　えー次は、グエンをおやりになった青羽さんは？……って聞くんだよ、朴さん。

朴　ああ（笑）じゃあ、どうぞ。

青羽　え、何を喋ればいいの？

朴　だから言ったじゃない。TV版アフレコを振り返って、アフレコ時の監督の印象を前向きに。

青羽　前向きに……？　非常にギャグを飛ばしてくれて、それが印象に残っていますね。

朴　それだけかいっ！

青羽　で、ギャグとダメ出しのバランスが非常によかった、と。

稲田　アメとムチ（笑）

富野　でも、ギャグって何かしていたの？　僕。

青羽　ギャグじゃないかな。ギャグというか、場の雰囲気を凄く和らげるというか。

朴　監督、たとえば「ルーナルナルナ」って、スタジオで踊ってくれたじゃないですか。

富野　え、やった覚えないけどなぁ。

稲田　やってらっしゃいました（笑）。

富野　そうかなぁ。

朴　「いいですか、この踊りは、ルーナルナルナ」って、踊っていたじゃないですか。スタジオ中、みんな驚いていたけれど。

村田　私、あの二人好きだったなぁ。あのレット隊の二人は総集編には出ないんですか？　どうですか？

富野　うーん。難しいかもしれない。言われてきて、踊ったような気もしてきたけど、でもあれはギャグじゃないの！　みんな真面目にやってんのよ。

稲田　真面目にやってるから面白いんですよね、あれは（笑）。

富野　そういえば、稲田くん『犬夜叉』やってるんですってね？

稲田　はい、2本だけやらせていただいて、昨日死にました。ハリーを見てた方があれを見たら、相当笑ってくれるんじゃないかという役でしたね。

富野　そんな事ない。僕は死ぬところは感心した。

稲田　ありがとうございます。見ていただけて。

富野　かなり上手くやってるんで、本当に偉いと思ったので。で、昨日仕事でハリーの一言を聞いて、ほんと去年はまだ下手だったなと。

稲田　あいた！　うーん、一生懸命でしたね。

朴　じゃあ、そこからアフレコの印象を。

稲田　僕、富野監督は恐い方だっていう噂をずっと聞いてて。それでもう凄く構えていったんですよ。そしたら凄く明るいオーラを発していて。僕が最初ハリーのセリフをすかしてやってたのを、監督がハリーは凄く素直な人ですよって。地球の雨の温かさにほんとに喜んでるんですよ、って懇切丁寧におしえて下さったのが印象的でしたね。そもそも僕、1話のアフレコを見学したんです。その時一緒に行ったポウ役の中西（裕美子）さんにはキャラクターの説明があったのに、ハリーは「読めば判るだろう」ってそれだけだったんですよ、監督（笑）。その時はその言葉をどう解釈していいのかわからなくて、一生懸命理解しようと思って、結果ちょっと裏読みしちゃって4話に臨んだんです。でも、本当に文字通り雨の温かさに喜んでいる、という通りでよかったんですよね。その簡潔なアドバイスに全てがあって、もうだからあとは最終回まで、裏読みはせずにアフレコに挑みました。

（ここで頷いていた富野監督が、一時中座）

朴　ちょうど、監督が今、いなくなったので、秋乃ちゃん……。

青羽　チャンス、チャンス。

朴　言っとけー、今のうちだよ。帰ってきちゃうぞ。

村田　監督の印象？　……わかんない。

稲田　わかんないって、1年間やってきて（笑）

村田　だから、見ただけじゃわかんない部分が沢山あるんだなぁ、と。

（そこに富野監督再登場）

富野　いない方が話がはずんでるね。

朴　そんな事はございません。

富野　外してた方がいいかな？

村田　えーと、監督はとてもやさしくて……。

（一同爆笑）

朴　さっき、わかんないっていってたじゃん。

村田　いや、わかんないっていうのは、入り口のその先だったんですよ。でも、私が見ているのは入り口に過ぎなくって、監督がどんな人か、その先になるともうわかんないんですよね。だから恐いといっても、怒ると怖いという怖さじゃないんです。たとえば、元気がないときとかに、「今日元気がないね」って声をかけられて、「なんでわかるんだろう」っていう、そういう時に凄く恐いなって思う感じなんです。なんかちょっと……。

朴　なんかちょっとエスパーみたいなところあるもんね。

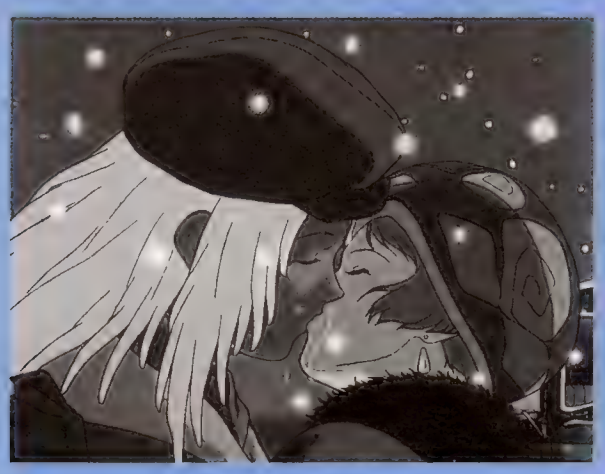
村田　そう、だから、なんかわからない。

富野　そうかなぁ。（口調が再び、司会調になって）あの、ロランを演じていただいた朴さんはいかがなんでしょうか。

朴　あたしはですね、まず監督の印象

私の忘れられないシーン

「ウェディングドレス姿は印象的でした。総集編にも残るようで嬉しいです」



「やっぱり、最終回のソシエは忘れられないですね」

自分の枠を広げることができました

稲田 徹

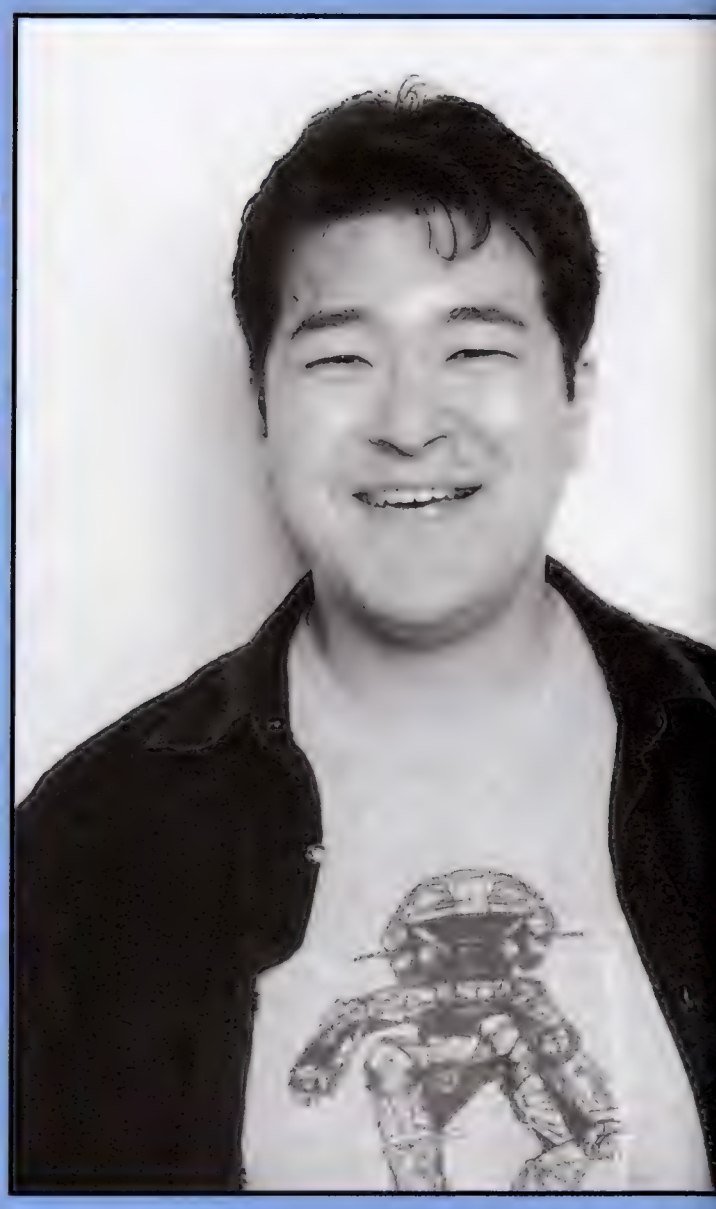
ハリー・オード

青二プロダクション。『ドラゴンボールGT』ルード、『神八犬伝』サイ大佐、ゲーム『リングにかけろ』剣崎ほか

私の忘れられないシーン

「キエルさんとのキスシーンは、ホントに申し訳なくて胸が痛くなりましたよ」

「後半の戦闘シーンは感情をストレートに出せて、思いっきり叫ばせてもらいました」



ですか？

富野　というよりむしろ、まずロランみたいな主人公らしくない主人公ってどうだった。

朴　主人公らしい主人公ってどんなのかわかんないんですよ。

富野　一般的に言うとね、ロランっていうのは主人公らしい主人公じゃないんだって。

朴　へー。あたしは思いっきり主人公のつもりだったんですけど。

富野　僕もこういうのが主人公の話があってもいいんじゃないですか、って言うんだけど、そうは見られてないでしょう。

朴　じゃあ誰が主人公だったんです？

富野　主人公がはっきりしない、つまり曖昧な番組になってるという印象が凄く強いみたい。

朴　そう言われてみれば、そうかもしれない……確かに誰が主人公だっていう話じゃなかったんだと思うんですよね。それぞれみんなバックボーンがちゃんとあって、おのおののキャラクターがあったっていう作品作りだったような気がしますね。言われると、うん。

富野　で、僕の立場で言えば、最初から今回みたいな作品作りを意識したわけではないんだけど、そうなってしまった。そうなってしまったら、それはそれでかなりいろいろなキャラクターが上手に見えてて、本当にすごい作品だなと思うわけ。だけど残念な事に、アニメや映画を含めて、こういう性質の作品がなくて見慣れてないために、『∀』が作品になってないと思われている傾向があるんです。

朴　あたし、この間ゲームのアフレコのために1話からぜんぶ見直したんです。ずっと恥ずかしいなって思って、封印して本棚に置いてあったのに。でこれだけ時間が経ってみると——自分は下手だなぁとは思うんだけど——結構、客観的におもしろくみられたの。監督が凄いなぁって思うところは、キャラを作るって事を一切させないじゃないですか。「そのまんまでいい」って監督が言っていたことが、見て凄く判ったんですよ。その人の生声というか、そういう部分がきっちりと出ているんですよ。1話が一番好きなんです。あたし。アニメっていうより実写に近いような感じがするくらい、凄く不思議な世界観がちゃんと流れてて……。

稲田　いい意味で生っぽかった。

朴　そうそうそう。1話大好き娘としてはね。

富野　けどね、それはロランをやってくれたからそういうふうに思えてくれるんだろうと思う。一方で、グエンとかハリーはかなりこちらの都合で動かしちゃったんだけれども、そのへんのキャラクター像っていうのも、演じながら少しは感じてくれたのかしら。ちょっと気になってるんだけど。

青羽　あ、それはもちろんあります。たとえば僕でいうと、前作の『ブレンパワード』のジョナサンっていうのがあって、その時は凄い粗野な感じのキャラだったんです。でも、同じ監督の作品とはいっても全然違うわけで、グエンはやっぱり、いってみれば大統領みたいなものに「帝国劇場で一人芝居やってるみたいなスケールのおっきな人」。絶対下品な人じゃないっていうか、そういうのは……自分の中では意識してやってたつもりです、はい。

稲田　僕もやっぱり、さっきも言いましたけど、ハリーをやる上では素直な気持ちから出る物で勝負しようと思ってたんで、台本貰っての一週間はほとんど毎日読んでました。でも、口に出して読むのはあまりしなかったんですよ。それに固まっちゃいそうだったんで。だから当日、絵を見ながら初めて出た言葉で勝負したいなと思ったんで。だから、そういう意味では、比較的ニュートラルに挑めた役だな、と。作り込んで、おれの芝居はこうだみたいなことをしませんでしたね。

富野　なるほど。じゃあ、村田さんは、ソシエをやったときはどうだったのかな？

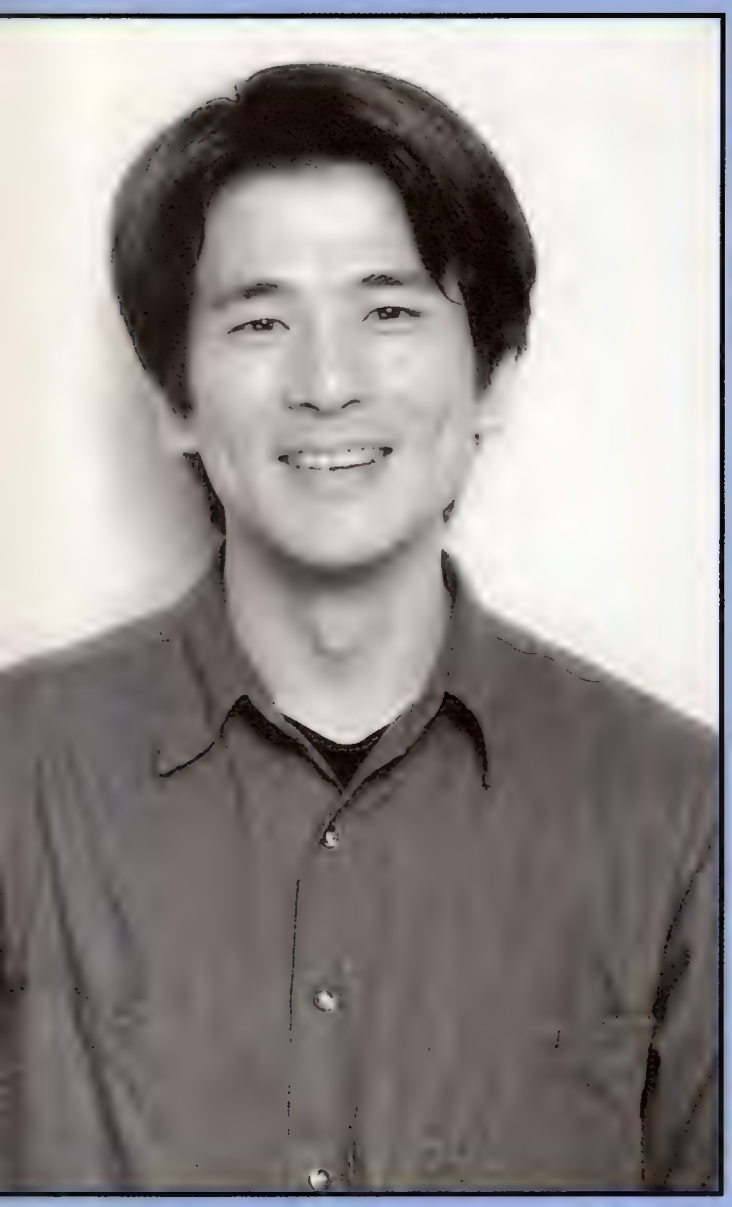
村田　アフレコの前に台本を読んだときは、やっぱりあたしのソシエ像みたいなものがあって、そういう風に出来たらいいなっていうのがちょっとあったりもしたんですけど、もう技術が問題なのか実際にマイクの前に立つと、ソシエをやろうとかじゃなくて実際にあたしがでちゃうみたいなことになっちゃっている部分があったんです。今となってはそれで良かったのかなとも思うんですが、でも自分が考えていた「ソシエはもっとこういうふうな人だ」っていうのが出来てたらもっと良かったのかなとは思います。

富野　演じるときには自分とソシエが曖昧だった部分がある。じゃあ逆に、こういう質問はどう？　今、村田さんお芝居書いていますよね？　お芝居を作る戯作者側に立ってみて、ソシエにはどんなセリフを言わせたい？

村田　どんなセリフ？　ええぇ？　お芝居書くなんてほどのそんなもんじゃないですし……。うーん。ソシエの性格っていうのは言葉にしたら、好奇心が旺盛で、元気で馬力があってっていうのがあって、それとあたしの中でやってるつもりのソシエ像と、両方ともその性格なんですけど……。それを、表現するとなると……。

富野　少し意地悪な聞き方だったけ

わりと早くグエンを掴めました



青羽　剛

グエン・サード・ラインフォード

劇団青年座所属。『ブレンパワード』ジョナサン・グレン、ドラマ『天使が消えた街』『葵　徳川三代』ほか

ど、表現を意識してくれるようになったなら、やっぱりその演技としての作り方の中にもう少し安定したひとつのルーチンワーク、出来るようになって欲しいとは思いますけどね。

村田　そうなんです！　あたしがいいたかったのは、その「ルーチンワーク」が欲しいっていうことなんです。あたしが想像してるのはそういうことなんですよ。

富野　それはその通り。でも、ああいうふうにソシエを演じてもらったのは、秋乃ちゃんの場合はむしろそれで固めなくっていいんじゃないかって思っていたから、そのまんま取り出していけばいいんじゃないかという気がしていたのね。今回に限ると、なまじ演技を意識されると困っちゃう、という事の方が多かったかもしれない。そういえば、『∀』見てくれていたアニメ業界のある人が、凄い意見を聞かせてくれた。それはソシエに関わる事だったのね。僕が『∀』どうだって聞いて、最終回がなければかなり頑張ったいい作品だったね、と言ってくれたの。

村田　え、最終回が？

富野　最終回で、ソシエをあんな酷い目にあわせて、って（笑）。

一同　ああ～。

富野　だから結果として一つのキャラクター像になっちゃうんだな、とは思った。あの、その流れで理恵子さんにも聞くけど2つの役をやっていただいて、改めてどうでした。

高橋　あたしは、台本をどんなに読んでも、想像できなかったんです。自分の役を。

富野　わかりますよ。

高橋　それで、かといって「私」で演じているという訳でもないんです。「あの気持ちはなんとなく判る」というのと、「全くわからない」というものの、二つの間で気持ちがぐるぐるぐるぐるしながら演じてましたね。1年間を通じて、キエルがこうです、ディアナがこうですっていうのは1度もちゃんとやれたためしがなかったんです。

富野　そういう意味では、ずいぶん申し訳なかったかな、と思ってます。そこそ今、秋乃さんに言ったことにも通じるんだけれど、本来なら作り手としてそれぞれのキャラクター性をピシッと作らなくちゃいけないと思うんですただそれが今回はちょっと違った。特にキエルとディアナには大きな作為はあっても、細かな作為は持ってなかったんです。だから嫌な言い方になるけれど、はまる人を連れてくる以外に絶対に出来ないと思ったの。特にキエルは絶対にそうだろう、と。もし、ディアナとしてキエルとして、演じ分けられるとっても器用な人がいたとする。すると、なまじ演じられるだけに、入れ替わっている時にどっちがどっちだかわかりにくくなってしまう。だからむしろ、演じられたら最後、きっと物語に破綻が起こるだろうとは思っていました。その点で、キエルとディアナは、一番ニュートラルにやってもらわなくちゃいけないキャラクターだった。だから高橋さんにお願いしたというのはあって、結果論でいえば高橋さん以外には考えられないキャラクターになって、非常にうまくいきました。

でも一方で、これは役者にお願いしては一番いけない仕事なのかな、とは今思ったのね。明確に役作りをしてはいけないタイプの仕事なので。

高橋　私はそこまで、責任を持って考えることもできなかったですね。私が個人的に何か思うにはは十分すぎる1年だったんです。まだまだ進めないんだって思いました。

富野　むしろ逆にこんな話をした後の方がいいんだけども、キエルとディアナに関して言うと、実を言うとおそらくシナリオライター陣も、僕自身さっき言った通りに考えていたから、演技には抵抗はなかったんだけど、アニメーターに変化があったの。上がってくるフィルムを見ていると、アニメーターが、高橋さんの演技にサ――ッとついていった瞬間があるね。全部が「それ、声に合わせろ」っていう感じになっていった。だから、それは合わせられた高橋さんは、かえって気付かなかったんじゃないかなぁ。

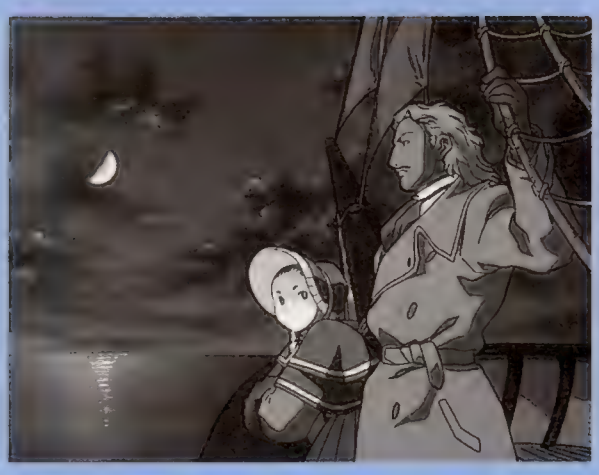
青羽　長丁場のシリーズの時、1話って凄く探ってるじゃないですか。頼りは監督のイメージだけだし。正直1話は、凄く出来上がりが不安で、これで良かったのかなっとかいうのがあるんですよね。2話3話って回数を重ねてってだんだん馴染んでくると思うんですけど、僕だけで言うと、監督と2回目だったというのもあって、馴染むのはちょっと早かったかな、と。2話3話ぐらいでもう僕の中でグエンが決まってきた部分はあったんですけど。そのあたり、みんなはどうなのかなぁ。

朴　あたしは正直な話、もう悩みに悩んだ1年間だったですね。そもそも男の子の役というのが初めてだったし。自分と役がシンクロしちゃうような瞬間っていうのはあるんだけれど、ロランに関してはそれがなんだかわかんなくなっちゃって、そのわかんなくなっちゃったまま一年間やってたっていう感じですね。

稲田　うーん。僕はところどころって感じですかね。向こうが――向こうっていう言い方もヘンですけど――近づいてきてくれたかな、って思うと離れちゃうとかいう部分があって。ただ、

私の忘れられないシーン

「ローラを呼び止める時はどうしてわかってくれないのかとホントに悲しかったです」



「ラストシーンから後、どうなっていくのか気になるようなキャラは初めてです」

転機を手に入れられた自分を信じたい

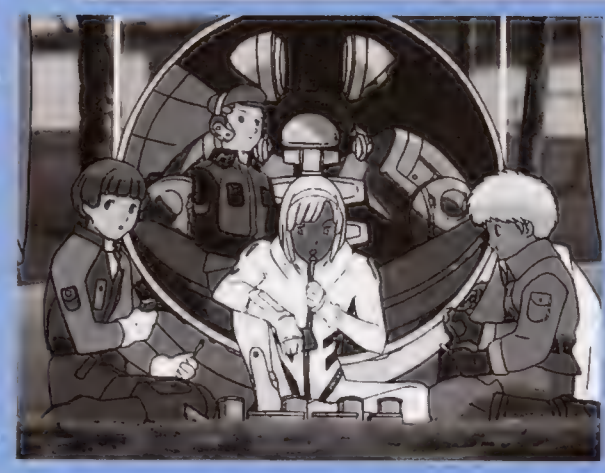
富野由悠季

総監督

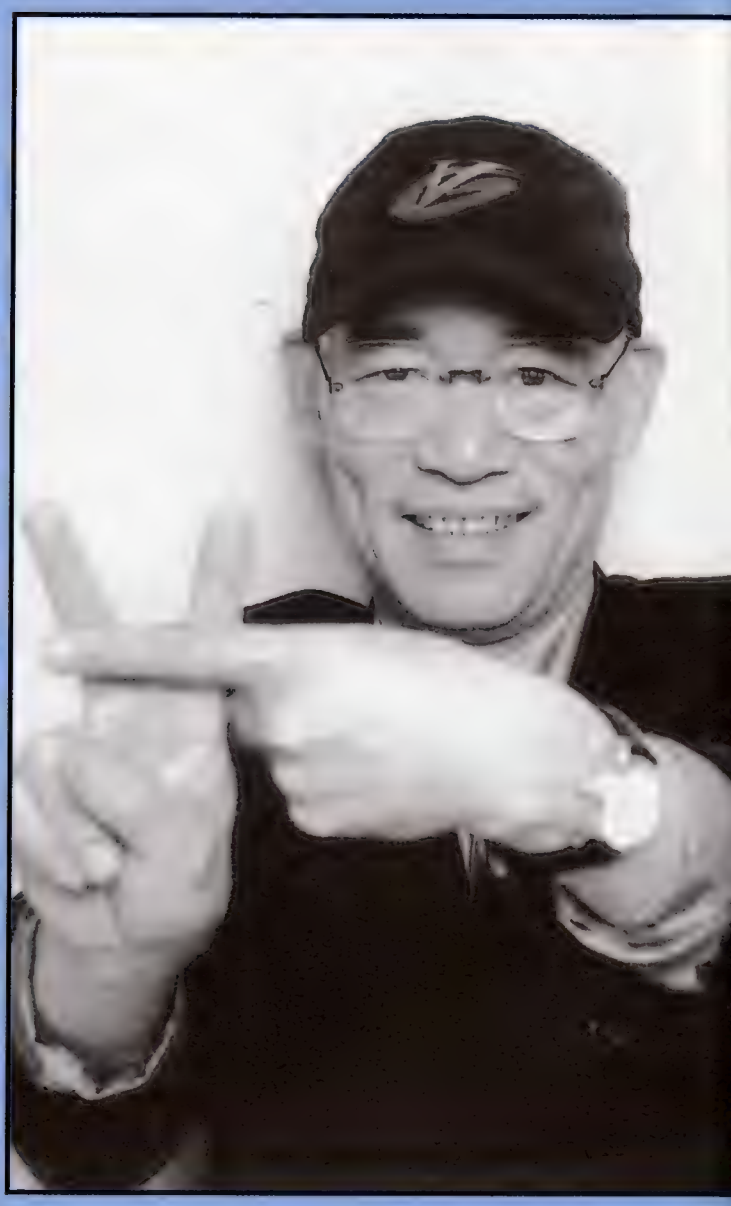
'41年生まれ。虫プロを経てフリーに。ご存じの通り『ガンダム』シリーズの生みの親で、それ以外にも『伝説巨神イデオン』『聖戦士ダンバイン』など多数の問題作を世に送り出してきた

苦労したシーン

「第1話は、音楽を中心に7分まで圧縮しました。なかなか巧くいったと思います」



「後半は思案中。ロランが月で食事するシーンなどはカットしたくないんだけれど…」



ハリーが自分の感情をガーンと出す後半のシーンってのは、わりと入りやすかったかな。

村田　出来上がりがこう、ソシエとあたしがそうなってたかという事じゃなくて、性格とか感情でいうと、あたしは結構すぐにソシエをたぶんこうなんだな、とあたしなりの捉えかたで考えられました。あ、きっとソシエはこうするだろうっていうことを考えながら演技できたから、そういう意味では、あたしなりには楽だったと思います。

――そろそろ時間なので最後に、自分にとっての『∀』の思い出、あるいは総集編と21世紀に向かっての抱負などをうかがいたいのですが。

朴　えー、そうですねぇ。初めての男の子役で、ドキドキで初回を迎え、回数を重ねて演じていくうちにあたしの中でもいろんな事が湧き起こった1年でした。監督は、すごく本音トークの人なので、安心して演じていいんだ！っていう風に思えた現場でしたね。最終回のアフレコの時には、泣くとは思ってなかったんです。けど、涙しか出てこなかったっていうのはいろんな思いがあったからだと思うんです。で、終わってみて何が変わったかっていうのは、わかんない。だけど、もっと自分とちゃんと向き合ってみてもいいんじゃないのかな、という気には凄くなっています。なので、∀が終わって、約1年ですけど、21世紀に向けては、ちゃんとそれを継続してやって行けるようになりたいです。何かに負けっぱなしの1年だったんで、総集編は勝ちっぱなしでいきたいと思います。

稲田　常勝だ。

朴　かなり燃えてます。以上です。

高橋　私は、次にもう一度アフレコする時は、スタジオの中のことというだけじゃなくて、監督ともっと話をしていこうと、今、決めました。というわけで、監督よろしくお願いします。今後の抱負は……自分が満足するだけじゃなくて、やっぱり仕事を持って生きていくっていうことを現実として自覚できるようになりたいと思います。

（公演のため、高橋さんはここで一足先に退出）

高橋　監督、また。

富野　もっと一緒にいたいのに（笑）……内緒の話、今度は2人だけで逢いましょうね。

高橋　はい。

稲田　内緒じゃないですよ全然。録音されてますよ（笑）

朴　ばれてますよ思いっきり。

高橋　（笑）。では、失礼します。

富野　つまんないなぁ、もう。

朴　すみませんねぇ。もう、その目は、どうしてここにいるのが朴で、理恵子さんじゃないの？　って目ですね。

富野　「本当はここにお姉さまか、ディアナさまがいれば幸せだなあって思っているんでしょう」（第42話のソシエのセリフ）

稲田　（笑）コンビーフ食べるシーンですね。えー……次は僕ですか。『∀』にかかわらせていただいた1年というのは、すごく大変だったんですけど、同時に心地よい1年でしたね。最初はキエルさんを好きになりましたからね。あのキスシーンは胸が痛かった。総集編では、そういう至福の時間がまた過ごせることを楽しみにしています。ハリーを演じたことで、自分や周囲が決め付けていた「稲田徹の出来るもの」という範囲が広がりましたね。∀は僕の中で一大転機ですね。それから21世紀の抱負は、初代ガンダムみたいに20年後に再アフレコとなったら、その時も僕もまた名前が残っているようになりたいな（笑）ということでしょうか。

青羽　総集編は、どのへんがカットされているかで演技も変わってくると思うんです。カットされた部分が想像できるような演じ方をしていかなければいけないのかなぁ、と感じてるし。やっぱりテレビ以上に密度濃く、やらなきゃ駄目でしょう。すべて台本読んでからではありますけれど。『∀』に入る前は、ガンダムっていうイメージがあったんですが、始まったら関係ありませんでしたね。その点で僕はすごく自然に1年間できましたね。月に行けて楽しかったし、裏切るところは面白かったです。あとは本編でイルカに乗って遊べなかったことと……。

朴　イルカに乗りたかったんだ（笑）。

青羽　うん。それとあの船でガリアに行ったあとどうなったのか、というところだけが気になってしょうがないんですが。今後の抱負は、もっともっと役者として伸びれるように、日々考えてやっていきたいなと思います。はい。

富野　先が気になるっていうと、僕はね、ブルーノとヤコップ。今回みたいな質感の作品って、ほんとに僕も初めてで。実際コンテを固めた段階でもふっと思ったし、やっぱり絵が出来あがってダビングが終わった時に一番気になったのはあの2人だね。こいつらどうしてるんだろう、最初はキエルのそばに付いてるっていうふうに自分で組んだはずなのに、もう関係なくなってたもんね（笑）。じゃあ違うからダメかというと、今、人形劇やっているのは許せるし、演出ミスもしてない。絶対にミスしてないはずなんだけども、なぜかここにいる。わかんねぇなぁこいつら、っていうのが、ものすごくスリリングだった。

稲田　∀の中でも一番の出世頭かもし

れないですよね。最初のポジジョンからすると。

朴　ヤーニより全然出世してるし。

稲田　ヤーニなんか、現状維持じゃないっすか。

朴　だよねぇ（笑）。さくっと天界にいってしまった方が良かったかもしれない（笑）。本人も望んでたし。

稲田　いや、俺は死んでほしくなかった。好きだったんだヤーニ。樽で宇宙に出るときに、ソーセージをちゃんと持っていっているところとか、よかったよ。……あ、次は村田さんの順番か。

村田　ええと、ソシエの前向きな性格のおかげと、現場が凄く楽しかったこともあって、『∀』を経験したことで、ちょっと前向きな性格になれました。それは、皆さんとソシエのおかげですね。総集編は、まだ良くわからないんですけど、常に成長していけたらな、と思います。あと抱負としては、役者としても自分自身を作りがちなんで、自然体でもっとこうやっていけたらなぁっていうのと、あとお嫁さんになりたいです。幸せになりたいんですよ。

朴　そんなこと言ったらみんな、同じこと言うよ。私もなりたい（笑）。

村田　あと、21世紀だもんね、１００年生きたい。

稲田　半分ぐらいまでじゃない？

村田　で、来世紀の抱負をまた語るの。

稲田　でかい夢だなぁ。

富野　若い人には、そういう考え方もあるけど、僕自身はあと1年をちゃんと生きられたらいいなぁとしか思ってない。

一同　ええ!?

富野　いろんなインタビューでも言ったことだけれど、『∀』は結果論として転機になった。この歳で、そういう転機になる作品を手に入れられるとは思ってなかったからとても嬉しい事だし、それができる自分っていうのを少しを信じたいなって思うこともできた。だから、あらためて21世紀の抱負っていうことではなくて、これが出来るなら、この先、1年は極端にしても、死ぬまでの5年なり10年なりをちゃんと生きられる、と思えます。ほんというと、あと20年は生きたくない。アルツハイマーにかかったら、即刻殺して欲しい。そうしないと若い人の負担になるからね。そういうモラルが世間一般のコンセンサスになるように、作品を通じて語っていきたいと思っている。そもそも人間ってのはそれほど馬鹿だとは思えないし、旧来のものをずーっと引きずっていくほど腑抜けな社会だとも思ってないんで、時代が変われば20世紀とは違った方法論で、お客さんは来てくれると思うんだよね。そういう変化のなかで、順々に死んでいくっていうのはとても厳粛で自然なことなんだ、っていう観念は育っていくだろうと思う。そういう時代に向けて『∀』という作品で、人生の総論を21世紀最初の年に発表できたら、それはいい事だなと思うんです。

（一同、頷く）

富野　だから、僕がこれから20年生きられて、その時にまだこの世に未練があるようなことをいいだしたら本当に殺してほしいのよ。完全にボケてるんだから。僕の奥さんも、この話はもうわかってますから。

朴　でも、手を下すと犯人になっちゃいますからねぇ。

富野　そこのところは難しいんだけれどね。今から遺言にそう書いといてもいいんだけども、逆にそれを承知してる奴が、僕を殺しにくるかも知れないから（笑）。

朴　それは困る？

富野　どうせ殺されるんだったら、愛で殺してほしい（笑）

（一同笑）

Shot by JUNJI OKUNISHI

というわけで、全員で揃って記念写真。座談会ではこのほか誌面には乗せられないプライベートの話題まで飛び出して、とてもにぎやかに進行しました。

第33話 マニュービチ攻略

1999年11月25日

脚本
太田　愛

絵コンテ
西本由紀夫
森　邦宏
斧谷　稔

演出
森　邦宏

作画監督
戸部敦夫

原画
前澤弘美　中谷誠一
森　悦史　津幡佳明
津熊健徳　山本勝久
中村和代　竹上貴夫
後藤雅巳　大森英敏
川原智弘　吉田　徹
新号　靖　北島一輝
吉田健一　高口　弘

動画チェック
平出差知予

動画
冨永和代　森　文代
竹之内節子　藤森まや
アニメ　アール
スタジオたくらんけ
京都アニメーション
ジーベック
スタジオ　ボギー
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
佐藤弘幸

第34話 飛べ! 成層圏

1999年12月3日

脚本
高山治郎

絵コンテ
川瀬敏文

演出
山口美浩

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ
森　利夫
重田敦司

動画チェック
大谷美樹

動画
スタジオ　ダブ

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
小形尚弘

第35話 ザックトレーガー

1999年12月10日

脚本
星山博之　斧谷　稔

絵コンテ
西森　章
斧谷　稔

演出
西森　章

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　板倉和弘
森　寛之　橋本誠一
宮下雄次　富永剛央
鈴木健史　橋本裕之

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）
冨永和代

動画
中村プロダクション

森　文代
富岡美穂
スタジオ　ボギー
スタジオ　ダブ
スタジオライブ
すたじおガッシュ

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
樋口達人

第36話 ミリシャ宇宙決戦

1999年12月17日

脚本
大河内一楼

絵コンテ
南　康宏

演出
南　康宏

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ
森　利夫
津幡佳明
大森英敏
後藤雅巳

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
河野智明

第37話 月世界の門

1999年12月24日

脚本
高橋哲子

絵コンテ
横山彰利

演出
池端隆史

作画監督
佐久間信一

原画
土器手司
重田敦司
津熊健徳
森　悦史
吉田健一
前澤弘美
中谷誠一
山本勝久
川原智弘
岡本圭一郎
スタジオ　ダブ

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
若鍋竜太

第46話 再び、地球へ

2000年3月3日

脚本
星山博之

絵コンテ
奥田誠治
斧谷　稔

演出
渡邊哲哉

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　板倉和弘
森　寛之　橋本誠一
宮下雄次　富永剛央
高瀬健一　糟谷健一郎
重田敦司　後藤雅巳
山本勝久　名和宗則
菱沼義仁

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）
冨永和代

動画
竹之内節子　藤森まや
スタジオ　ダブ　スタジオ　アド
アニメ　アール　スタジオ　ムー
中村プロダクション

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
小形尚弘

第47話 ギンガナム襲来

2000年3月10日

脚本
高橋哲子

絵コンテ
西森　章
斧谷　稔

演出
西森　章

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ
上海ダブ
森　利夫
重田敦司
竹上貴夫
阿部伸司
草刈大介
石川雅一

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
小川比呂美

第48話 ディアナ帰還

2000年3月17日

脚本
高山治郎

絵コンテ
奥田誠治
斧谷　稔

演出
南　康宏

作画監督
佐久間信一

原画
後藤雅巳
中谷誠一
津熊建徳
北島一輝
森　悦史
大森英敏
吉田健一
前澤弘美
吉田　徹
津幡佳明
新号　靖
重田敦司
スタジオ　ダブ

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
河野智明

第49話 月光蝶

2000年3月24日

脚本
高山治郎

絵コンテ
横山彰利
斧谷　稔

演出
池端隆史

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

作監協力
重田敦司

原画
中村プロダクション
松永　晃　森　寛之
橋本誠一　富永剛央
宮下雄次　高瀬健一
糟谷健一郎　鈴木健二
森　利夫
土器手司
横山彰利
津野田勝敏
山本勝久

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）
冨永和代

動画
中村プロダクション

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
若鍋竜太

第50話 黄金の秋

2000年3月31日

脚本
浅川美也

絵コンテ
川瀬敏文　斧谷　稔

演出
森　邦宏

作画監督
菱沼義仁　後藤雅巳

原画
戸部敦夫　大森英敏
津熊建徳　桑名郁郎
森　悦史　川原智弘
竹上貴夫　津幡佳明
新号　靖　吉田健一
前澤弘美
中谷誠一　吉田　徹
山本勝久　永島明子
阿部伸司　石川雅一
草刈大介　新井昌彦
後藤雅巳　土器手司
重田敦司

動画チェック
平出差知予

動画
渡辺妙子　冨永和代
竹之内節子　大塚美穂
森　文代　富岡美穂
すたじおガッシュ　アニメ　アール
スタジオ　ムー　スタジオたくらんけ
スタジオ　ダブ　スタジオ　ボギー

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
佐藤弘幸

MAIN STAFF

総監督
富野由悠季

企画
サンライズ

原作
矢立　肇
富野由悠季

キャラクター原案
安田　朗

キャラクター設定
菱沼義仁

メカニカルデザイン
大河原邦男
シド・ミード
重田敦司
沙倉拓実

美術監督
池田繁美

美術ボード
丸山由紀子（アトリエ　ムサ）

色彩設定
笠森美代子

色彩設定補佐
佐藤美由紀（エムアイ）

仕上
エムアイ

仕上処理
前林文恵

タイトル／リスワーク
マキ・プロ

特殊効果
長谷川敏生（マリックス）

デジタルエフェクト
サンライズ　デジタル映像開発部

撮影監督
大神洋一

撮影
旭プロダクション

編集
山森重之

編集助手
秋保宣宏（ジェイ・フィルム）

音楽
菅野よう子

音響監督
鶴岡陽太

サウンドデザイン
笠松広司

フォーリー
森川永子

録音調整
名倉　靖（アバコ　クリエイティブスタジオ）

音響制作
楽音舎
杉山好美

音楽制作
太田敏明（ボーダーライン）

現像
東京現像所

ビデオ編集
キューテック

メカニカルデザイン協力
岩城人志
宮尾佳和
石垣純哉
前田真宏
土器手　司
宮武一貴
高倉武史

山根公利
設定考証
森田　繁（スタジオぬえ）

メインタイトルロゴデザイン
海野大輔

広報担当
為永左知男（フジテレビ）
浅井　薫（サンライズ）

設定担当
堀口　滋
河口佳高

制作デスク
渡辺洋一

文芸
高橋哲子

設定制作
安川浩司

設定事務
山本道子

演出助手
菱田正和
鳥羽　聡

制作協力
ASATSU-DK
創通エージェンシー

プロデューサー
鈴木吉弘（フジテレビ）
富岡秀行（サンライズ）

制作
フジテレビ
サンライズ

OP・ED作画
オープニング作画
菱沼義仁
重田敦司
後藤雅巳

オープニング写真提供
白尾元理／天文雑誌「スカイウォッチャー」

エンディング作画
そえたかずひろ

オープニングテーマ
「ターン　A　ターン」
作詞　井荻　麟
作曲　小林亜星
編曲　矢田部　正
歌　西城秀樹

エンディングテーマ
「AURA」
作詞・作曲・歌　谷村新司
編曲　菅野よう子

新OP・ED作画
新オープニング作画
横山彰利
重田敦司
菱沼義仁
後藤雅巳

新エンディング作画
土器手　司

オープニングテーマ
「CENTURY　COLOR」
作詞　井荻　麟　浜口祐夢
作曲　浜口祐夢
編曲　RAY-GUNS
歌　RAY-GUNS

エンディングテーマ
「月の繭」
作詞　井荻　麟
作曲　編曲　菅野よう子
歌　奥井亜紀

最終回のみ
エンディングテーマ
「限りなき旅路」
作詞　岩里祐穂
作曲　編曲　菅野よう子
歌　奥井亜紀

ILLUSTRATION

表紙 ……イラスト原画／菱沼義仁
P1 ……イラスト原画／戸部敦夫
P2-3 ……イラスト原画／菱沼義仁　デザイン処理／海野大輔
P4-5 ……イラスト原画／杉浦幸次
P6-7 ……イラスト原画／戸部敦夫
P8-9 ……イラスト原画／菱沼義仁
P10-11 ……イラスト原画／重田敦司
P12-13 ……イラスト原画／重田敦司
P14-15 ……イラスト原画／中谷誠一
P20 ……イラスト原画／菱沼義仁
P21 ……イラスト原画／菱沼義仁
P26 ……イラスト原画／重田敦司
P28 ……イラスト原画／重田敦司
P29 ……イラスト原画／重田敦司

∀GUNDAM STAFF LIST

∀ガンダム　スタッフリスト

第28話
託されたもの
1999年10月22日

脚本
星山博之

絵コンテ
西森　章

演出
西森　章

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　森　寛之
橋本誠一　井村　学
池田　有　富永剛央
宮下雄次　鈴木健史

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）

動画
中村プロダクション

動画チェック
富永和代

背景
アトリエ　ムサ

色指定
長尾朱美

制作進行
河野智明

第29話
ソレイユのふたり
1999年10月29日

脚本
星山博之

絵コンテ
横田　和
斧谷　稔

演出
山口美浩

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
田澤　智
小野和寛
李　炫周
ソウル　ダブ

森　利夫
重田敦司

動画
スタジオ　ダブ

動画チェック
大谷美樹

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
樋口達人
佐藤弘幸

第30話
胸に抱えて
1999年11月5日

脚本
淺川美也

絵コンテ
工堂紘軌
斧谷　稔

演出
北川正人

作画監督
杉光　登

原画
杉光　登　工藤昌史
小沢尚子　相坂直紀
ながた正美　川添政和

荒尾英幸　伊藤香織
小関　雅　小久保千愛
山田　桂

重田敦司　森　悦史
新号　靖　山本勝久

中村プロダクション
スタジオ　ダブ

動画チェック
小久保千愛

動画
スタジオ　ダブ
アートランド
FAIインターナショナル

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
太古　満

第31話
追撃! 泣き虫ポゥ
1999年11月12日

脚本
高橋哲子

絵コンテ
斧谷　稔
小原正和

演出
南　康宏

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ

森　利夫
重田敦司

動画チェック
大谷美樹

動画
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
若鍋竜太

第32話
神話の王
1999年11月19日

脚本
太田　愛

絵コンテ
横山彰利

演出
池端隆史

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　森　寛之
橋本誠一　井村　学
池田　有　富永剛央
宮下雄次　鈴木健史

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）
冨永和代

動画
中村プロダクション

竹之内節子
平出差知予
すたじおガッシュ
アニメワールド大阪
スタジオ　ボギー
スタジオたくらんけ

スタジオ　ダブ

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
岸田　文

第38話
戦闘神ギンガナム
2000年1月7日

脚本
浅川美也

絵コンテ
高田　淳

演出
森　邦宏

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　板倉和弘
森　寛之　橋本誠一
宮下雄次　富永剛央
高瀬健一　橋本裕之

後藤雅巳　重田敦司
大森英敏　横山彰利
新号　靖　竹上貴夫
津野田勝敏　高橋博行
池田晶子　菱沼義仁

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）

動画
中村プロダクション

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
岸田　文

第39話
小惑星爆裂
2000年1月14日

脚本
高山治郎

絵コンテ
奥田誠治

演出
山口美浩

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ

重田敦司
森　利夫
山本勝久

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
佐藤弘幸

第40話
月面の海戦
2000年1月21日

脚本
大河内一楼

絵コンテ
アミノテツロー

演出
渡邊哲哉

作画監督
菱沼義仁　戸部敦夫

原画
後藤雅巳　森　悦史
北島一輝　吉田健一
津熊建徳　中谷誠一
山本勝久　新号　靖

津幡佳明　川原智弘
前澤弘美　大森英敏
永島由子　冨永和代
戸部敦夫

スタジオ　ダブ

動画チェック
平出差知予

動画
竹之内節子　渡辺妙子
冨永和代　藤森まや
スタジオ　ダブ
スタジオ　ムー
アニメ　アール
すたじおガッシュ

スタジオ　ボギー
F.A.I.インターナショナル

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
小形尚弘

第41話
戦いの決断
2000年1月28日

脚本
星山博之

絵コンテ
西森　章

演出
西森　章

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ

重田敦司
森　利夫
吉田　徹
津野田勝敏

動画チェック
斉藤玲子

動画
スタジオ　ダブ

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
河野智明

第42話
ターンX起動
2000年2月4日

脚本
浅川美也

絵コンテ
奥田誠治

演出
南　康宏

作画監督
しんぼたくろう
中田栄治

原画
中村プロダクション
米山浩平　高橋真一
松永　晃　板倉和弘
森　寛之　橋本誠一
宮下雄次　富永剛央
高瀬健一　糟谷健一郎

動画チェック
福田　嗣（中村プロ）
冨永和代

動画
中村プロダクション
竹之内節子
藤森まや
渡辺妙子
森　文代
スタジオ　ダブ
スタジオ　ムー
アニメ　アール
すたじおガッシュ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
樋口達人

第43話
衝撃の黒歴史
2000年2月11日

脚本
高橋哲子

絵コンテ
赤根和樹

演出
池端隆史

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ

重田敦司
森　利夫
後藤雅巳
竹上貴夫

動画チェック
大谷美樹

動画
スタジオ　ダブ

色指定
菊地和子（エムアイ）

背景
ほわいとまっぷ

制作進行
若鍋竜太

第44話
敵、新たなり
2000年2月18日

脚本
高山治郎

絵コンテ
日高政光

演出
森　邦宏

作画監督
戸部敦夫

原画
津幡佳明　永島明子
津熊建徳　中谷誠一
森　悦史　前澤弘美
中村和代　吉田　徹

嶋田俊彦　大森英敏
北島一輝　新号　靖
川原智弘　児山昌弘
戸部敦夫

動画チェック
平出差知予

動画
冨永和代　渡辺妙子
竹之内節子　富岡美穂
スタジオたくらんけ
アニメ　アール
京都アニメーション
すたじおガッシュ
スタジオ　アド
スタジオ　ボギー

色指定
中尾総子（エムアイ）

背景
アトリエ　ムサ

制作進行
佐藤弘幸

第45話
裏切りのグエン
2000年2月25日

脚本
大河内一楼

絵コンテ
奥田誠治

演出
鳥羽　聡

作画監督
佐久間信一

原画
スタジオ　ダブ
榎本勝紀
石川哲也
小野和寛
田澤　智
李　炫周
ソウル　ダブ

土器手司
森　利夫
吉田健一
津野田勝敏

動画チェック
大谷美樹

動画
スタジオ　ダブ

色指定
長尾朱美（エムアイ）

背景
京都アニメーション

制作進行
岸田　文

CONTENTS

P02 ILLUSTRATIONS OF "∀"

P16 Opening & Ending film

P20 CHARACTERS & MOBILE SUIT

P33 ∀GUNDAM EPISODE GUIDE

P68 ∀GUNDAM in the CRADLE

P86 CONFERENCE with DIRECTOR, ACTOR & ACTRESS

P94 STAFF LIST

NEWTYPE 100%COLLECTION —— 41

∀GUNDAM Vol.2

ニュータイプ100%コレクション　41

∀ガンダム Vol.2

2001年2月28日初版発行

発行人　井上伸一郎

発行所　株式会社　角川書店

〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3

営業　03-3238-8530

編集　03-3238-8533

振替　00130-9-195208

印刷　大日本印刷株式会社

製本　本間製本株式会社

落丁・乱丁本はご面倒でも小社営業部受注センター読者係宛に
お送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。

©創通エージェンシー・サンライズ・フジテレビ
©創通エージェンシー・サンライズ
禁無断転載・複製

Printed in JAPAN
ISBN4-04-853317-7　C0076
JASRAC　出　0100516-101

9784048533171

ISBN4-04-853317-7

C0076 ¥2800E

1920076028007

定価：本体2800円(税別) 角川書店